



蒲郡市 都市計画 マスタープラン

資料編

2023年 ▶ 2032年

目 次

第 1 章	上位・関連計画	1
第 2 章	現況分析	19
2-1	市の概要	19
2-2	人口・世帯	21
2-3	経済活動等	47
2-4	財政	58
2-5	都市機能施設の立地状況	59
2-6	土地利用・建物の現況	64
2-7	都市交通	82
2-8	公園・緑地	96
2-9	下水道	97
2-10	河川	98
2-11	災害リスク	100
2-12	歴史・文化	108
2-13	周辺都市と比較した本市の強み・弱みについて	109
第 3 章	まちづくりに関する市民意向の把握	117
3-1	調査の概要	117
3-2	蒲郡市市民意識調査	117
3-3	蒲郡市のまちづくりに関するアンケート	133
3-4	転出入者アンケート	173
3-5	調査の結果のまとめ	175
第 4 章	本市を取り巻く社会環境の変化	189
4-1	今後の見通し	189
4-2	本市を取り巻く社会環境の変化	194
第 5 章	土地利用フレームの検討	199
5-1	住宅用地フレーム	199
5-2	産業用地フレーム	203

第1章 上位・関連計画

以下に、蒲郡市都市計画マスタープランの上位・関連計画の概要を整理します。

1. 東三河都市計画区域マスタープラン（平成31年3月改訂）

目標年次：令和12年度（2030年度）

（1）基本理念

自然や歴史を活かし、多様な産業が育まれ、
豊かな暮らしを実感できる都市づくり

○元気：豊かな自然や歴史を活かし、三河港臨海部を中心に集積した工業、県内で最も盛んな農業、レクリエーション・温泉などの観光資源など、多様な産業が育まれる都市づくりを進めます。

○暮らしやすさ：まちなかから郊外の暮らしに至るまで、都市機能や生活利便性、地域のコミュニティを維持しながら、豊かな暮らしを実感できる都市づくりを進めます。

（2）都市づくりの目標

①暮らしやすさを支える集約型都市構造への転換に向けた目標

- ・無秩序な市街地の拡大を抑制し、豊橋駅などの主要な鉄道（軌道）駅周辺などの中心市街地や生活拠点となる地区を拠点として都市機能の集積やまちなか居住を誘導し、活力あるまちなかの形成を目指します。
- ・都市機能が集積した拠点およびその周辺や公共交通沿線の市街地には多様な世代の居住を誘導し、地域のコミュニティが維持された市街地の形成を目指します。また子育てしやすい環境などに配慮した若者世代が暮らしやすい市街地の形成を目指します。
- ・各拠点へアクセスできる公共交通網を充実させ、利便性が確保された集約型都市が公共交通などの交通軸で結ばれた多核連携型のネットワークの形成を目指します。
- ・地域産業の人材を確保するため、若者世代の就職と定住を促進するとともに、必要に応じて鉄道（軌道）駅や市街化区域の周辺など、既存ストックの活用が可能な地区を中心に新たな住宅地の形成を目指します。
- ・北東部や半島部の人口密度が低い集落地などでは生活利便性や地域のコミュニティを維持していくため、日常生活に必要な機能の立地や地域住民の交流・地域活動などを促進する場の形成を目指します。

②リニア新時代に向けた地域特性を最大限活かした対流の促進に向けた目標

- ・豊川稻荷をはじめとする歴史・文化資源、ラグーナ蒲郡地区をはじめとするレクリエーション資源や豊かな自然環境などの多様な地域資源を活かした地域づくりを進め、様々な対流を促進し、にぎわいの創出を目指します。また、昇龍道プロジェクトなどの中部圏の観光に資する観光地間の周遊性の向上を目指します。
- ・歩行者・自転車に配慮した市街地の再整備や歴史、文化資源を活かした魅力ある都市空間・景観づくりを進めるとともに、農業をはじめとする地場産業が培ってきた地域の魅力を向上し、多彩な対流・ふれあいを生み出し、街のにぎわいの再生を目指します。
- ・三河港や県内外を連携する広域交通体系を最大限活用するとともに、リニア開業による首都圏との時間短縮効果を全県的に波及させるため、県内都市間、都市内における交通基盤の整備を進め、質の高い交通環境の形成を目指します。
- ・遠州・南信州などとの圏域を超えた広域連携や奥三河と連携した広域観光の促進を図るため、新東名高速道路の活用や三遠南信自動車道などの広域幹線道路の整備促進を目指します。

③力強い愛知を支えるさらなる産業集積の推進に向けた目標

- ・都市の活力を向上させていくため、三河港臨海部などの既存工業地やその周辺において工業・物流機能のさらなる集積を目指します。
- ・自動車産業をはじめとする既存産業の高度化や次世代産業の創出、新たな産業立地の推進を図るため、既存工業地周辺や広域交通の利便性が高い地域、物流の効率化が図られる地域に新たな産業用地の確保を目指します。
- ・経済活動の効率性の向上や生産力の拡大を図るため、広域幹線道路網の充実や空港、港湾、高速道路インターチェンジ、産業集積地などへのアクセス道路の整備を推進します。
- ・全国有数の農業生産額を誇る区域であり、無秩序な市街地の拡大や都市機能の立地を抑制するなど適正な土地利用の規制・誘導により農業を支える基盤である優良農地の保全を目指します。さらに付加価値の高い農業を確立するため、6次産業化に向けた農地などの有効活用を目指します。
- ・農地を守るために必要となる農村集落については、日常生活に必要な機能や生活基盤を確保し、居住環境や地域のコミュニティの維持を目指します。

④大規模自然災害等に備えた安全安心な暮らしの確保に向けた目標

- ・沿岸部の津波・高潮や豊川周辺などの洪水・内水による浸水、北部の丘陵地や半島部の土砂災害が想定されるなどの災害危険性が高い地区では、災害リスクや警戒避難体制の状況、災害を防止・軽減する施設の整備状況または整備見込などを総合的に勘案しながら、土地利用の適正な規制と誘導を図り、安全安心な暮らしの確保を目指します。
- ・道路、橋梁、河川などの都市基盤施設の整備や耐震化を推進するとともに、公共施設や避難路沿道の建築物などの耐震化を促進し、市街地の災害の防止または軽減を目指します。
- ・被災時の救急活動や物資輸送を支える緊急輸送道路を整備するとともに、避難場所や防災活動の拠点となる公園の適正な配置を促進し、災害に強い都市構造の構築を目指します。
- ・地域住民との協働による事前復興まちづくりの取組など速やかな復興への備えを推進します。
- ・都市計画道路の整備や交通安全対策を推進し、また生活関連施設を結ぶ経路を中心に歩行経路のバリアフリー化や自転車利用空間のネットワーク化を進め、安全安心に移動できる都市空間の形成を目指します。

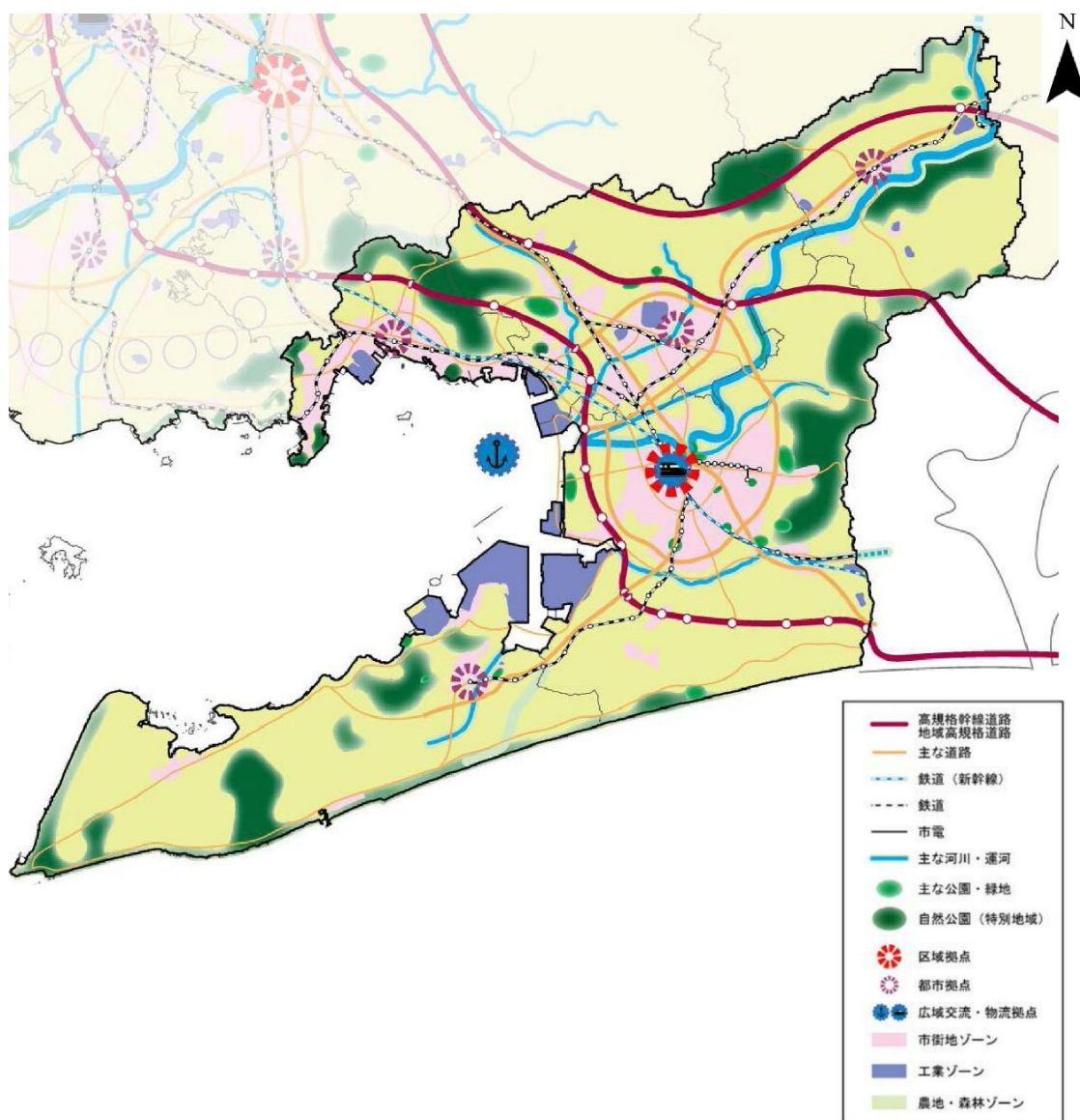
⑤自然環境や地球温暖化に配慮した環境負荷の小さな都市づくりの推進に向けた目標

- ・中央部や南部の農地、北部から東部、渥美半島南部の樹林地などの緑地では、無秩序な開発を抑制するなど、適正な土地利用の規制・誘導を図り、豊かな自然環境を保全します。
- ・市街地では防災空間や潤いとやすらぎを与えるオープンスペースを確保し、都市農業の振興や良好な都市環境の形成を図るため、地域特性に応じて農地などの緑地の保全や民有地の緑化を推進します。
- ・新たな市街地の開発にあたっては、公共施設における質の高い緑地の確保、民有地の緑化の推進、ため池や河川による水辺・緑のつながりの確保などにより、生態系ネットワークの形成に配慮し、豊かな生物多様性を育む都市づくりを目指します。
- ・公共交通の利用促進により自動車に過度に頼らない集約型都市構造への転換、建築物の低炭素化、緑地の保全や緑化の推進を実施し、都市部における低炭素化を目指します。
- ・豊川などの河川や北東部・半島部に広がる緑地などを活用した自然的環境インフラネットワークの形成を目指します。

(3) 将来都市構造図

- ・豊橋駅周辺を多くのヒトやモノが活発に動き、広域的な都市機能の集積が進み、区域の玄関口となる区域拠点と位置づけます。
- ・諏訪町駅・豊川駅周辺地区や蒲郡駅、新城駅および三河田原駅周辺を商業・業務、医療・福祉などの都市機能が集約し、暮らしやすいまちなかを形成する都市拠点に位置づけます。
- ・東海道新幹線豊橋駅周辺を多くのヒトやモノが集まる広域交流拠点、三河港周辺を物流拠点に位置づけます。

■将来都市構造図



※市街地ゾーンおよび工業ゾーンはH31年のおおむねの市街化区域を表示しています。

(4) 目標年次に配置されるべき人口および産業の規模

■人口（愛知県の都市計画区域における将来の概ねの人口）

	平成 27 年 (国勢調査)	平成 42 年 (2030 年) (目標年次)
都市計画区域内	約 7,432 千人	約 7,310 千人
市街化区域内	約 6,180 千人	約 6,125 千人

■人口（東三河都市計画区域における将来の概ねの人口）

	平成 27 年 (国勢調査)	平成 42 年 (2030 年) (目標年次)
都市計画区域内	約 734 千人	約 709 千人
市街化区域内	約 547 千人	約 535 千人

■産業（愛知県における将来の概ねの産業規模）

	平成 25 年	平成 42 年 (2030 年) (目標年次)
県内総生産額	約 34.8 兆円	約 44.1 兆円

(5) 目標年次における市街化区域の規模

■規模（東三河の都市計画区域における将来の概ねの規模）

	平成 42 年 (2030 年) (目標年次)
市街化区域面積 (ha)	14,044

※平成 42 年 (2030 年) の市街化区域面積は、平成 31 年の区域区分の総見直し時点における市街化区域面積であり、保留するフレームに対応する面積は含まれていません。

【参考】保留する人口フレーム（平成 31 年の区域区分の総見直し時点）

都市計画 区域名	平成 42 年 (2030 年) (目標年次)
東三河	保留する人口 (千人)
	3

【参考】保留する産業フレーム（平成 31 年の区域区分の総見直し時点）

都市計画 区域名	平成 42 年 (2030 年) (目標年次)
東三河	保留する面積 (ha)
	216

(6) 主要用途の配置方針

○商業地

区域拠点の豊橋駅では、住民や企業が広く利用できる広域的な都市機能が複合的に立地する中心商業地の配置を促進します。都市拠点の諏訪町駅・豊川駅周辺地区や蒲郡駅、新城駅および三河田原駅の周辺には、公共交通の利用者や地域住民の暮らしを支える商業・業務、医療・福祉などの都市機能が立地する中心商業地の配置を促進します。

区域拠点および都市拠点以外の主要な鉄道（軌道）駅の徒歩圏や商業・業務、医療・福祉などの都市機能を集積すべき地区においては、地域住民の日常生活を支える一般商業地の配置を促進します。

歴史・文化資源、レクリエーション資源や豊かな自然資源などの地域資源周辺でこれら地域資源と連携を図ることができる地域においては、地域の活性化に資する観光交流機能の適切な配置を促進します。

(7) 市街地における建築物の密度の構成に関する方針

○商業地

区域拠点の豊橋駅周辺、都市拠点の諏訪町駅・豊川駅周辺地区や蒲郡駅、新城駅および三河田原駅の周辺の中心商業地については、土地の高度利用や有効利用を誘導して商業・業務などの利便を増進するため、高密度（建蔽率 80%、容積率 400～600%）を標準とした土地利用の規制・誘導を促進します。

(8) 秩序ある都市的土地利用の実現に関する方針

大規模集客施設は、広域的に影響をおよぼし、無秩序な市街地の拡大など都市構造に大きな影響を与えるため立地を制限します。公共公益施設のうち大規模集客施設と同様に広域的に影響をおよぼす施設の立地は抑制します。

蒲都市の浜町地区については、特定保留として設定し、埋め立ての竣功後、市街化区域に編入し整備を図ります。

今後、土地区画整理事業などの計画的な市街地整備を行う地は、農林漁業などとの調整を行い、その整備の見通しが明らかになった段階で、住居系市街地については東三河都市計画区域で想定した人口の範囲内で、また産業系市街地については東三河都市計画区域で想定した産業規模の範囲内で、随時、市街化区域に編入し、良好な市街地整備を図ります。

(9) 主要な施設の方針

○道路の方針

区域拠点や都市拠点の中心商業地では、誰もが安全安心に移動できるように歩道などのバリアフリー化を促進します。中心市街地の活性化に向けて、買い物などの利便性を向上させるために、限られた道路空間を有効に活用しながら歩行者

や自転車の利用に適切な幅員を確保し、景観にも配慮した歩行者・自転車の利用空間のネットワーク化などを推進します。また、沿道施設への出入りや荷物の荷下ろしの機能を重視した補助幹線道路などを適切に配置します。さらに、駅前広場は、人々のにぎわいや交流を生み出し、さまざまな交通手段との乗り換え利便性を向上させるために、景観にも配慮しながら施設の整備を促進します。

(10) 駐車施設の方針

商業・業務機能が集積する区域拠点や都市拠点などでは、違法な路上駐車や自転車の放置を防止し、安全で快適な道路空間を確保することが重要です。このため、人の動きや荷捌きの利便性に配慮した適切な位置に駐車施設の整備や確保を促進します。駐車場整備地区では、必要に応じ駐車場整備計画の見直しの検討を行います。

市街地への過度な自動車流入の抑制や、公共交通と自動車交通の適切な利用を促すため、パークアンドライドの取り組みを促進します。このため、鉄道（軌道）駅や主要なバス停の周辺において、駐車施設の整備や確保を推進します。

(11) 市街地整備の目標

蒲郡市で概ね平成 42 年（2030 年）までに整備を予定する市街地開発事業は以下のとおりです。

■蒲郡市で予定する市街地整備事業

事業名	名称など
土地区画整理事業	蒲 郡 中 部 蒲 郡 駅 南

(12) 主要な緑地の方針

○環境保全系統

国の天然記念物に指定されている豊橋市の石巻山石灰岩地植物群落、豊川市の御油のマツ並木、蒲郡市の清田の大クス、八百富神社社叢および大島ナメクジウオ生息地、田原市の宮山原始林および椈のシデコブシ自生地、県の天然記念物に指定されている豊橋市の葦毛湿原など学術上の価値が高い樹木・緑地の保全を促進します。

2. 第五次蒲郡市総合計画

目標年次：令和12年度（2030年度）

（1）まちづくり基本理念

○人と自然の共生

- ・海、山、温泉など地域資源を大切にし、自然との共生による持続可能性を高める

○安全・安心・快適

- ・快適な環境により、安心安全に住み続けられ、市民全員が居場所と役割を持ち活躍する

○一人ひとりが主役

- ・市民一人ひとりが夢と希望を持ち、主役となり人が輝く

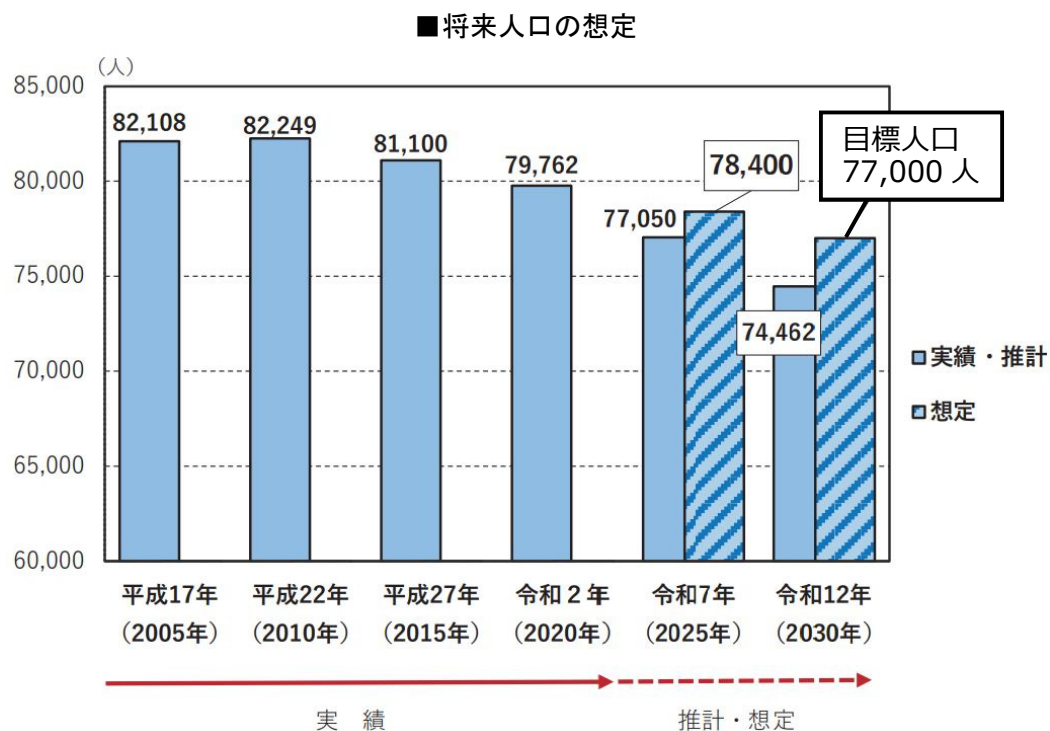
○つながる

- ・市民・事業者・行政が一体となり、人と人とが支えあい、つながりあう

（2）将来都市像

豊かな自然 一人ひとりが輝き つながりあうまち ～ 君が愛する蒲郡 ～

（3）目標人口



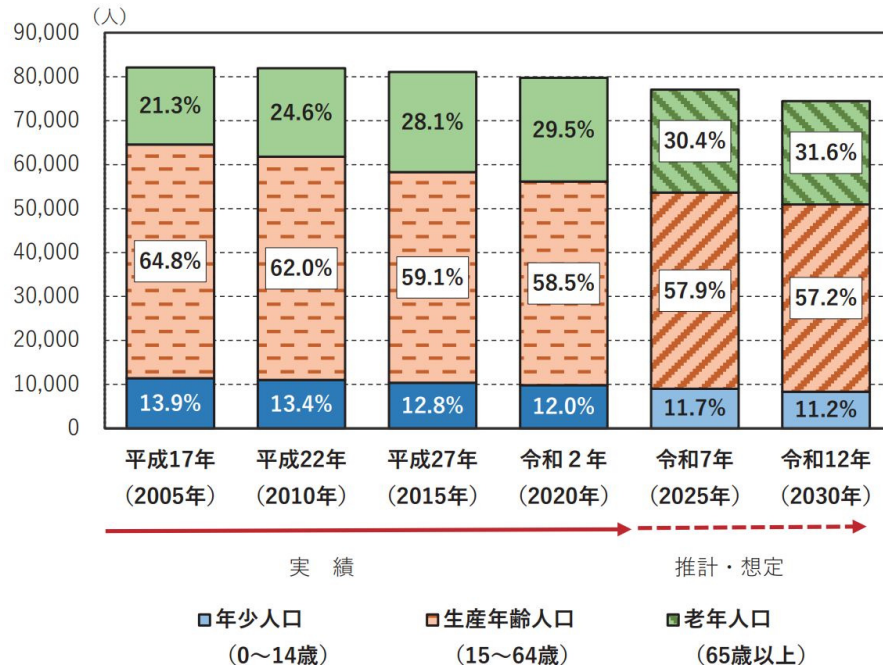
（注）実績値は、平成27年までは国勢調査、令和2年は住民基本台帳人口（10月1日）を示しており、推計値は国立社会保障・人口問題研究所資料による。

■年齢別人口の想定

(人)

	実績				想定	
	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)	令和12年 (2030年)
年少人口 (0～14歳)	11,420	11,015	10,399	9,542	9,173	8,624
生産年齢人口 (15～64歳)	53,172	50,781	47,895	46,681	45,394	44,044
老年人口 (65歳以上)	17,508	20,135	22,806	23,539	23,834	24,332
年齢不詳	8	318	0	0	—	—
計	82,108	82,249	81,100	79,762	78,400	77,000

■年齢別人口の構成比の想定



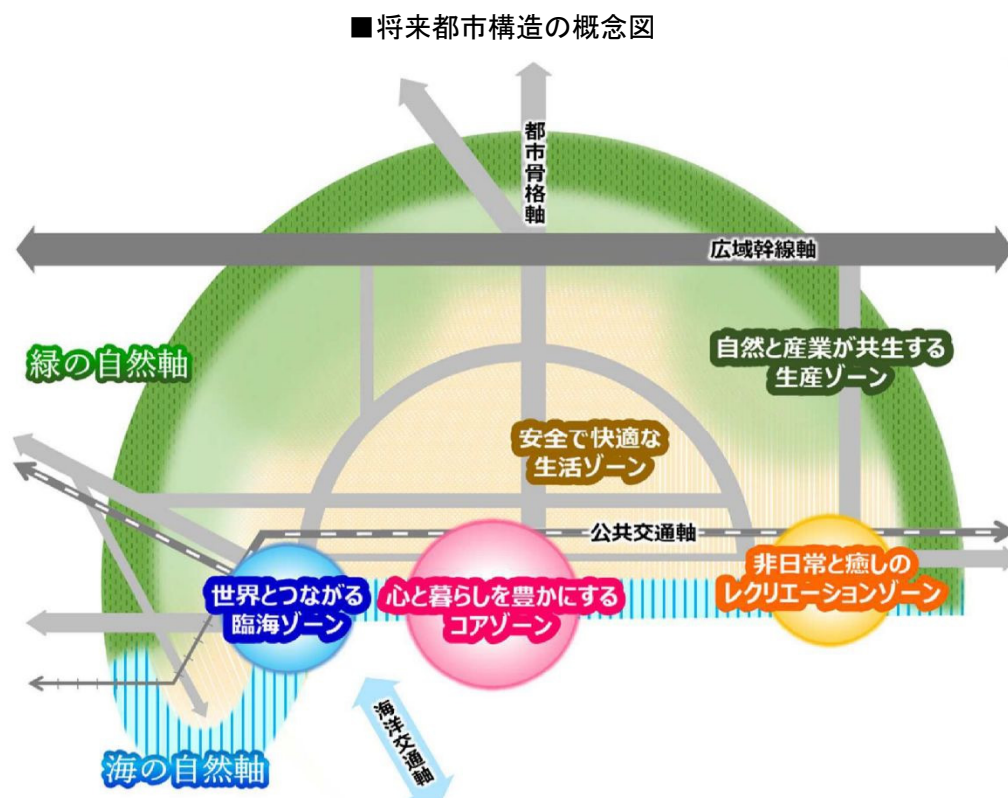
(注) 平成17、22年は年齢不詳を除いた割合

(4) 基本目標

- ① 笑顔つながる幸せに暮らせるまちづくり — 健康・福祉
- ② 人と文化を未来につなぐまちづくり — 教育・文化
- ③ 豊かな自然とともに安心して住み続けられるまちづくり — 安全・安心
- ④ にぎわいと元気あふれるまちづくり — 産業
- ⑤ 人と人がつながり快適な暮らしを支えるまちづくり — 都市基盤整備
- ⑥ 市民とともに歩むまちづくり — 地域・行財政

(5) 将来都市構造

穏やかな三河湾と山並みからなる「自然軸」を土台として、蒲郡駅周辺の「心と暮らしを豊かにするコアゾーン」を中心に、まとまりのある各ゾーンが扇状に広がります。各ゾーンでは自然軸と調和した都市活動が行われ、「交通軸」によりつながり合うことで互いに影響し魅力を高め合っています。



自然軸

本市が面する三河湾や北部の山並みといった自然が織りなす美しい風景は、風光明媚な本市のイメージを特徴づける重要な要素であり、人々の心に癒しと安らぎをもたらしています。三河湾と山並みを「自然軸」と位置づけ、自然環境と美しい景観の維持保全を図るとともに、それぞれの特性をまちづくりの資源として活用します。

○海の自然軸

三河湾の水質浄化及び水産資源の保護や海に親しむ環境づくりを推進し、漁場及び観光・レクリエーション資源として活用します。

○緑の自然軸

森林の保全により多面的機能※を維持し、保養・レクリエーション資源として活用します。

※森林の持つ多面的機能：生物多様性・地球環境の保全、土砂災害の防止、水源の涵養

交通軸

道路・鉄道・航路等の交通ネットワークは、都市間や市内各ゾーンを結び交流機能・防災機能を向上させ、市民生活やあらゆる経済活動を支える都市の軸です。本市のまちづくりにおいて特に重要な意味を持つ交通ネットワークを「交通軸」として位置づけます。

○広域幹線軸

主要都市間を結び、周辺都市との交流や産業活動を支える市全体の発展に重要な役割を担う交通軸です。国の重要物流道路として平常時だけでなく災害時においても安定的な輸送を確保します。

○都市骨格軸

都市の骨格を形成し、市民の安全で快適な生活環境を確保する主要道路であり、多様な役割を担っています。市街地を縦断する路線は、広域幹線軸や高速道路等と結節することで各ゾーンの都市活動を支援し、市全体の発展を支える交通軸です。市街地を横断する路線は、市内地域間の円滑な交流を促進する交通軸です。

○公共交通軸

誰もが安心して移動でき、周辺都市との交流や産業活動を支えるとともに、市内地域間の円滑な交流を促進する交通軸です。

○海洋交通軸

海を感じる街並みを生かした観光や港湾機能を活用した物流において重要な役割を持ち、蒲郡市が世界と直接つながる交通軸です。

5つのゾーン

市域をそれぞれの特徴を活かした土地利用の観点から5つのゾーンに区分し、各ゾーンにおける空間形成の方向性を表します。

○心と暮らしを豊かにするコアゾーン

交通結節点・中心市街地・観光拠点・港といった多様な要素を一体的に活用し市の基幹的な都市機能や交流機能の集積を図り、人・コト・モノがつながり新たな価値が生まれる都市発展の中心核として、人の心と暮らしを豊かにするゾーンです。

○安全で快適な生活ゾーン

生活コミュニティの拠点となる鉄道駅周辺を中心に医療・福祉・子育て支援・商業などの都市機能が集積し、年齢や障がいに関わらず誰もが安心して快適に生活できる環境が整ったゾーンです。

○自然と産業が共生する生産ゾーン

農地を保全し農業振興の基盤とするとともに、交通軸との連携を生かした物流等の多様な経済活動が行われるゾーンです。

○世界とつながる臨海ゾーン

岸壁の延伸・ふ頭再編といった港湾機能の向上や交通軸との連携による国内外からの人やモノの流れの活性化を図り、三河港の中心的な役割を担う港湾として広域経済の発展に寄与するゾーンです。

○非日常と癒しのレクリエーションゾーン

景観に配慮した一体感のある街並みが形成され、水辺空間や海洋レクリエーションを楽しむ観光拠点をはじめ、教育施設や商業施設等が立地する都市成長拠点となるゾーンです。

(6) まちづくり戦略

①快適な生活環境の充実

- ・交通ネットワークの形成
- ・港湾機能強化による地域活性化
- ・危機管理体制の充実
- ・魅力ある地域づくり
- ・公共施設の規模適正化

②生涯活躍できる地域社会づくり

- ・Society5.0に向けた生活環境・生活基盤の整備
- ・子どもから高齢者までが生きがいを持って暮らせる支援の充実
- ・多様な地域の担い手の参画促進

③人を引き寄せる持続可能な地域づくり

- ・自然環境の保全と魅力向上
- ・シティセール、移住・定住の推進

3. 蒲郡市地域強靱化計画

目標年次：令和7年度（2025年度）

(1) 蒲郡市の強靱化の基本目標

第五次蒲郡市総合計画では、防災のための施策が目指す本市の将来の姿を、以下のとおり定めています。

- ・行政・地域・事業者それぞれが主体となり、連携しながら防災・減災に取り組む社会となっている。
- ・市民の生命・財産を守るため、災害による被害を最小限にとどめ、速やかに復旧を行う町となっている。

このよう本市を強靱化する将来の姿を実現するため、国が基本計画に位置づけた基本目標も踏まえて、次の4つの基本目標を位置づけます。

- ① 市民の生命を最大限守る。
- ② 地域及び社会の重要な機能を維持する。
- ③ 市民の財産及び公共施設、市全体の産業・経済活動に係る被害をできる限り軽減する。
- ④ 迅速な復旧復興を可能とする。

(2) 推進すべき施策（施策分野ごとの強靱化施策の推進方針）

○住宅・都市

- ・住宅・建築物の耐震化等の促進
- ・不特定多数の者が利用する建築物等の耐震化の促進
- ・公共施設の耐震化の推進・促進
- ・大規模盛土造成地等の施設・構造物等の脆弱性の解消等
- ・空家対策による倒壊リスクの軽減
- ・家具の転倒防止器具の取付け、ブロック塀撤去等の推進
- ・火災に強いまちづくり等の推進
- ・津波防災地域づくり
- ・上水道施設の老朽化対策等の推進
- ・下水道施設の耐震化・下水道業務継続計画（BCP）の充実
- ・浄化槽の整備
- ・防災拠点等の耐震化等の推進
- ・上水道及び農業用水施設の耐震化等の推進
- ・水の安定供給
- ・上水道施設の耐震化等の推進
- ・上水道等の復旧の体制等の強化
- ・汚水処理施設等の防災対策の強化
- ・沿道の住宅・建築物の耐震化の促進

- ・ポンプ等の防災対策の推進
- ・仮設住宅・復興住宅の迅速な建設に向けた体制強化
- ・既存ストックの活用による被災者向け住宅の確保
- ・自宅居住による生活再建の促進

○交通・物流

- ・交通施設等における脆弱性の解消
- ・輸送ルート of 確保対策の実施
- ・迅速な輸送経路啓開等に向けた体制整備
- ・道路ネットワークの整備の推進
- ・代替輸送手段の確保等
- ・災害時の医療提供のためのインフラ・物流の確保
- ・交通施設の防災対策の推進
- ・輸送モードの連携・代替性の確保
- ・陸・海ルート確保強化
- ・交通ネットワークの迅速な開発に向けた体制の整備
- ・災害時の放置車両対策
- ・幹線交通分断に伴うリスクの想定及び対策の推進
- ・基幹インフラ復旧等の大幅な遅れへの対応の検討
- ・三河港の業務継続力の強化

○市域保全

- ・河川・海岸の堤防、水門等・排水機場等の耐震化の促進
- ・ハード対策・ソフト対策を組み合わせた浸水対策の推進
- ・河川の改修・管理
- ・高潮対策施設等の整備
- ・排水機場等の耐震化の促進
- ・土砂災害対策の推進
- ・山地災害、森林・農地等の保全機能の低下への対応
- ・防災インフラの耐震化・液状化対策等の推進
- ・防災インフラの迅速な復旧に向けた取組
- ・海岸堤防の耐震化等の推進
- ・河川・海岸の水門等・排水機場等の耐震化の推進
- ・漂流物防止対策の推進
- ・土砂災害対策の推進
- ・浸水等の被害軽減に資する対策の推進

○土地利用

- ・火災に強いまちづくり等の推進
- ・ハード対策・ソフト対策を組み合わせた浸水対策の推進
- ・地籍整備の推進

4. 蒲郡市立地適正化計画

目標年次：令和22年度（2040年度）

(1) まちづくりの方針

①まちづくりの基本理念

住み慣れた蒲郡を時代の変化に対応しながら次世代へつなぐまちづくり

- ・鉄道駅やその周辺の市街地において魅力的な都市環境を維持及び創出し、緩やかではあるが自ずと都市機能や居住が集まる持続可能なまちづくりを推進します。
- ・人口減少・少子高齢化の情勢下でも、様々な都市活動や、多様な地域性のある居住地での生活を支え続けるまちづくりを推進します。

②将来都市像

多世代が健康で安心して暮らせるまち

- ・次世代を担う子どもたちを安心して育てることができるまち
- ・高齢者が可能な限り自立し豊かに生活できるまち
- ・若い世代により活気のあるまち

③まちづくりの基本方針

○コンパクトなまちを活かした、歩いて便利に生活できる拠点の形成

- ・蒲郡駅周辺は、市民が利用する基幹的な施設が立地する『まちの核』として都市機能を確保します。
- ・各地域で日常生活に必要な都市機能を便利に利用できるよう、人口減少が進行する中であっても、各鉄道駅周辺において都市機能を確保します。

○多様な主体の連携による持続性の高い公共交通体系の形成

- ・都市間や市内の都市機能が集積する地域間を連絡する鉄道を維持していきます。
- ・駅周辺の都市機能や居住の立地を促進しながら、郊外に居住する高齢者を含めた市民の移動手段を確保していくため、効率性に配慮しながら市民ニーズを踏まえた交通サービスの組合せによる公共交通体系を形成します。

○安全・快適で、人と人とのふれあいのある居住地の形成

- ・工業や観光産業との調和を図りながら、安全で快適に生活できる居住地を確保します。
- ・市民ニーズに対応した公共施設の再編を行いながら、健康づくりや文化活動、集会、スポーツなど、地域住民の様々な生涯学習や交流活動の場を確保します。
- ・郊外の居住地であっても、子育てや高齢者支援に係る一定のサービスと地域コミュニティの醸成により、様々な人が支え合いながら安心して生活できる居住環境を確保します。

④将来都市構造

○拠点

- ・現在の地域圏や都市機能施設の立地状況を踏まえ、市内の全ての駅周辺に拠点（都市機能誘導区域）を位置づけます。

○公共交通軸

- ・既存の公共交通を有効活用した公共交通軸を位置づけます。

■将来都市構造図



拠点

○中心拠点

- ・本市の基幹的な都市機能の集積を図る拠点として蒲郡駅周辺に位置づけます。

○地域拠点

- ・各地域での生活において必要な生活機能を確保する拠点として各駅周辺に位置づけます。

公共交通軸

○鉄道軸

- ・本市の公共交通の軸として、JR 東海道本線と名鉄西尾線・蒲郡線を位置づけます。

○幹線的バス軸

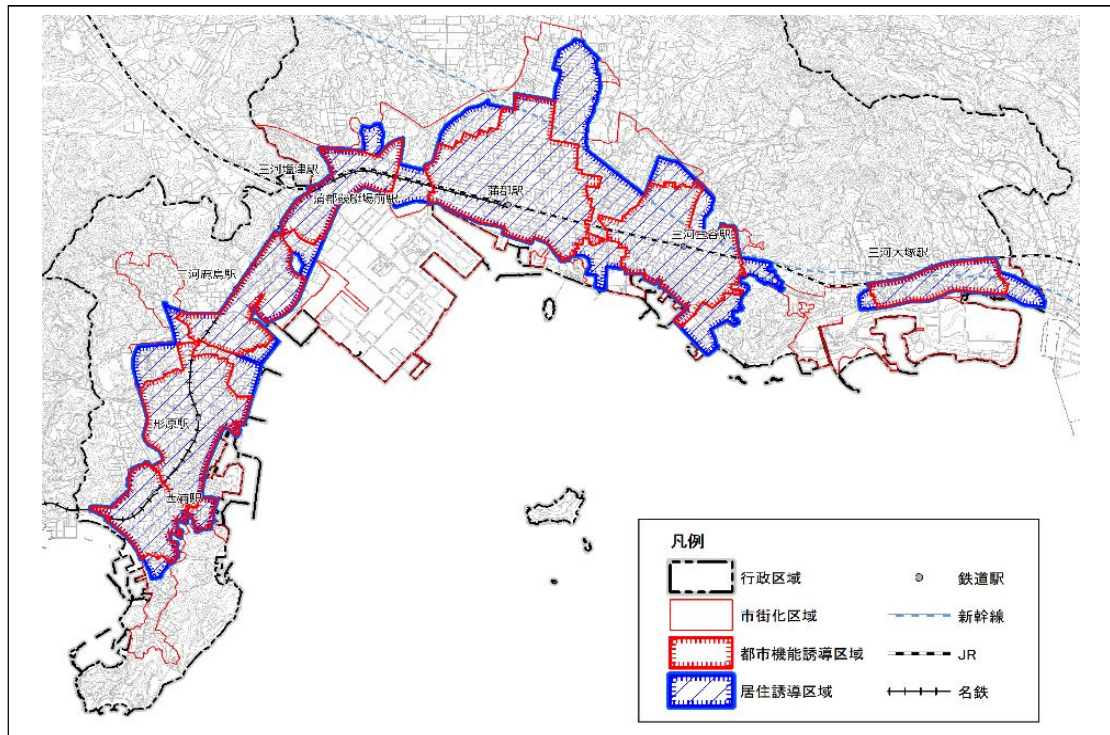
- ・鉄道軸を補完し、拠点間や市街地の移動を支える路線バスを位置づけます。

○支線の交通

- ・公共交通空白地域の移動の足となるコミュニティバス等を位置づけます。

(2) 都市機能誘導区域、誘導施設及び居住誘導区域の設定

■都市機能誘導区域及び居住誘導区域



■誘導施設

施設		西浦駅	形原駅	三河鹿島駅	三河塩津駅	蒲郡駅	三河三谷駅	三河大塚駅
医療	病院					●		
	診療所	●	●	●	●	●	●	●
	調剤薬局	●	●	●	●	●	●	●
高齢者等福祉	生きがいセンター					●		
	勤労福祉会館					●		
子育て支援	保育園	●	●	●	●	●	●	●
	就学前児童利用施設(民間) ・幼稚園 ・認定こども園 ・認可外保育施設	●	●	●	●	●	●	●
	児童館	●	●	●	●	●	●	●
	乳幼児一時預かり施設	●	●	●	●	●	●	●
	子ども送迎センター	●	●	●	●	●	●	●
教育	小学校	●	●		●	●	●	●
	中学校	●	●			●		●
教育文化	図書館					●		
	市民会館					●		
	博物館					●		
商業	大規模小売店舗 (店舗面積1,000㎡超)		●	●	●	●	●	
	銀行、郵便局等	●	●	●	●	●	●	●
行政	市役所					●		

● : 誘導施設

● : 誘導施設(既存施設の機能を各都市機能誘導区域内で維持するもの)

● : 誘導施設(公共施設マネジメントの取組みにより再配置を検討しているもの)

(3) 誘導施策

立地適正化計画区域

市民や民間事業者、各分野の関連計画と連携した、各区域の位置づけや地域特性を踏まえた生活環境の確保

- 主な関連分野
- 市民福祉サービス（子育て支援、高齢者支援、障がい者支援）
 - 商業・サービス業
 - 公共施設整備（道路などのインフラ整備、公共施設再編）
 - 住宅施策（定住促進、空き家対策）
 - 公共交通施策（基幹的な公共交通軸のサービス確保、地域間交通の確保）

居住誘導区域

都市機能施設の維持につながる人口密度の確保

- ・居住を誘導する各種施策の検討・推進
- ・一定規模以上の開発行為または建築行為を対象とした届出制度の運用による、区域外における住宅開発等の立地動向の把握と立地促進

都市機能誘導区域

誘導施設を踏まえた都市機能施設の誘導

- ・既存施策の位置づけ見直し、または新規施策の実施により民間の都市機能を誘導
- ・公共施設再編の実施事業と連携
- ・民間事業者の動向により、国の支援を活用して、民間による公共サービスの提供などを行う施設立地の検討
- ・区域内外における誘導施設を対象とした届出行為の運用による、都市機能の立地動向の把握と立地促進

(4) 計画の推進と目標値

安全・快適で、利便性の確保された市街地を今後も維持するため、拠点やその周辺の市街地で居住が促進されているか評価します。

目標1：居住誘導区域の人口密度

現況値
(平成27年)
(2015年) **47** 人/ha



目標値
(令和22年)
(2040年) **43** 人/ha

市内外から各拠点への移動において、公共交通が利用され、移動の足を維持し続けるための需要があるか評価します。

目標2：公共交通の日平均利用者数

現況値
(平成27年)
(2015年) **15,366** 人/日



目標値
(令和22年)
(2040年) **15,000** 人/日

第2章 現況分析

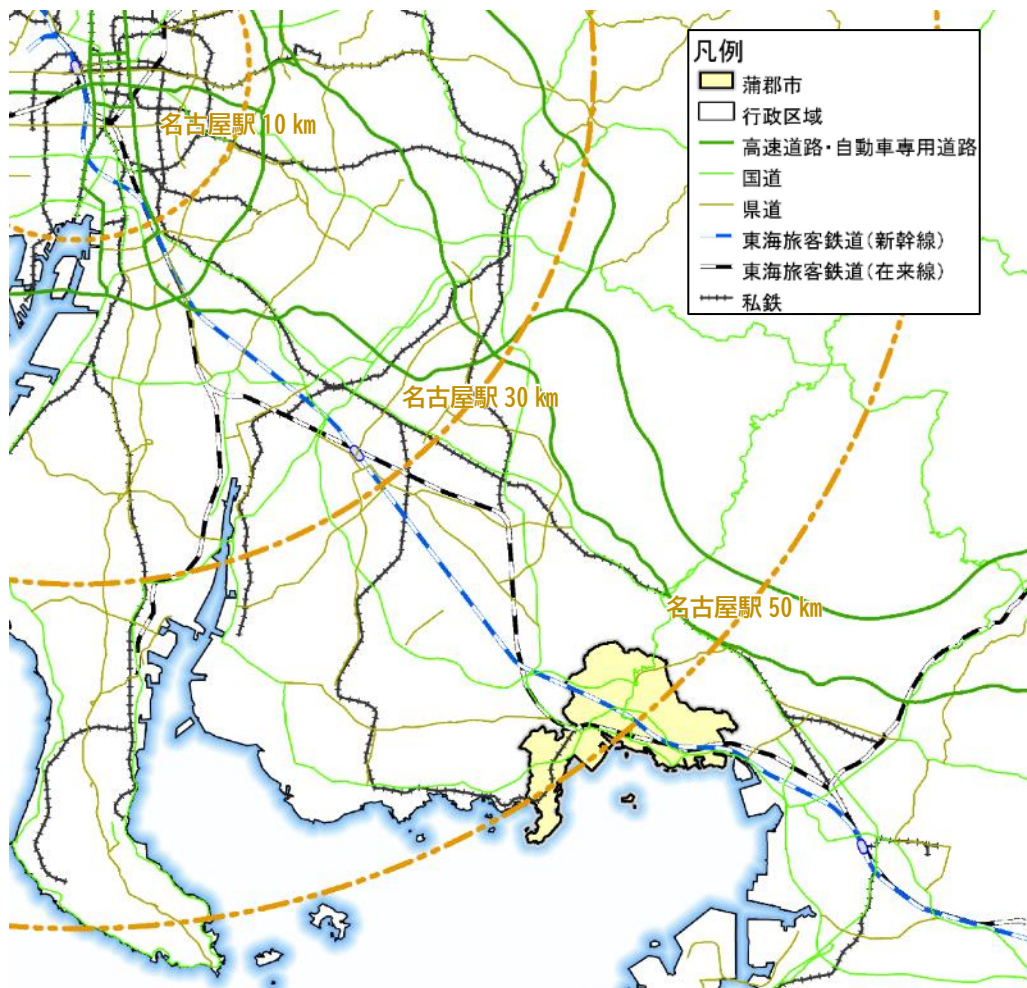
2-1 市の概要

(1) 位置

本市は愛知県の南東部、知多半島と渥美半島に囲まれた三河湾の奥に位置しています。名古屋市の中心部から約 50 km、東海道本線により名古屋駅までは約 40 分と近い位置にあります。東海道新幹線駅の豊橋駅とは約 10 分と広域的な公共交通の利便性が高い都市です。また、名鉄蒲郡線により西尾市とも連絡しています。

鉄道に加えて、国道 23 号バイパスなどの幹線道路で諸都市と結ばれ、東名高速道路音羽蒲郡インターチェンジへも容易にアクセスが可能です。

■蒲郡市の位置図

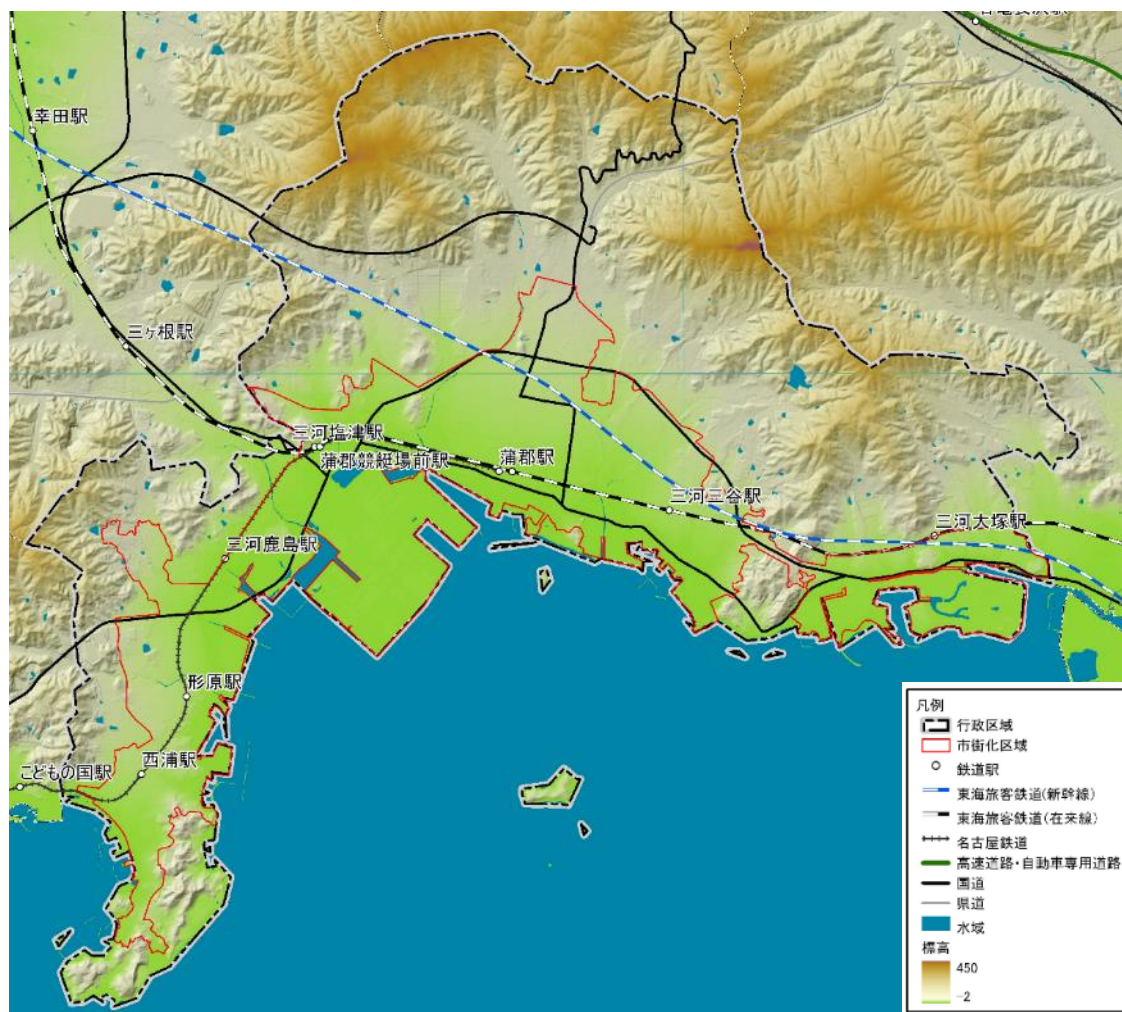


(2) 地形

本市は、北と東西の三方を山と丘陵部に囲まれ、南側は三河湾に面しており、三河湾国定公園の中心地です。

海・山の自然が豊かで、三河湾沿岸に快適に暮らすことができる市街地を形成しています。

■蒲郡市の地形図



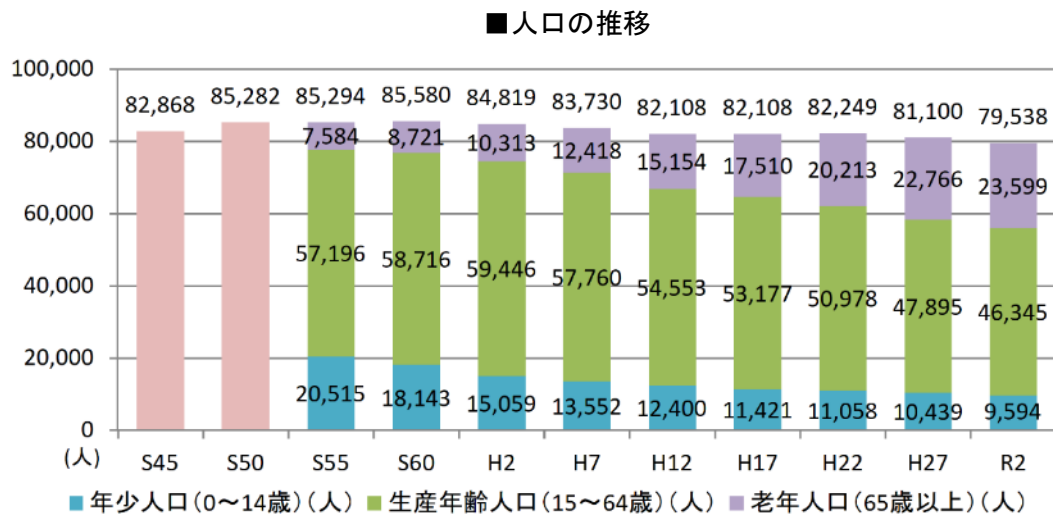
2-2 人口・世帯

(1) 人口の動向

① 人口の推移

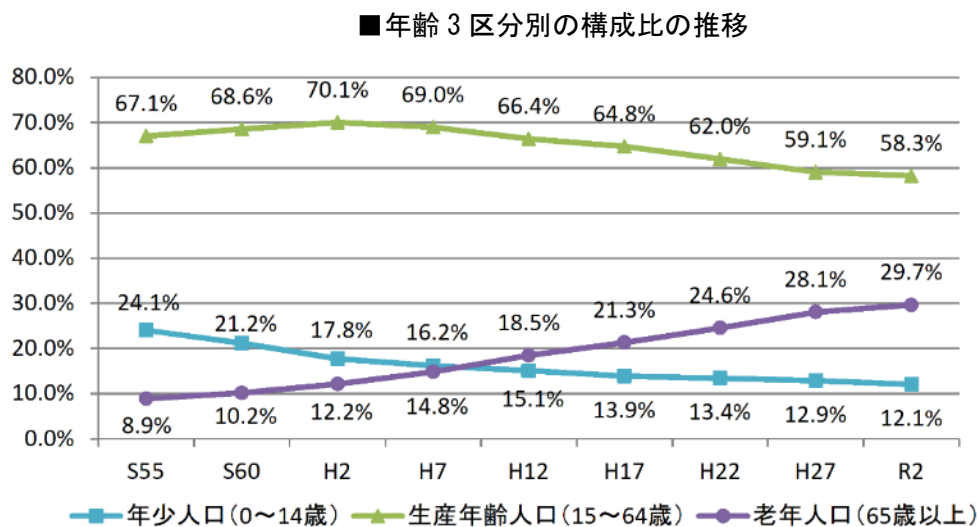
本市の人口は、昭和60年ごろをピークとし、それ以降は減少しています。

年齢区分別の人口を見ると、年少人口や生産年齢人口は減少していますが、老年人口は増加しています。現在の全人口に対する老年人口の割合は29.7%で、4人に1人以上が65歳以上となっています。



※昭和50年以前は、年齢3区分別のデータが公表されていないため、総数のみ表示

資料：国勢調査



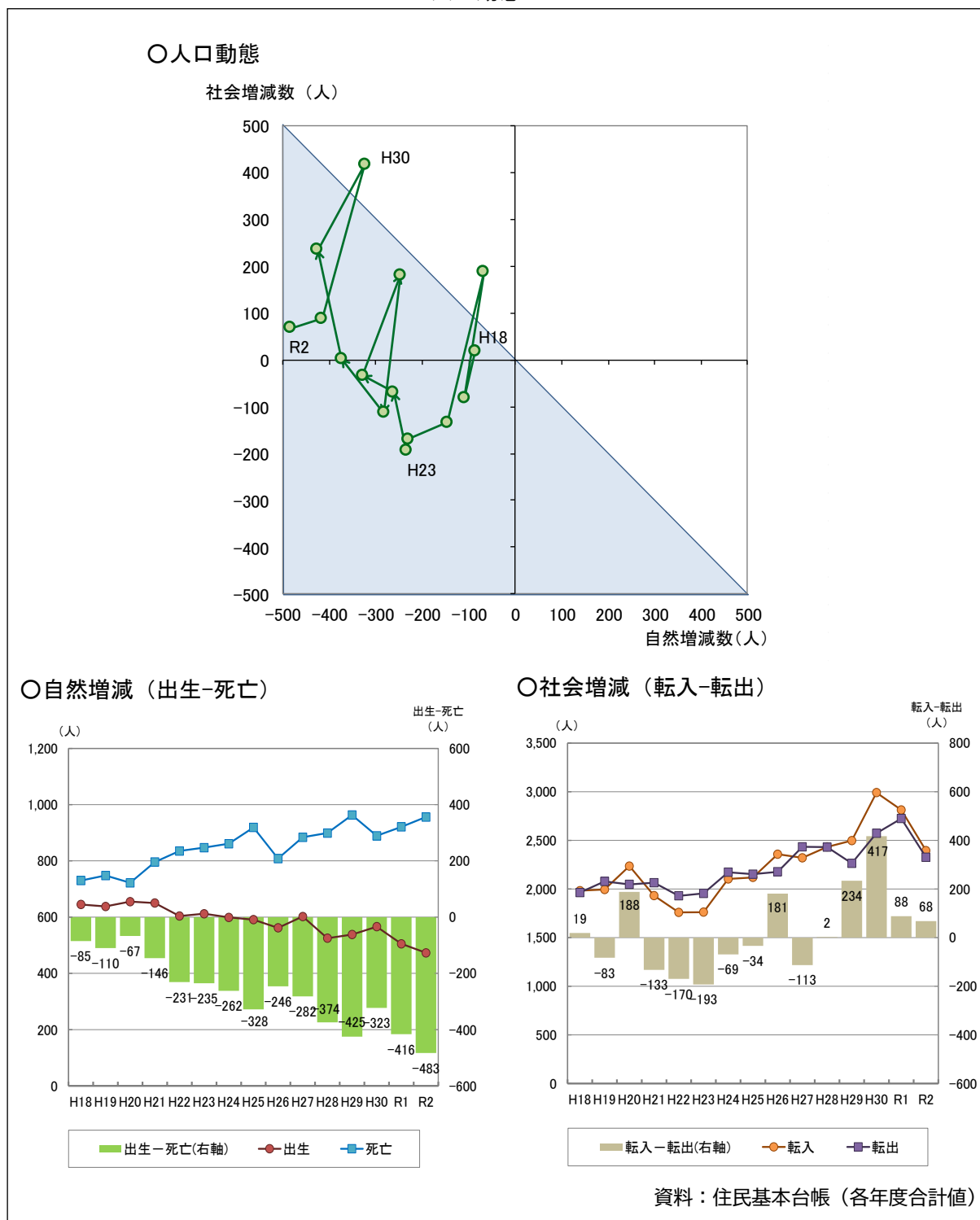
資料：国勢調査

② 人口動態（自然増減・社会増減）

1）蒲郡市の人口及び世帯の動態

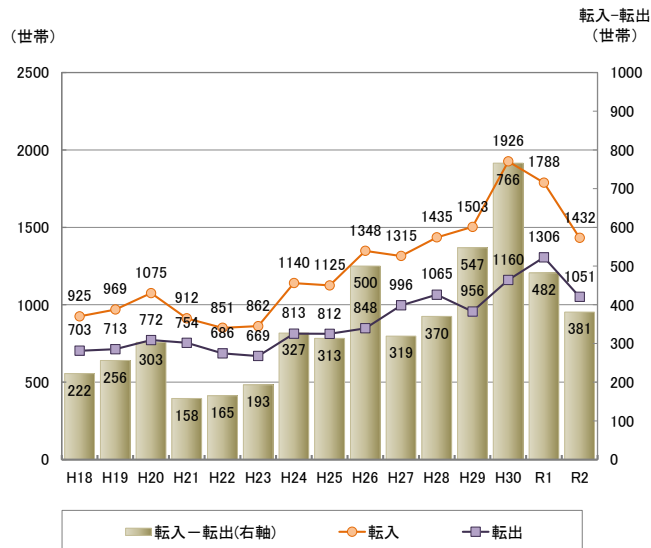
現行の都市計画マスタープラン策定時以降の人口動態を見ると、自然増減は、自然減の状況が継続しています。一方で、社会増減は、プラス・マイナスを繰り返していますが、平成28年度以降、転入超過の社会増の状況が継続しています。

■人口動態



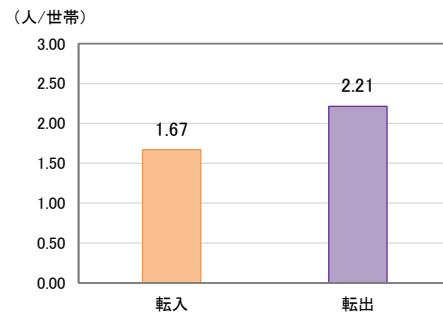
世帯の転出入を見ると、転出数より転入数が多い転入超過の状態が続いています。また、1世帯当たりの人員は転出世帯の方が多くなっています。

■世帯の転出入の推移



資料：住民基本台帳（各年度合計値）

■転出入別の1世帯当たり人員（R2年）

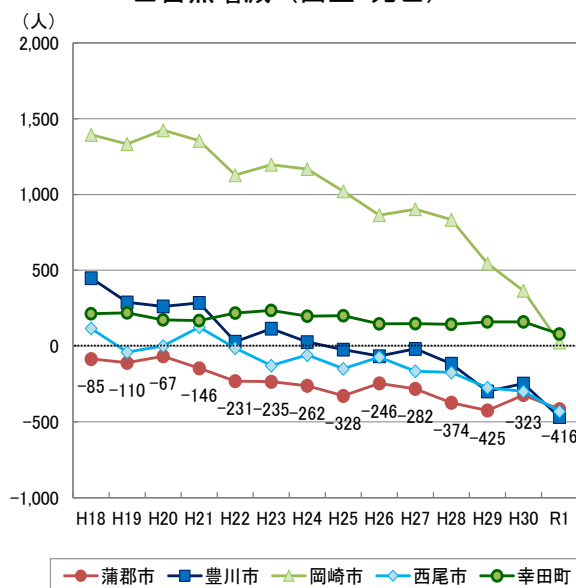


資料：住民基本台帳

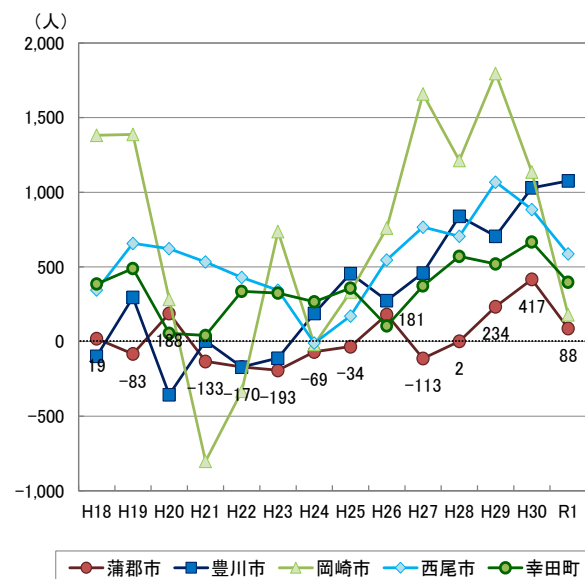
2）人口動態の他都市との比較

本市での自然減の状況が継続する中で、岡崎市や幸田町は自然増となっており、社会増減については、本市が社会増の状況の中、周辺市町でも社会増が継続しています。

■自然増減（出生-死亡）



■社会増減（転入-転出）

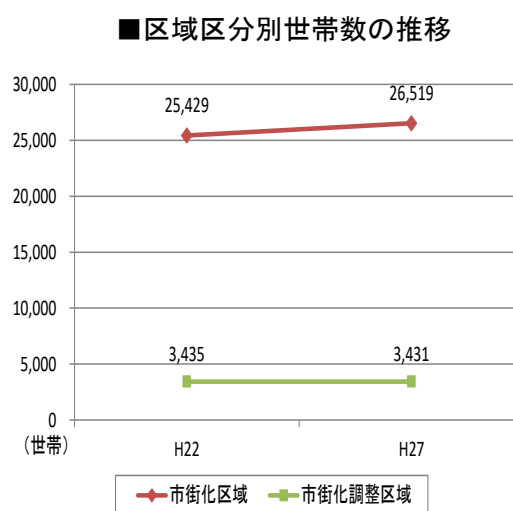
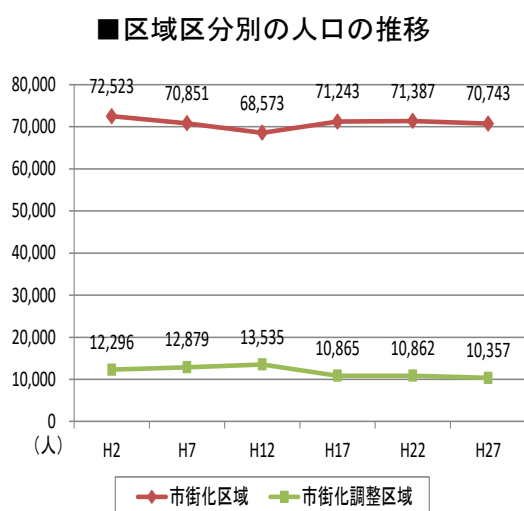
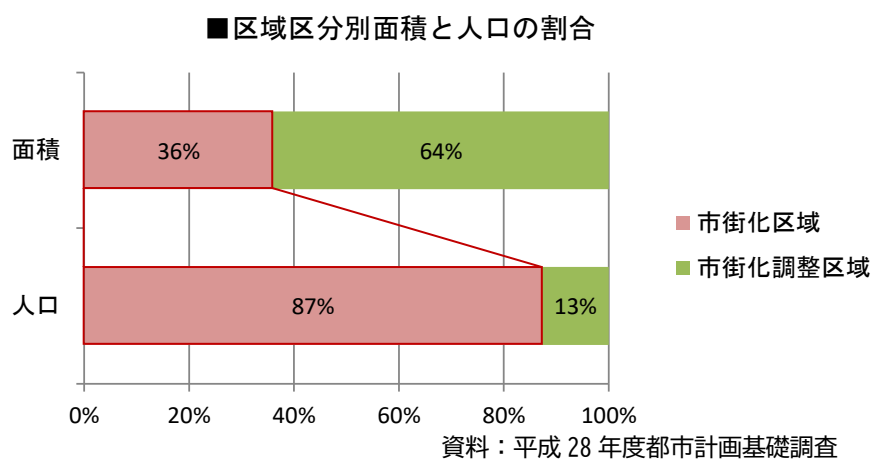


資料：【蒲郡市】住民基本台帳（各年度合計値）、【他市】地域経済分析システム（RESAS）

(2) 人口分布

① 区域区分別人口

本市では、36%を占める市街化区域の中に、87%の人が居住しています。区域区分別の人口の推移を見ると、市街化区域、市街化調整区域ともに人口が減少傾向となっています。世帯数は、短期的に見て市街化調整区域では横ばいですが、市街化区域で増加しています。



資料：都市計画基礎調査

② 用途地域別の人口密度

ラグーナ蒲郡地区計画区域と浜町の工業専用地域を除く市街化区域の人口密度が、概ね既成市街地の基準値である 40 人/ha と同等となっています。

■市街化区域の用途地域別人口密度

用途地域	市街化区域全体			ラグーナ地区を除く		
	面積 (ha)	人口 (人)	人口密度 (人/ha)	面積 (ha)	人口 (人)	人口密度 (人/ha)
第1種低層住居専用地域	50	1,860	37	50	1,860	37
第1種中高層住居専用地域	86	4,825	56	86	4,825	56
第1種住居地域	548	23,689	43	548	23,689	43
第2種住居地域	80	1,413	18	<u>16</u>	<u>600</u>	<u>37</u>
近隣商業地域	129	5,798	45	129	5,798	45
商業地域	114	3,193	28	<u>61</u>	<u>3,038</u>	<u>50</u>
準工業地域	726	28,372	39	<u>709</u>	28,372	<u>40</u>
工業地域	162	1,592	10	162	1,592	10
工業専用地域	156	1	0	156	1	0
総計	2,051	70,743	34	<u>1,918</u>	<u>69,775</u>	<u>36</u>
総計(工業専用地域除く)	1,895	70,742	37	<u>1,762</u>	<u>69,774</u>	<u>40</u>

※下線の数値は、ラグーナ蒲郡地区計画区域を除くことにより変更があるもの

資料：平成 28 年度都市計画基礎調査

【参考：人口密度の目安：都市計画運用指針（市街化区域の規模）】

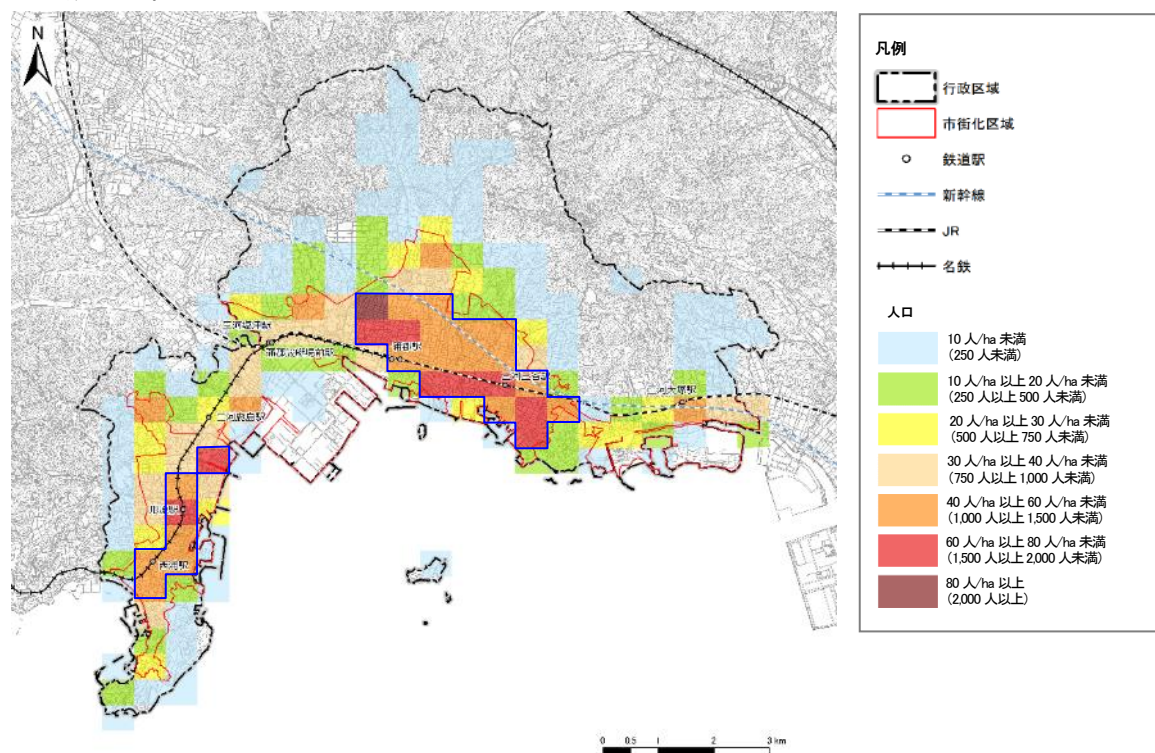
- ① 住宅用地の人口密度については、土地の高度利用を図るべき区域にあつては、1ha 当たり 100 人以上、その他の区域にあつては 1ha 当たり 80 人以上を目標とし、土地利用密度の低い地域であっても 1ha 当たり 60 人以上とすることを基本とすることが望ましい。
- ② 既に市街化している区域において、地形その他の地理的条件や都市基盤施設の配置・形状等からみて現状より多くの住宅を建築することが困難であること等の理由から、①に示す人口密度の参考数値を適用しがたい場合には、現在の市街地の地区毎の人口密度を把握のうえ、市街地の具体的な整備の方向を示したうえで、これを踏まえた将来の地区毎の人口密度目標を設定するなどの方策も考えられる。ただし、この場合でも規則に定める既成市街地の基準である 1ha 当たり 40 人を下回らないこととすべきである。

③ 総人口の分布（500mメッシュ）

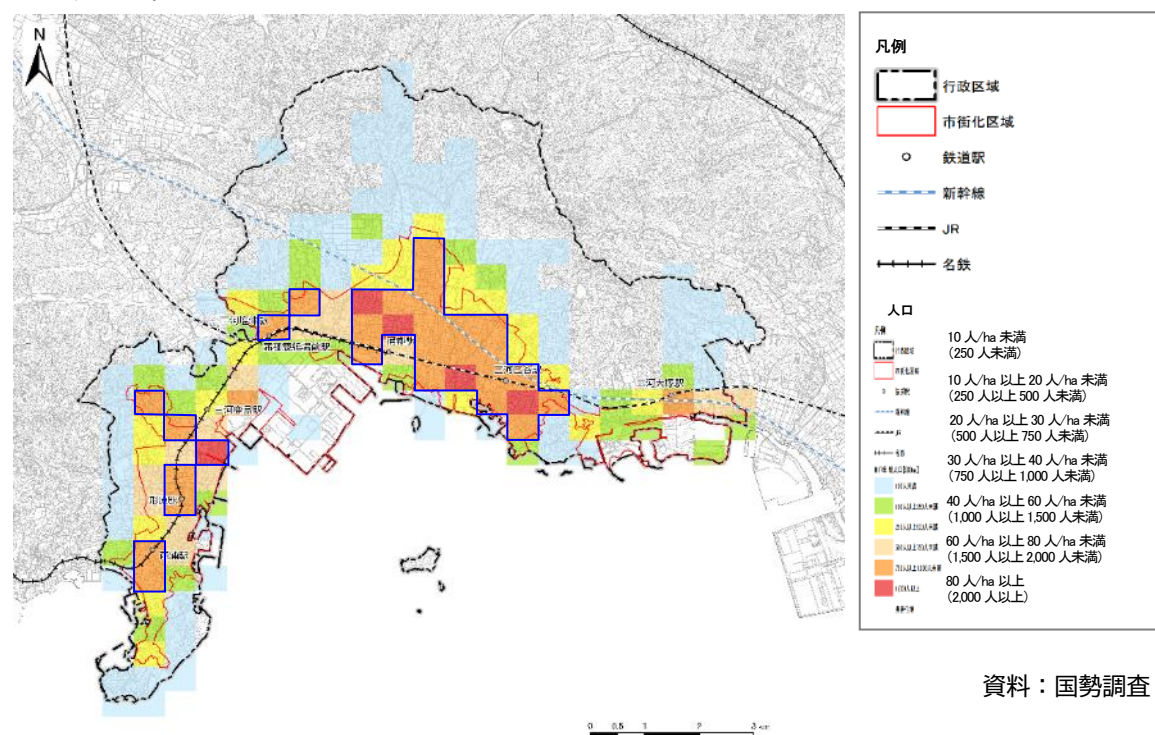
平成17年と平成27年の人口分布を見ると、蒲郡駅から三河三谷駅周辺や形原駅から西浦駅周辺の市街化区域に人口が集積しています。

■総人口の分布（500mメッシュ）

○平成17年人口



○平成27年人口

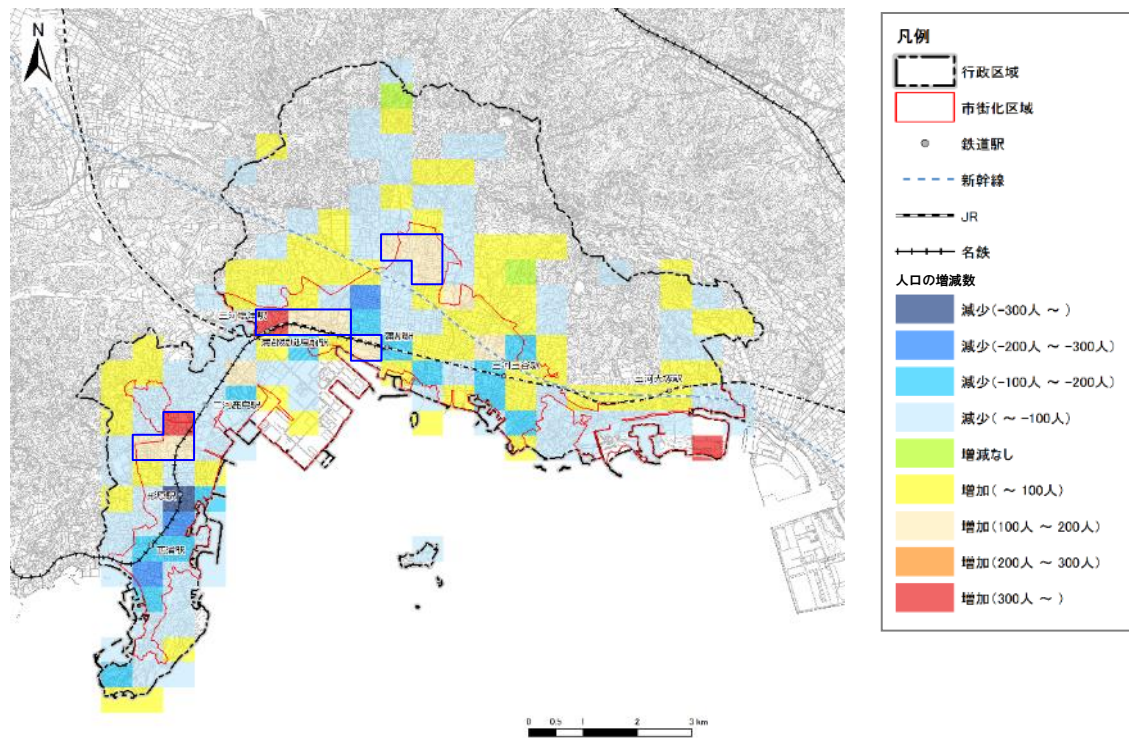


資料：国勢調査

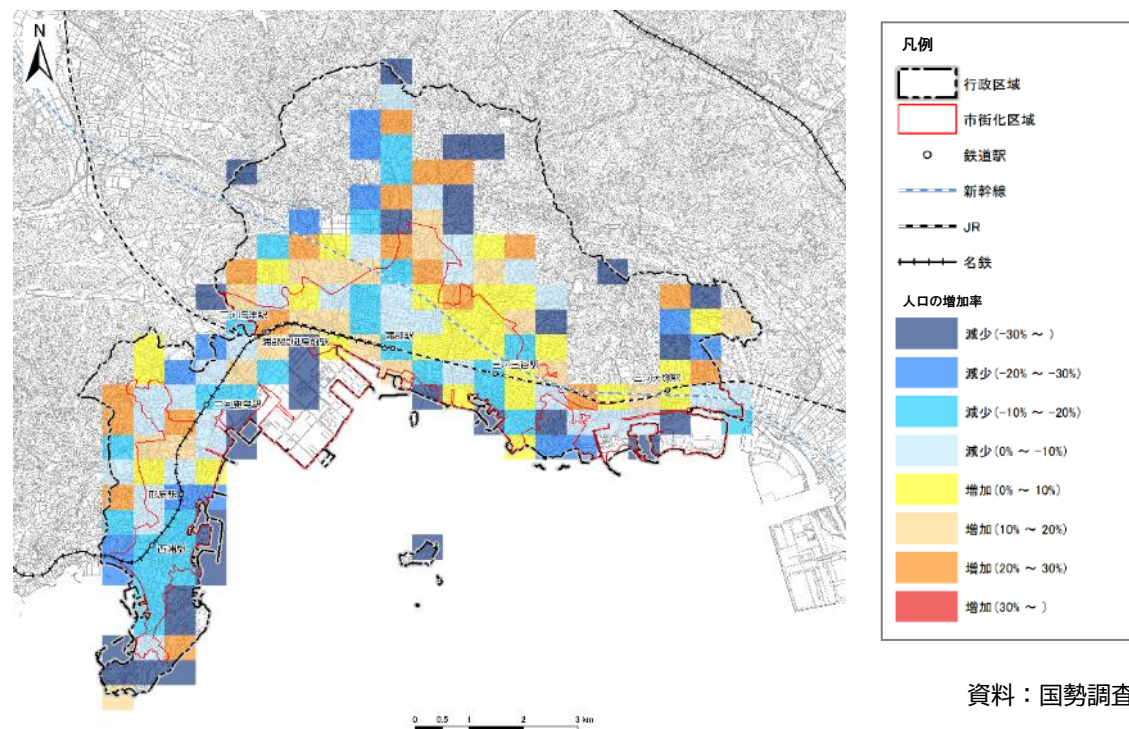
人口の増減については、三河塩津駅・蒲郡競艇場前駅周辺では増加しているのに対し、その他の駅周辺では増減なし、もしくは減少しています。また、市西部をはじめ、広い地域で人口が減少する中、駅から一定距離のある、蒲郡中部土地区画整理事業施行区域周辺などにおいて人口が増加している地域も分布しています。

■総人口の分布（500m メッシュ）

○増減数（平成 27 年-平成 17 年）



○増加率((平成 27 年÷平成 17 年)-1)



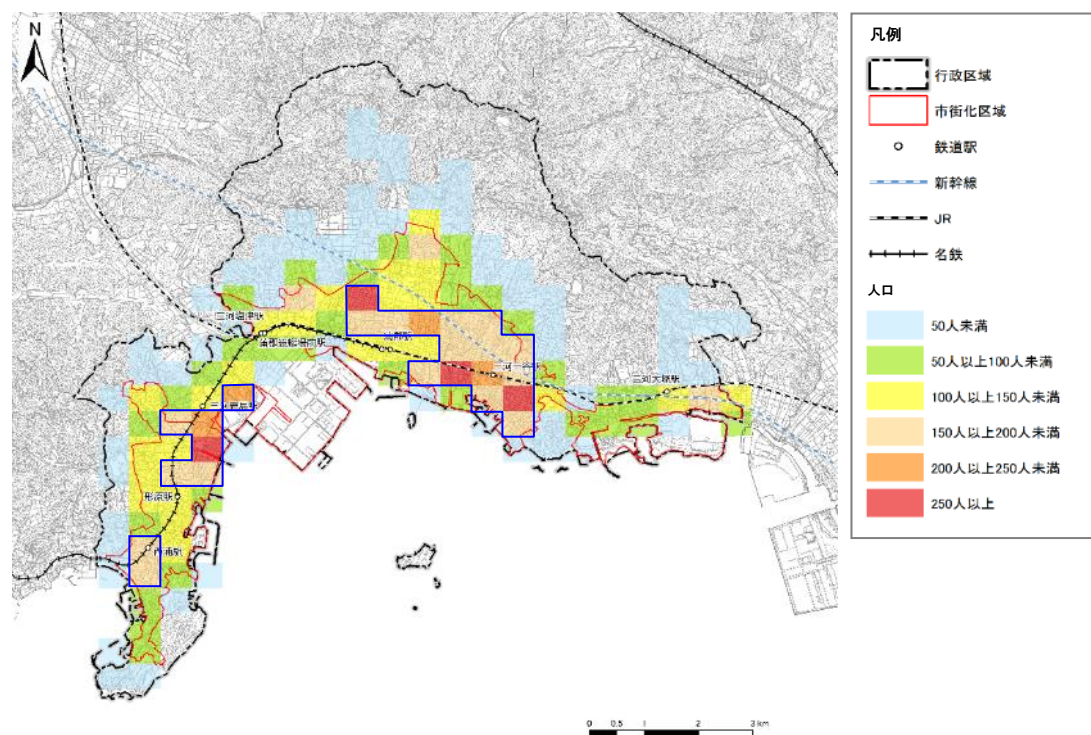
資料：国勢調査

④ 年少人口（14歳以下）の分布（500mメッシュ）

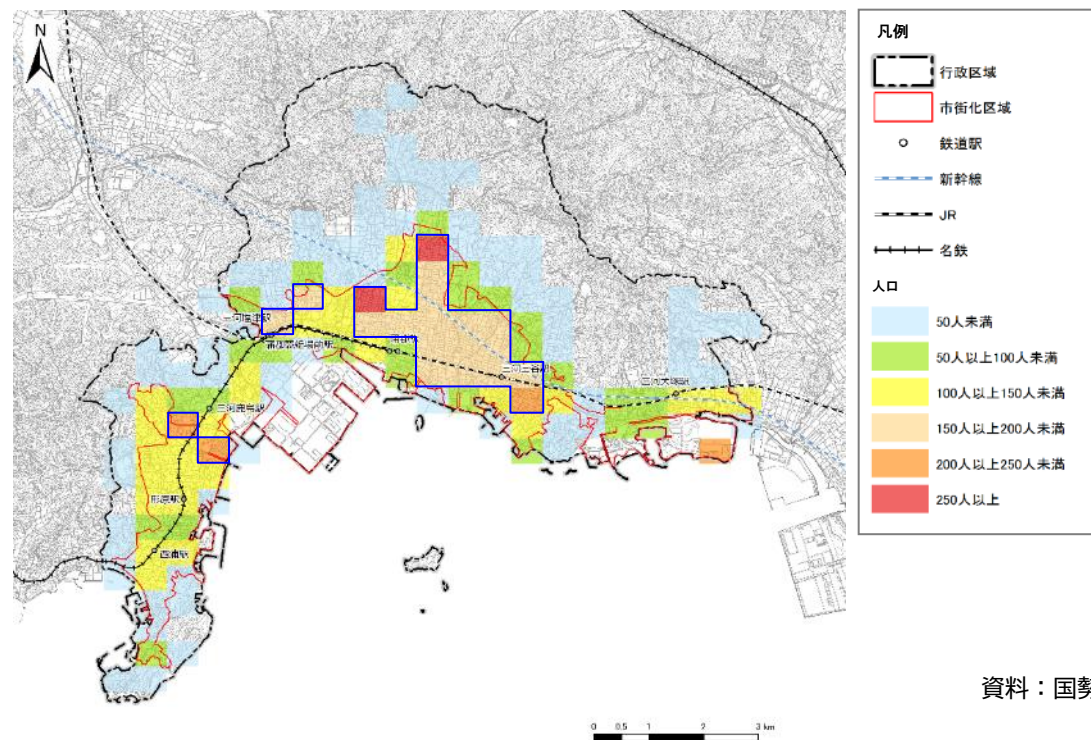
平成17年と平成27年の年少人口の分布を見ると、三河塩津駅・蒲郡競艇場前駅周辺から三河三谷駅周辺、形原駅周辺の市街化区域に人口が集積しています。

■年少人口の分布（500mメッシュ）

○平成17年人口



○平成27年人口

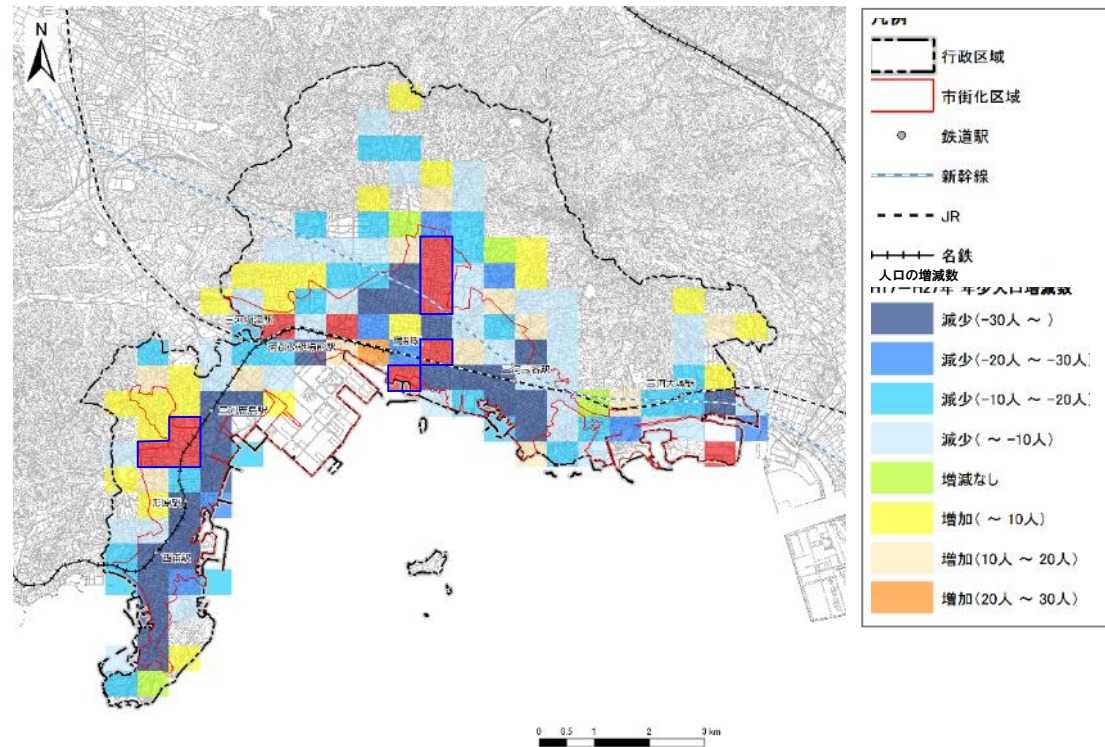


資料：国勢調査

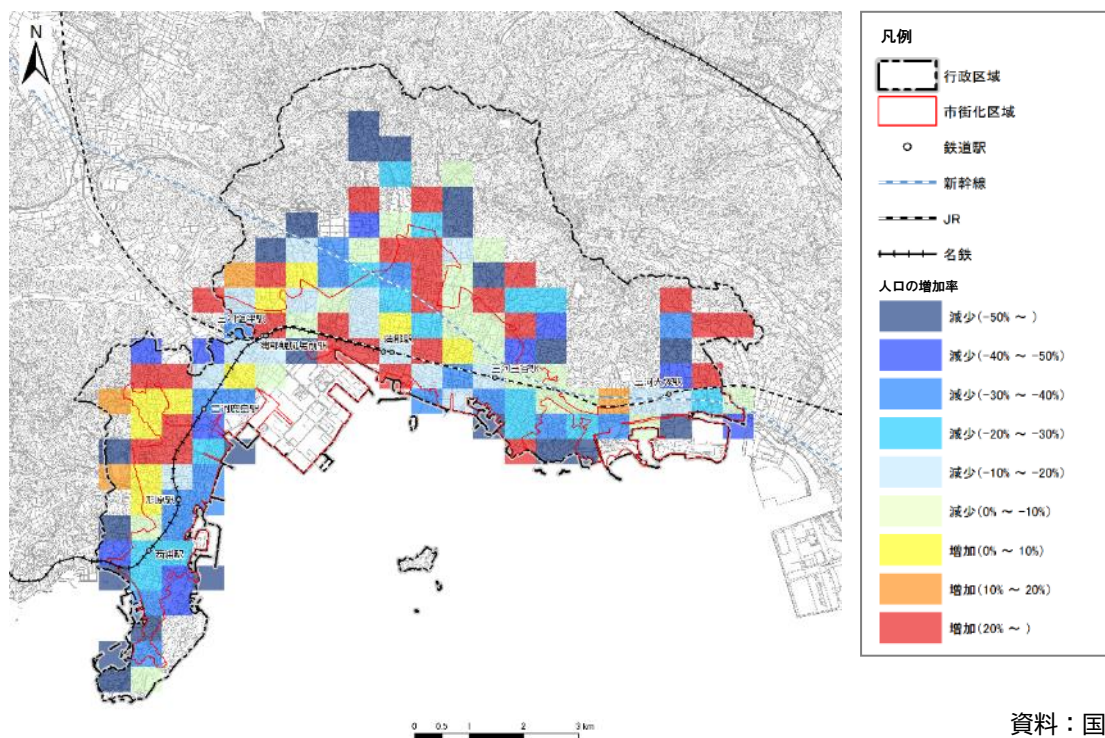
人口の増減については、市西部や三河三谷駅周辺などの総人口が集積する地域をはじめ、市街化区域内で年少人口が減少する地域が多い状況です。一方で、三河塩津駅・蒲郡競艇場前駅周辺や蒲郡駅周辺、土地区画整理事業施行区域などにおいて人口が増加しています。

■年少人口の分布（500m メッシュ）

○増減数（平成 27 年-平成 17 年）



○増加率((平成 27 年÷平成 17 年)-1)



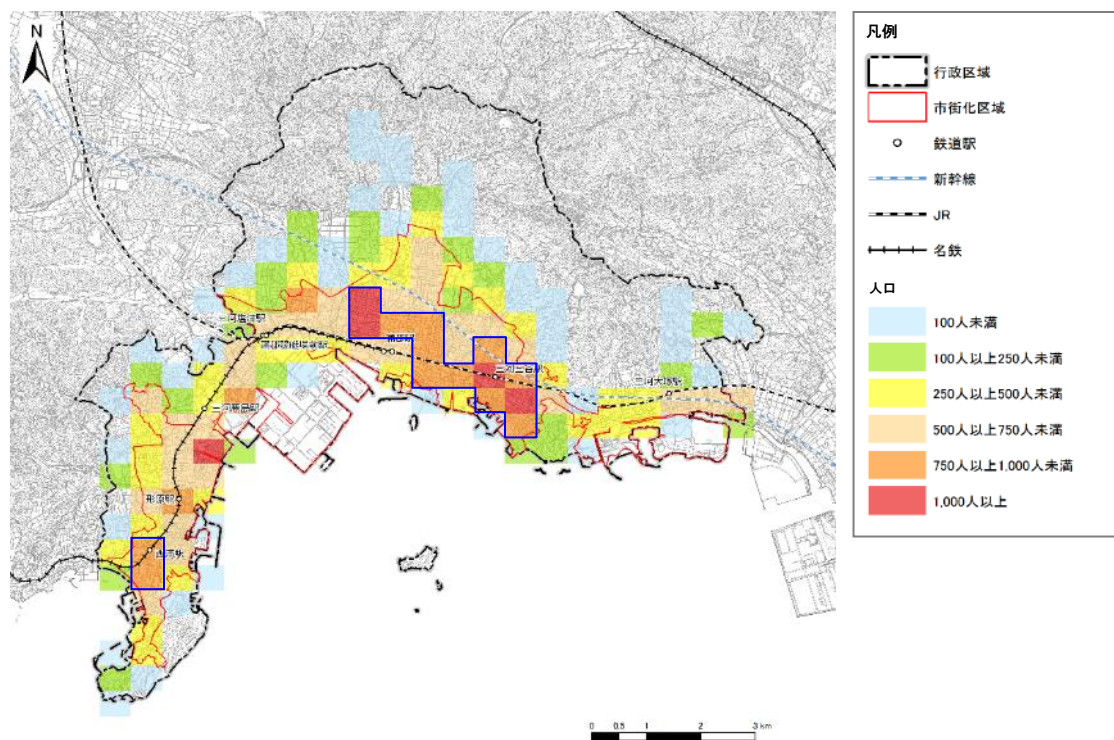
資料：国勢調査

⑤ 生産年齢人口（15歳～64歳）の分布（500mメッシュ）

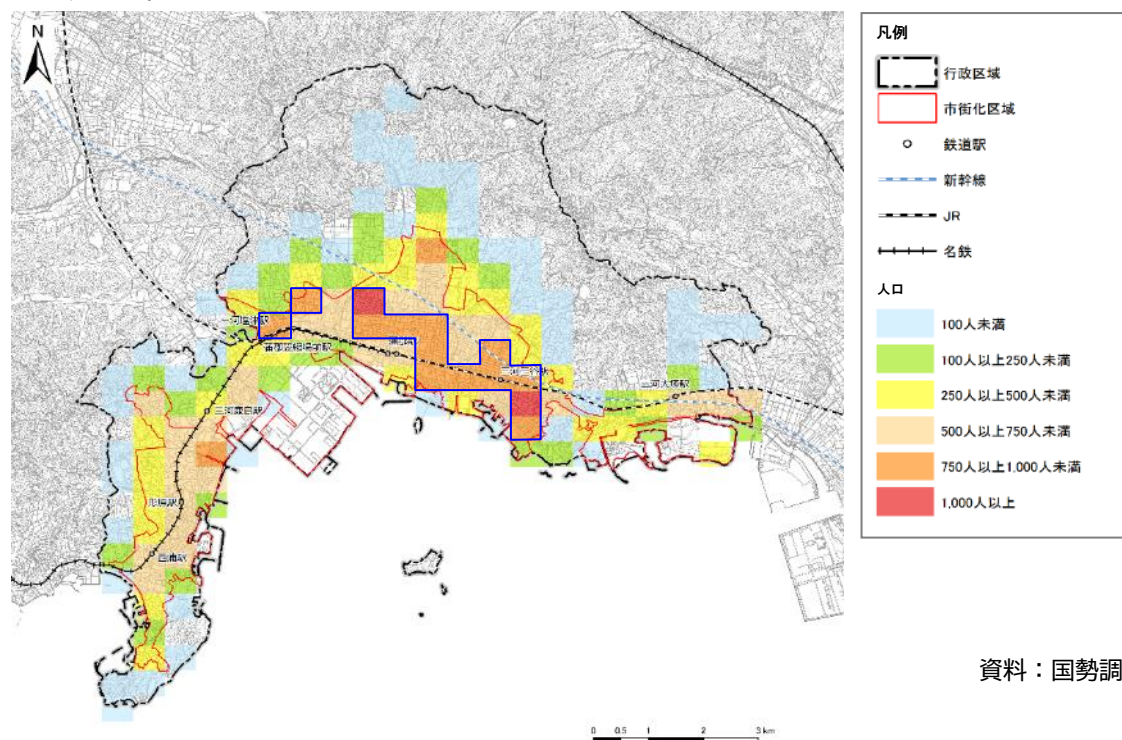
平成17年と平成27年の生産年齢人口の分布を見ると、三河塩津駅・蒲郡競艇場前駅周辺から三河三谷駅周辺の市街化区域に人口が集積しています。

■生産年齢人口の分布（500mメッシュ）

○平成17年人口



○平成27年人口

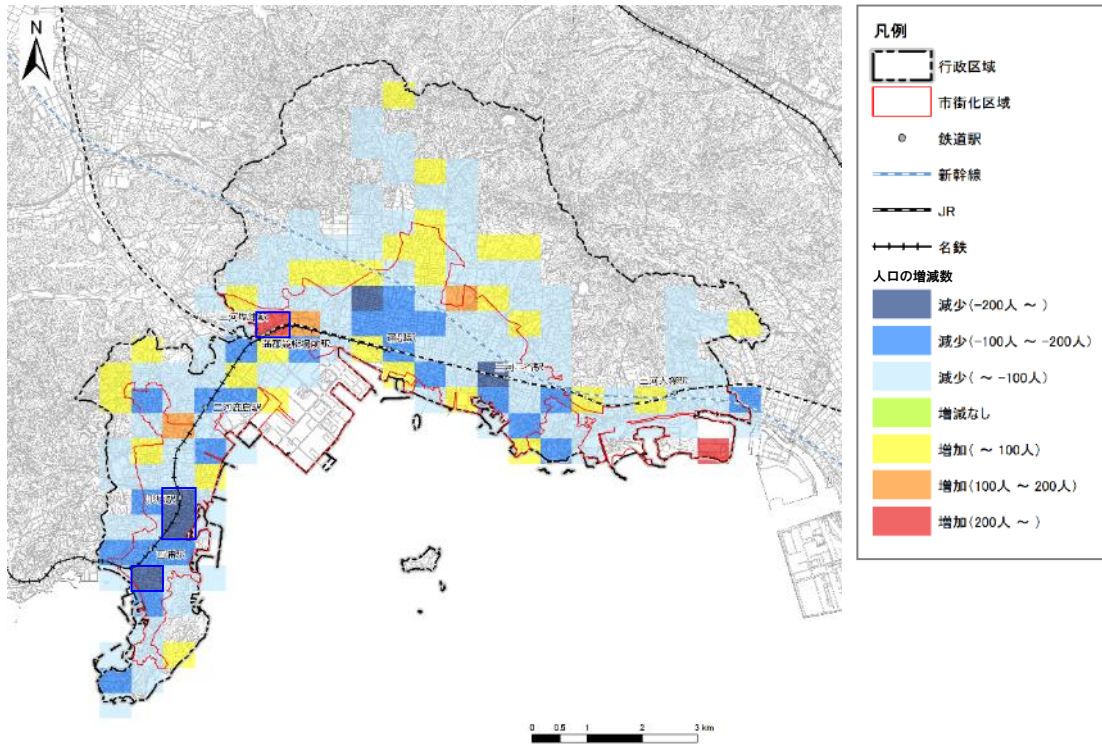


資料：国勢調査

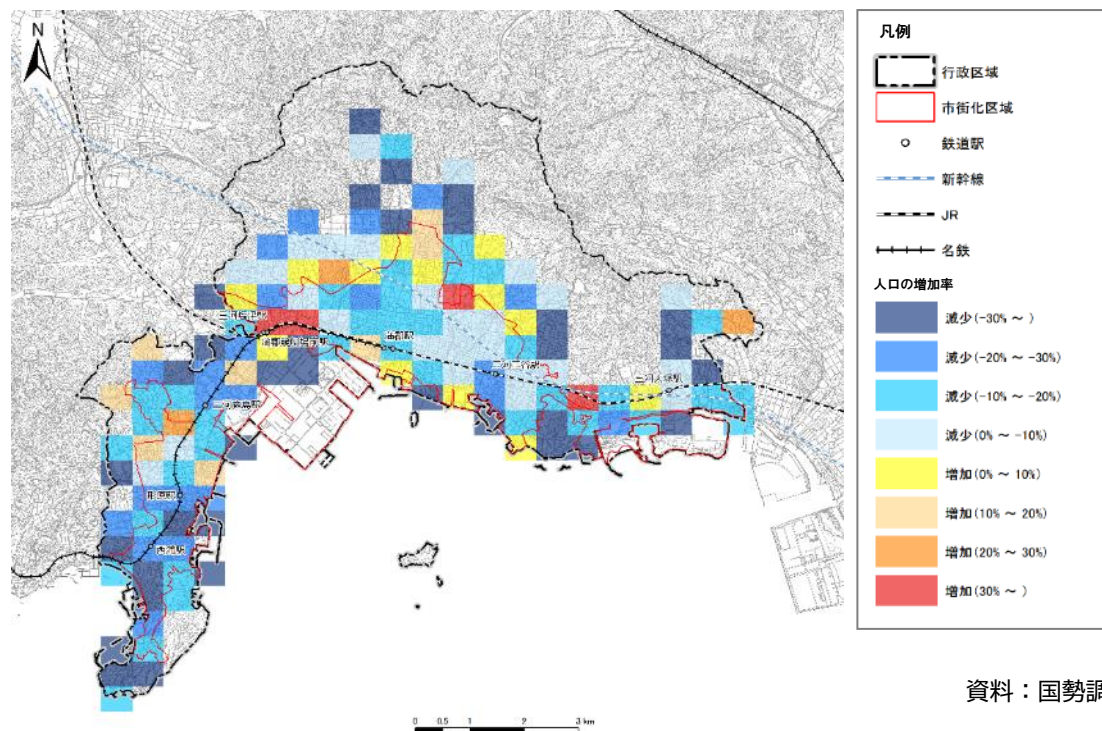
人口の増減については、三河塩津駅周辺などで増加しているのに対し、多くの駅周辺などで減少しています。

■生産年齢人口の分布（500m メッシュ）

○増減数(平成 27 年-平成 17 年)



○増加率((平成 27 年÷平成 17 年)-1)

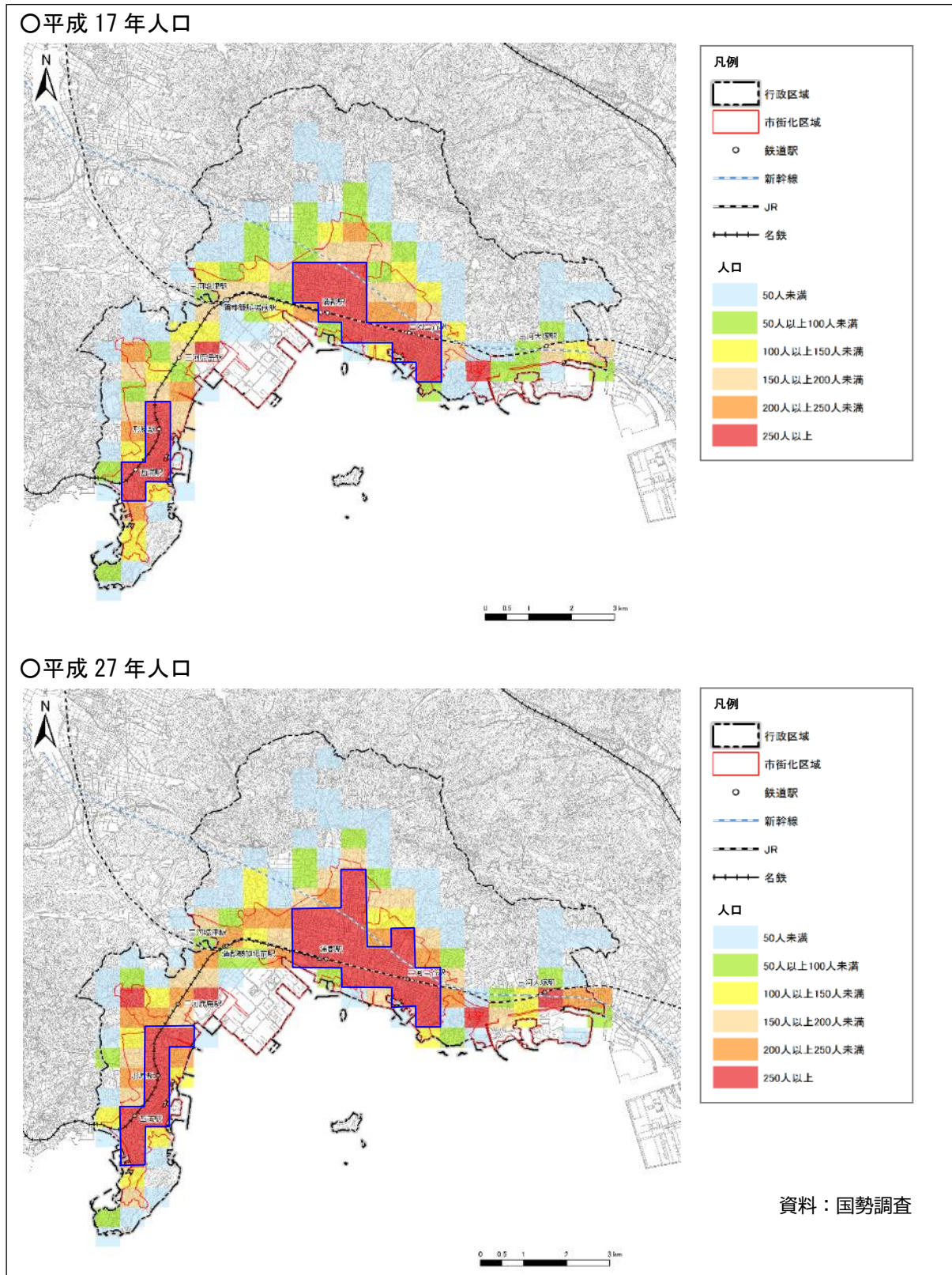


資料：国勢調査

⑥ 高齢者（65歳以上）の分布（500mメッシュ）

平成17年と平成27年の高齢者の分布を見ると、総人口と同様に、蒲郡駅から三河三谷駅周辺や形原駅から西浦駅周辺の市街化区域に人口が集積しています。

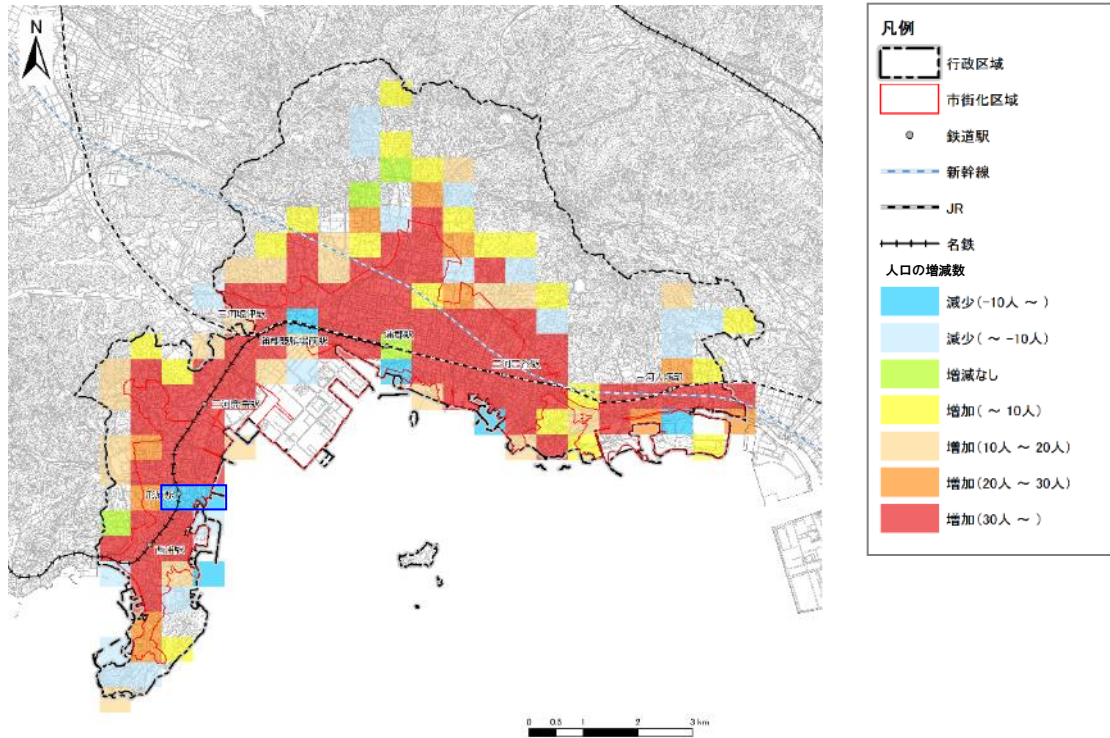
■高齢者（65歳以上）の分布（500mメッシュ）



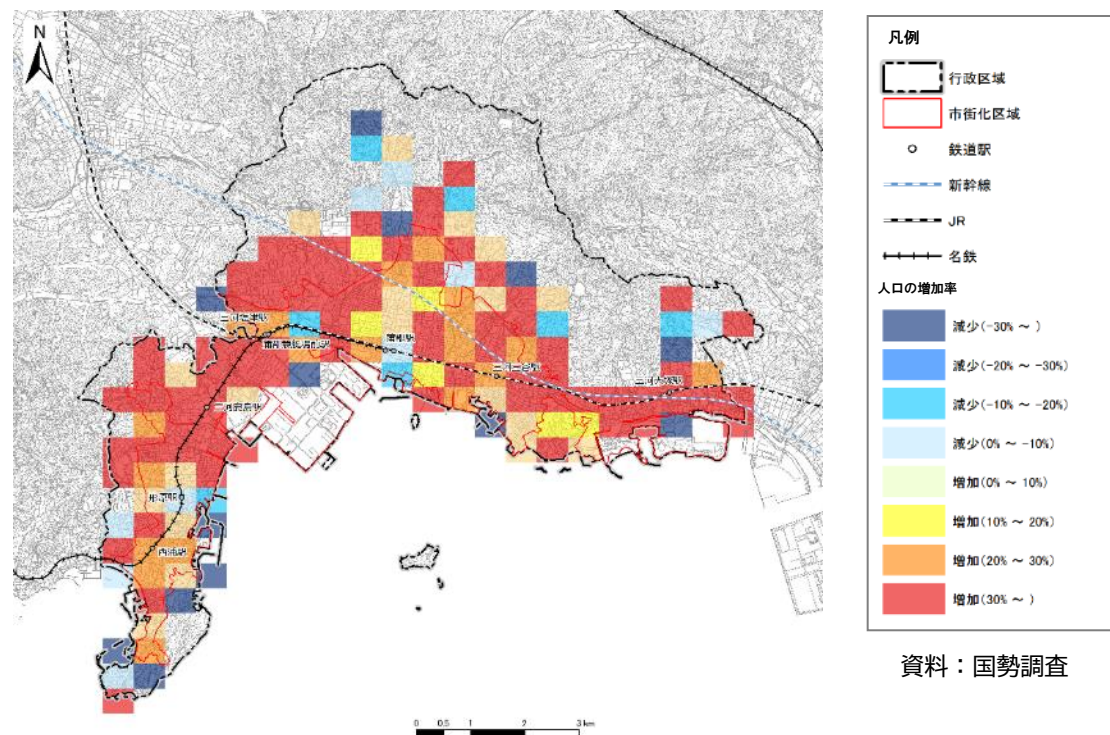
人口の増減については、概ね市全体にわたり増加しています。一方で、形原駅周辺では高齢者が減少しており、これまでの整理結果から、全ての世代で人口が減少しています。

■高齢者（65歳以上）の分布（500mメッシュ）

○増減数（平成27年-平成17年）



○増加率((平成27年÷平成17年)-1)



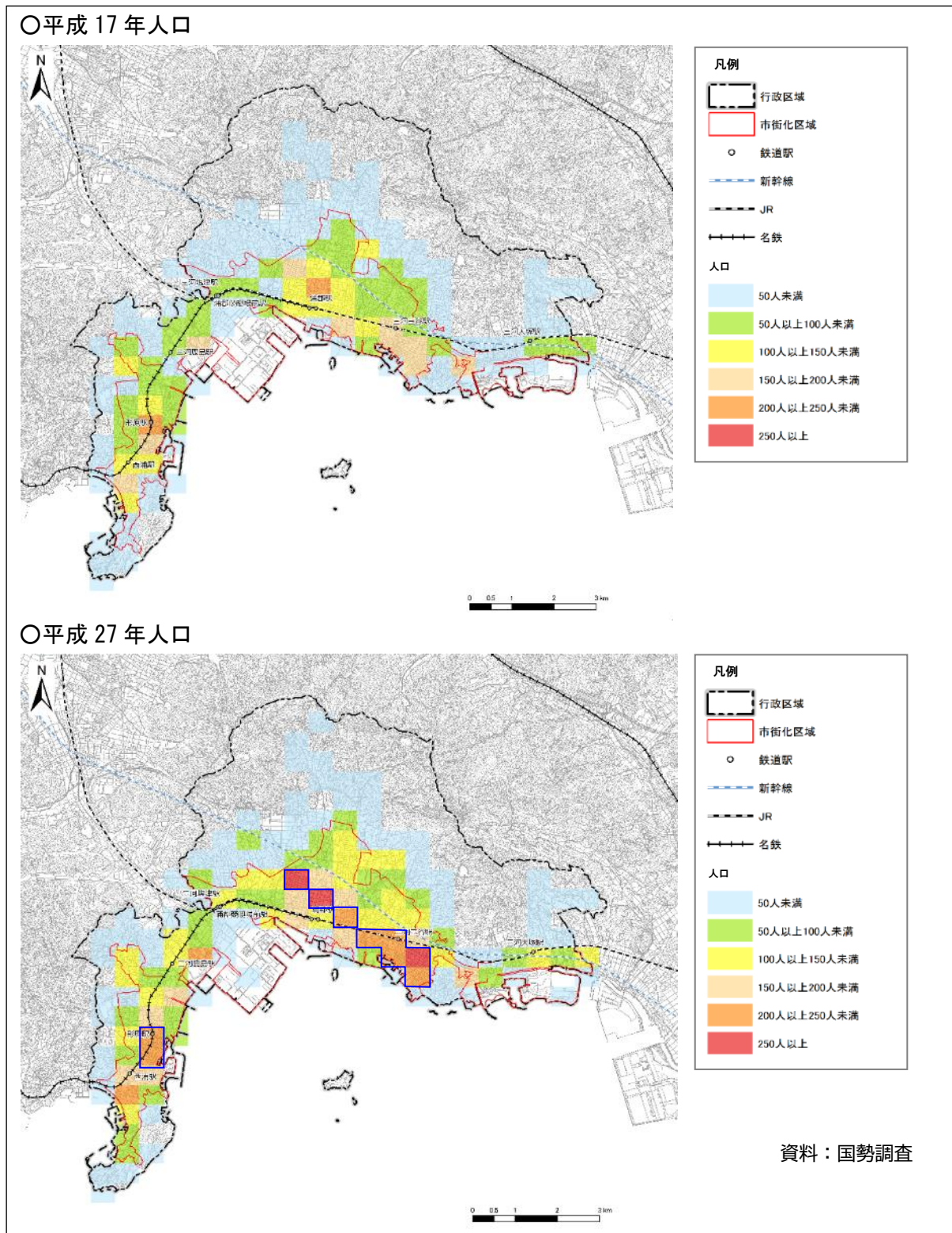
資料：国勢調査

⑦ 高齢者（75歳以上）の分布（500mメッシュ）

人口の半数以上が運転免許を保有していない75歳以上の高齢者の人口分布を整理します。

平成17年と平成27年の75歳以上の高齢者の分布を見ると、蒲郡駅から三河三谷駅周辺や形原駅周辺の市街化区域に人口が集積しています。

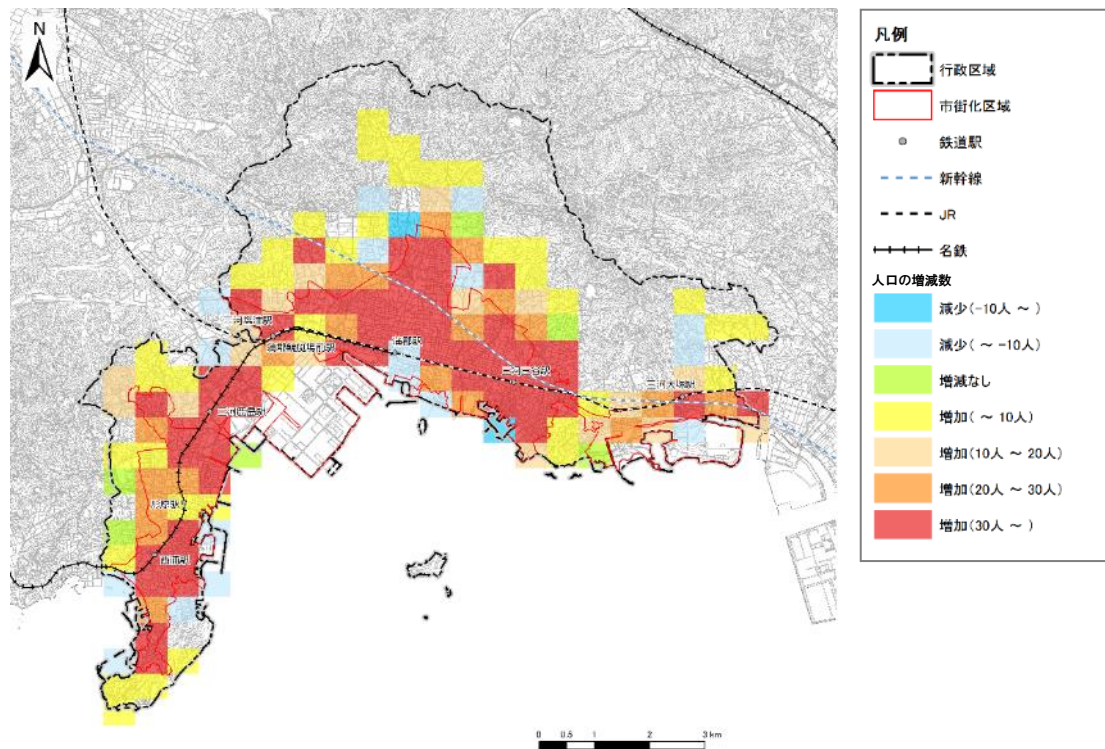
■高齢者（75歳以上）の分布（500mメッシュ）



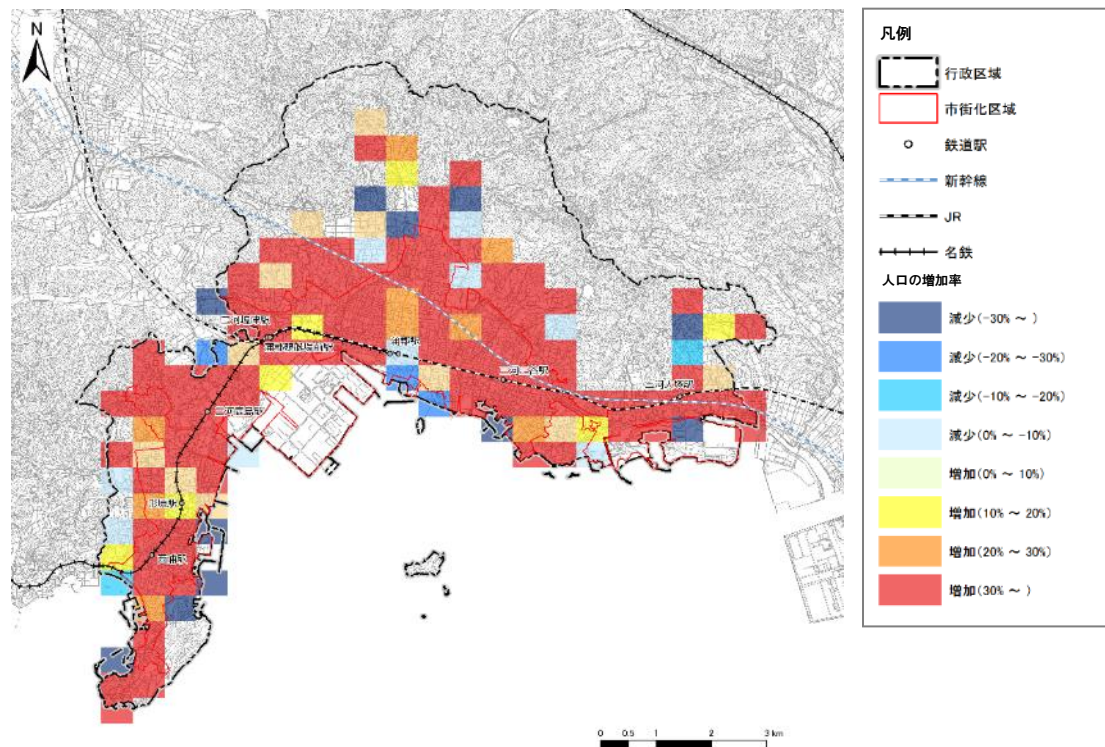
人口の増減を見ると、概ね市全体にわたり増加しています。市内の各居住地において、自動車を運転できない高齢者が増加していると考えられます。

■高齢者（75歳以上）の分布（500mメッシュ）

○増減数（平成27年-平成17年）



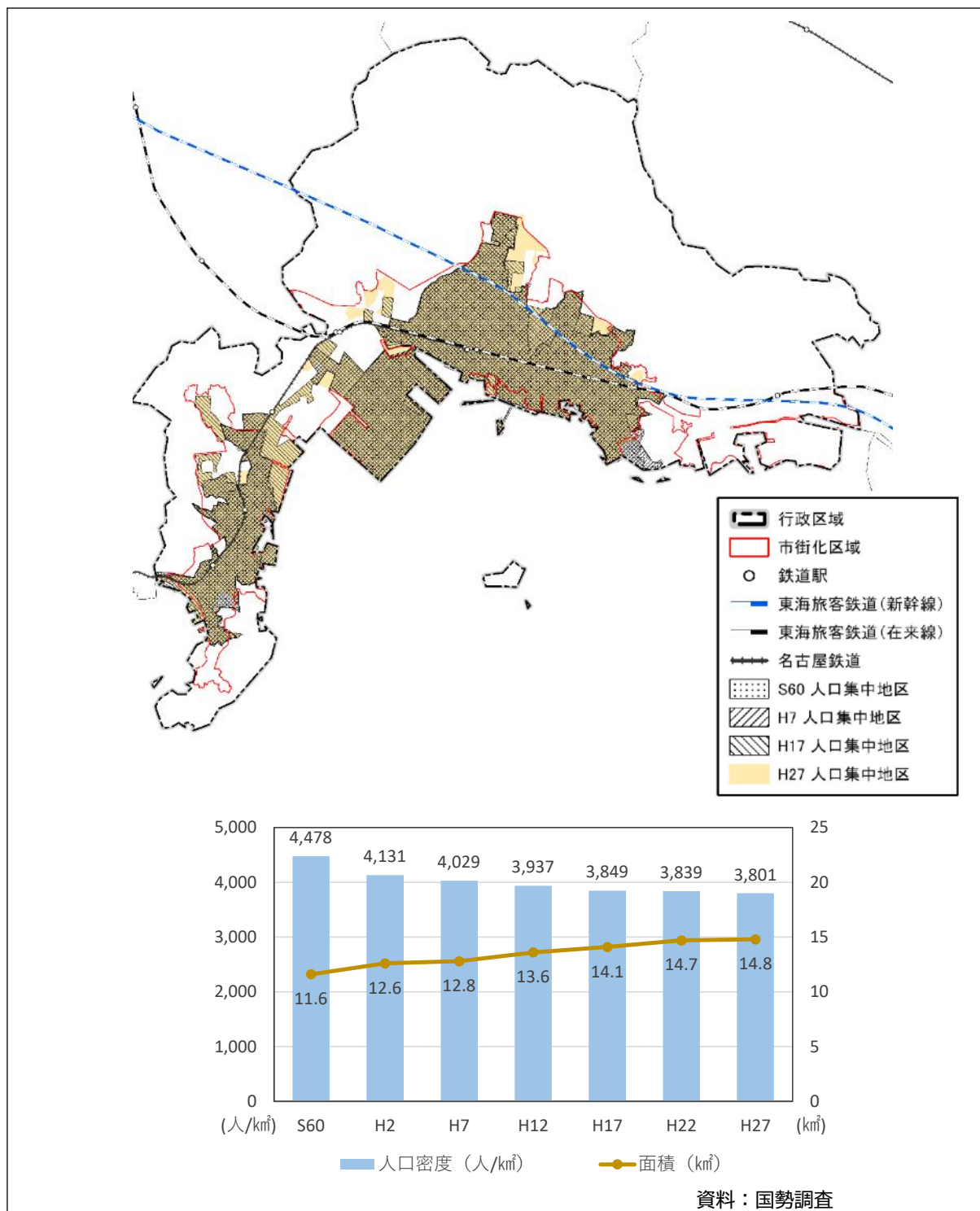
○増加率((平成27年÷平成17年)-1)



⑧ 人口集中地区の変遷

本市では、人口集中地区の面積は拡大している一方で、人口密度は減少傾向です。

■人口集中地区の変遷

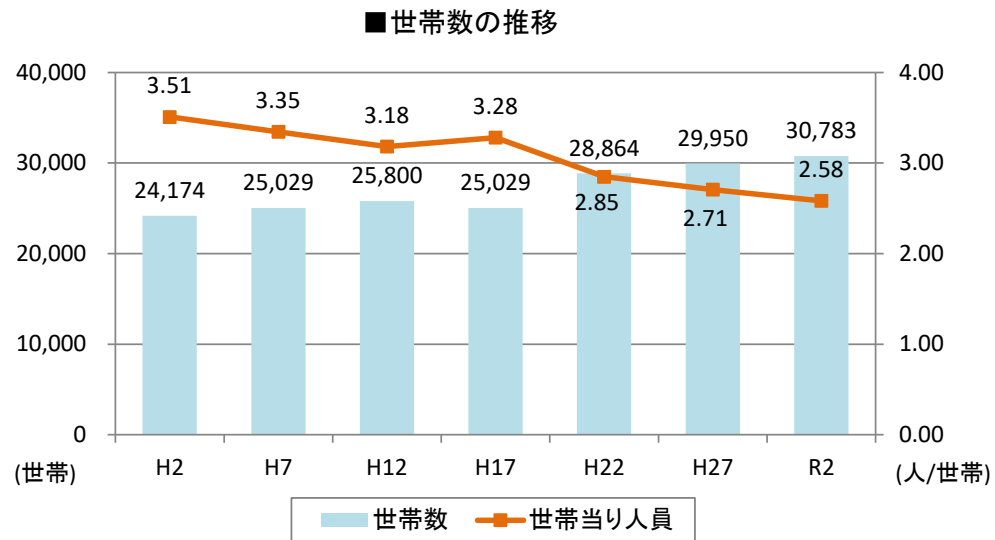


※人口集中地区：

国勢調査において、原則として人口密度が 4,000 (人/km²) 以上の基本単位区などが市町村の境界内で隣接し、それらの人口が 5,000 人以上を有する地域。

(3) 世帯数の推移

世帯数は、人口が減少している一方で増加しており、1世帯当たり人員が減少しています。



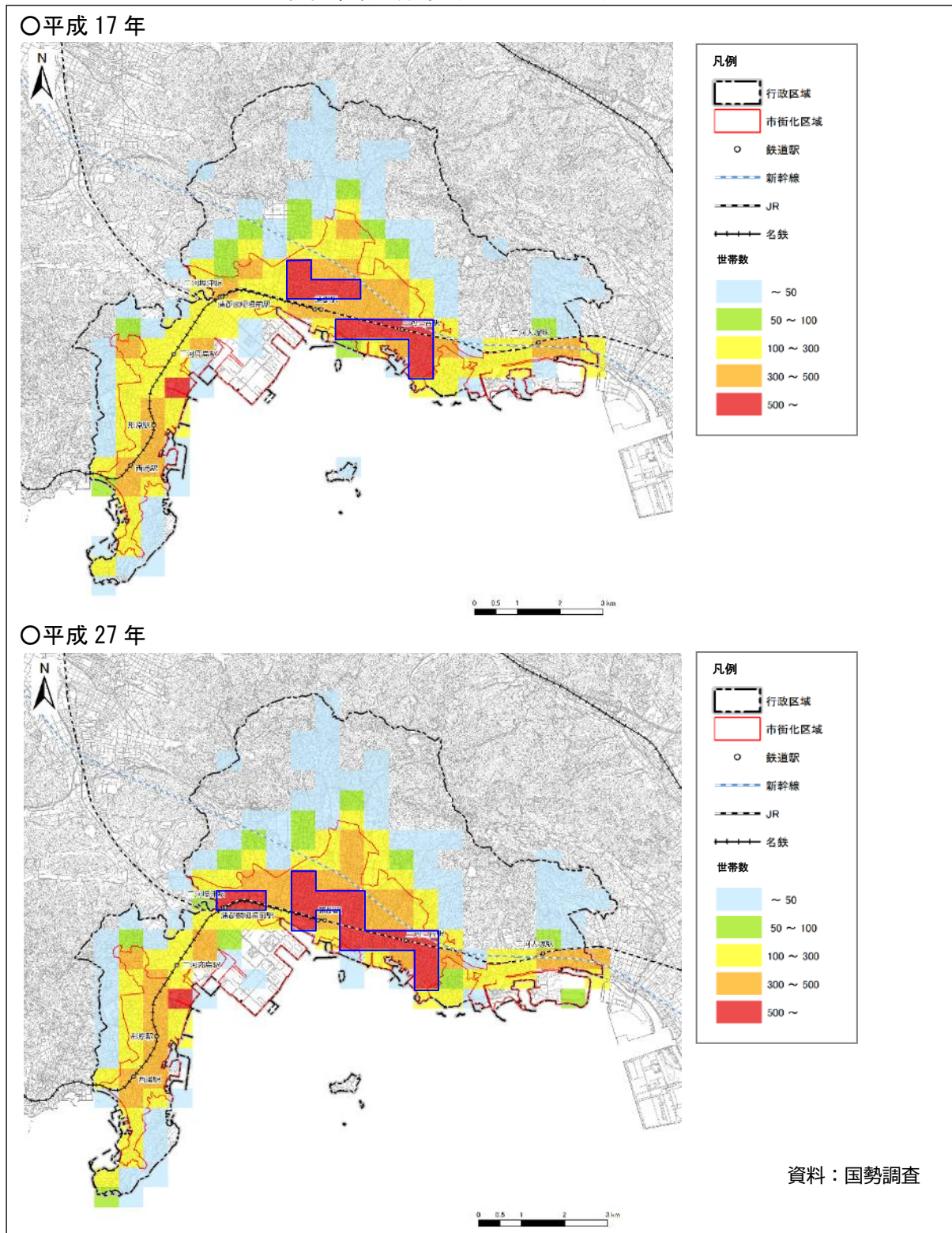
資料：国勢調査

(4) 世帯数の分布

① 総世帯数（500m メッシュ）

平成 17 年と平成 27 年の世帯の分布を見ると、三河塩津・蒲郡競艇場前駅から三河三谷駅周辺などの市街化区域に世帯が集積しています。

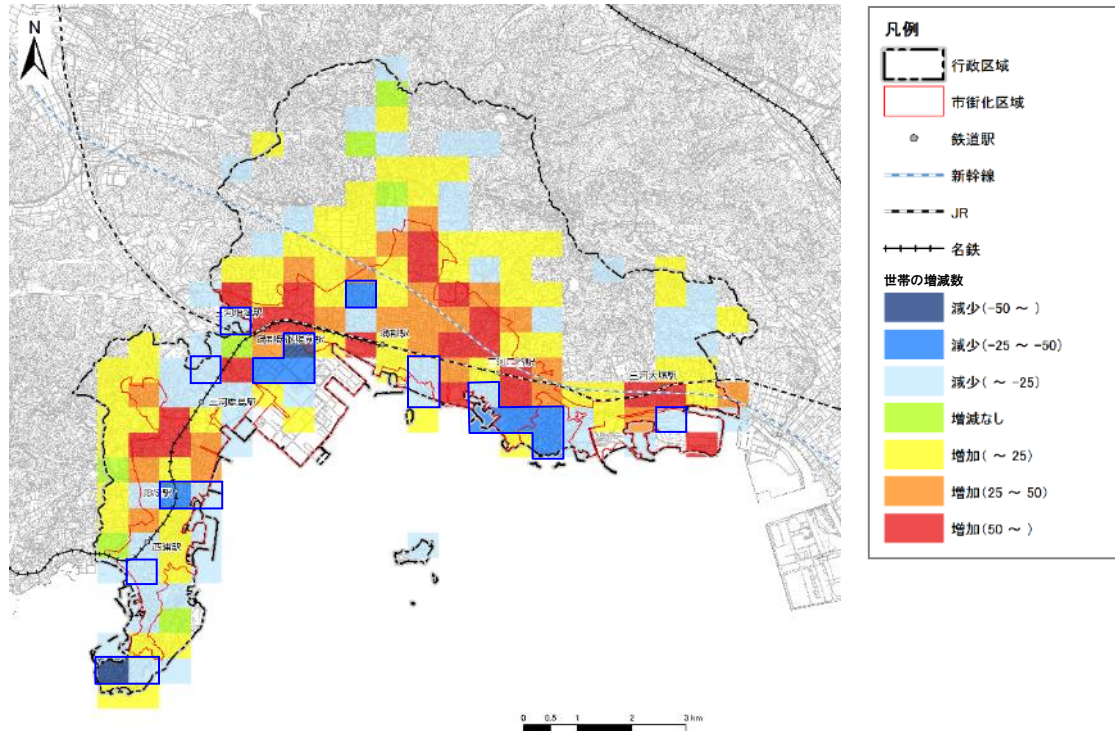
■総世帯数の分布（500m メッシュ）



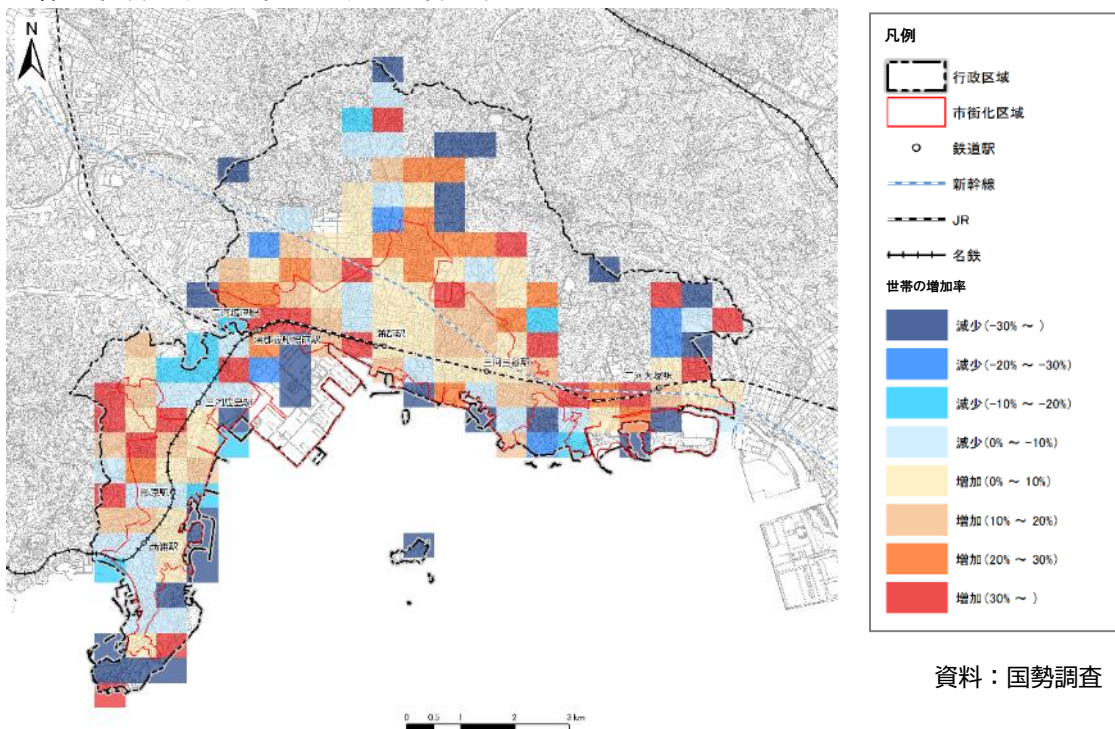
世帯数の増減を見ると、全市的に増加している地域が多いですが、三河鹿島駅以南の駅周辺や、市街化調整区域で減少している地域が見られます。

■総世帯数の分布（500m メッシュ）

○増減数(平成27年-平成17年)



○増加率((平成27年÷平成17年)-1)

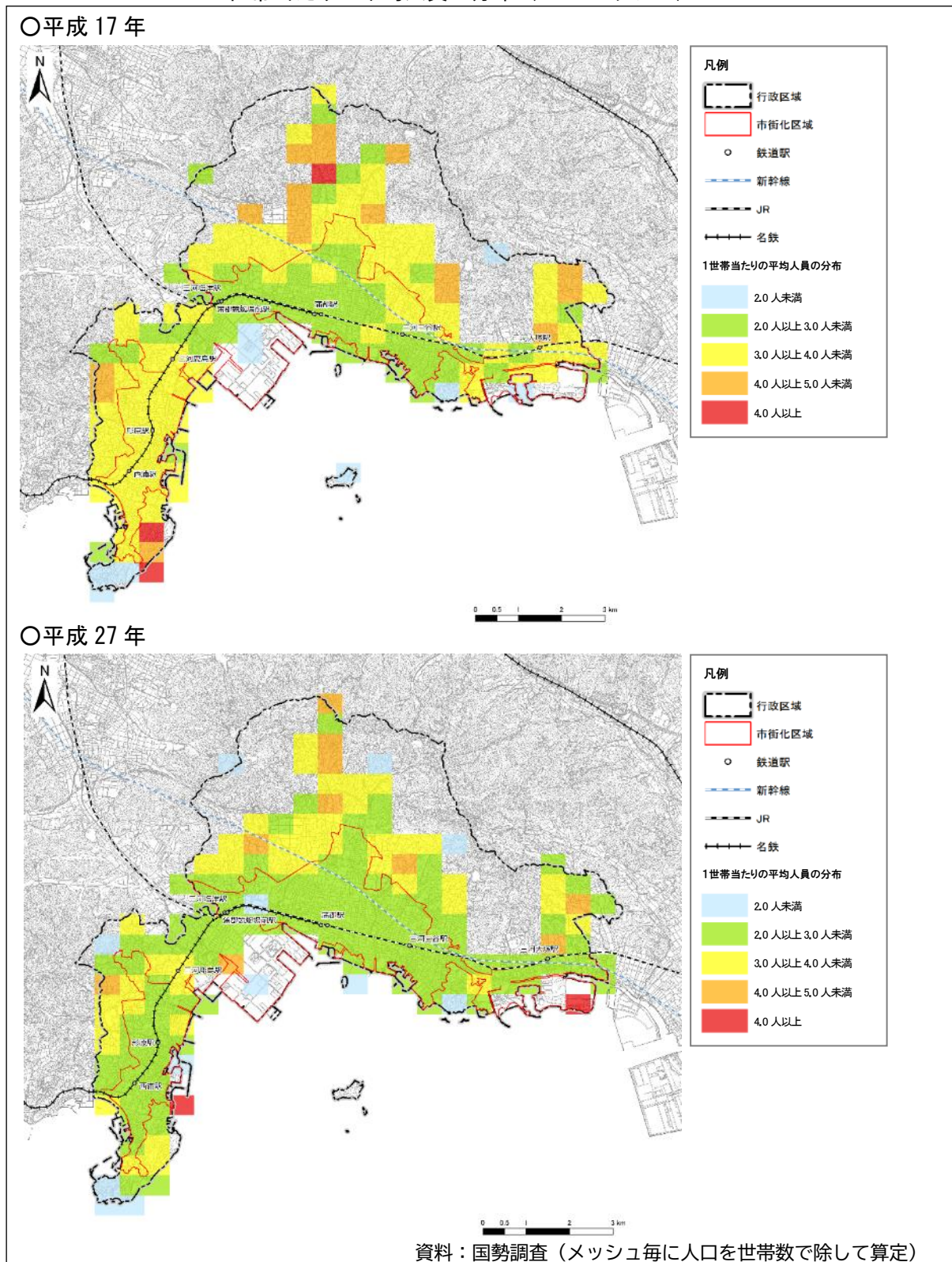


資料：国勢調査

② 1世帯当たりの平均人員の分布（500m メッシュ）

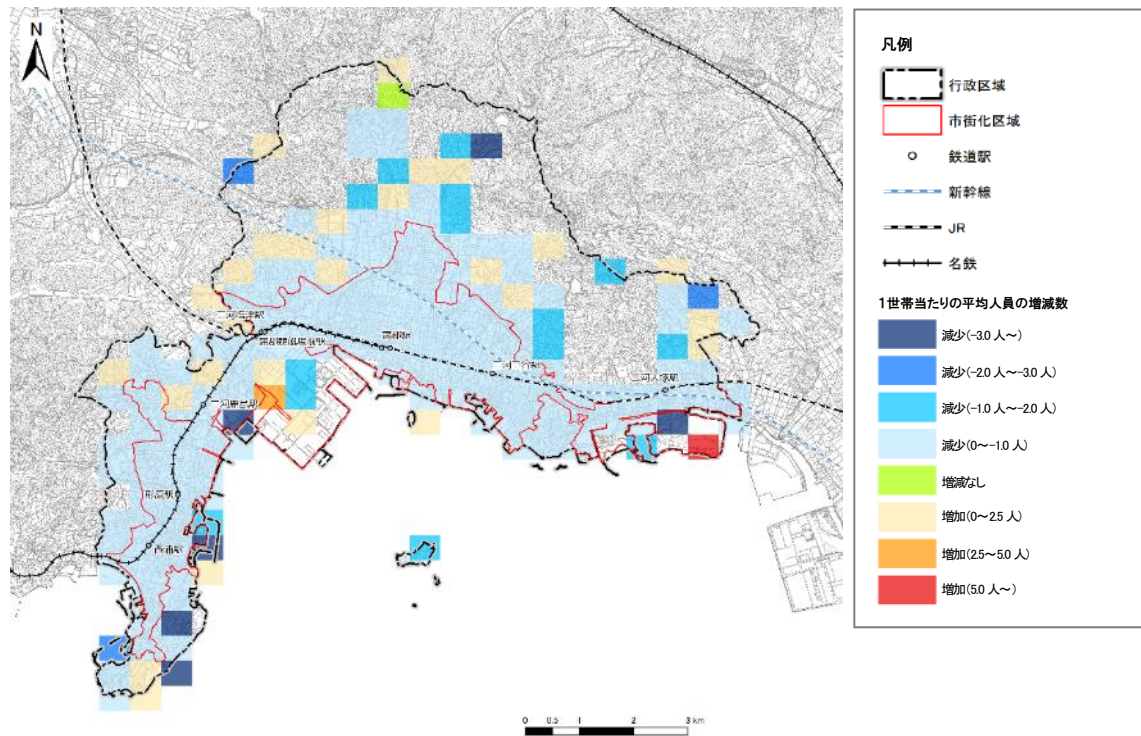
平成 17 年と平成 27 年の 1 世帯当たりの平均人員分布を見ると、市街化区域内で少ない傾向があります。増減を見ると、概ね全市的に減少しています。

■1 世帯当たりの平均人員の分布（500m メッシュ）

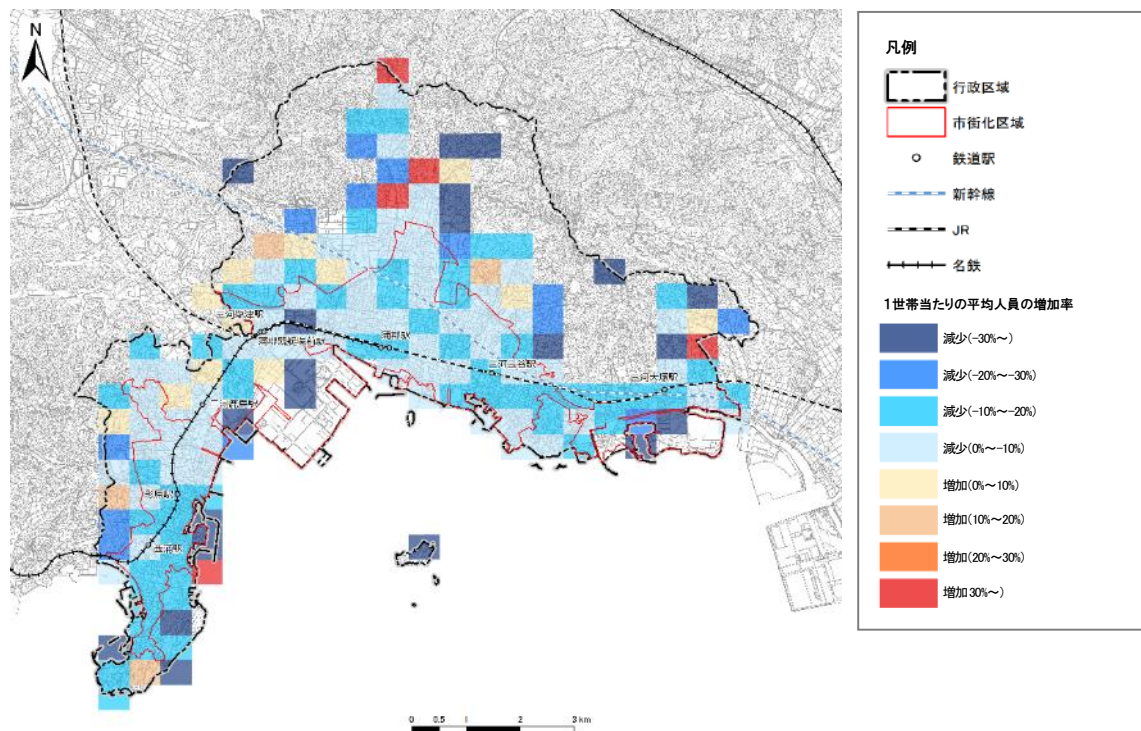


■1世帯当たりの平均人員の分布（500mメッシュ）

○増減数(平成27年-平成17年)



○増加率((平成27年÷平成17年)-1)



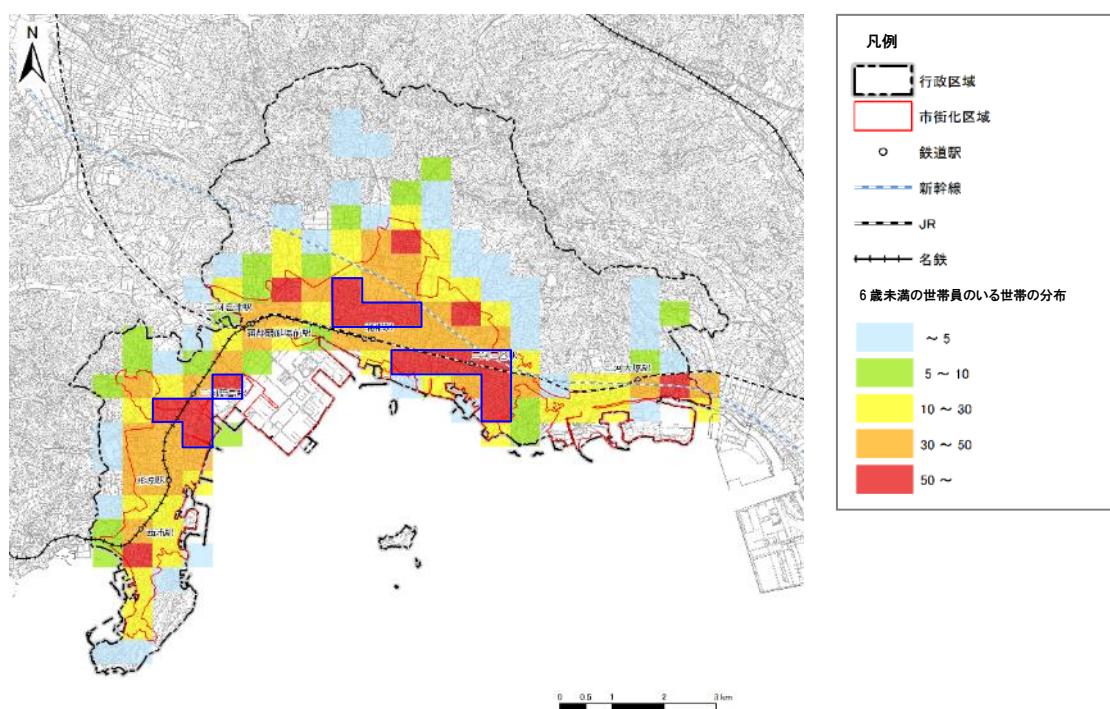
資料：国勢調査（メッシュ毎に人口を世帯数で除して算定）

③ 6歳未満の世帯員のいる世帯の分布（500mメッシュ）

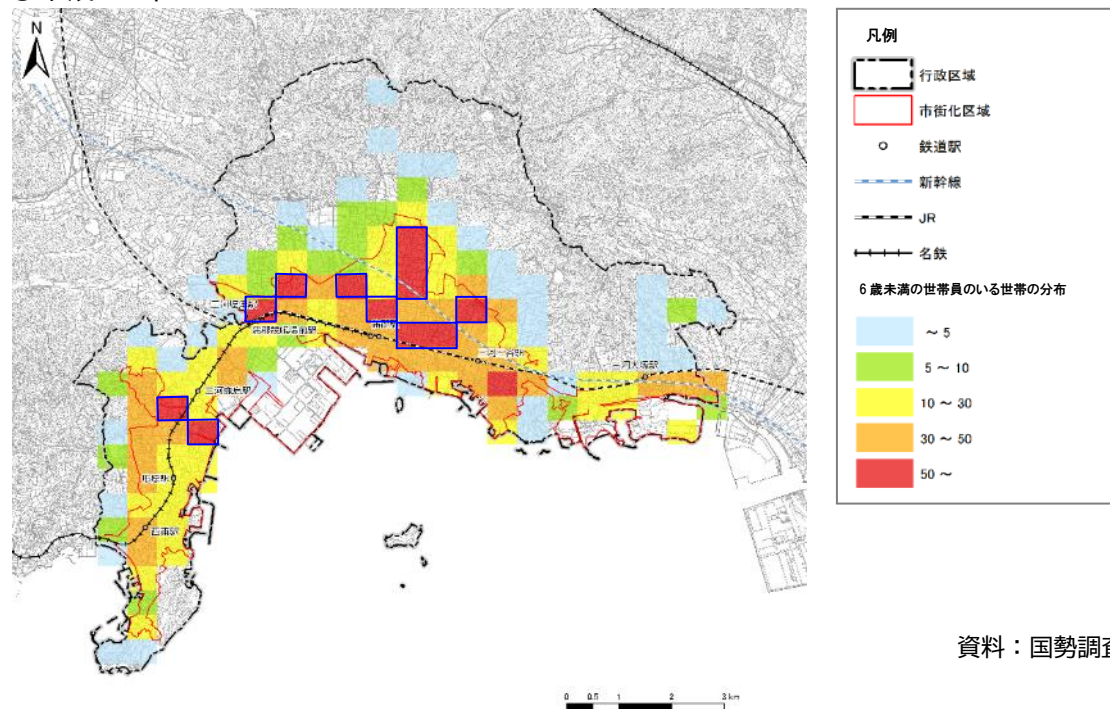
平成17年と平成27年の6歳未満の世帯員のいる世帯の分布を見ると、三河塩津駅・蒲郡競艇前駅から三河三谷駅周辺や三河鹿島駅から形原駅周辺で多い傾向があります。

■6歳未満の世帯員のいる世帯の分布（500mメッシュ）

○平成17年



○平成27年

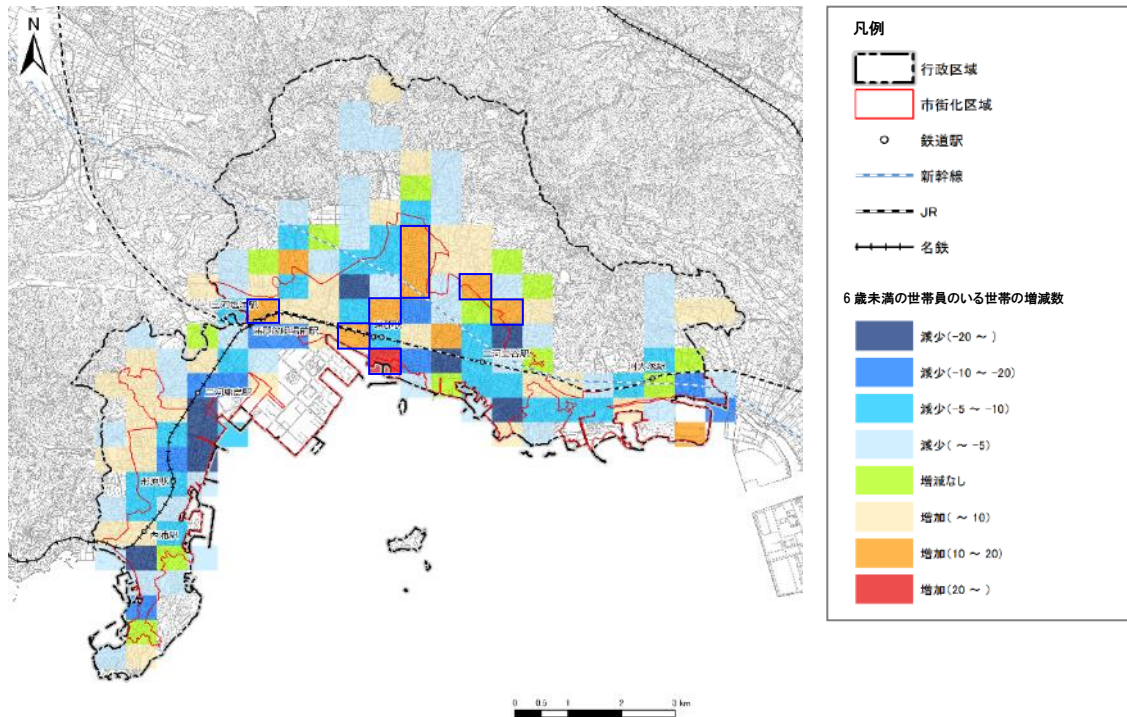


資料：国勢調査

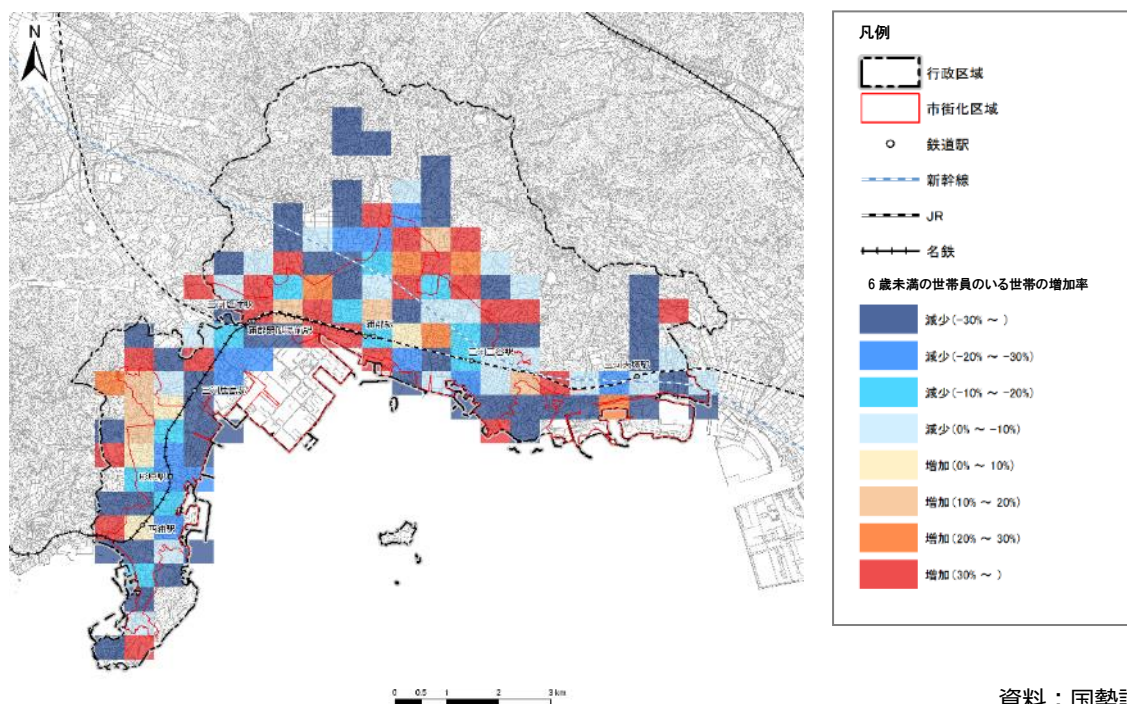
世帯数の増減を見ると、三河塩津駅・蒲郡競艇前駅や蒲郡駅周辺、施行中の蒲郡中部土地区画整理事業施行区域などで増加しています。

■6歳未満の世帯員のいる世帯の分布（500mメッシュ）

○増減数（平成27年-平成17年）



○増加率((平成27年÷平成17年)-1)

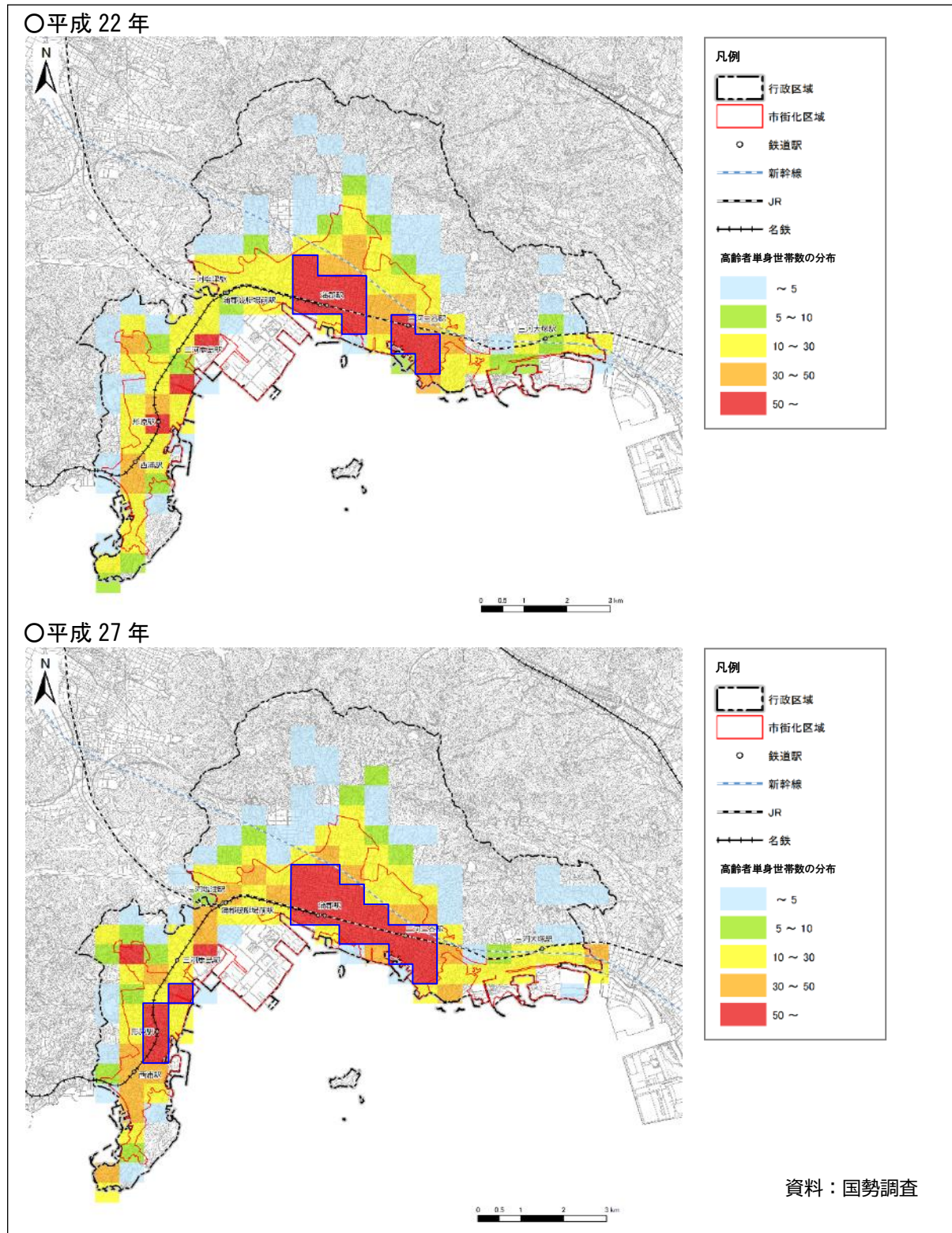


資料：国勢調査

④ 高齢者単身世帯数の分布（500m メッシュ）

平成 22 年と平成 27 年の高齢者単身世帯数の分布を見ると、蒲郡駅から三河三谷駅周辺や形原駅周辺で多い傾向があります。

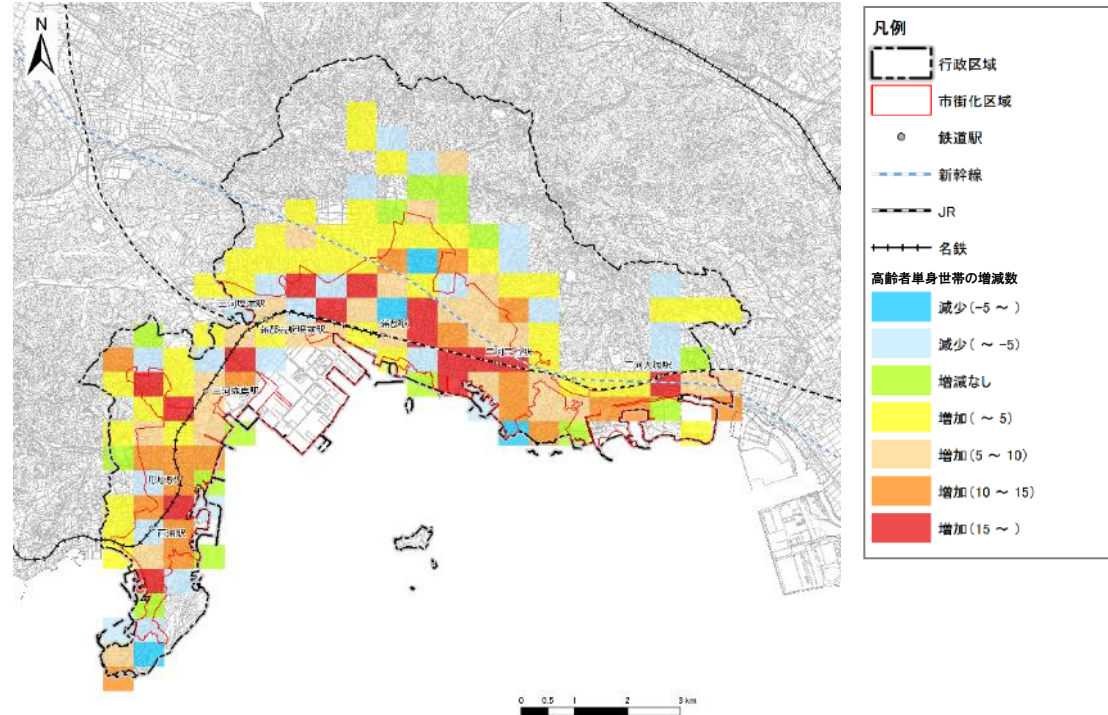
■ 高齢者単身世帯数の分布（500m メッシュ）



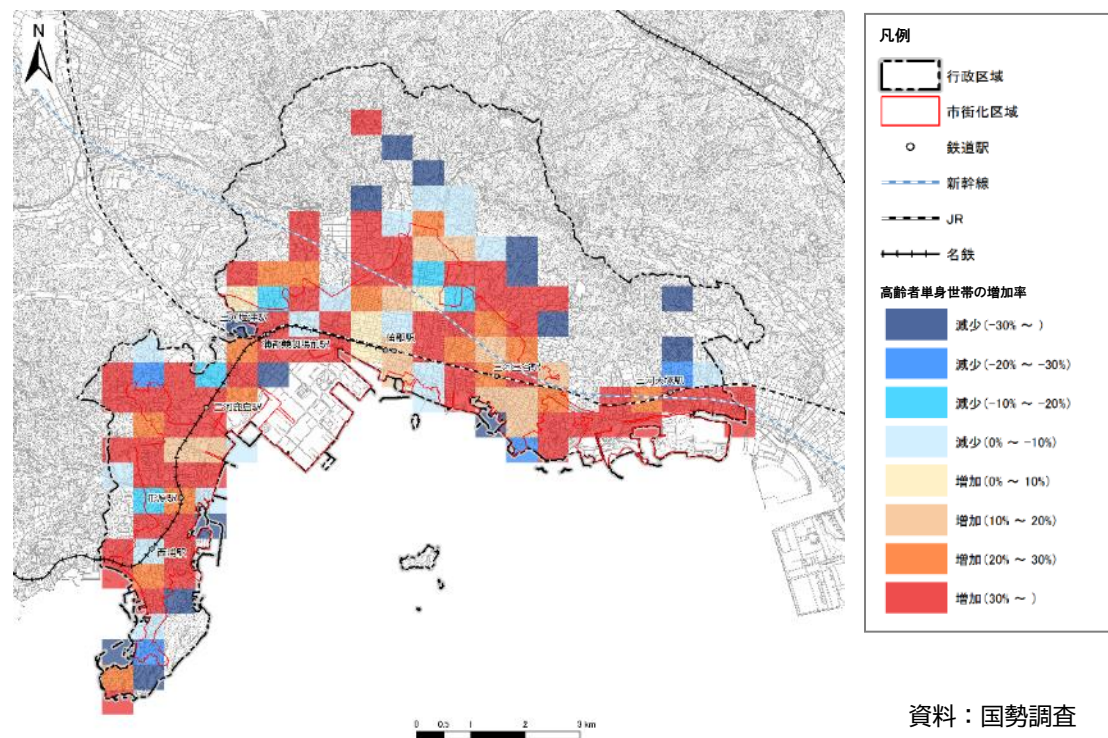
世帯数の増減を見ると、概ね全市的に増加しています。

■高齢者単身世帯数の分布（500m メッシュ）

○増減数（平成 27 年-平成 22 年）



○増加率((平成 27 年÷平成 22 年)-1)

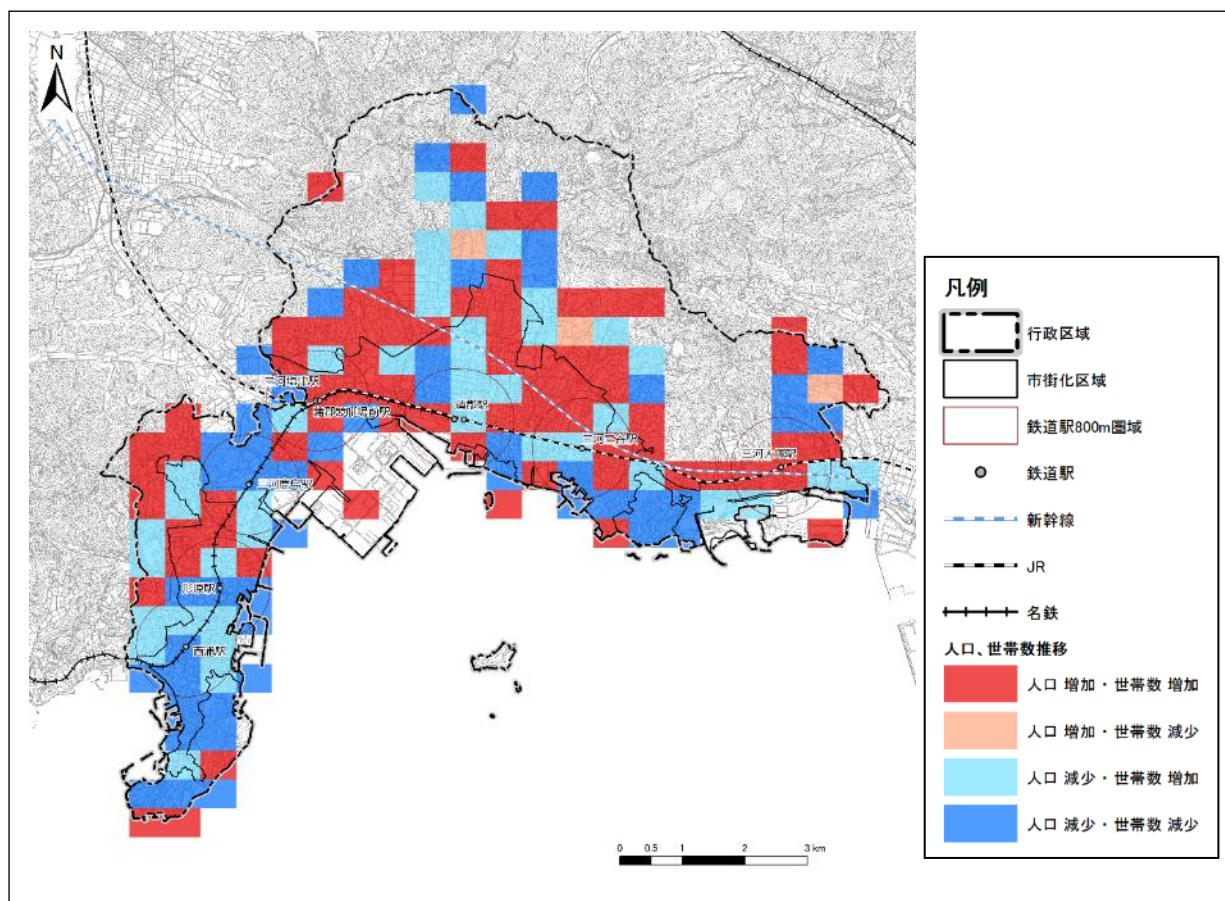


資料：国勢調査

(5) 人口及び世帯数の動向

平成17年から平成27年までの人口及び世帯数の推移を見ると、三河塩津・蒲郡競艇場前駅周辺、蒲郡中部や双太山土地区画整理事業施行区域などにおいて人口・世帯数ともに増加していますが、蒲郡駅や三河三谷駅周辺などでは、人口は減少、世帯数は増加しています。さらに、三河鹿島駅以南の駅周辺や市街化区域の一部などで人口・世帯数ともに減少している地域もあります。

■平成17年から平成27年までの人口及び世帯数の推移（500mメッシュ）



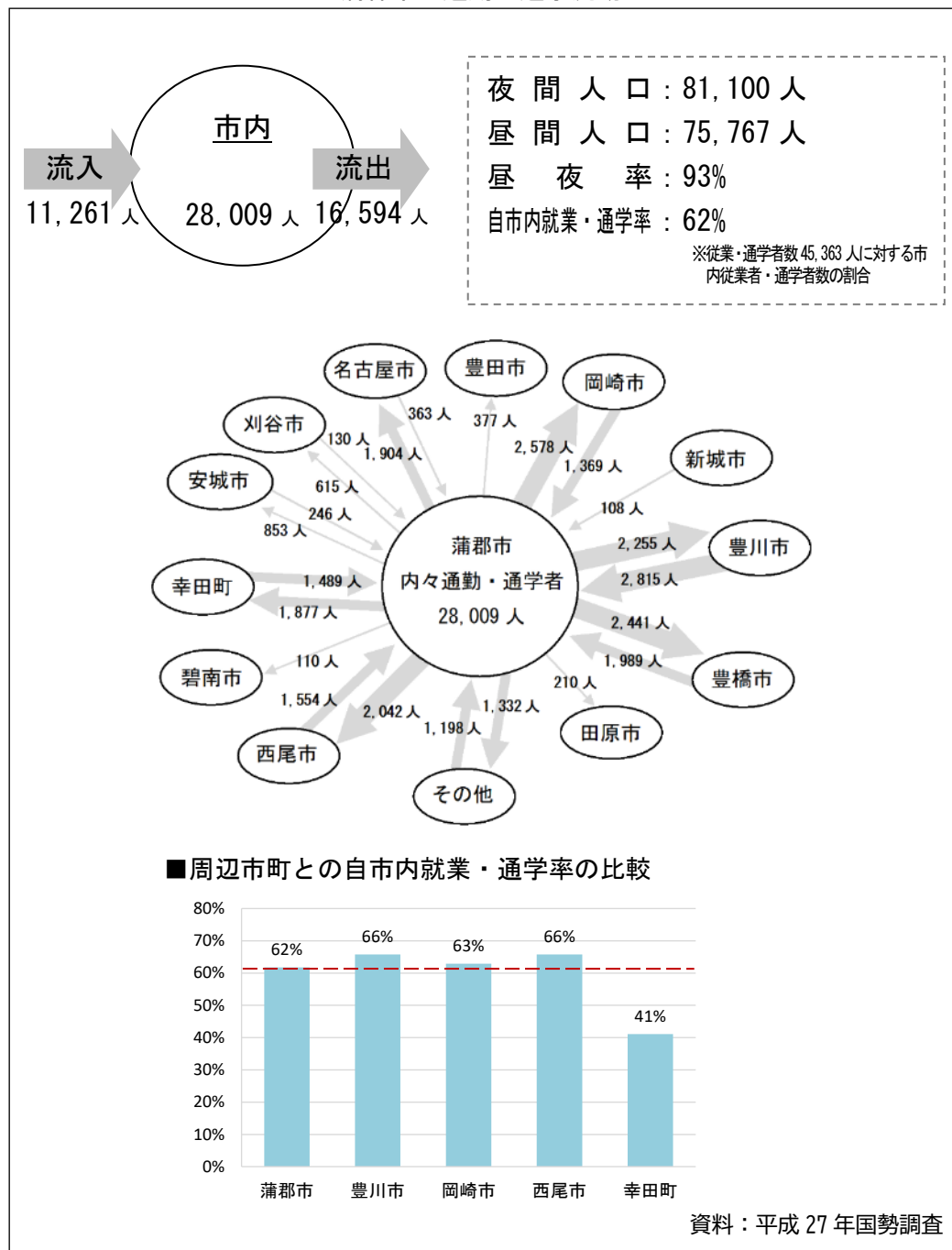
2-3 経済活動等

(1) 都市間流動（通勤・通学流動）

市内での通勤・通学者数は、本市の就業・通学者数の62%となっています。昼夜率は93%であり、流出超過となっています。都市別の流動を見ると、豊川市や豊橋市、岡崎市などの近隣自治体間の移動が多い状況です。

自市内就業・通学率は、周辺市と同程度となっています。

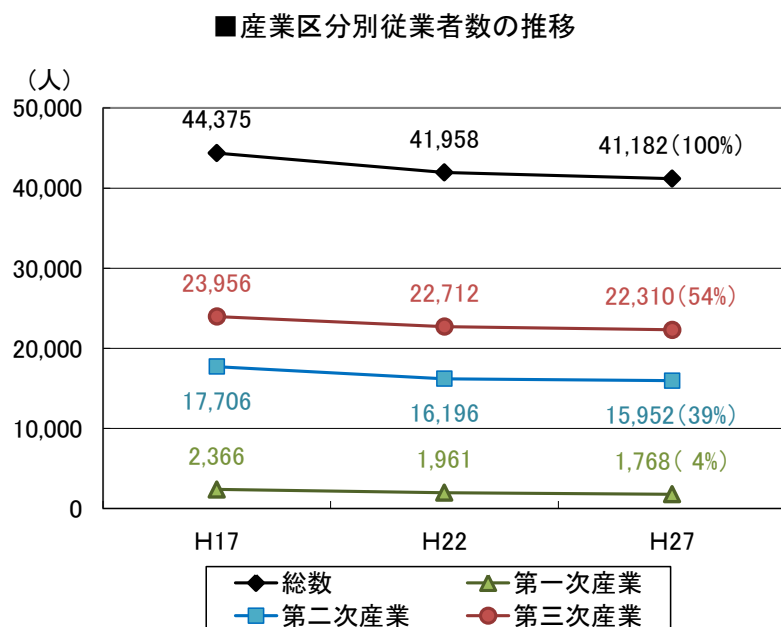
■蒲郡市の通勤・通学流動



(2) 産業別就業者数

平成27年の産業別の従業者人口の割合を見ると、第3次産業人口が全体の54%、第2次産業人口が39%、第1次産業が4%を占めています。

推移を見ると、各産業で従業者数が減少傾向です。



※第一次産業：農業、林業、漁業

第二次産業：鉱業、採石業、砂利採取業、建設業、製造業

第三次産業：電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、金融業、保険業、不動産業、物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業、教育、学習支援業、医療、福祉、複合サービス事業、その他サービス業、公務

資料：国勢調査

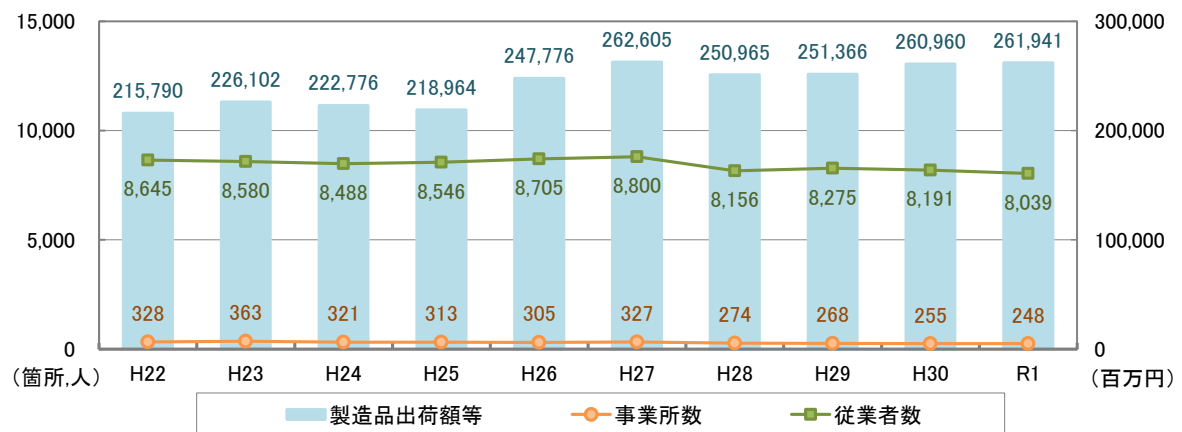
(3) 工業

事業所数は減少傾向にあり、令和元年は、約10年前の平成22年の76%にあたる248箇所です。

従業者数は、平成24～27年まで減少から増加に転じていましたが、平成28年以降は減少傾向にあります。

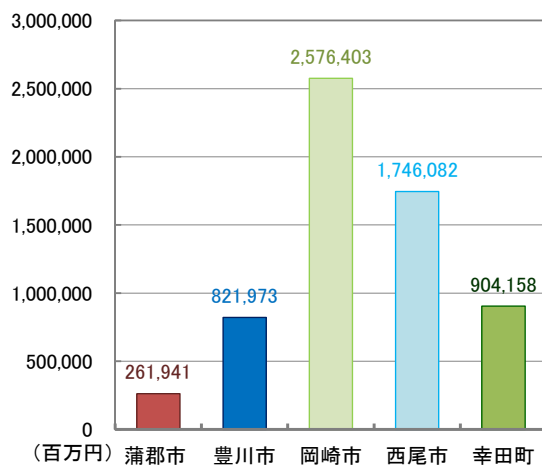
製造品出荷額等は増加傾向にあり、令和元年は、約10年前の平成22年の1.2倍にあたる261,941百万円です。

■工業の動向

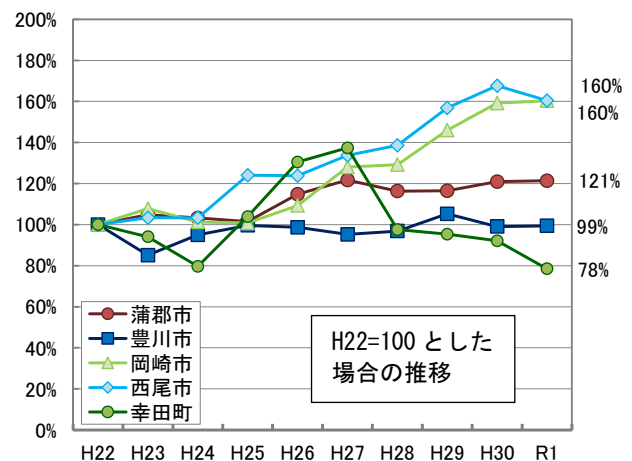


資料：工業統計

■製造品出荷額等の都市間の比較 (R1)



■製造品出荷額等の伸び率の都市間の比較



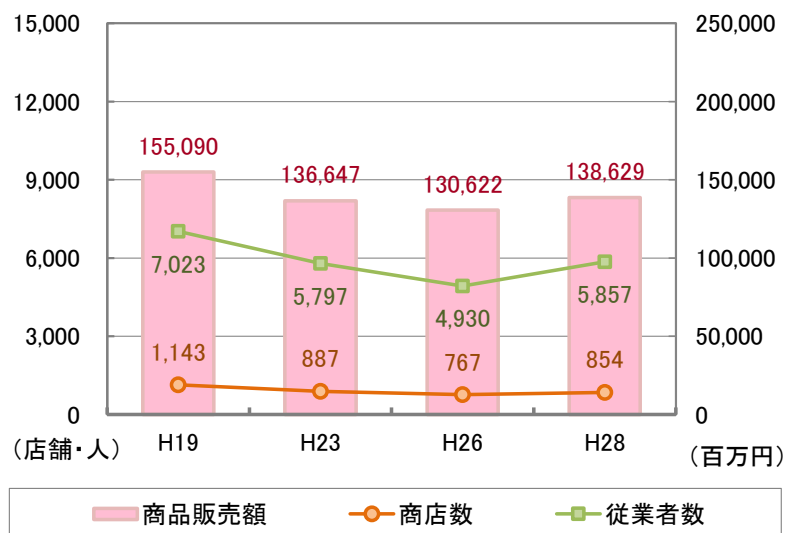
資料：工業統計

(4) 商・サービス業

商品販売額、商店数、従業者数ともに中期的には減少していますが、平成28年は平成26年より増加しています。

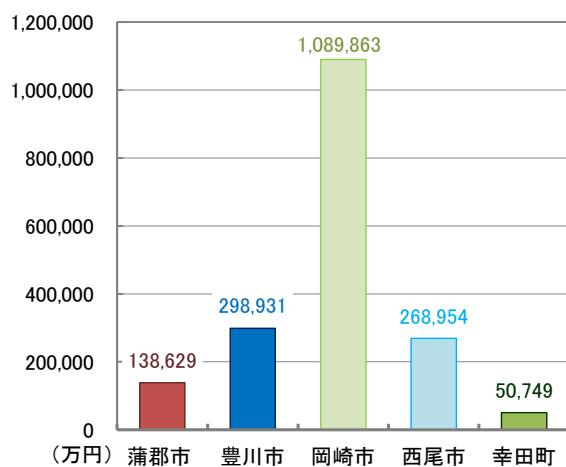
商品販売額の推移を周辺市と比較すると、減少率が大きい状況です。

■商・サービス業の動向

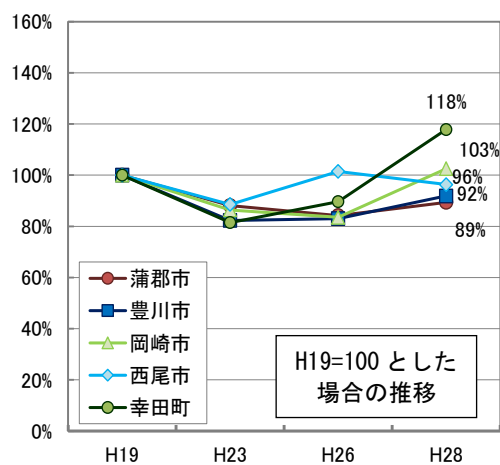


資料：(H19、H26)商業統計調査、(H23、H28)経済センサス活動調査

■商品販売額の都市間の比較 (H28)



■商品販売額の伸び率の都市間の比較

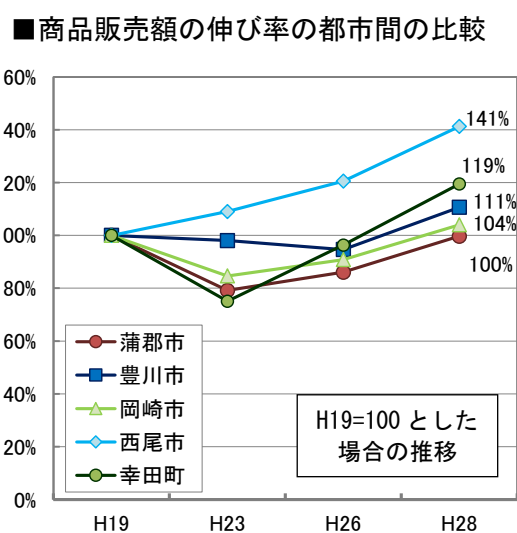
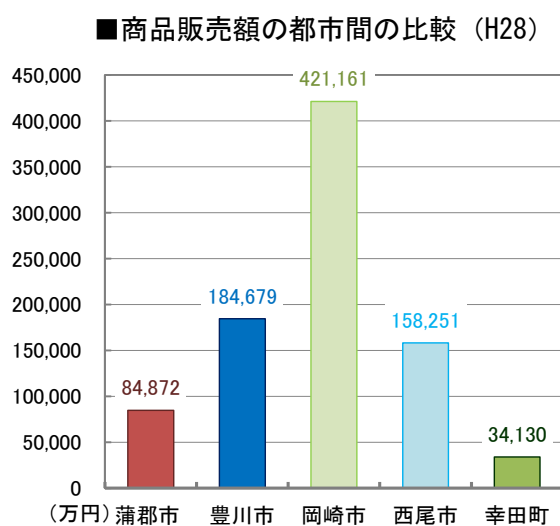
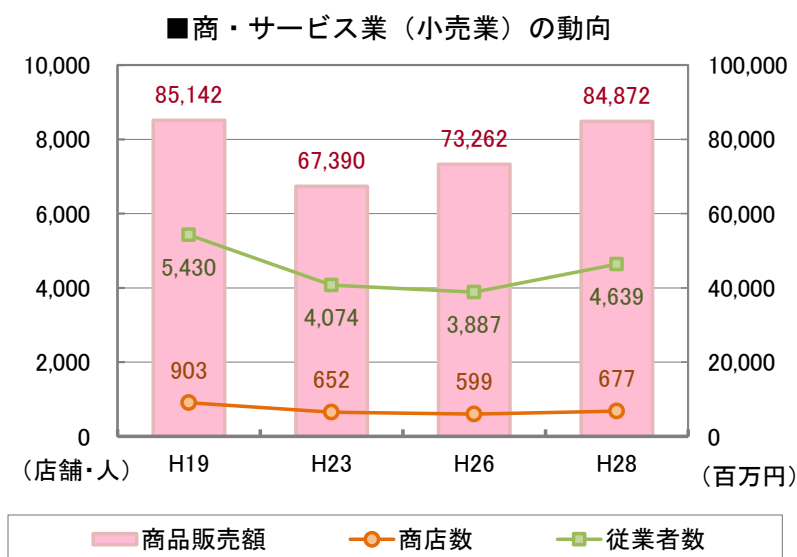


資料：(H19、H26)商業統計調査、(H23、H28)経済センサス活動調査

(5) 商・サービス業（小売業）

小売業の商品販売額は平成28年には、リーマンショック前の平成19年の水準まで回復しています。商店数、従業者数は中期的には減少していますが、平成28年は平成26年より増加しています。

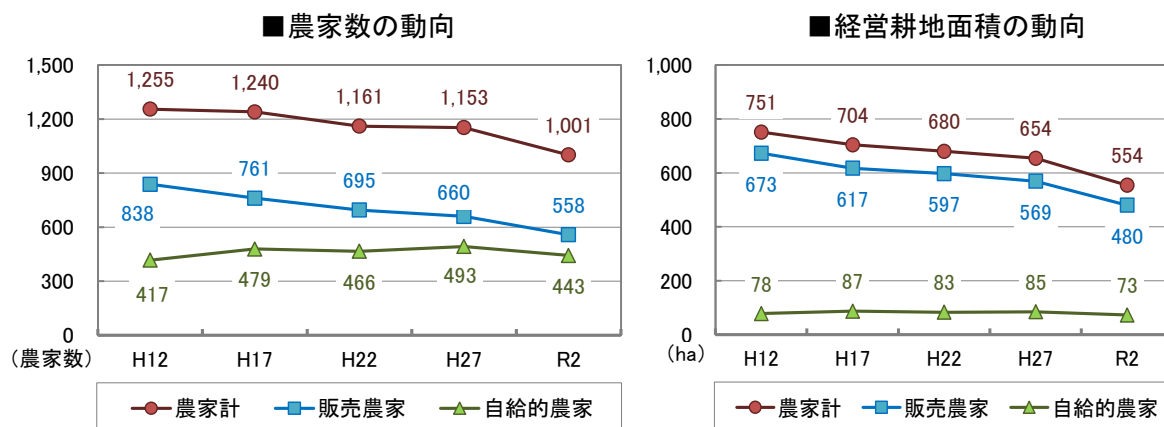
平成28年の商品販売額は、周辺市では平成19年と比較し増加している中で、本市は横ばいとなっています。



(6) 農業

販売農家数は減少傾向であり、自給的農家数は平成27年まで増加傾向でしたが、その後減少に転じています。

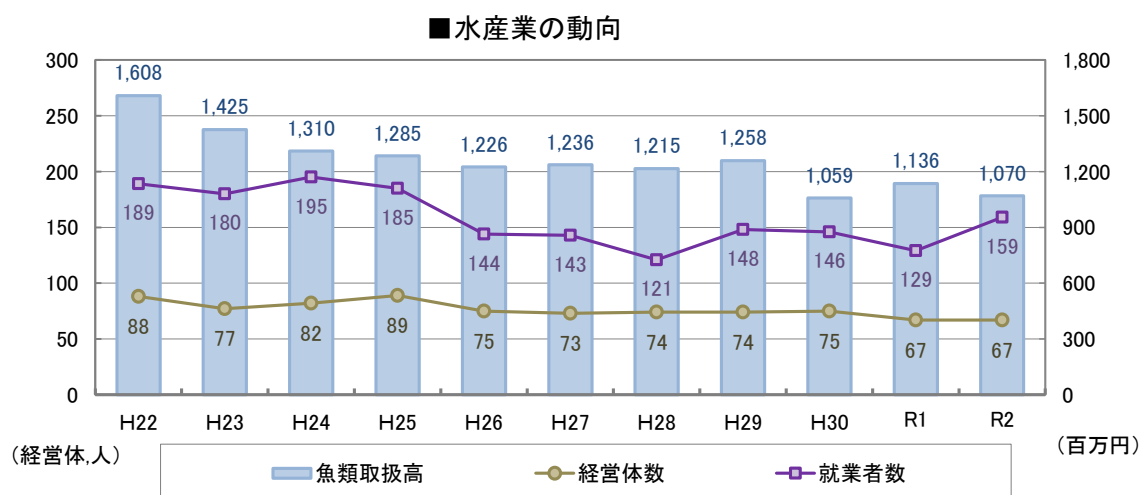
販売農家の経営耕地面積は減少傾向ですが、自給的農家は概ね横ばいです。



(7) 水産業

経営体数は平成26年以降で概ね横ばいでしたが、令和元年には減少しています。就業者数は、平成28年まで減少していましたが、その後増加傾向です。

魚類取扱高は、横ばいで推移する期間もありますが、平成22年以降減少傾向です。

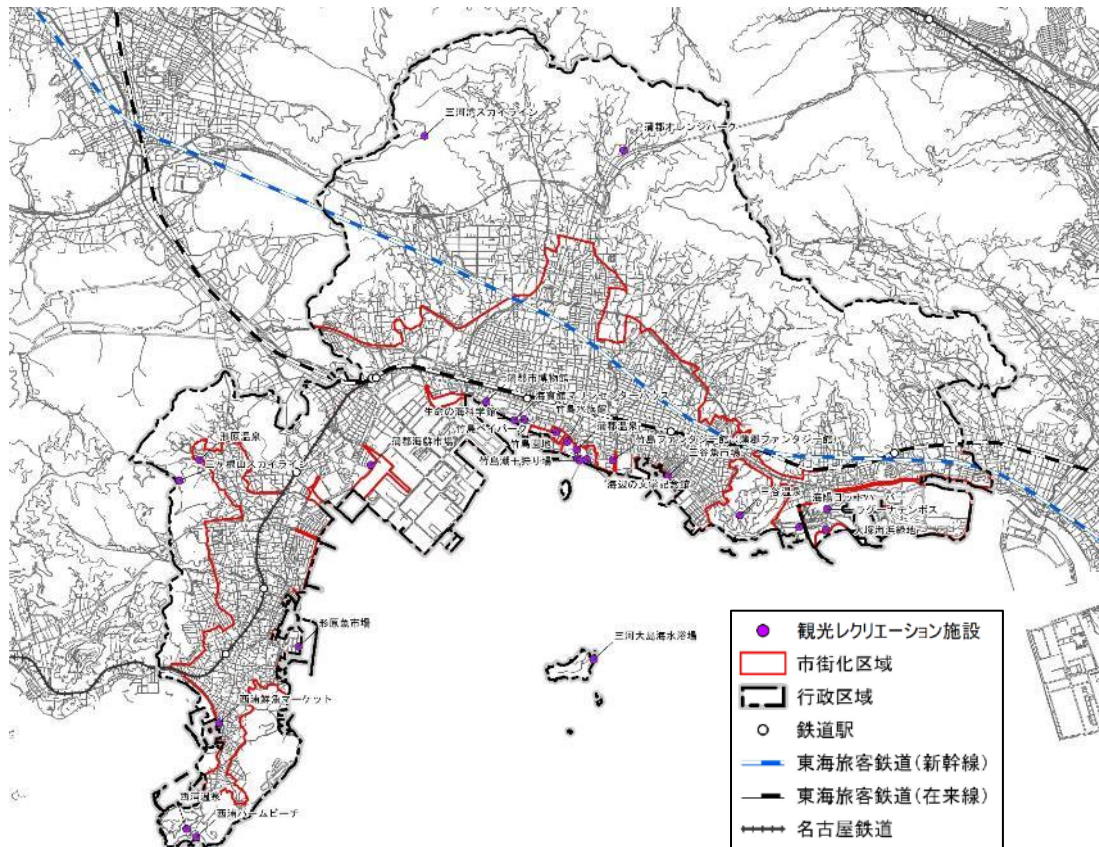


(8) 観光業

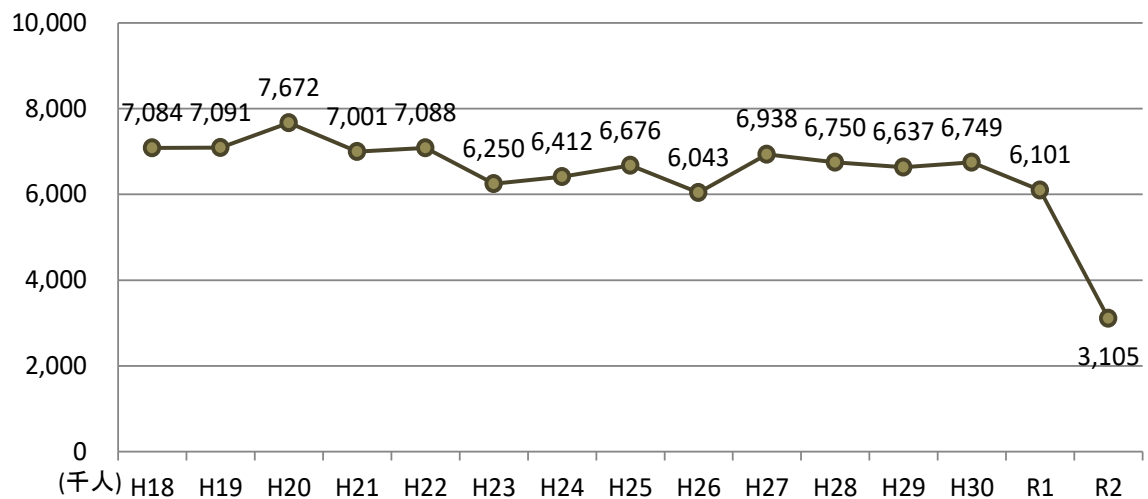
本市には、自然、歴史・文化、温泉・健康、スポーツ・レクリエーションの各分野における県内有数の観光施設が多数立地しています。

観光入込客数は、令和元年までは概ね横ばいで推移していましたが、令和 2 年は大きく減少しています。

■主な観光施設位置図



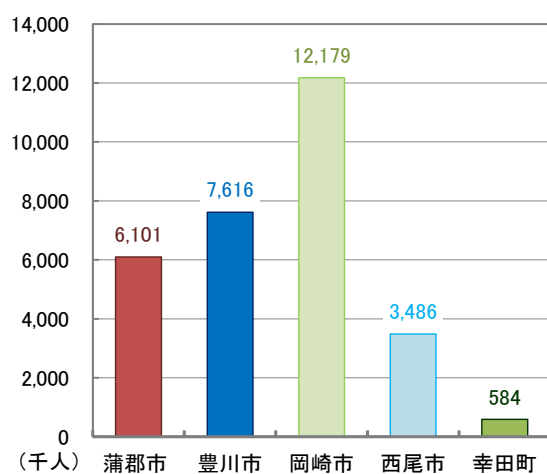
■観光入込客数の動向



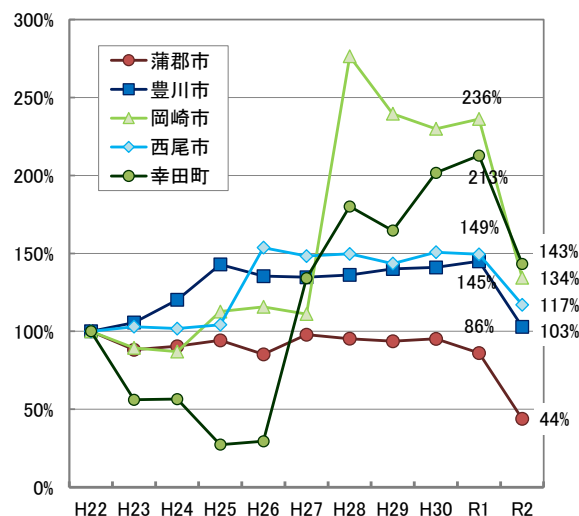
資料：愛知県観光レクリエーション利用者統計

第2章 現況分析

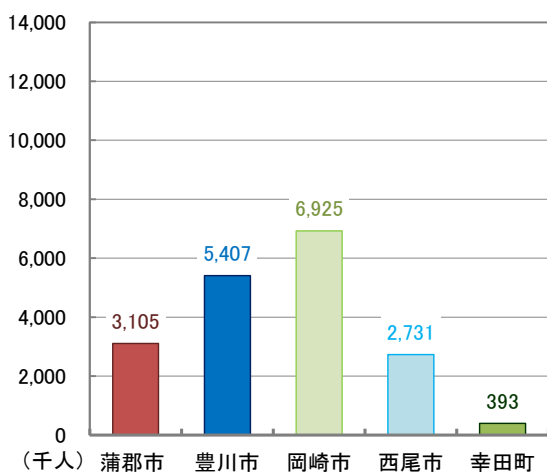
■観光入込客数の都市間の比較（R1）



■観光入込客数の伸び率 (H22=100)



■観光入込客数の都市間の比較（R2）



資料：愛知県観光レクリエーション利用者統計

■観光入込客数と県内順位

区分	施設名	R1 入込客数 (区分別県内順位)	R2 入込客数 (区分別県内順位)
自然	竹島園地	370,308 人 (3 位)	168,871 人 (5 位)
歴史・文化	蒲郡オレンジパーク	492,000 人 (23 位)	229,200 人 (25 位)
温泉・健康	三谷温泉	288,671 人 (3 位)	110,395 人 (5 位)
	西浦温泉	228,570 人 (6 位)	105,904 人 (6 位)
	蒲郡温泉	225,746 人 (7 位)	137,386 人 (4 位)
	形原温泉	55,582 人 (16 位)	14,105 人 (19 位)
スポーツ・レクリエーション	ラグーナテンボス	2,558,420 人 (1 位)	1,583,756 人 (1 位)

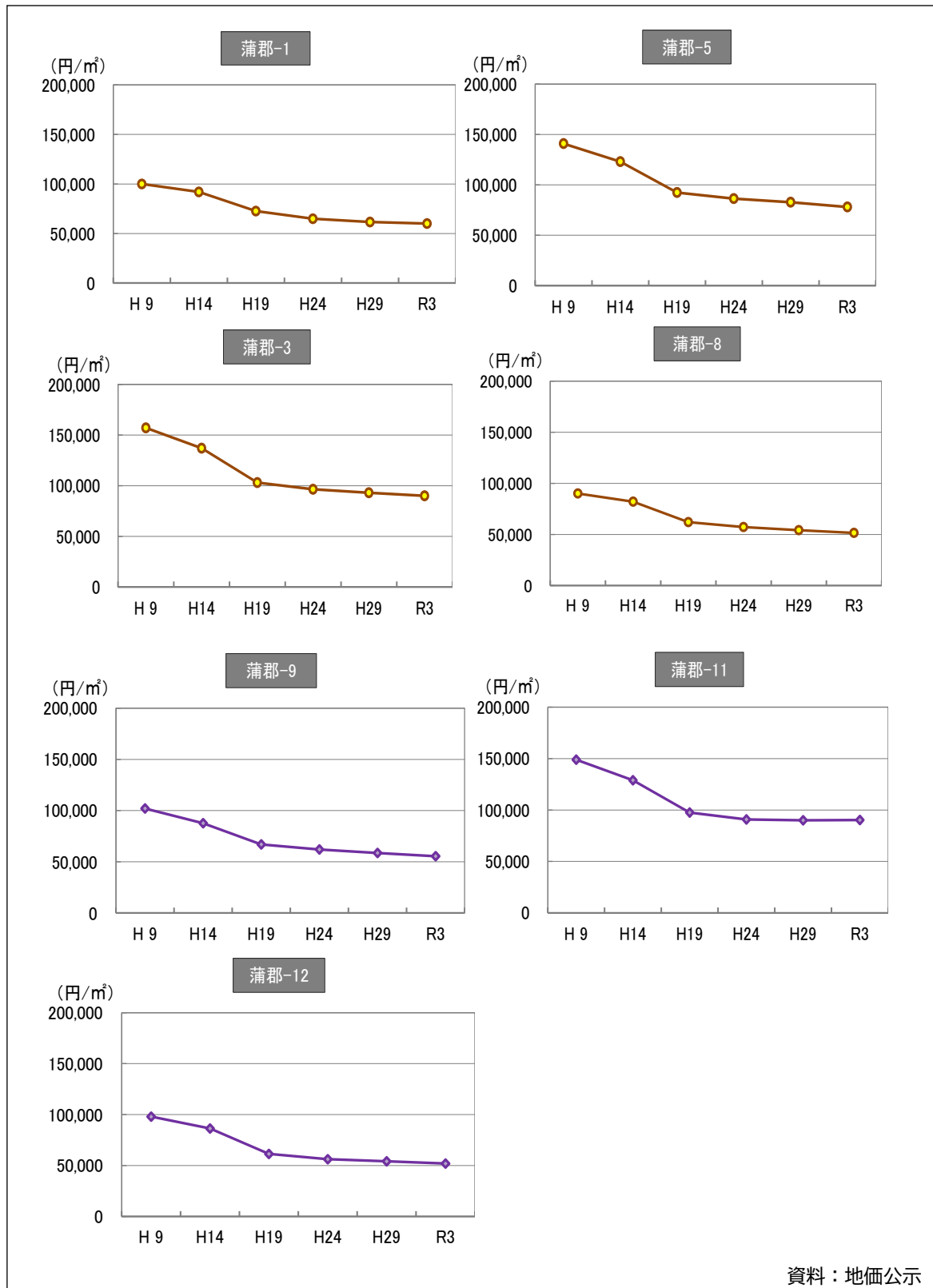
資料：愛知県観光レクリエーション利用者統計、蒲郡市資料

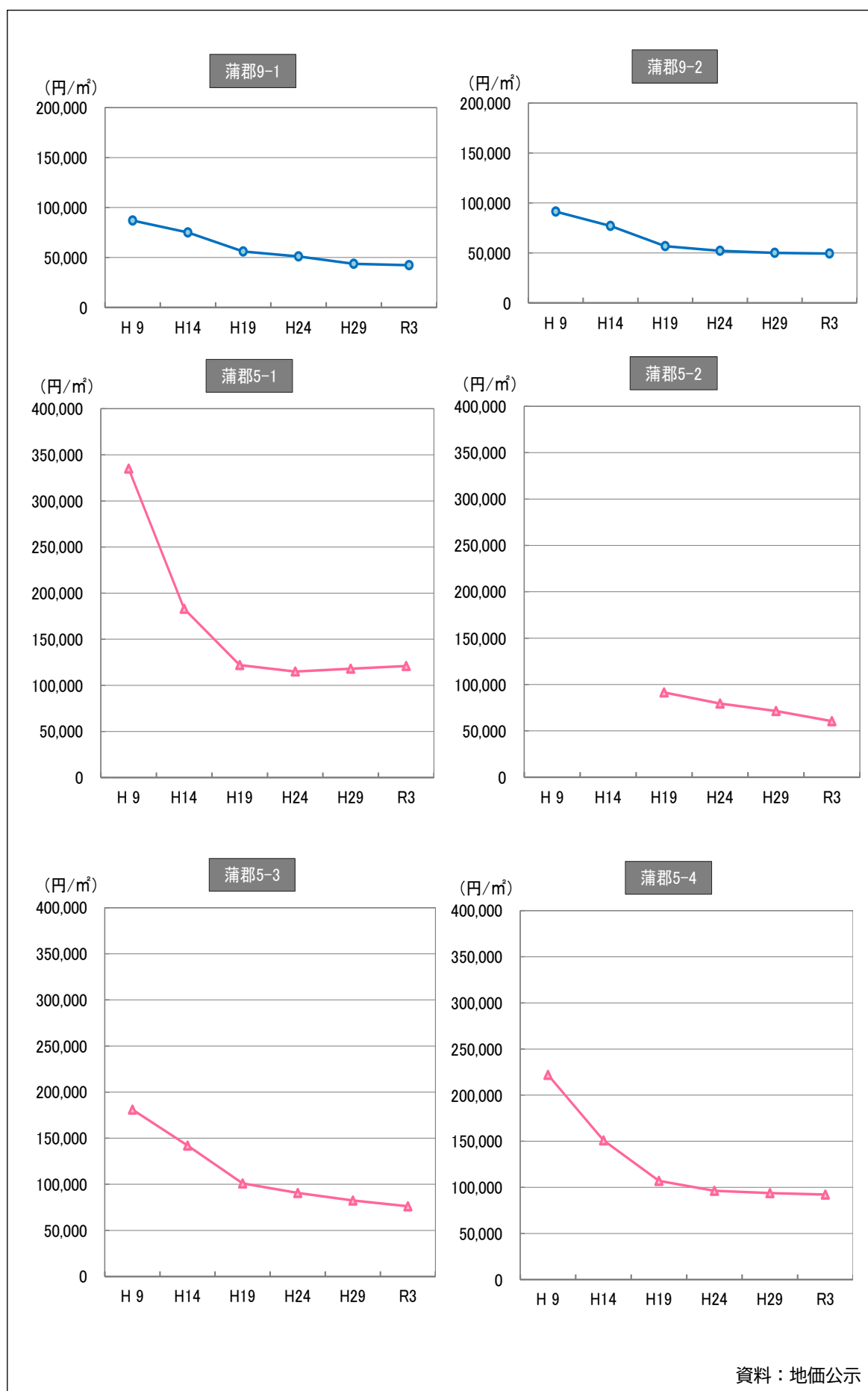
(9) 地価の推移

各地点とも、近年の10年間は減少幅が少なくなっていますが、長期にわたり減少傾向です。

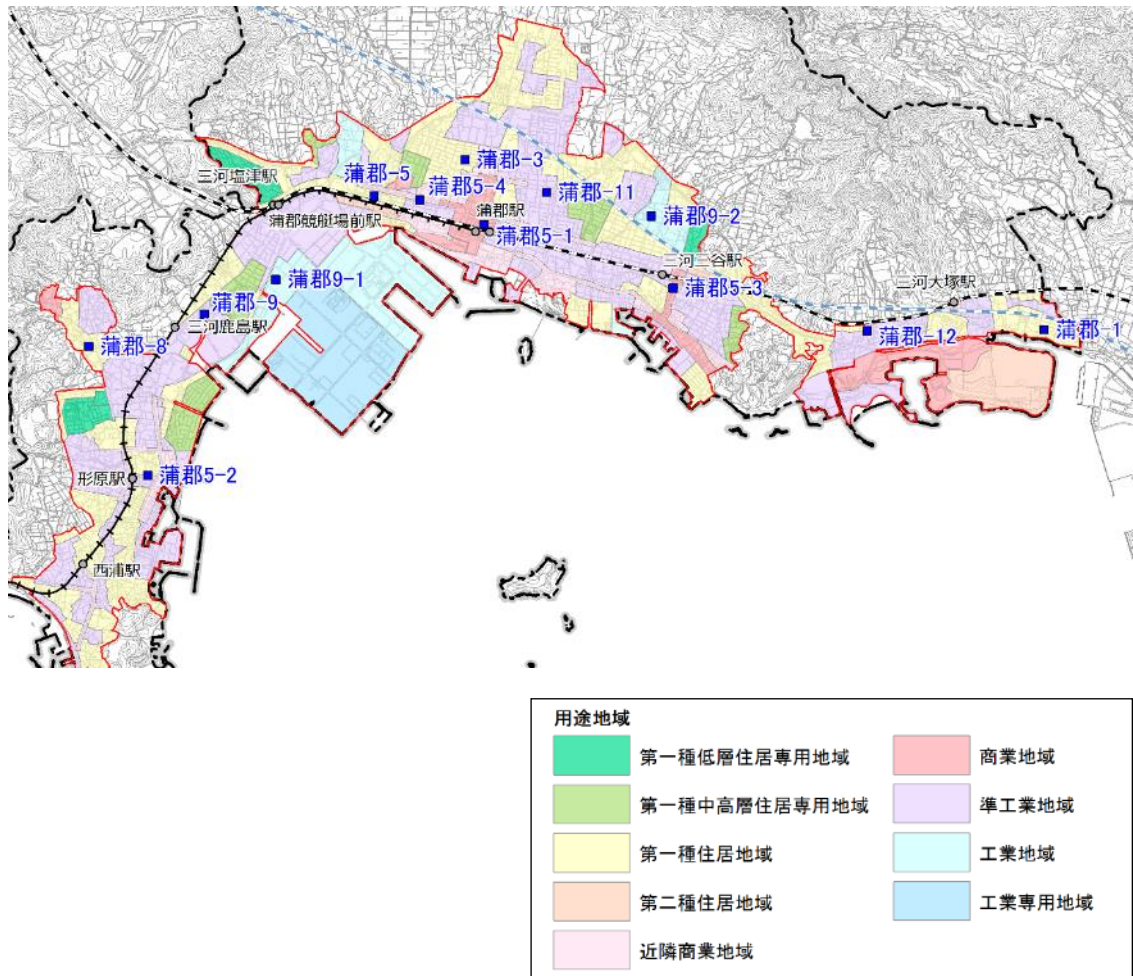
一方で、蒲郡駅北側の「蒲郡5-1」では、近年、増加傾向にあります。

■市内の地価公示価格の推移





○地価公示調査箇所位置図

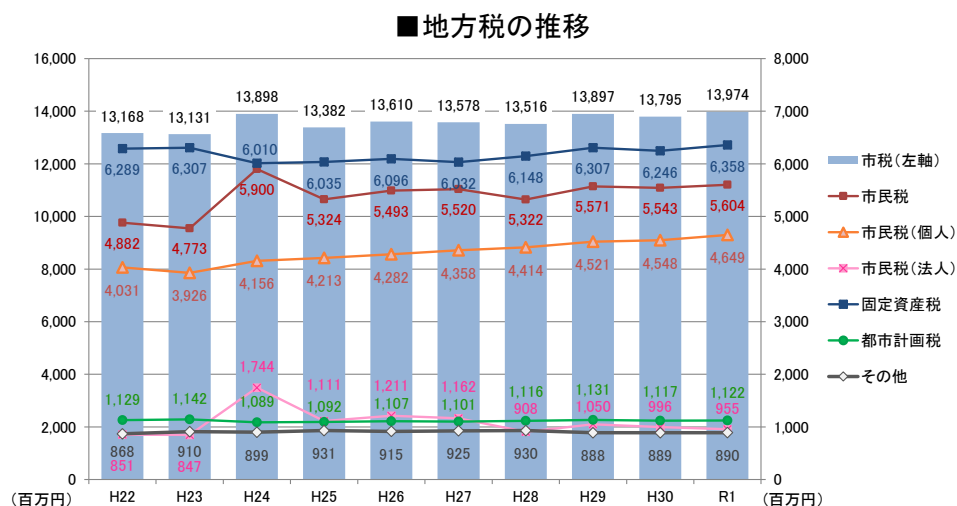


資料：地価公示

2-4 財政

(1) 歳入（市税の推移）

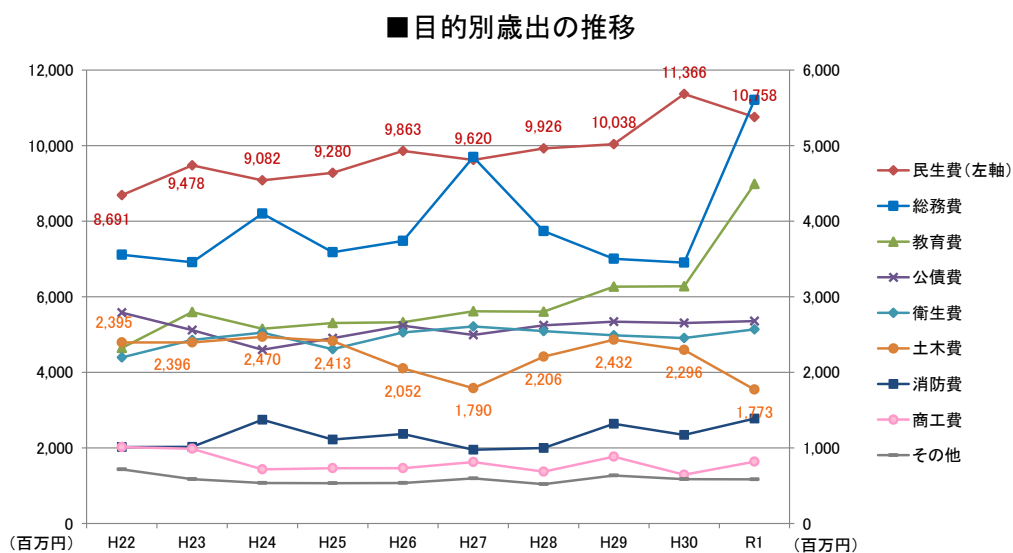
市民税が増加傾向であり、市税は微増傾向です。



資料：広報がまごおり

(2) 歳出

目的別歳出の推移を見ると、高齢者福祉などが対象となる民生費が増加傾向です。一方で、都市基盤などの維持・更新・整備などに必要な土木費は減少傾向です。



資料：広報がまごおり

2-5 都市機能施設の立地状況

(1) 都市機能施設の考え方

誘導施設の検討の基本となる都市機能施設を整理するにあたり、都市計画運用指針や立地適正化計画の策定の手引きに記載されている誘導施設を踏まえ、以下の都市機能施設の分布状況を把握します。

■都市機能施設区分の一覧

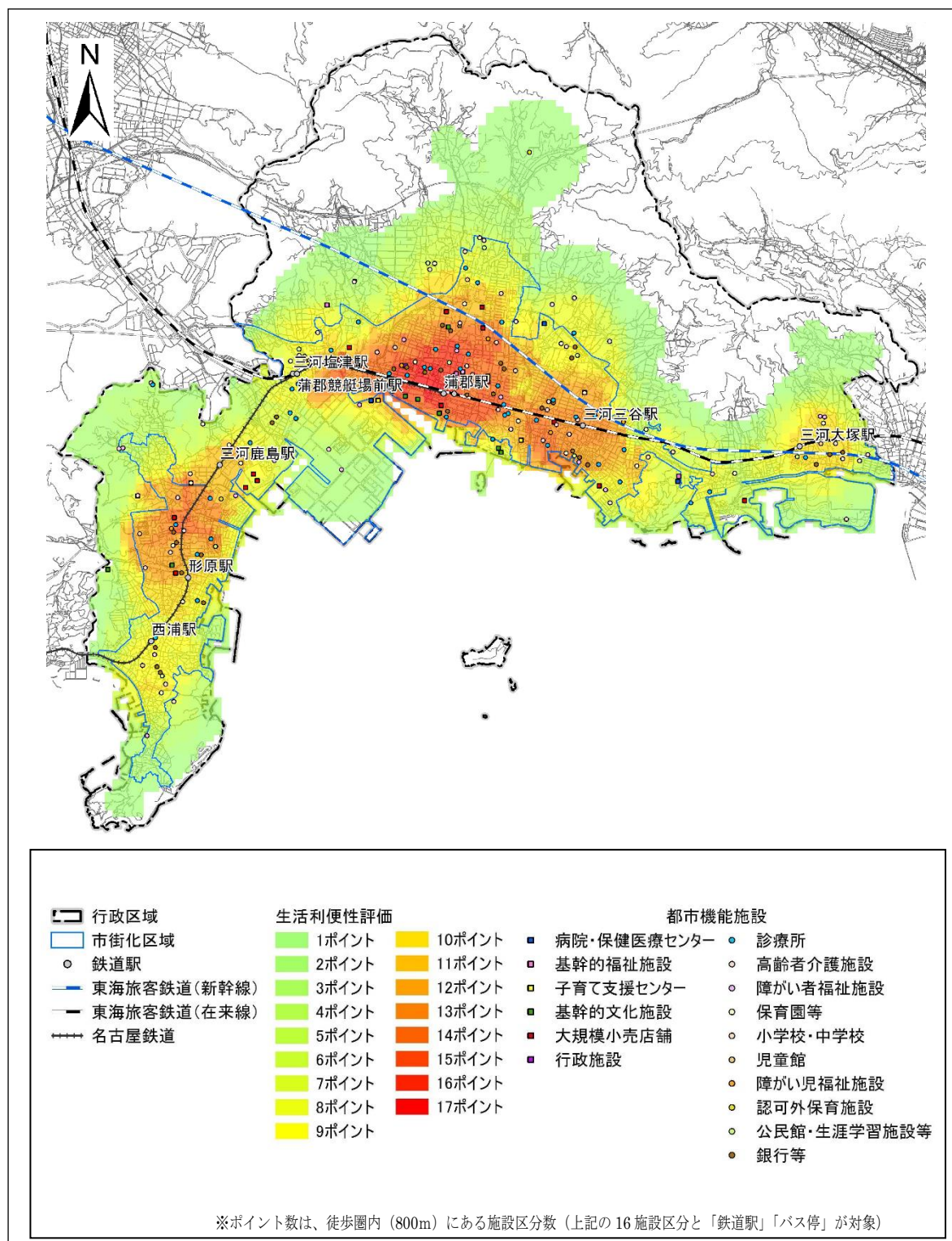
都市機能施設		基幹的 施設
医療施設	保健医療センター	☐
	病院	☐
	診療所	
高齢者等 福祉施設	地域包括支援センター	☐
	高齢者福祉センター施設	☐
	地域福祉拠点施設	☐
	通所・訪問系高齢者介護施設	
	通所・訪問系障がい者福祉施設	
子育て 支援・ 教育施設	子育て支援センター	☐
	保育園など（保育園、幼稚園、こども園、認可外保育施設）	
	小学校、中学校	
	児童館	
	通所・訪問系障がい児福祉施設	
教育文化 施設	図書館	☐
	市民センター	☐
	市民会館	☐
	公民館	
	生涯学習施設など	
商業施設（大規模小売店舗）		☐
銀行、郵便局など		
行政施設		☐

(2) 都市機能施設の集積状況

① 全施設

都市機能施設の集積状況を徒歩圏内(800m)にある施設区分数から把握します。都市機能施設は、蒲郡駅や三河三谷駅、形原駅などの鉄道駅周辺に集積し、利便性が高く比較的コンパクトな拠点が形成されています。

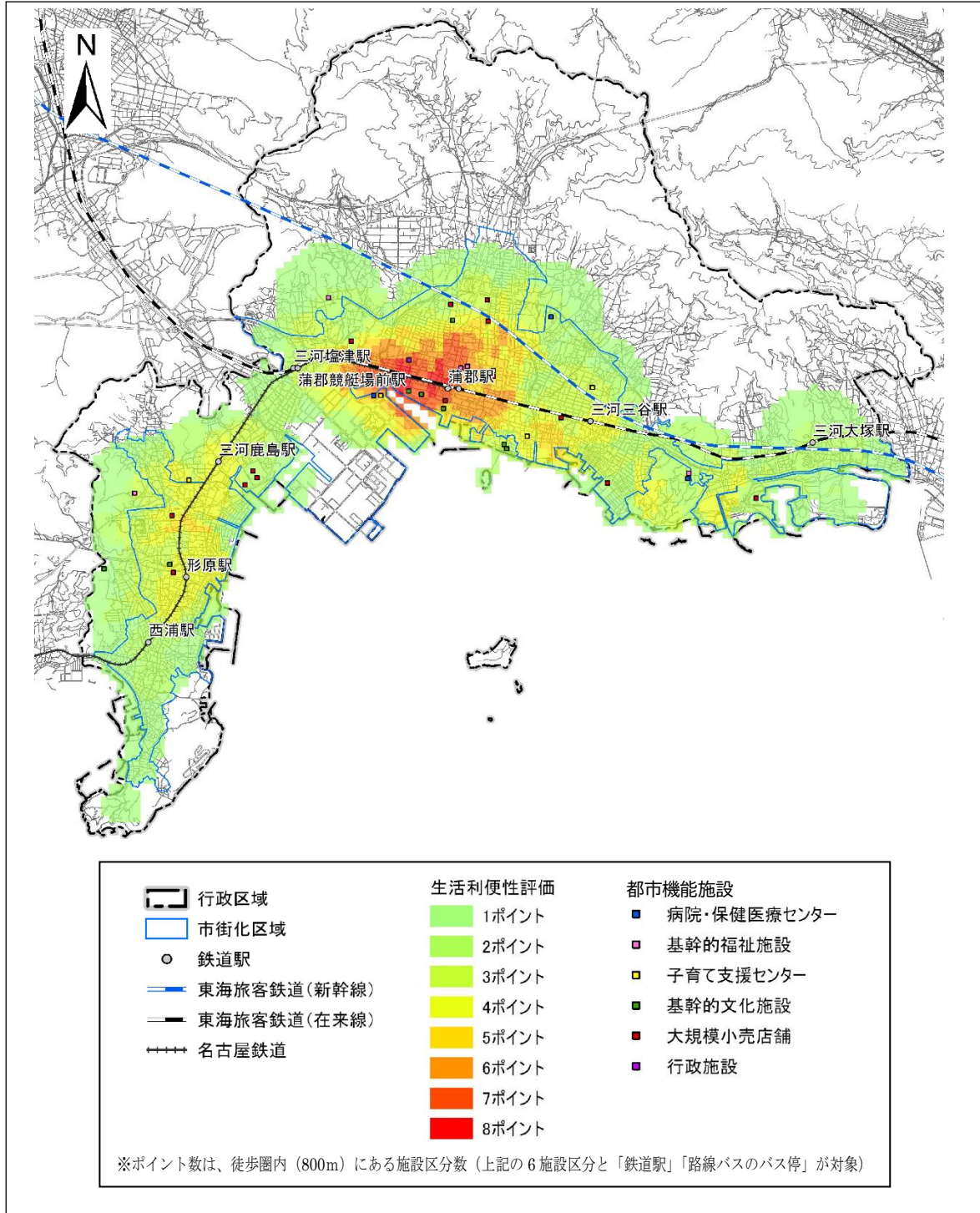
■都市機能施設の集積状況



② 基幹的な都市機能施設

基幹的な都市機能施設は、蒲郡駅周辺に集積しています。

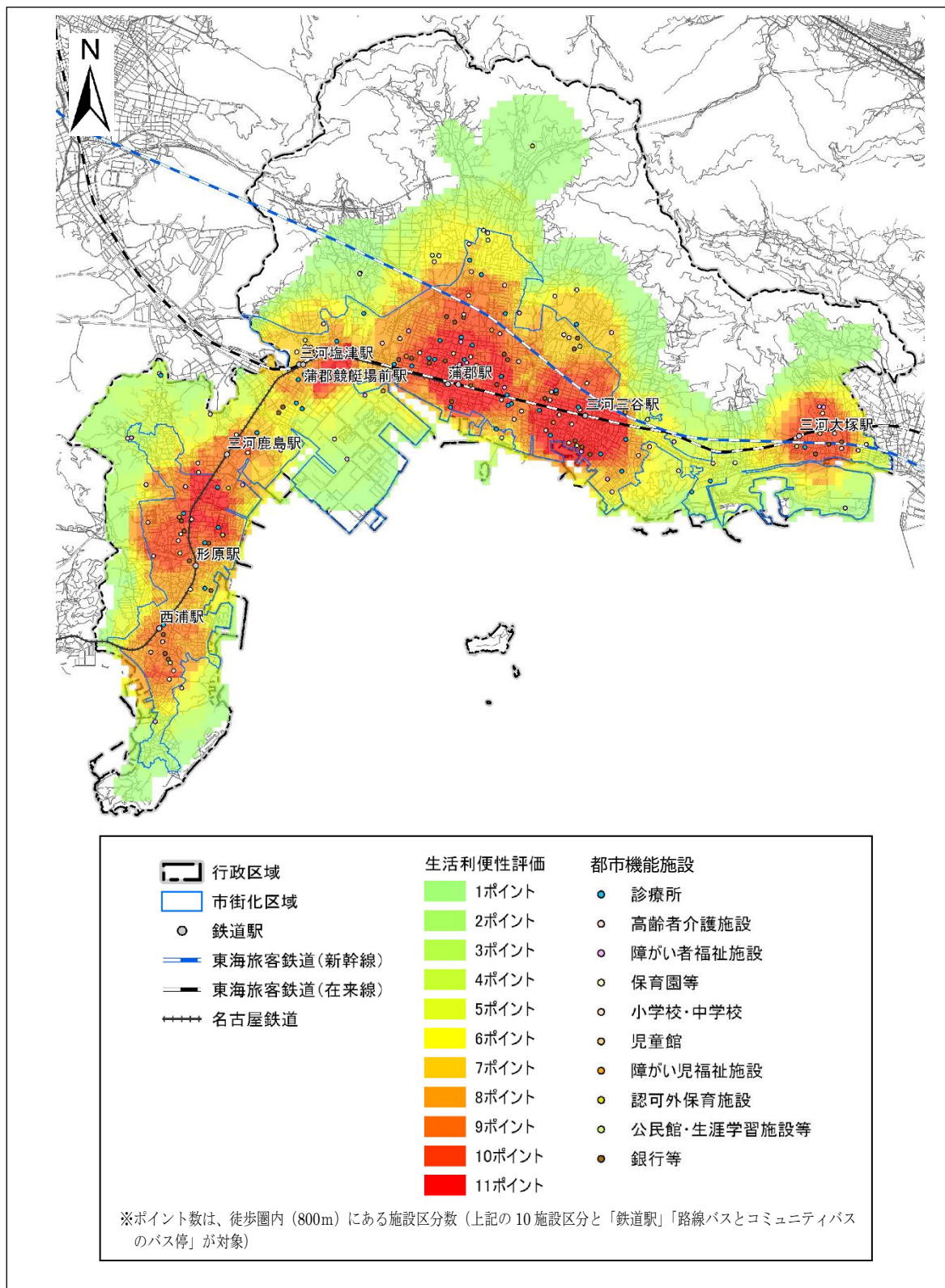
■ 基幹的な都市機能施設の集積状況



③ 身近な都市機能施設

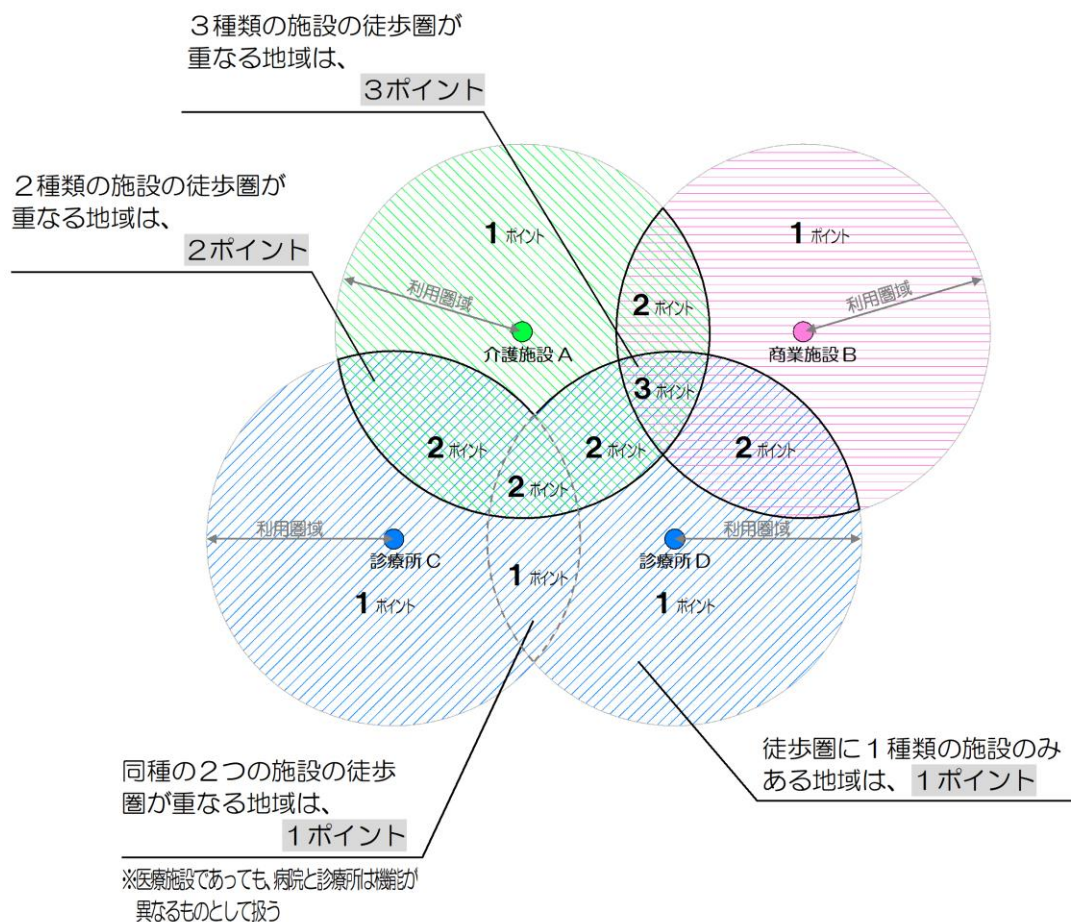
身近な都市機能施設は、蒲郡駅周辺や三河三谷駅周辺に多く集積しています。その他の駅周辺においてもある程度集積している状況です。

■ 身近な都市機能施設の集積状況



(生活利便性評価におけるポイント数の計上方法)

- ・様々な分野の都市機能が集積する地域を生活利便性が高い地域と考える。
- ・徒歩圏にある「施設（建物）」の数ではなく、徒歩圏にある「施設の種類（都市機能）」の数により評価する。
※診療所が2つある地域は、2つの施設があっても施設の種類（機能）は同じとし、ポイントは1とする。

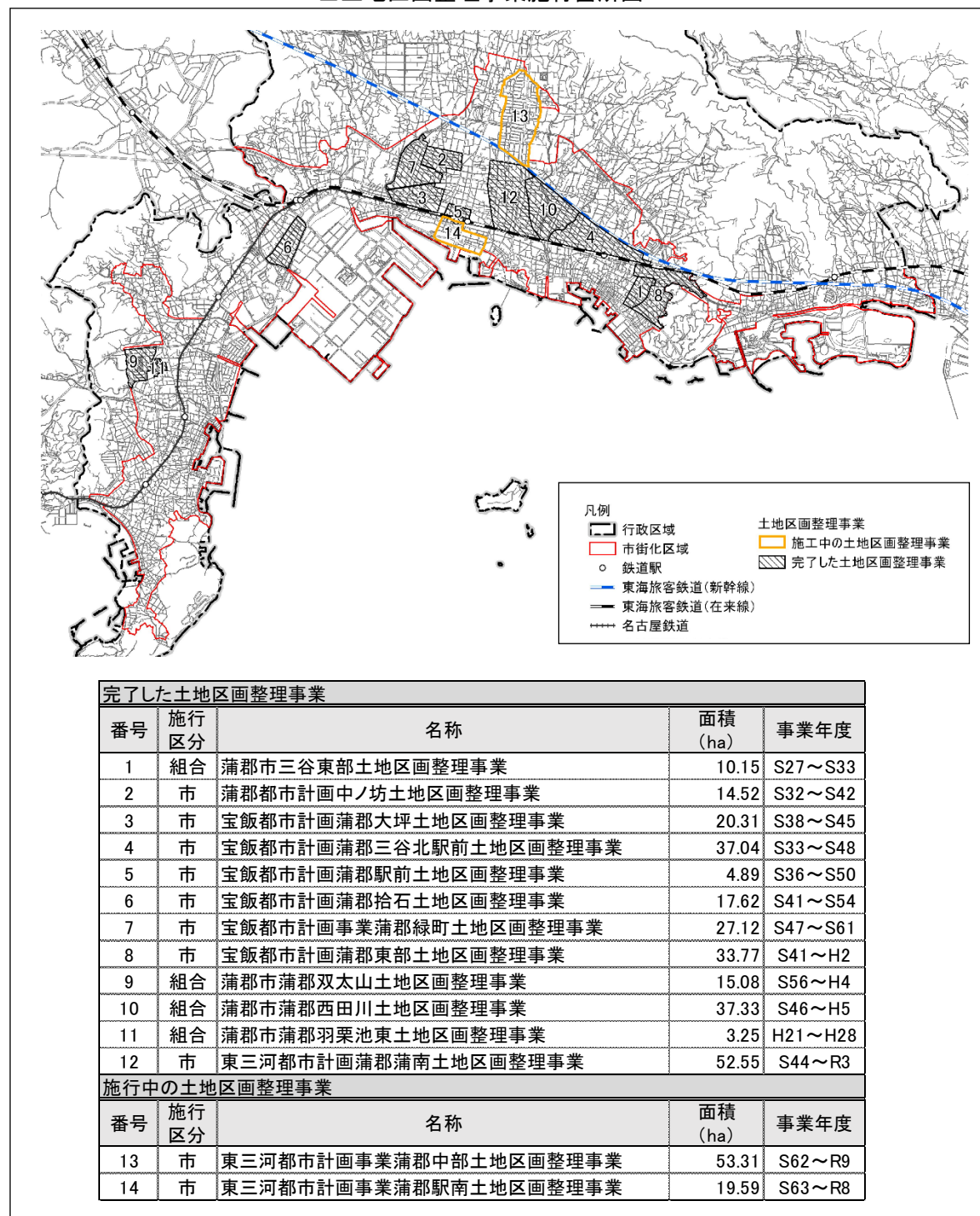


2-6 土地利用・建物の現況

(1) 市街地整備の動向（土地区画整理事業の実施状況）

本市では、工業専用地域を除く市街化区域の約18%が、土地区画整理事業の施行区域となっています。市内で12地区の土地区画整理事業が完了し、2地区が事業中です。事業中区域での建物移転率は93～100%となっています。

■土地区画整理事業施行箇所図

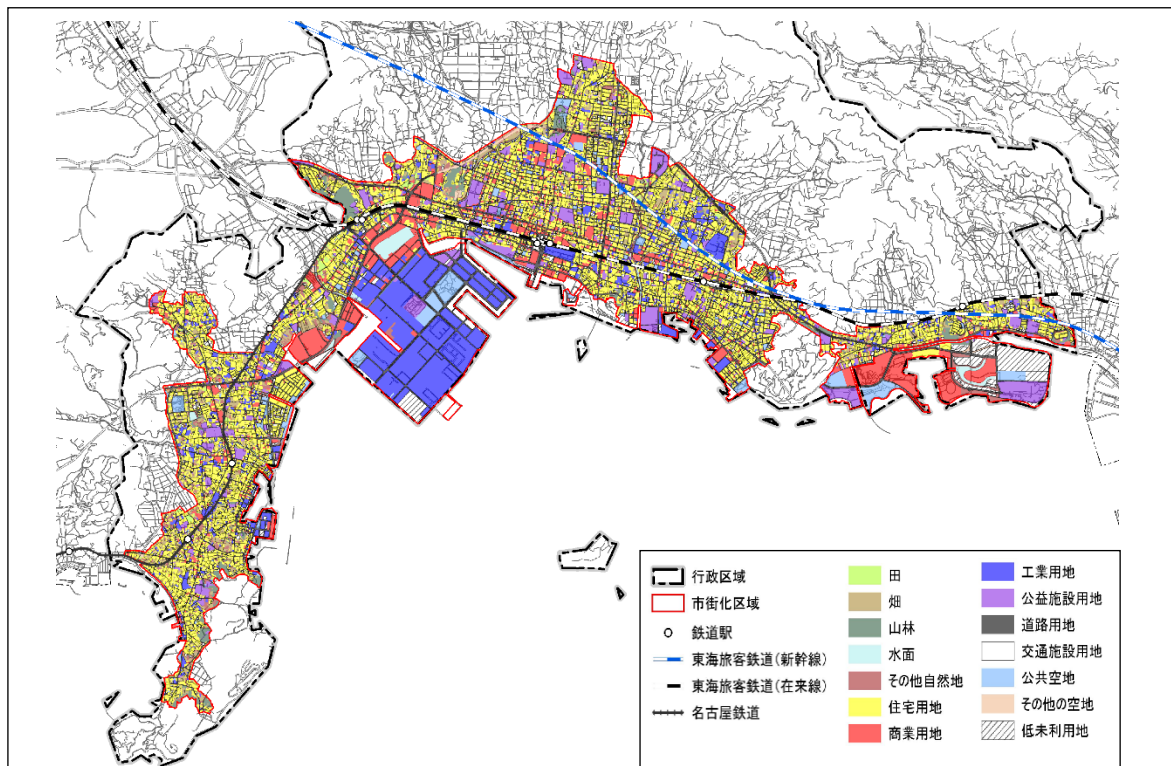


(2) 市街化区域内の土地利用

住宅と工場が隣接・近接して分布している状況です。また、三河塩津駅や蒲郡競艇場前駅、三河鹿島駅にまとまった商業用地が分布しています。埠頭用地（交通施設用地）を有する浜町には、一団の工業用地が分布しています。一方で、蒲郡駅南側の臨海部や海陽町、浜町の一部において、まとまった低未利用地が分布しているほか、駅の徒歩圏内であっても田・畑などの自然的土地利用が多くなっています。

用途地域別に見ると、住居系の用途地域では、住宅用地の他、自然的土地利用が多くなっています。また、商業地域でも低未利用地が14%と多い状況です。準工業地域では、住宅用地が多く35%を占めています。

■土地利用現況図（市街化区域）



○用途地域別の土地利用の現況面積・割合

	自然的 土地利用	住宅用地	商業用地	工業用地	公的・公益 用地	交通用地・ 公共空地等	その他空地	低未利用地	合計
第1種低層住居専用地域	38%	34%	1%	2%	2%	19%	0%	5%	100%
第1種中高層住居専用地域	16%	39%	3%	2%	8%	26%	0%	6%	100%
第1種住居地域	22%	36%	4%	2%	11%	20%	1%	5%	100%
第2種住居地域	12%	6%	10%	1%	17%	18%	0%	36%	100%
近隣商業地域	3%	41%	12%	3%	6%	28%	0%	8%	100%
商業地域	5%	19%	32%	1%	7%	22%	1%	14%	100%
準工業地域	12%	35%	12%	9%	5%	22%	0%	5%	100%
工業地域	7%	7%	6%	39%	3%	35%	0%	3%	100%
工業専用地域	1%	0%	0%	77%	3%	13%	0%	5%	100%
合計	13%	29%	9%	13%	7%	22%	0%	7%	100%

資料：平成30年度都市計画基礎調査

(3) 土地区画整理事業による住宅密度の増加について

現行の都市計画マスタープラン策定以降の期間において推進された土地区画整理事業により、住宅用地や道路用地が増加しています。特に、蒲郡中部・蒲郡羽栗池東土地区画整理事業施行区域内において、田・畑として利用されていた土地や空地だった土地が住宅用地として活用されています。

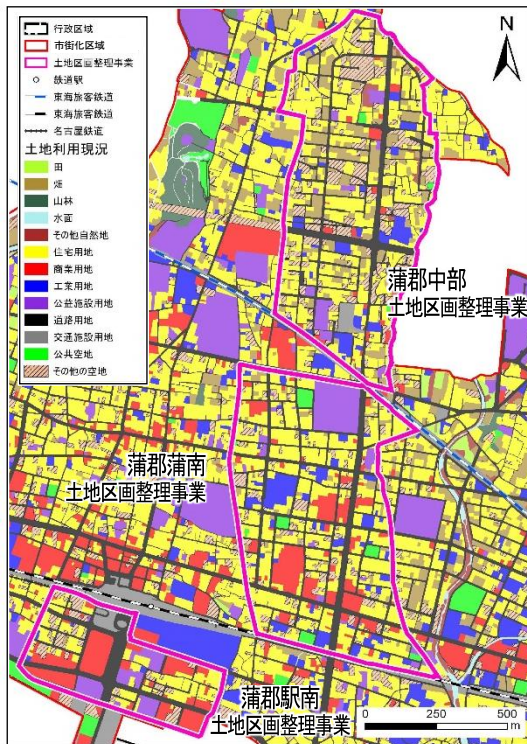
■土地区画整理事業による土地利用の変化

土地利用区分	土地利用面積(ha)		
	H19	H30	H30-H19
田	1.55	0.07	▲1.48
畑	9.42	7.22	▲2.20
山林	0.03	0.14	0.11
水面	0.05	0.13	0.07
その他自然地	2.04	2.55	0.51
住宅用地	45.11	48.59	3.49
商業用地	11.76	12.73	0.97
工業用地	6.74	4.40	▲2.34
公益施設用地	7.21	6.53	▲0.68
道路用地	27.63	30.24	2.61
交通施設用地	1.29	0.80	▲0.49
公共空地	1.25	2.86	1.60
その他の空地・低未利用地	14.62	12.45	▲2.16

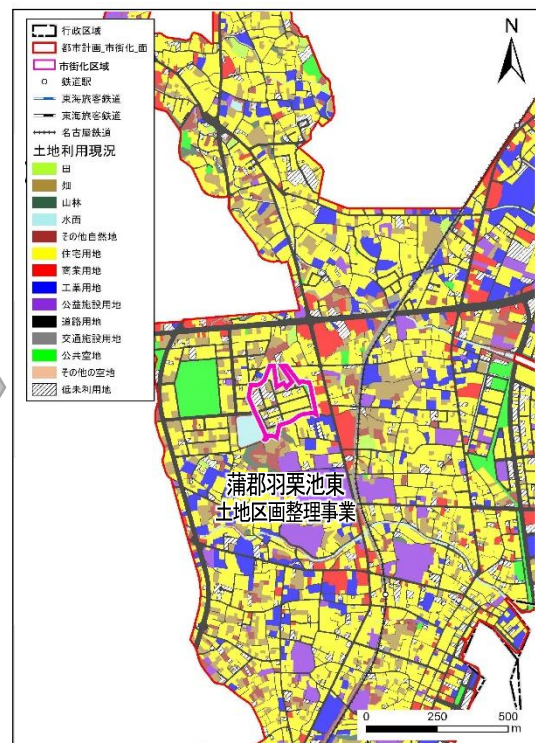
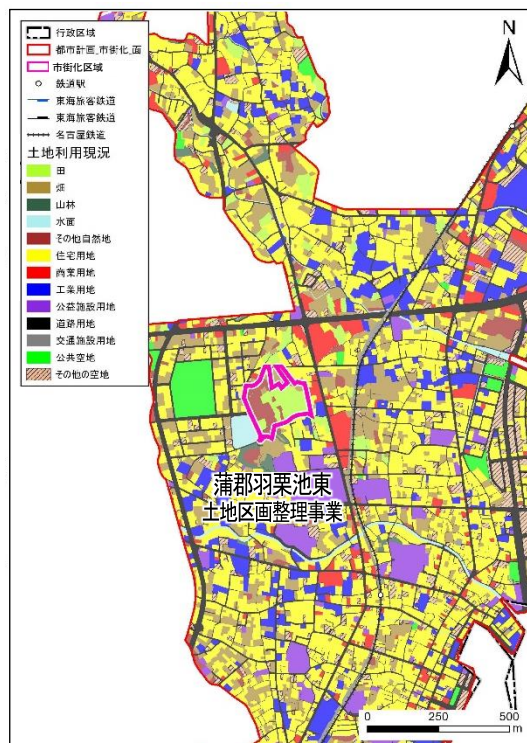
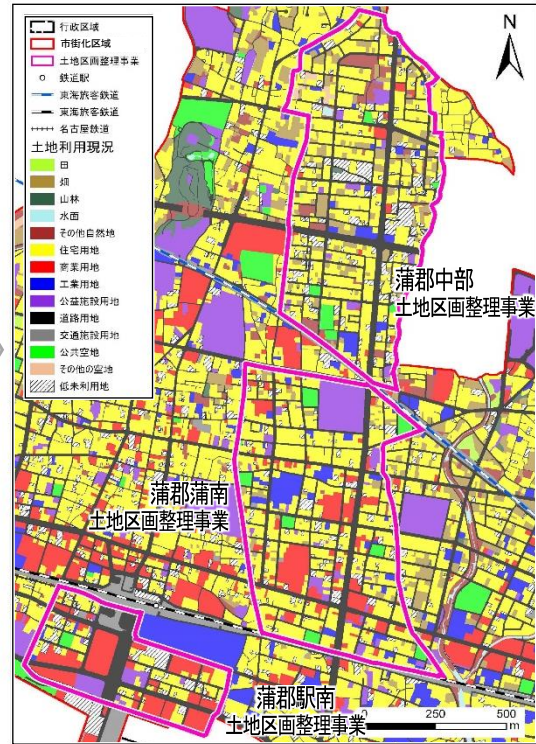
※上表は、計画期間中に事業を実施した蒲郡羽栗池東、蒲郡蒲南、蒲郡中部、蒲郡駅南の土地区画整理事業の施行地区の合計値です。
具体的な土地利用の変遷状況は次ページを参照してください。

■土地区画整理事業施行地区における土地利用の変化

○平成 19 年



○平成 30 年



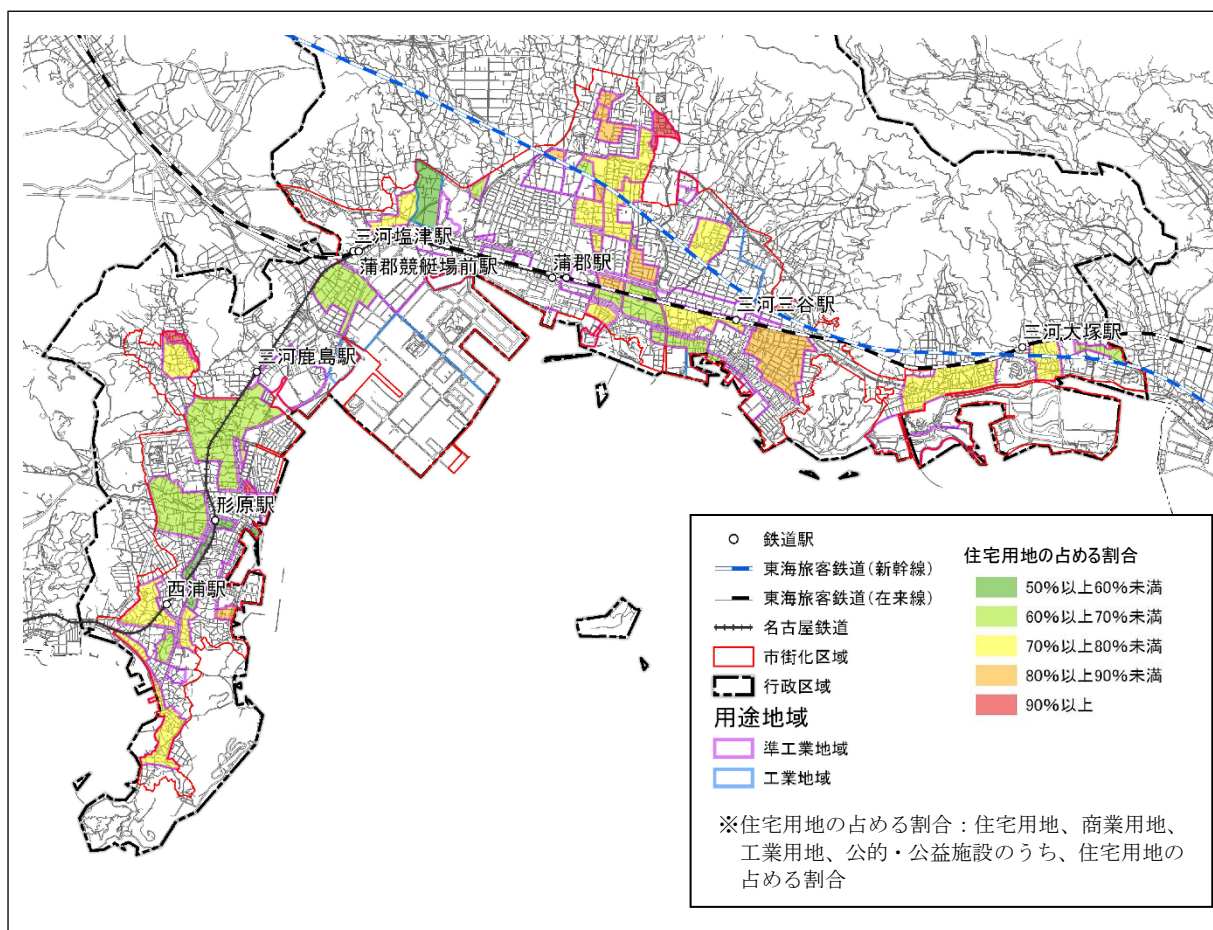
資料：平成 19 年度、平成 30 年度都市計画基礎調査

(4) 準工業地域・工業地域における土地利用の分析

準工業地域は、建物用途の混在を防ぐための規制手法である用途地域の一つですが、工場・住宅などの使い方の異なる建物が隣接することが可能な地域です。当市の準工業地域のうち、蒲郡駅北側や三河三谷駅東側の土地区画整理事業施行区域内では「住宅用地の占める割合」が過半となる箇所が多い状況です。また、清田町や一色町、三河大塚駅周辺の旧来からの市街地においても多くなっています。

工業地域も用途地域の一つで、工業用地の利用を主としていますが、工場・住宅などが隣接することが可能な地域です。三河塩津駅北西部の竹谷町において、住宅用地の占める割合が過半となっています。

■ 準工業地域・工業地域で住宅系の土地利用が過半を占める調査区



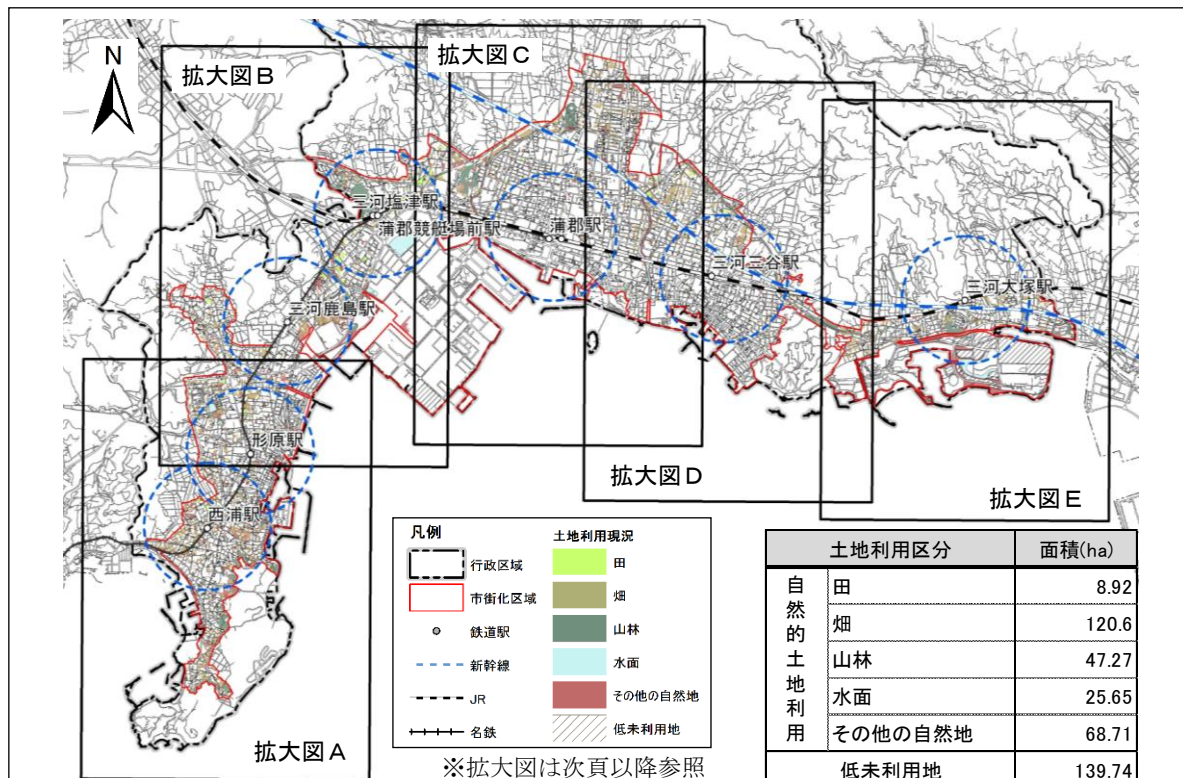
資料：平成30年度都市計画基礎調査

(5) 低未利用地等の分布

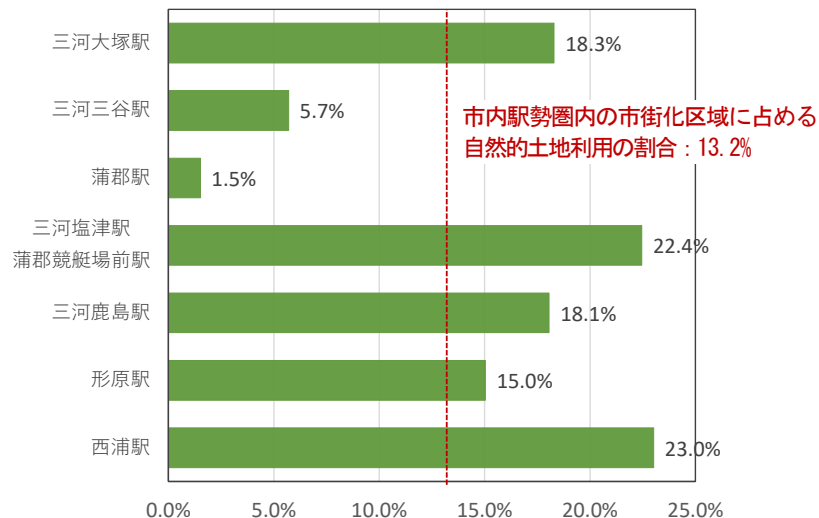
鉄道駅の徒歩圏や土地区画整理事業の施行区域内をはじめ、市街地内の各所に低未利用地等（平成30年度都市計画基礎調査における「自然的土地利用（田、畑、山林、水面、その他自然地の総称）」と「低未利用地」のことをいう）が点在している状況です。特に、駅の徒歩圏内であっても自然的土地利用が多く分布しており、土地利用方法について検討が必要です。

また、ラグーナ蒲郡地区や浜町の一部において、まとまった低未利用地が分布しています。

■低未利用地等の分布

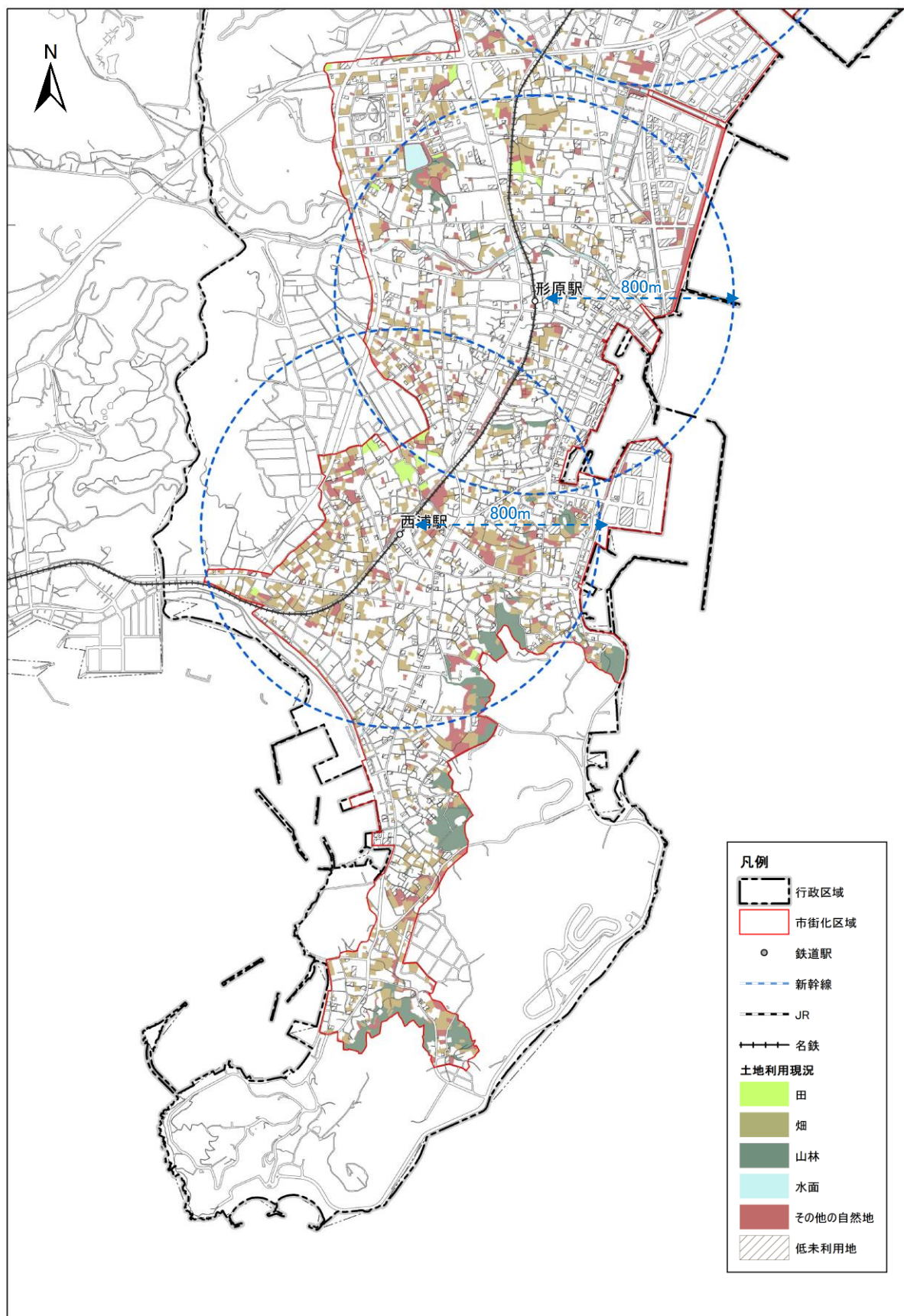


○駅徒歩圏内の市街化区域に占める自然的土地利用の割合



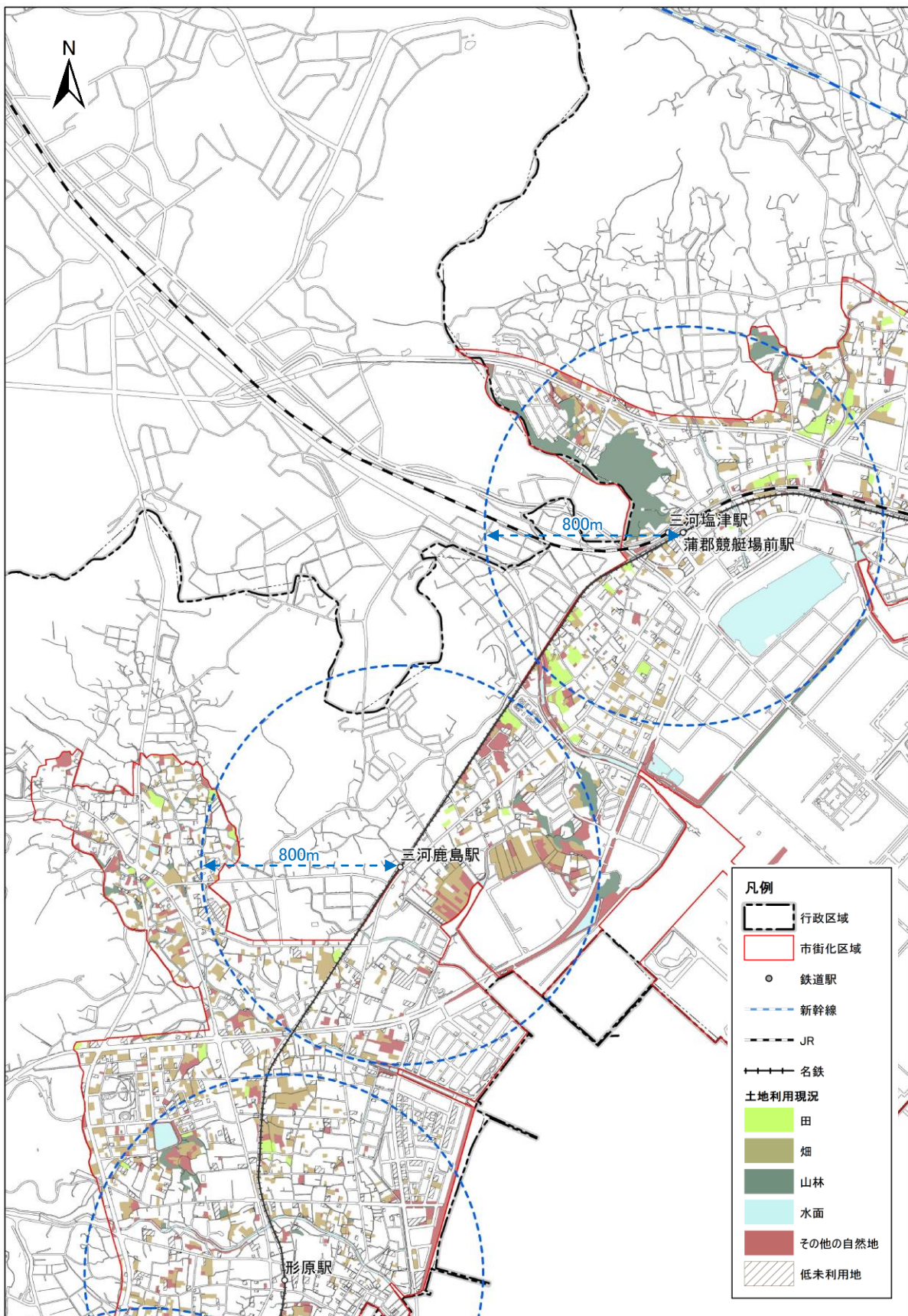
資料：平成30年度都市計画基礎調査

拡大図A（西浦駅、形原駅周辺）



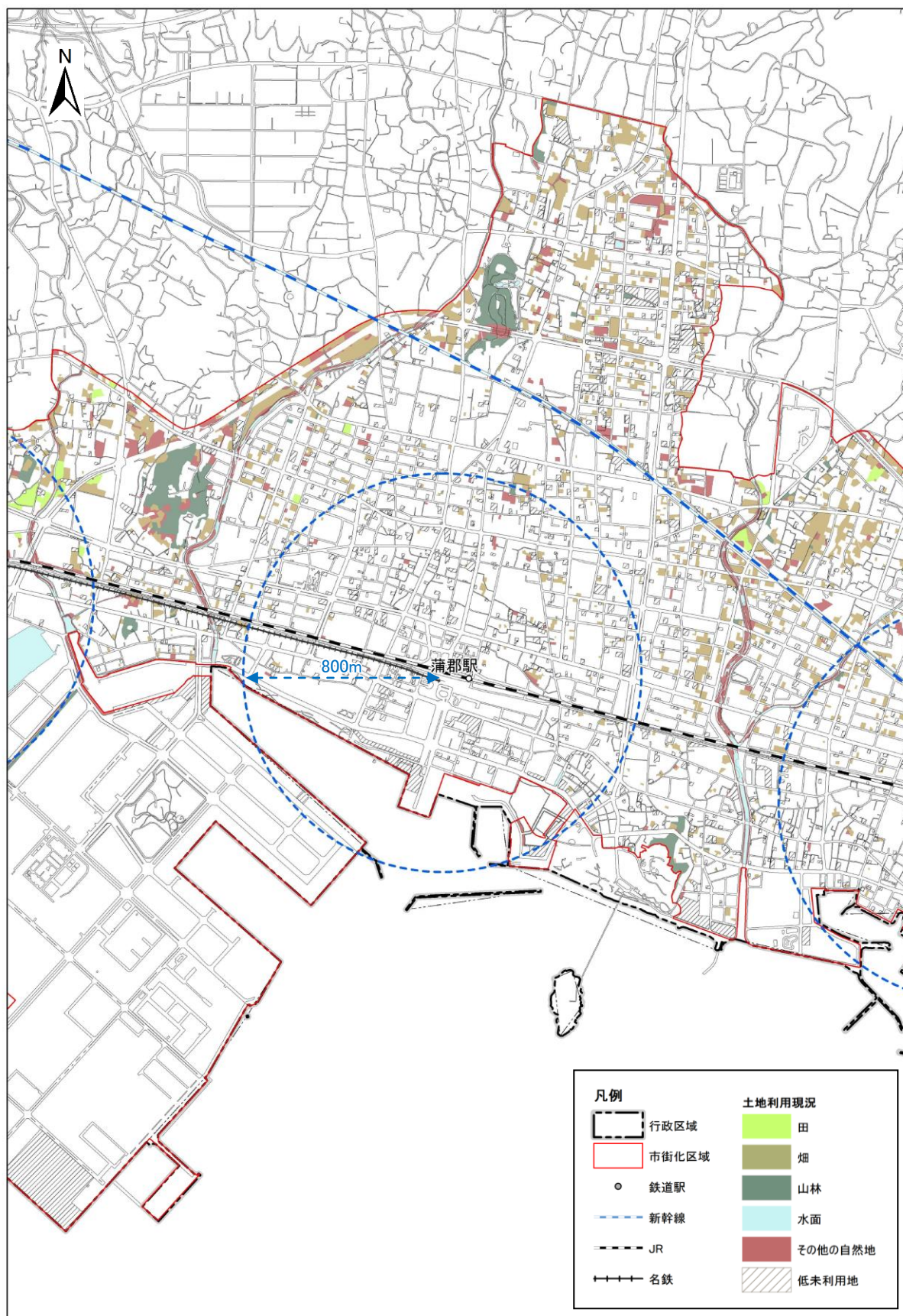
資料：平成30年度都市計画基礎調査

拡大図B（三河鹿島駅、三河塩津駅、蒲郡競艇場前駅周辺）



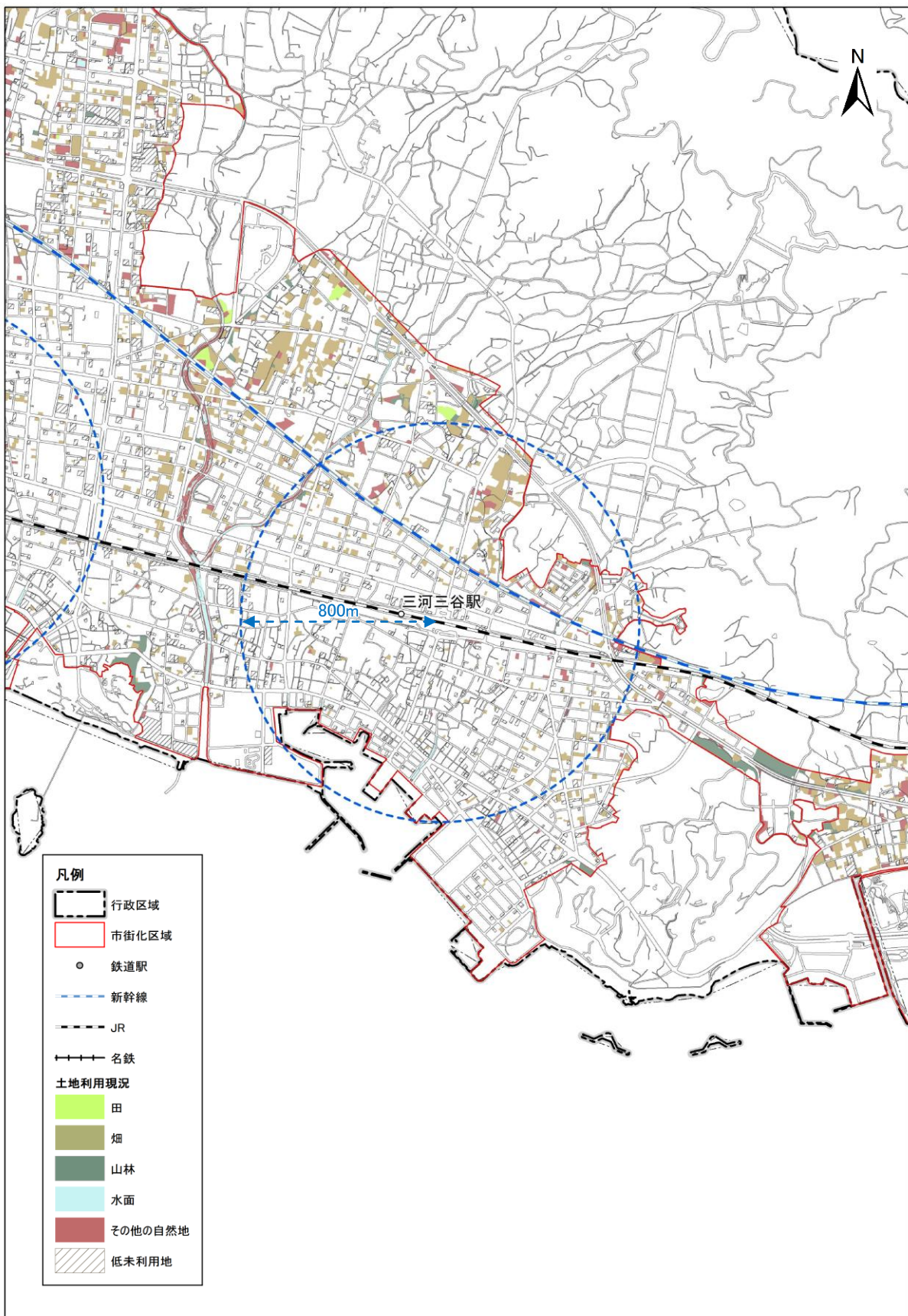
資料：平成 30 年度都市計画基礎調査

拡大図C（蒲郡駅周辺）



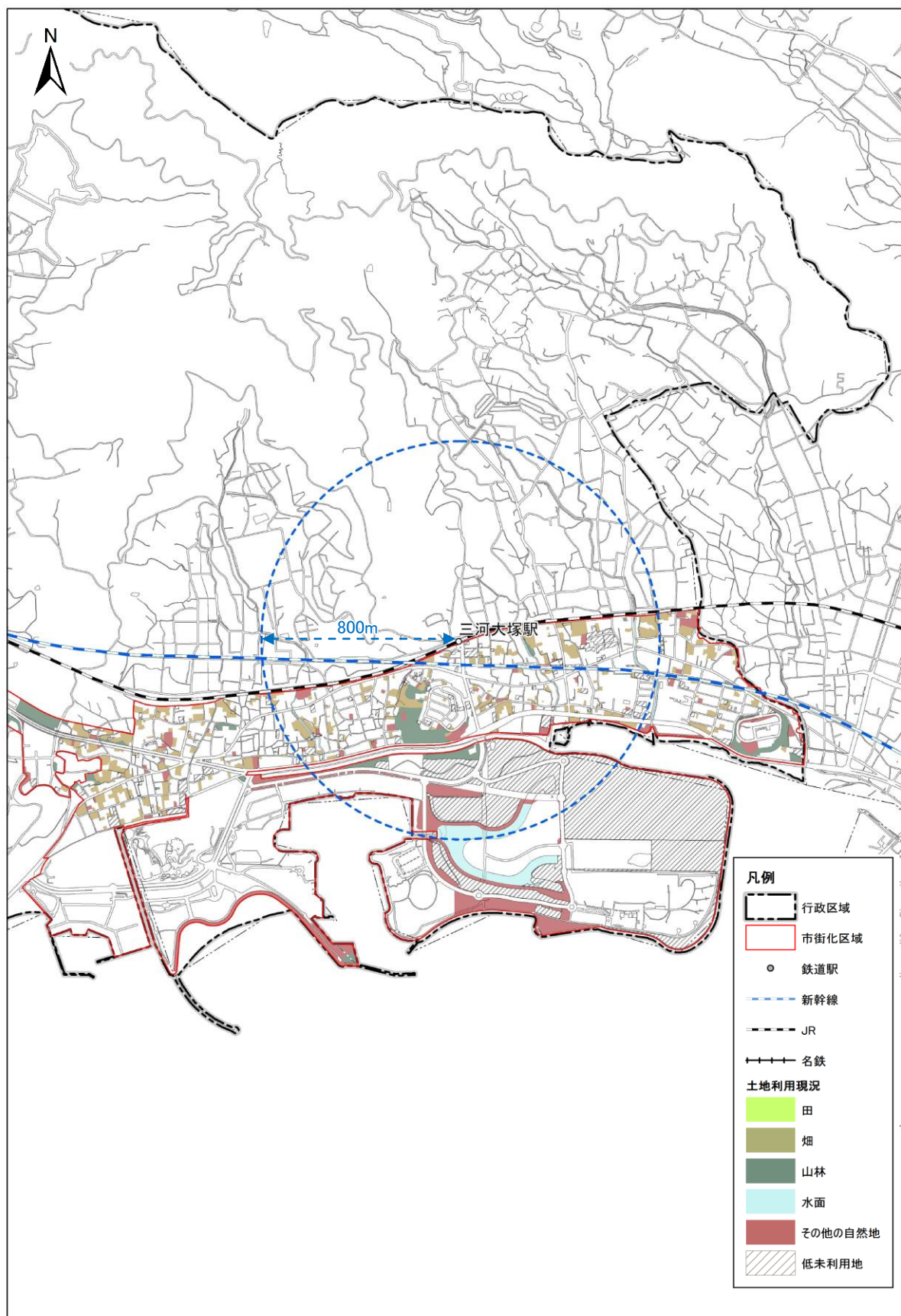
資料：平成30年度都市計画基礎調査

拡大図D（三河三谷駅周辺）



資料：平成30年度都市計画基礎調査

拡大図E（三河大塚駅周辺）



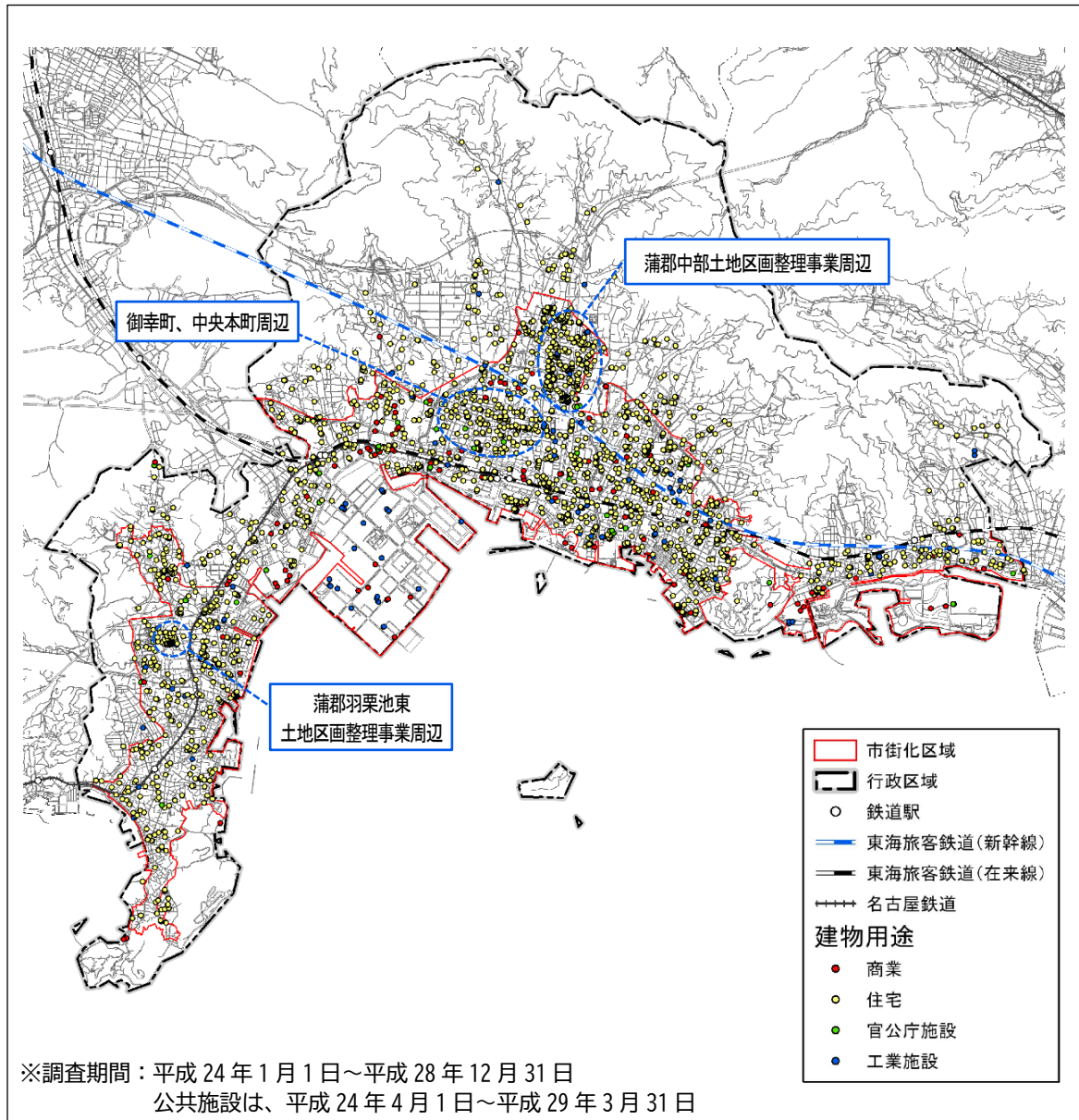
資料：平成30年度都市計画基礎調査

(6) 建物の新築状況

住宅の立地状況をみると、市街化区域全域で新築されていますが、特に、蒲郡中部・蒲郡羽栗池東土地区画整理事業の施行区域周辺や、蒲郡駅に比較的近く整形な都市基盤が整備されている御幸町・中央本町周辺での新築が多い状況です。

商業店舗では、国道247号中央バイパスや県道蒲郡碧南線といった幹線道路沿道や、鹿島町の商業モールでの立地が多くなっています。

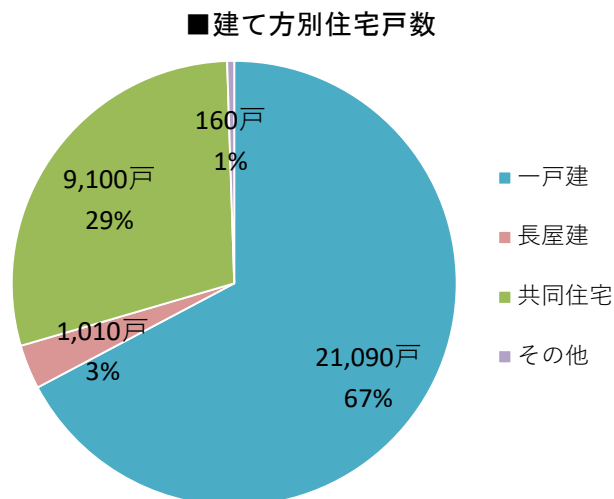
■建物の用途別の新築状況



資料：平成29年度都市計画基礎調査

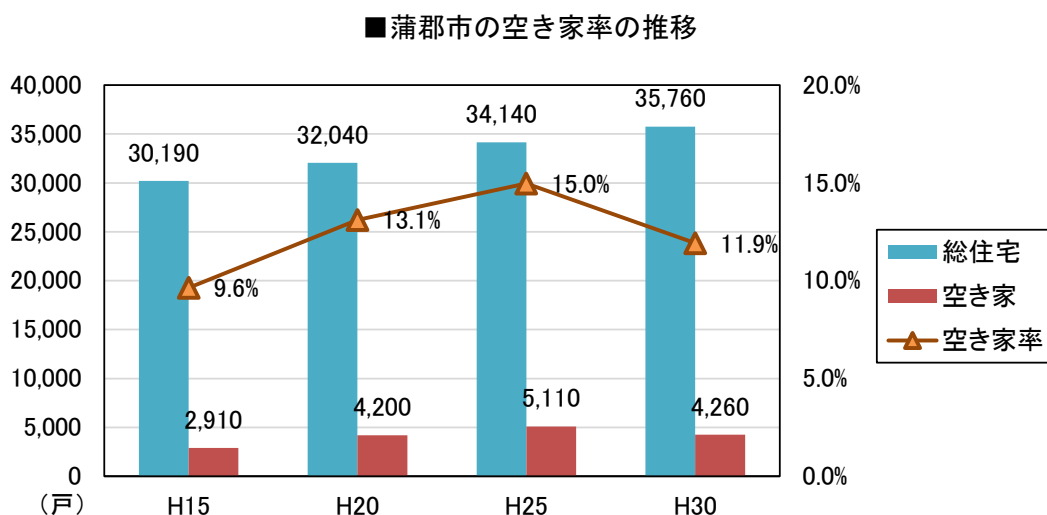
(7) 建て方別の住宅数

本市での住宅の建て方別の住宅戸数をみると、戸建て住宅に居住する人が多く、67%を占めています。共同住宅に居住する人は、29%を占めています。



(8) 空き家の状況

空き家数及び空き家率は平成25年まで増加傾向でしたが、平成30年には減少しています。平成25年から30年にかけては、賃貸用の共同住宅が大きく減少しているのに対し、戸建ての空き家が増加しています。



資料：住宅・土地統計調査

■蒲郡市の空き家の内訳

空き家の種類 腐朽・破損の有無	H25			H30			H30-H25		
	戸建て	長屋建 共同住宅 その他	総 数	戸建て	長屋建 共同住宅 その他	総 数	戸建て	長屋建 共同住宅 その他	総 数
腐朽・破損あり	630	660	1,290	590	390	980	▲40	▲270	▲310
二次的住宅	0	0	0	10	0	10	10	0	10
賃貸用の住宅	70	470	540	10	300	310	▲60	▲170	▲230
売却用の住宅	10	0	10	10	0	10	0	0	0
その他の住宅	550	180	740	560	80	640	10	▲100	▲100
腐朽・破損なし	1,060	2,760	3,830	1,320	1,970	3,280	260	▲790	▲550
二次的住宅	0	190	190	30	0	30	30	▲190	▲160
賃貸用の住宅	70	2,290	2,370	60	1,760	1,820	▲10	▲530	▲550
売却用の住宅	20	0	20	30	0	30	10	0	10
その他の住宅	980	280	1,260	1,200	200	1,410	220	▲80	150
空き家総数	1,690	3,420	5,110	1,910	2,350	4,260	220	▲1,070	▲850
二次的住宅	0	190	190	30	0	30	30	▲190	▲160
賃貸用の住宅	140	2,770	2,910	70	2,070	2,140	▲70	▲700	▲770
売却用の住宅	30	0	30	40	0	40	10	0	10
その他の住宅	1,530	460	1,980	1,760	290	2,050	230	▲170	70

※空き家の種類は以下のとおりです。

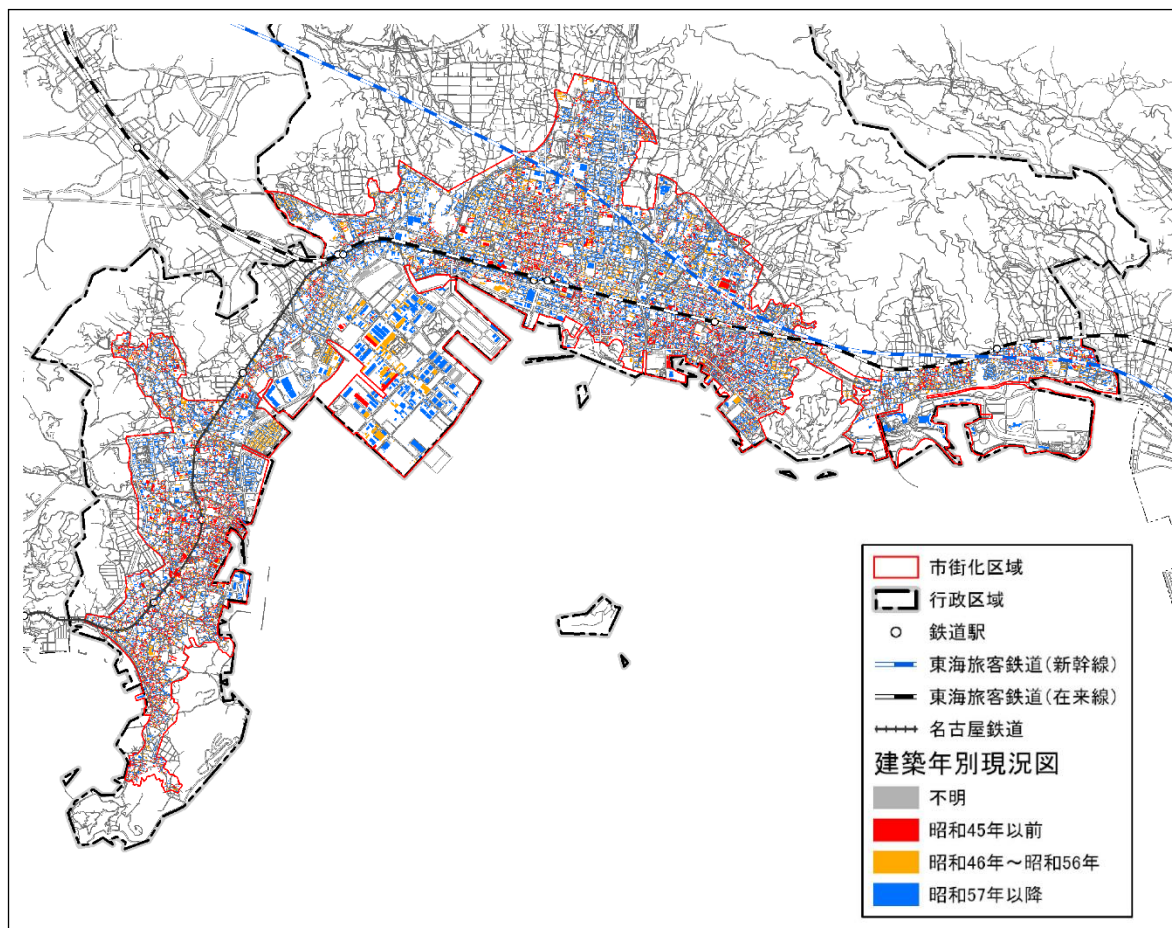
- ・二次的住宅：別荘やたまに寝泊まりしている人がいる住宅
 - ・賃貸用の住宅：賃貸のために空き家になっている住宅
 - ・売却用の住宅：売却のために空き家になっている住宅
 - ・その他の住宅：上記以外の人が住んでいない住宅
- 例) 転勤・入院などのために長期不在の住宅
建て替えのために取り壊す住宅 など

資料：平成 25 年、平成 30 年住宅・土地統計調査

(9) 建物の老朽化状況

建築年別の建物の立地状況をみると、市西部の市街化区域のほか、形原駅以南や蒲郡駅北側、三河三谷駅南側といった、現行の都市計画マスタープランにおいて都市構造上の都市核を形成している地域において昭和45年以前の古い建物が多く立地しています。

■ 建築年別建物の分布状況（市街化区域内）



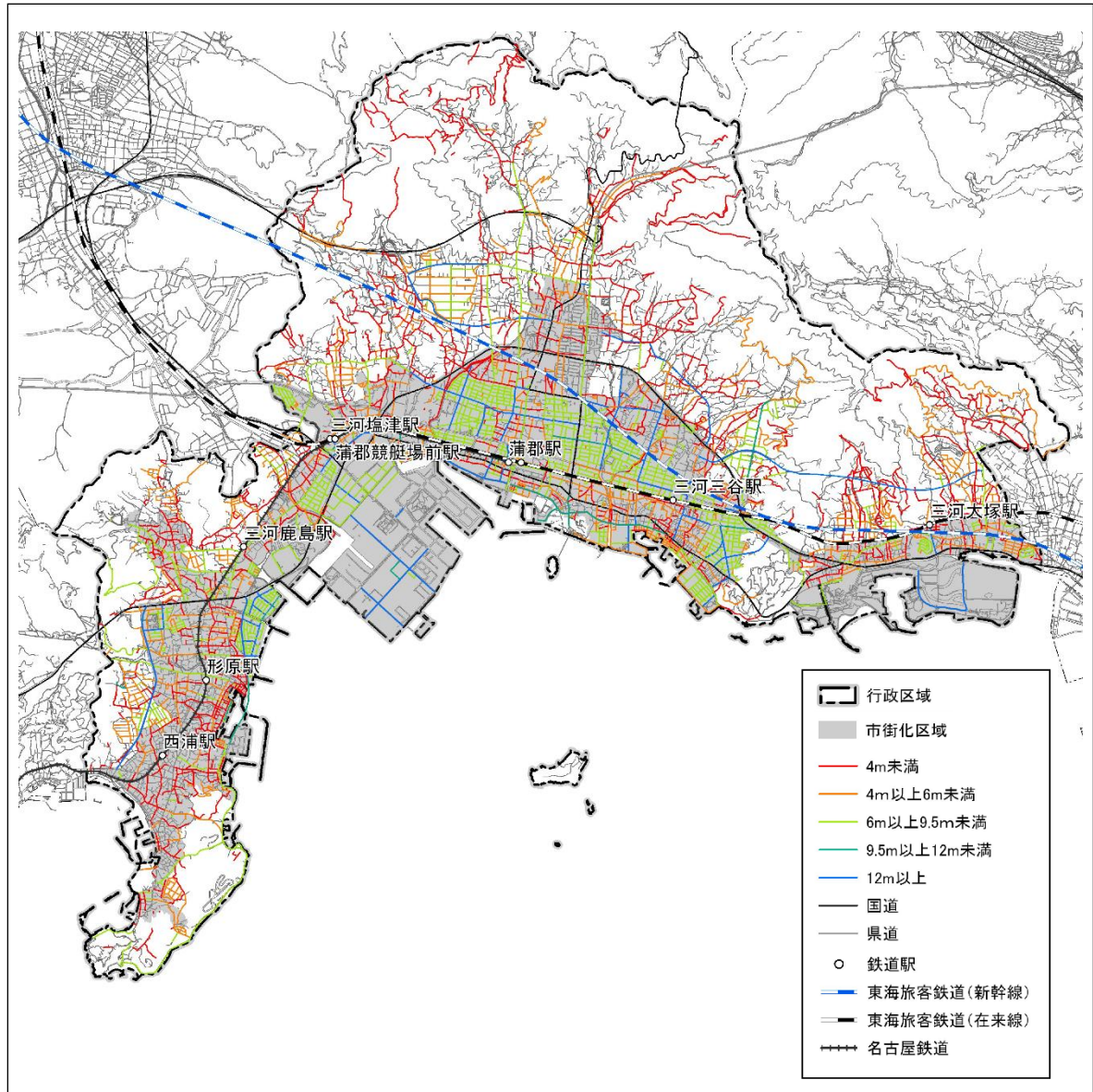
資料：平成29年度都市計画基礎調査

(10) 狭隘な道路の分布状況

市道の路線別最小幅員の分布状況をみると、市街化区域内においても幅員4m未満の狭い道路が残っている地域があります。

特に市西部の形原駅や西浦駅周辺において、多く分布している状況です。

■市道の路線別最小幅員の状況



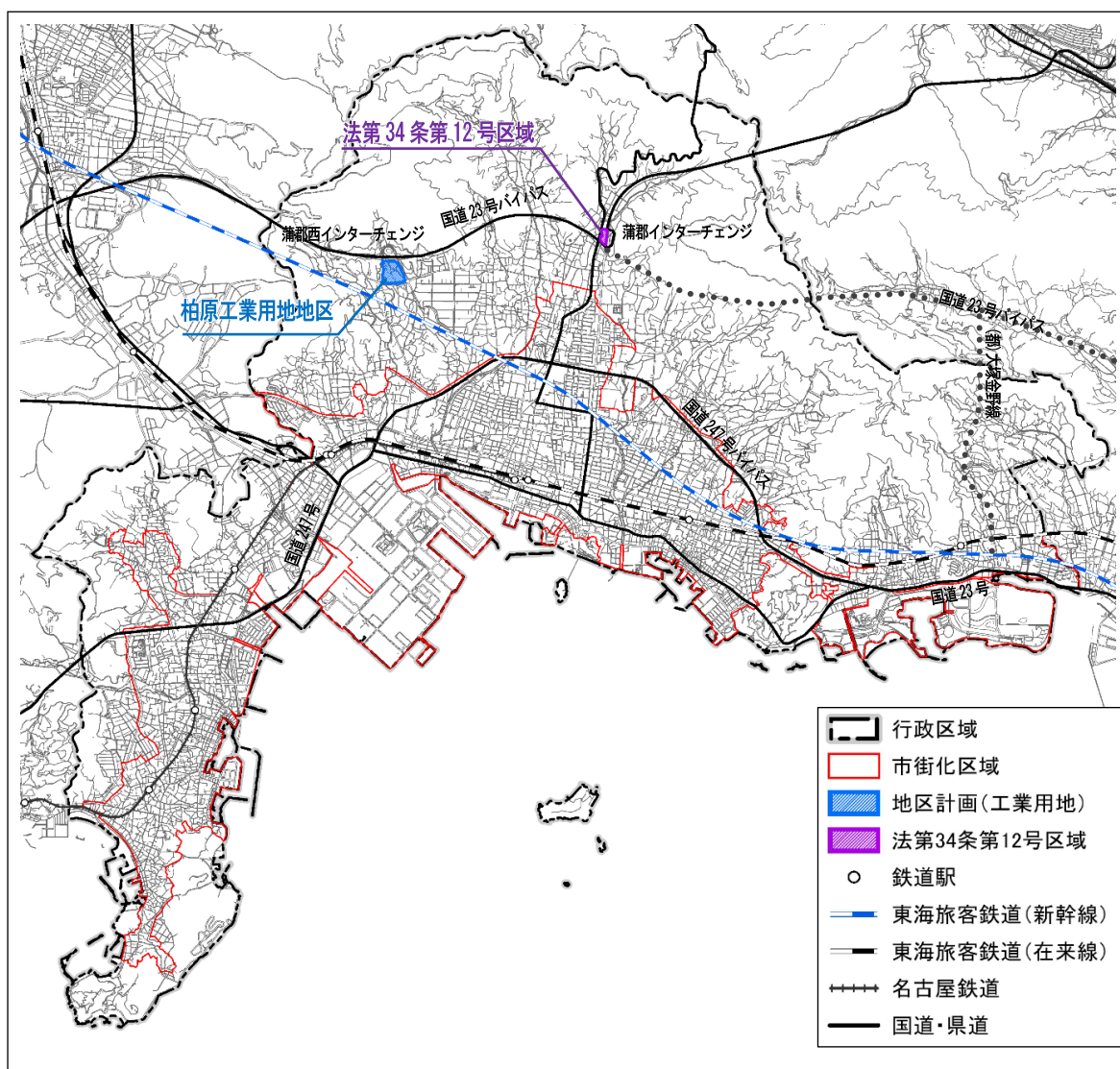
資料：蒲安市資料

(11) 国道23号バイパスを活かした良好な産業用地の形成

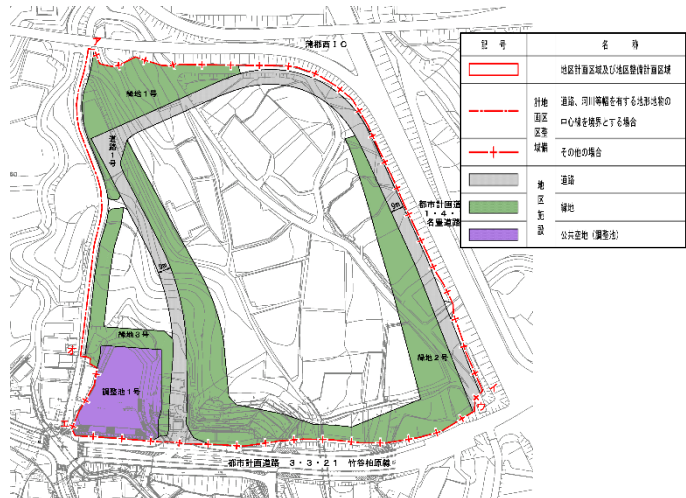
広域幹線軸である国道23号蒲郡バイパスへのアクセス利便性を生かして、市街地への交通負荷を抑えながら、周辺の自然環境や農業環境などに配慮した良好な工業用地を形成するため、市街化調整区域内の柏原工業用地地区で地区計画を定めています。柏原工業用地地区では企業用地の造成と民間事業者への引き渡しが完了している状況です。

また、工場・研究所の誘致につながる産業振興施策の一つとして、愛知県に都市計画法第34条第12号区域の申出を行っています。市街化調整区域において工場などの建築物を建築する場合には愛知県の許可が必要ですが、同区域では、特定の業種であれば、工場・研究所を建築することができることが規定されています。

■地区計画（工業用地）及び法第34条第12号区域 位置図



周辺の自然環境に配慮しながら、良好な工業用地として適正かつ合理的な土地利用を図る



○都市計画法第 34 条第 12 号区域
愛知県の産業集積の推進に関する基本指針に基づく東三河の集積
業種が立地可能



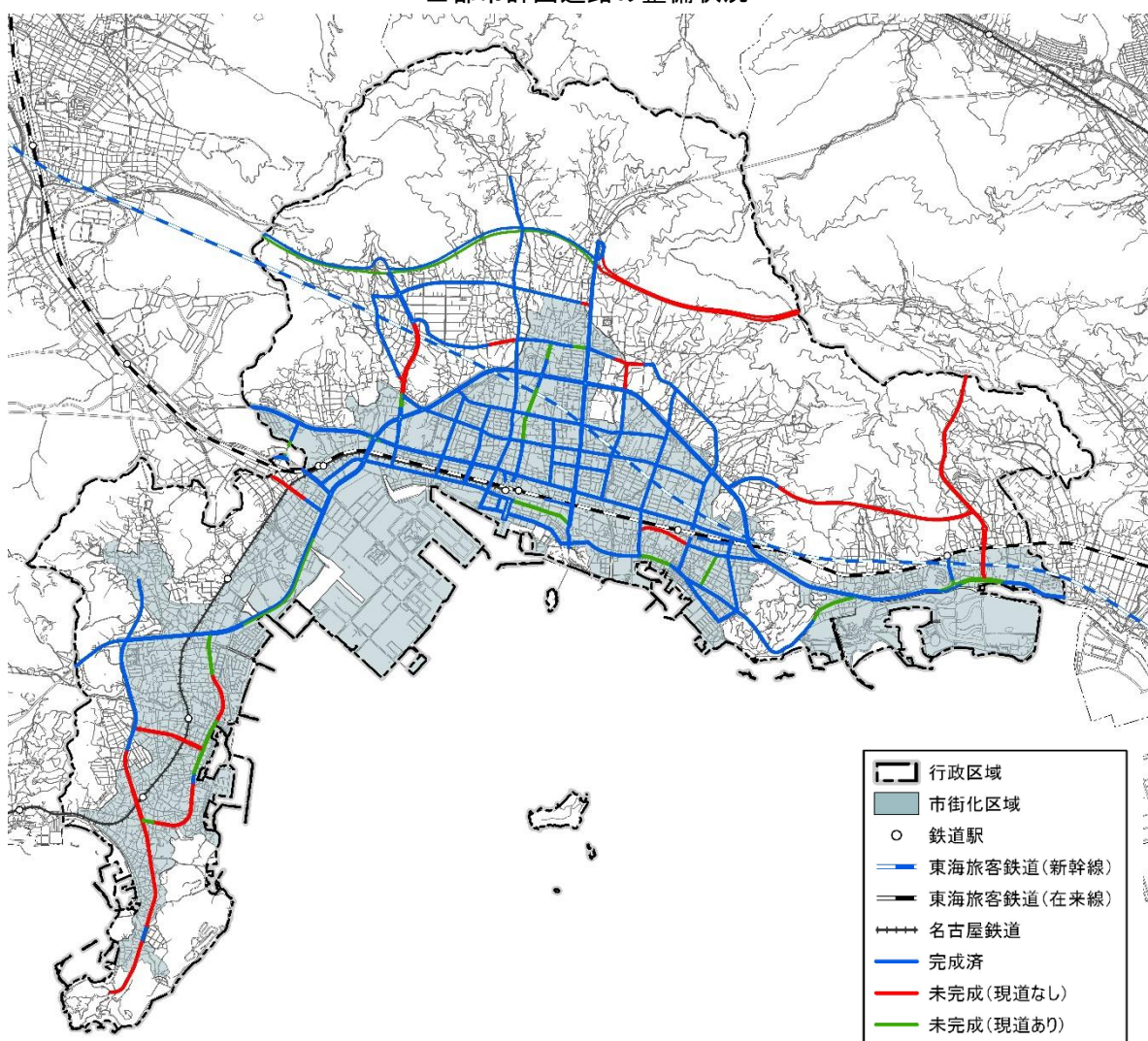
2-7 都市交通

(1) 都市計画道路の整備状況

現在の都市計画道路は 42 路線、延長 91,570m、駅前広場 5 箇所、面積 28,900 m²が都市計画決定されています。令和 4 年 3 月 31 日現在での改良済は、道路延長約 70,270m（整備率 77%）、広場整備 4 箇所となっています。

(都)名豊道路（国道 23 号蒲郡バイパス）や(都)大塚金野線、(都)竹谷柏原線といった路線が整備されておらず、広域交通網を形成する都市計画道路のネットワーク化がされていない状況です。

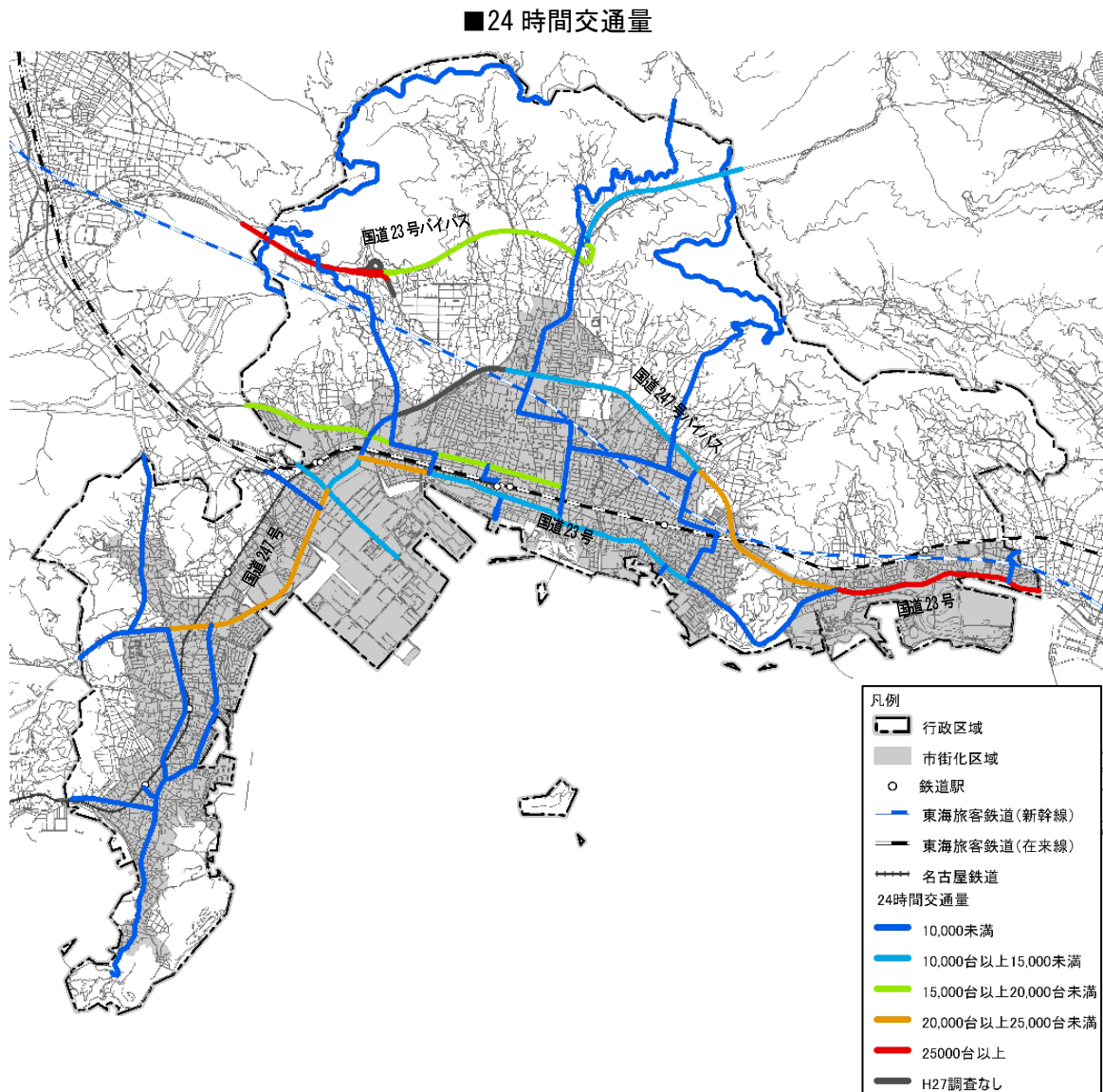
■都市計画道路の整備状況



(2) 道路交通の現状

① 交通量

名古屋方面へとつながる国道23号蒲郡バイパス、豊橋方面へとつながる国道247号中央バイパスや国道23号といった広域的な地域を連絡する道路と、浜町付近の国道247号で多くの自動車交通がある状況です。

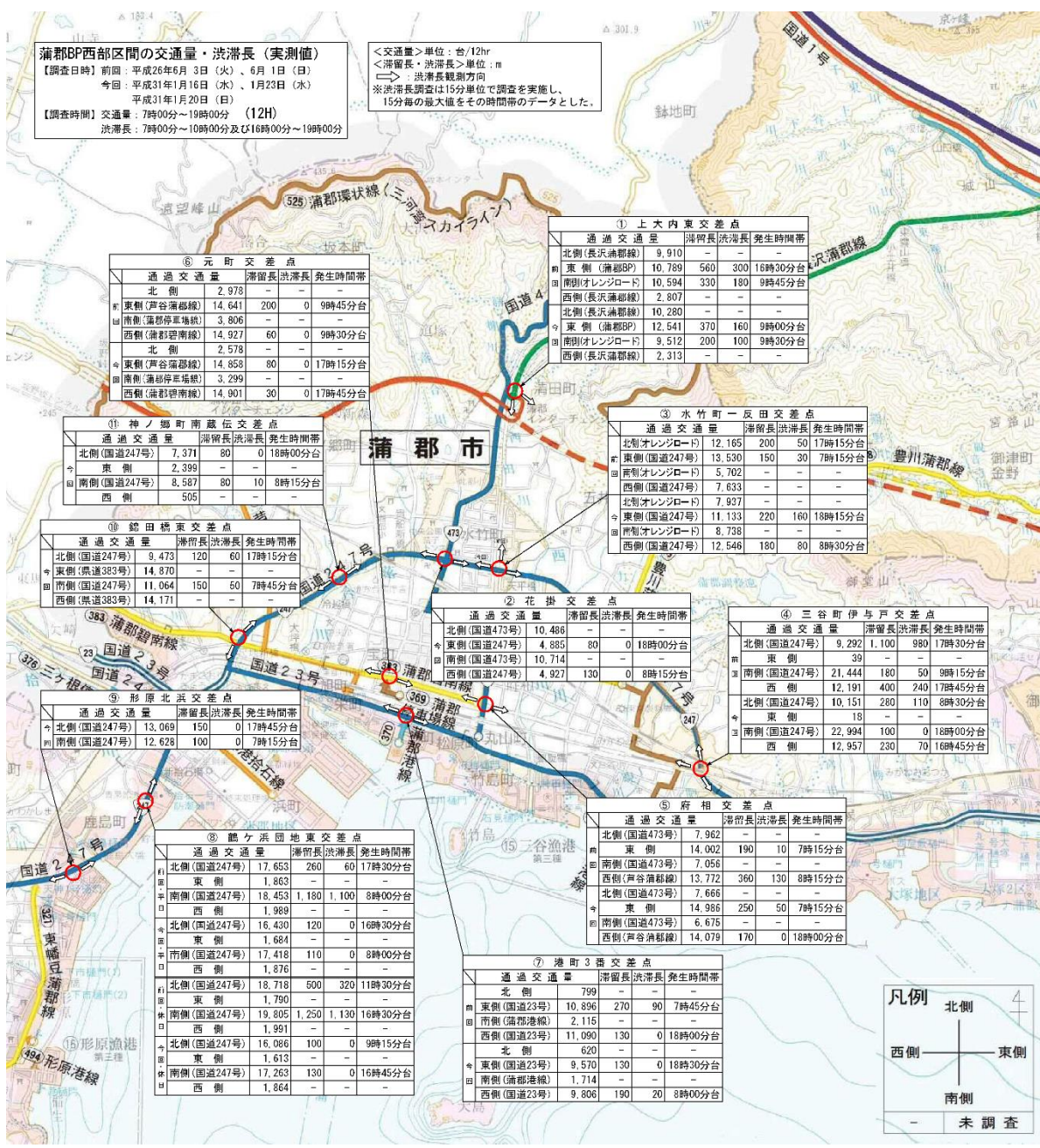


資料：平成27年度 道路交通センサス

【参考：愛知県東三河建設事務所 交通実態調査】

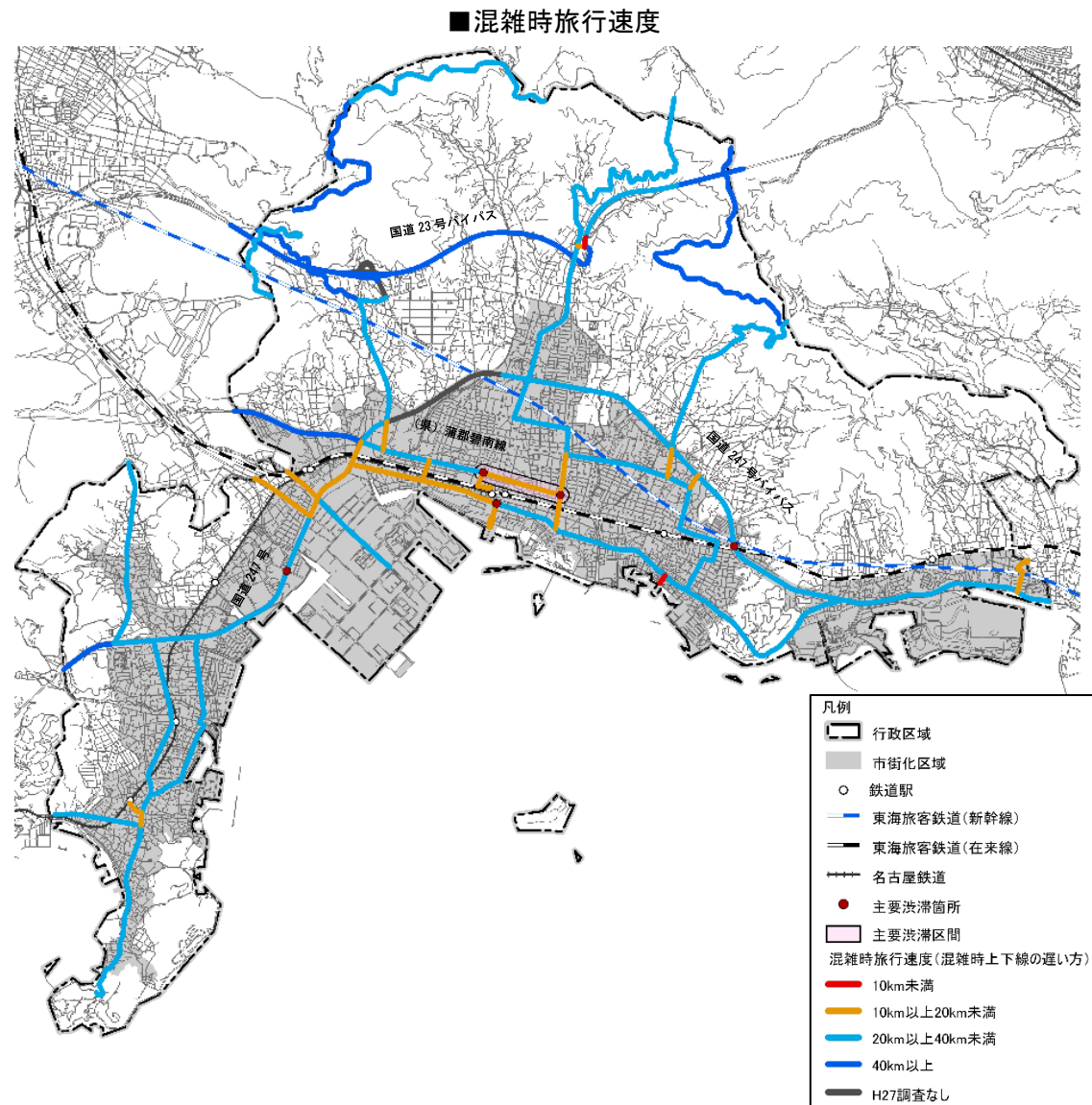
国道247号中央バイパス開通による中心部の交通実態の変化について

- ⑤ 府相交差点：③水竹町一反田交差点の東側右折が渋滞するため、⑤府相交差点東側から①上大内東交差点へ行くという流れが東側の交通量が増加した原因のひとつと思われる。その他変化は見られない。東側は渋滞長及び滞留長も増加している。西側の渋滞は見られなかった。
- ⑥ 元町交差点：東側と西側の方向の変化はあまり見られない。東西方向に比べて元々交通量の少ない南北方向については北側の交通量が約400台、南側の交通量が約500台それぞれ減少している。中央バイパス開通の影響により減少したとも考えられる。
- ⑦ 港町3番交差点：東西方向（国道23号）の交通量がそれぞれ東側は約1,400台、西側も約1,300台減少している。東側については滞留長も減少し、渋滞は見られなかった。こちらの国道23号も中央バイパス開通の影響で交通量が減少したと思われる。



② 混雑状況

(都)名豊道路(国道 23 号蒲郡バイパス)蒲郡インターチェンジや蒲郡駅周辺の道路、浜町付近の(都)名豊線(国道 247 号)が混雑しています。

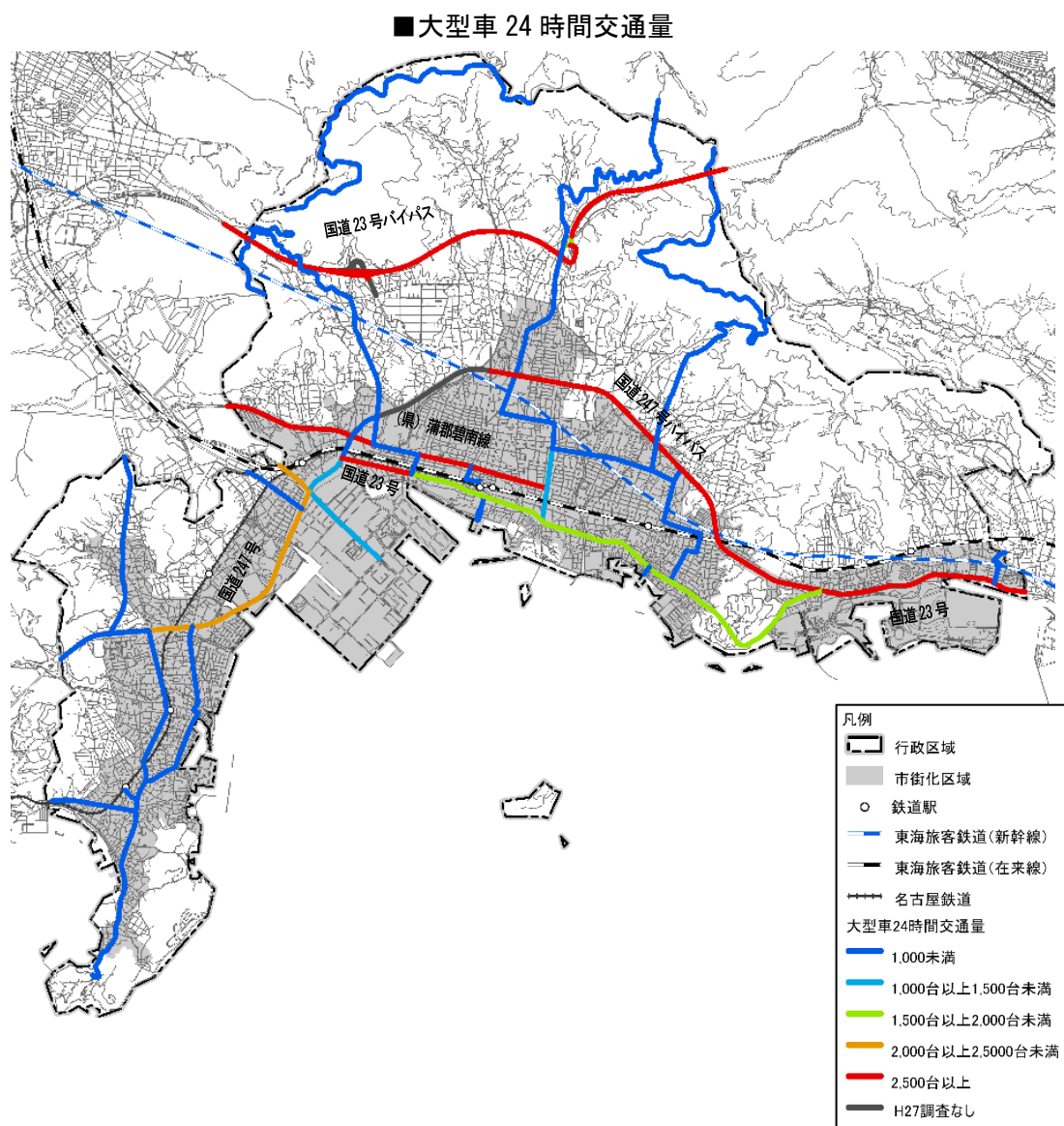


資料：平成 27 年度 道路交通センサス、愛知県道路交通渋滞対策推進協議会

③ 大型車交通量

名古屋方面へとつながる国道 23 号蒲郡バイパス、豊橋方面へとつながる国道 247 号中央バイパスや国道 23 号といった広域的な地域を連絡する道路の大型車交通量が多い状況です。

また、県道蒲郡碧南線など中心市街地を横断する道路でも多くの大型車交通が通過しています。

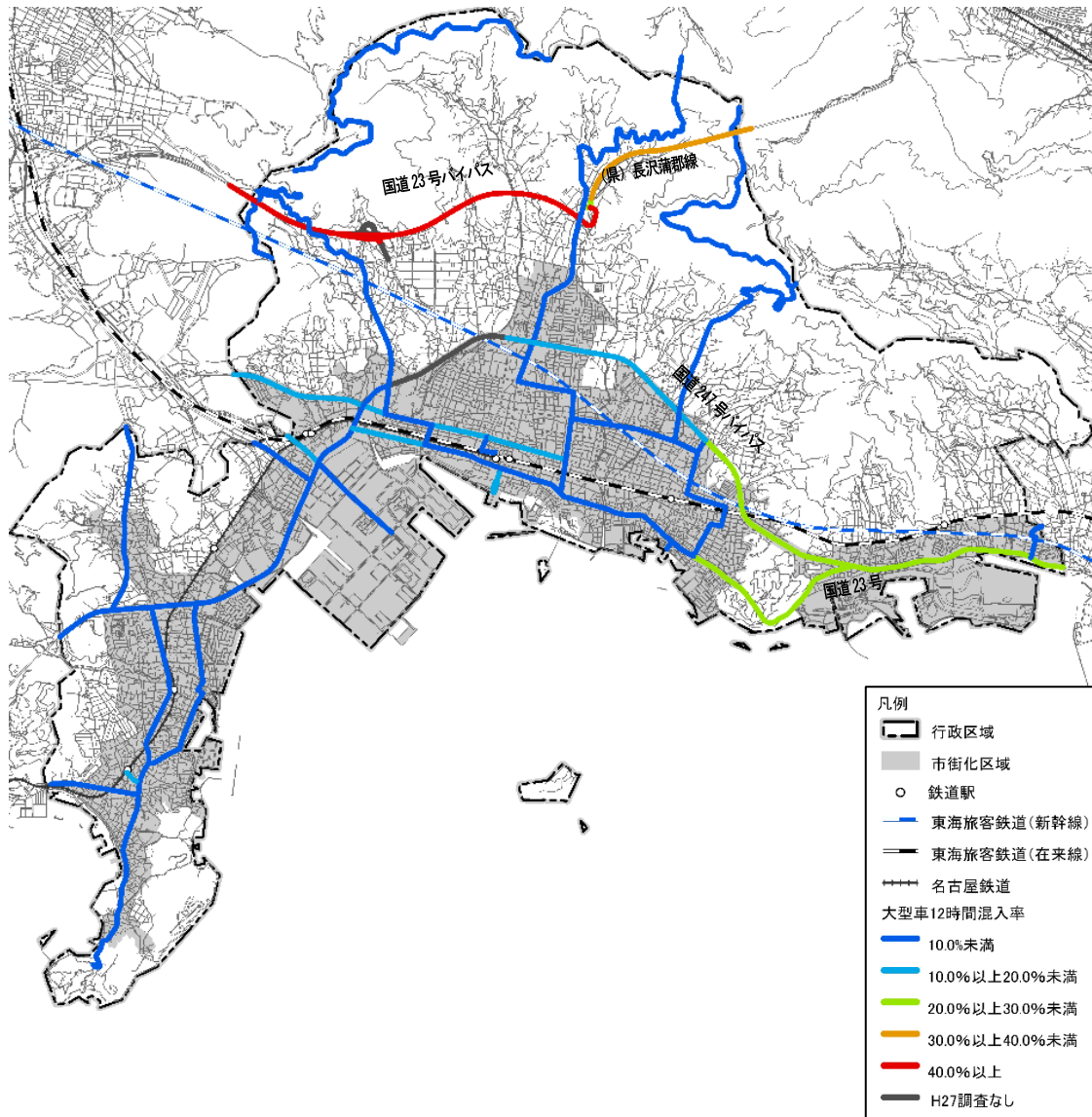


資料:平成 27 年度 道路交通センサス

④ 大型車混入率

名古屋方面へとつながる国道23号バイパスや、東名高速道路音羽蒲郡インターチェンジへとつながる県道長沢蒲郡線の大型車混入率が高い状況です。また、豊橋方面へとつながる国道247号バイパスや国道23号やといった広域的な地域を連絡する道路多く大型車混入率が高い状況です。

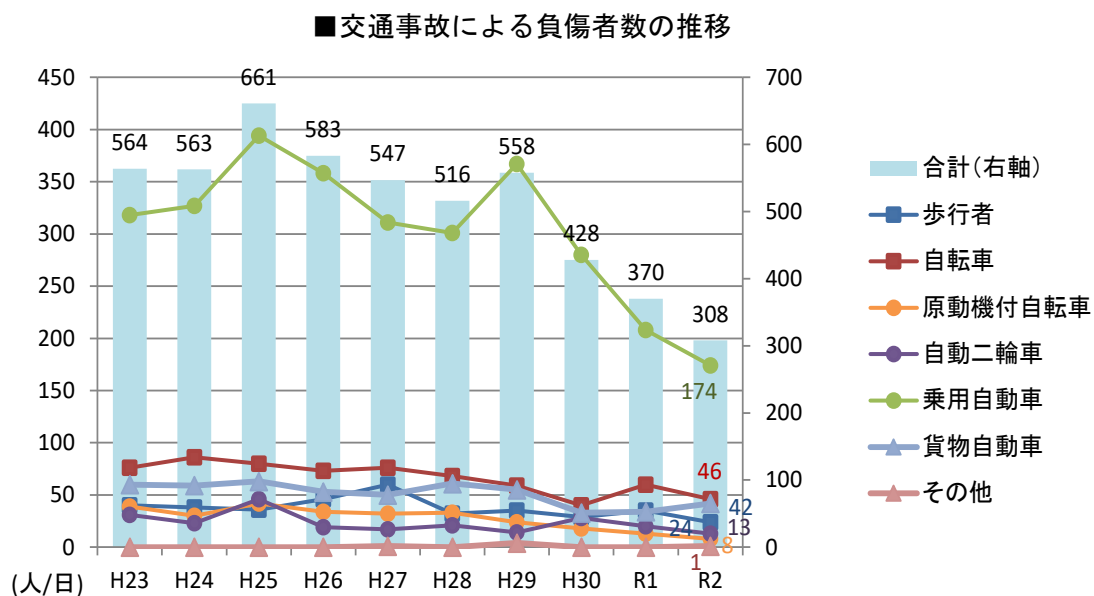
■大型車12時間混入率



資料：平成27年度 道路交通センサス

⑤ 交通事故の発生状況

交通事故による負傷者数は、乗用自動車が多くなっていますが、平成29年以降減少しています。負傷者数の合計も同様に減少しており、令和2年は、平成23年以降最も多い平成25年の661人の半数以下の308人となっています。



資料：蒲郡警察署

(3) 公共交通の整備状況

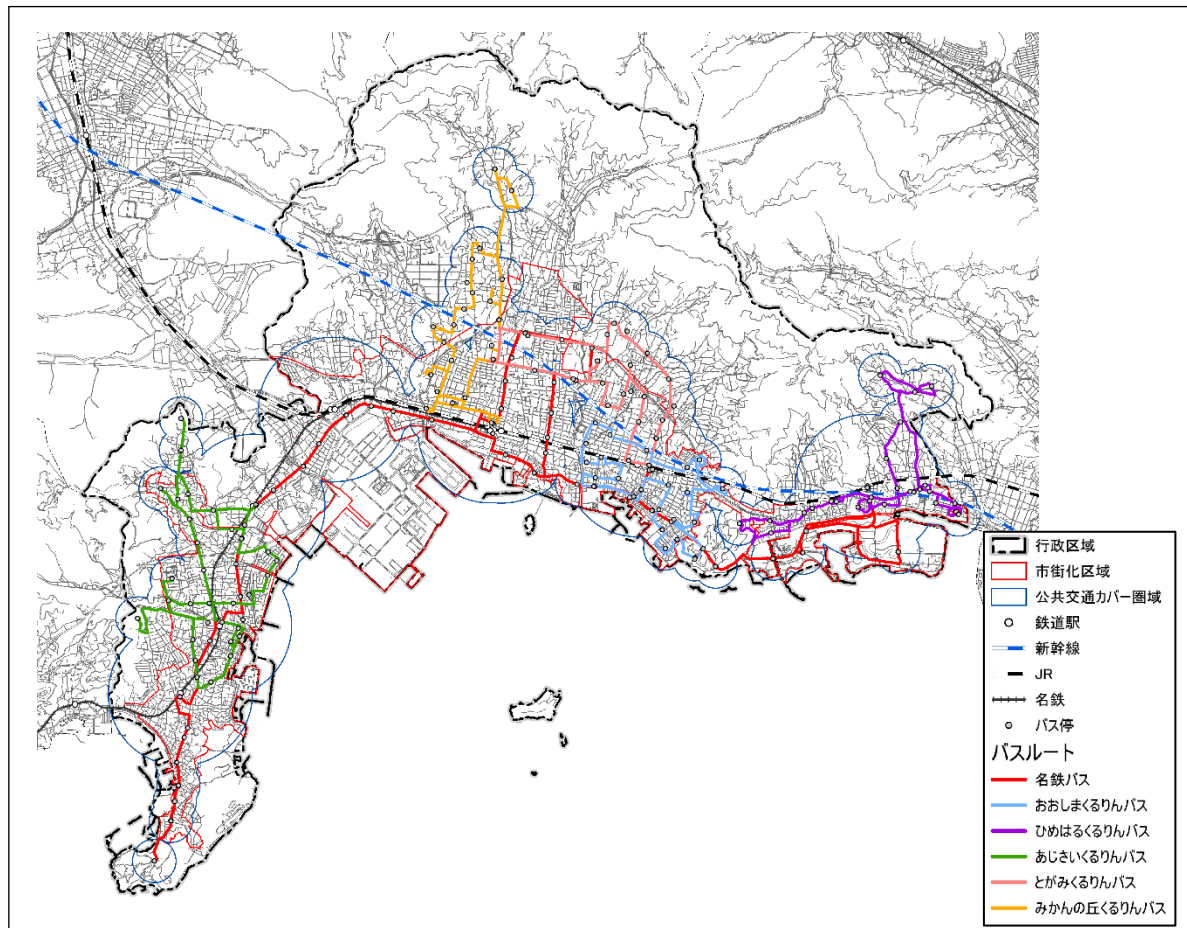
① 公共交通ネットワーク

本市には、JR 東海道本線と名鉄蒲郡線の鉄道2路線が整備され、JR 東海道本線は4駅、名鉄蒲郡線は5駅が整備されています。

蒲郡駅は、ピーク時に10便運行され、その他のJR駅についても4便運行されるなど、高頻度に運行されています。名鉄蒲郡線もピーク時に3便運行されるなど、鉄道が本市の公共交通の基幹軸を形成しています。

バスは、3路線の定期路線が整備されており、蒲郡駅や市民病院から東西に路線が整備されています。一方で、市東部の路線の運行本数が1日当たり5便(平日)と少ない他、蒲郡東部病院などの基幹的な都市施設へアクセスしていないなどの課題があります。

■蒲郡市内の公共交通の整備状況



■市内鉄道路線の整備状況、運行状況（JR 東海道本線）

駅名			三河塩津駅	蒲郡駅	三河三谷駅	三河大塚駅
運行 本数	1 日	上り	43	112	58	43
		下り	43	109	56	43
	ピーク 時	上り	4 (7 時台)	8 (8, 19 時台)	4 (8, 19, 20, 21 時台)	3 (6, 7, 8, 9, 20 時台)
		下り	4 (7 時台)	10 (7 時台)	4 (6, 7, 17, 18 時台)	4 (6, 7 時台)
	昼間	上り	2	6	3	2
		下り	2	6	3	2
運行 時間帯		上り	5 : 58 ～24 : 41	6 : 01 ～24 : 44	6 : 04 ～24 : 46	6 : 07 ～24 : 50
		下り	6 : 09 ～23 : 55	5 : 59 ～23 : 52	5 : 56 ～23 : 50	6 : 00 ～23 : 46

■市内鉄道路線の整備状況、運行状況（名鉄蒲郡線）

駅名			西浦駅	形原駅	三河鹿島駅	蒲郡競艇場 前駅	蒲郡駅
運 行 本 数	1 日	上り	35	35	35	35	35
		下り	35	35	35	35	-
	ピーク 時	上り	3 (6 時台)	2 (6～21 時台)	2 (6～21 時台)	2 (6～22 時台)	2 (6～22 時台)
		下り	2 (6～21 時台)	3 (6 時台)	3 (6 時台)	3 (6 時台)	-
	昼間	上り	2	2	2	2	2
		下り	2	2	2	2	-
運 行 時 間 帯		上り	6 : 03 ～23 : 05	5 : 55 ～23 : 03	5 : 52 ～23 : 00	5 : 49 ～22 : 58	5 : 47 ～22 : 55
		下り	5 : 58 ～23 : 05	6 : 00 ～23 : 08	6 : 03 ～23 : 10	6 : 06 ～23 : 13	-

■市内バス路線の整備状況、運行状況

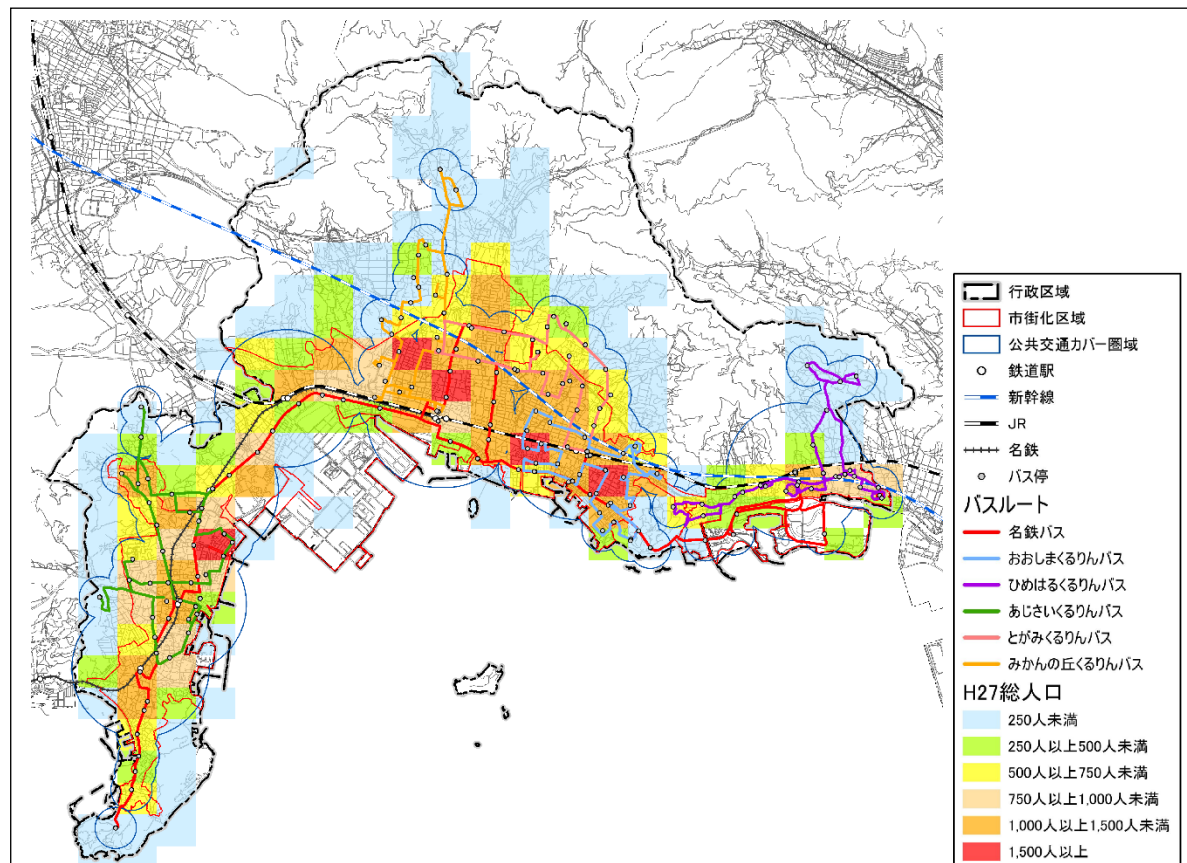
系統名	1 日当たり運行回数 (平日/休日)
西浦温泉前・蒲郡市民病院循環（左まわり）	11 / 9
西浦温泉前・蒲郡市民病院前（左まわり）	1 / 0
西浦温泉前・蒲郡市民病院循環（右まわり）	9 / 2
丸山住宅・蒲郡市民病院循環	2 / 2
丸山住宅・蒲郡駅前（市民病院経由）	1 / 1
丸山住宅・蒲郡駅前	1 / 1

② 公共交通のカバー圏域

公共交通のカバー圏域（鉄道駅から半径 1km またはバス停から半径 300m の範囲）に居住する人は 73,328 人であり、総人口の 90.4%を占めています。

一方で、人口集中地区や蒲郡中部土地区画整理事業施行区域であっても、公共交通カバー圏域外となっている地域があります。

■公共交通のカバー圏域（鉄道駅から半径 1km、バス停から半径 300m）



（公共交通のカバー圏域内の人口とカバー率の計測結果）

	H27	
	人口	カバー率
国勢調査人口	81,100	－
鉄道・名鉄バス	62,681	77.3%
鉄道・名鉄バス コミュニティバス	73,328	90.4%

※各時点の公共交通のカバー圏域内の人口は、カバー圏域内の 500m メッシュ人口の合計値。カバー圏域に一部のみ含まれるメッシュは、面積按分により人口を計上する。

③ 公共交通の利用状況

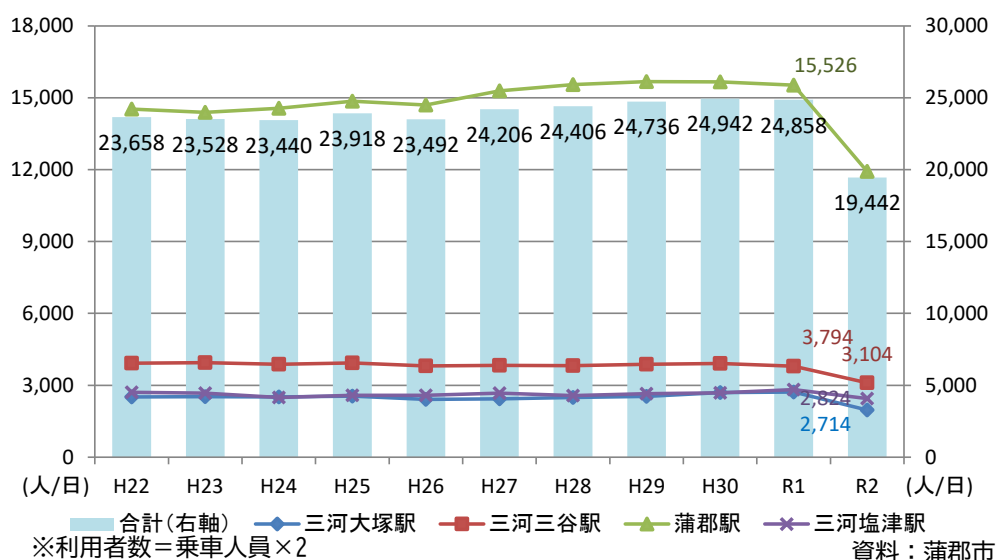
1) 鉄道の利用状況

JR 東海道本線は、蒲郡駅の利用者が最も多く、次に多いのが三河三谷駅となっています。蒲郡駅の利用者は、平成 26 年以降増加傾向にありましたが、令和元年に減少に転じています。また、近年は、三河三谷駅では横ばいで推移している一方、三河大塚駅や三河塩津駅では増加しています。

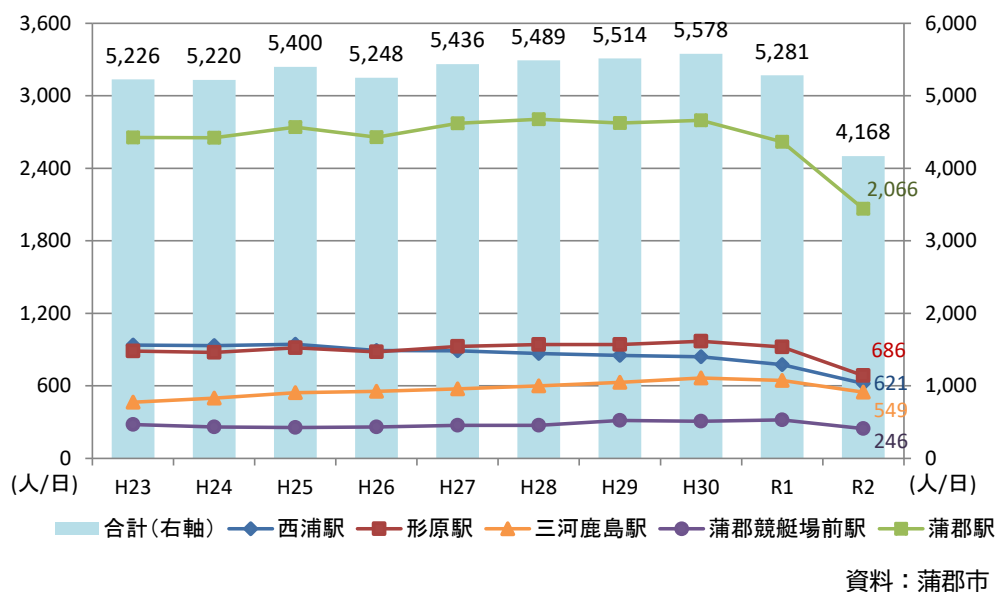
名鉄蒲郡線は、三河鹿島駅では近年増加していますが、その他の駅では横ばいや減少で推移しています。

令和 2 年に全ての駅で利用者数が減少し、全体の利用者数は約 2 割減少しています。

■ JR 東海道本線の利用者数の推移



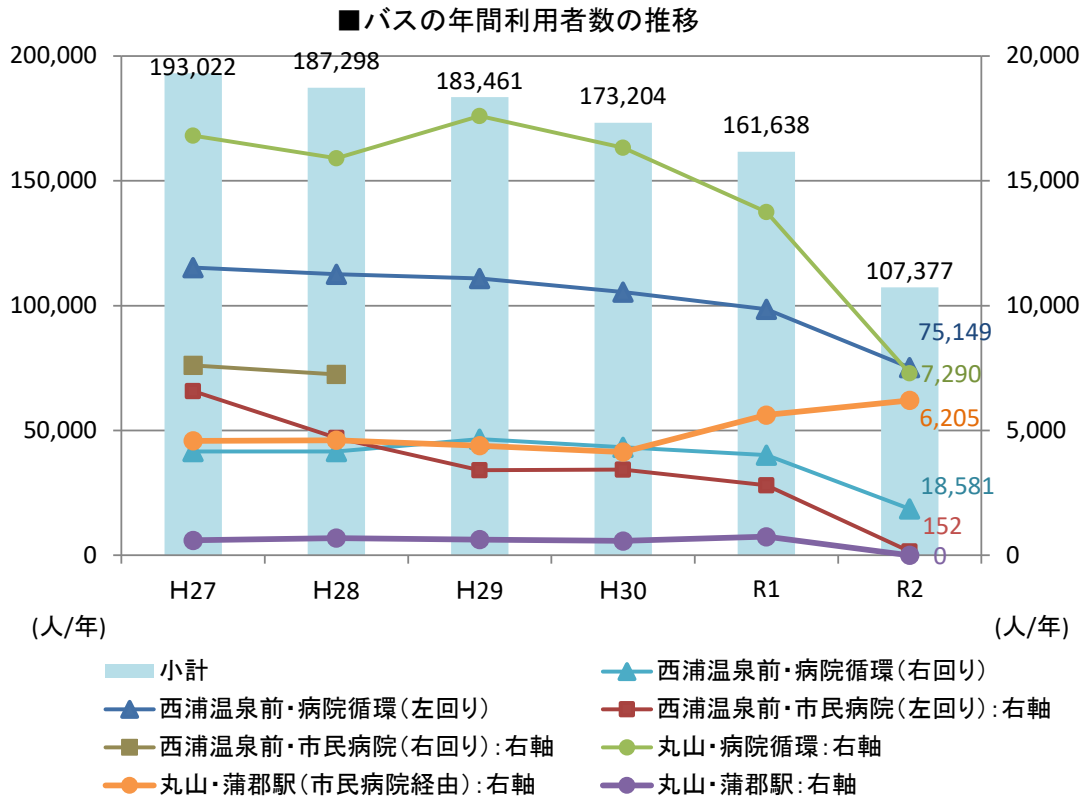
■ 名鉄蒲郡線の利用者数の推移



2) バスの利用状況

バスの全体の利用者数は、平成29年以降、減少傾向にあります。

路線別に見ると、西浦温泉前・病院循環（左回り）の利用者数が最も多くなっています。平成29年以降、全体的に利用者数が減少していますが、丸山・蒲郡駅（市民病院経由）は増加しています。

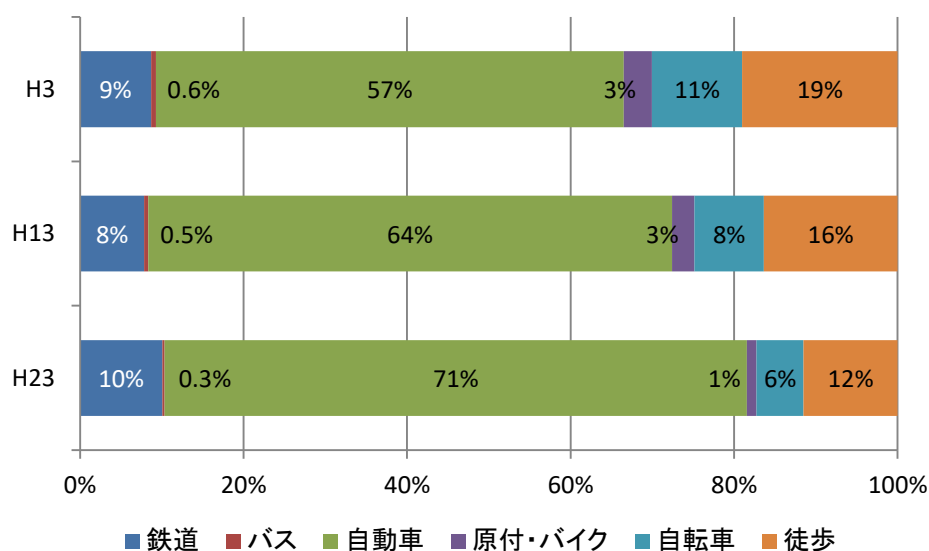


資料：蒲郡市

(4) 代表交通手段別分担率

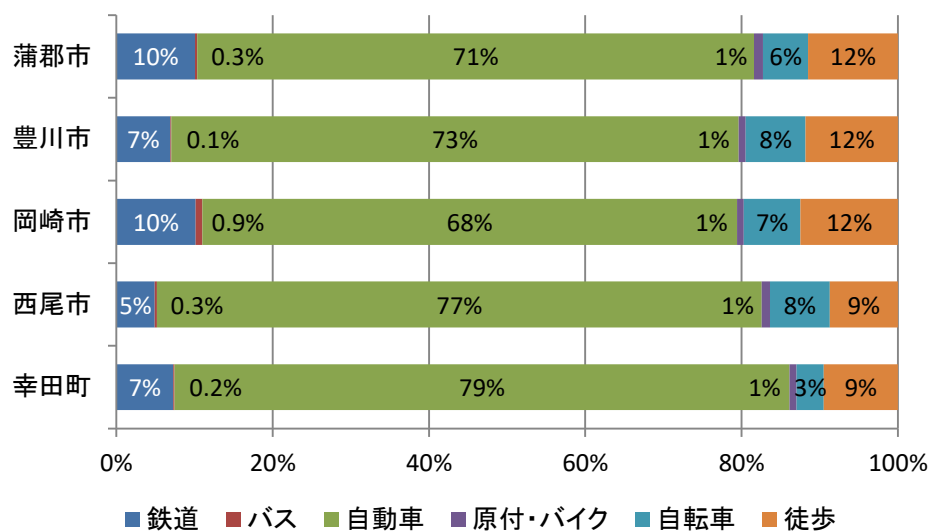
代表交通手段別分担率の推移を見ると、公共交通に比べて自動車が過去から多いことがわかります。また、自転車や徒歩の分担率が減少し、自動車の分担率が増加しています。近隣市と比較すると、概ね平均的な値となっています。

■蒲郡市関連の代表交通手段別分担率の推移



資料：第5回中京都市圏パーソントリップ調査

■代表交通手段別分担率近隣市との比較



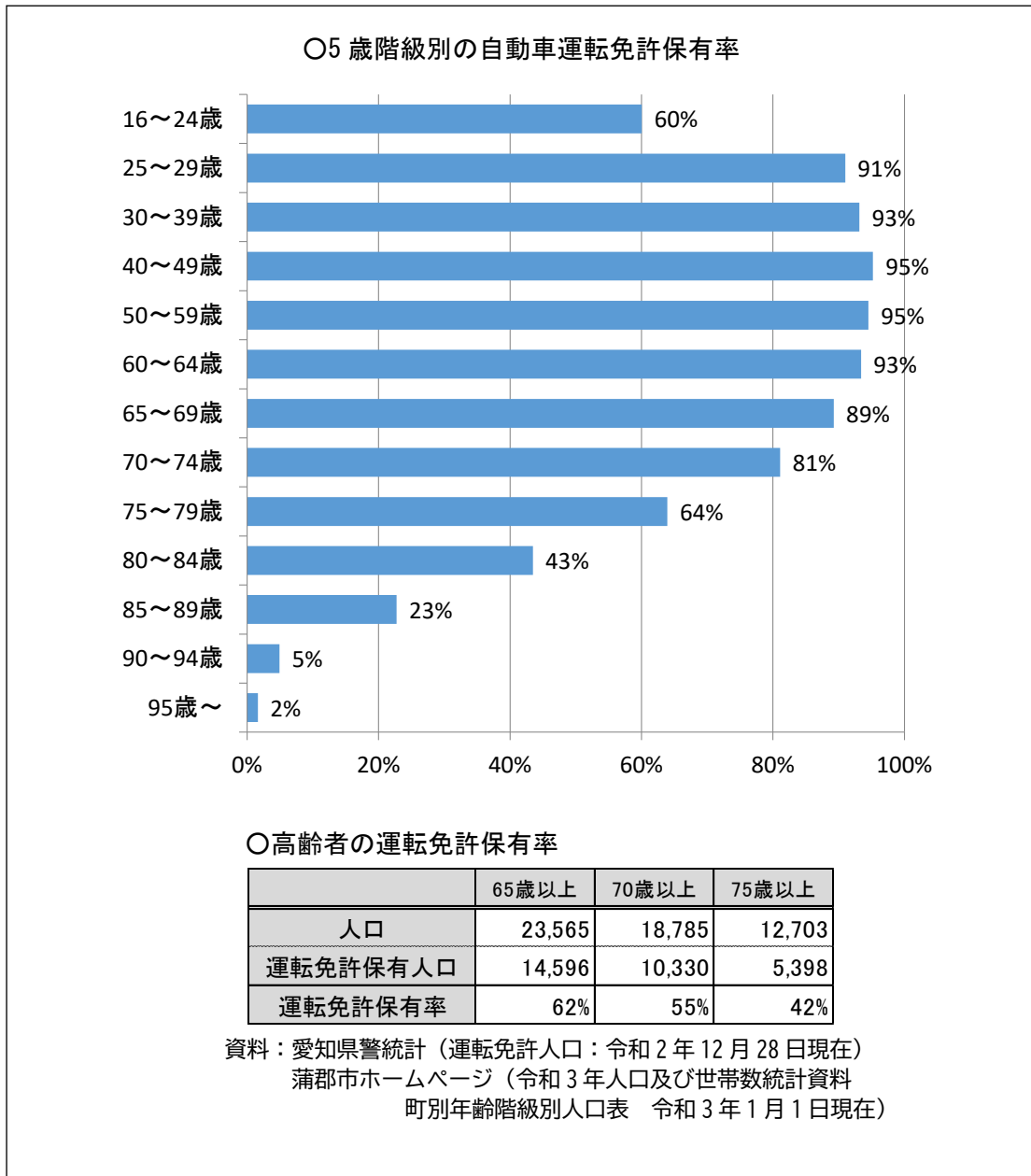
資料：第5回中京都市圏パーソントリップ調査

(5) 年齢別の普通自動車運転免許の保有状況

25歳から64歳の市民の9割以上が運転免許を保有しています。

65歳以上の高齢者は、年齢が高くなるにつれ保有率が減少しており、65歳以上の保有率は62%となっています。また、75歳以上となると保有率はさらに減少し、42%となっています。

■蒲郡市民の自動車運転免許の保有状況



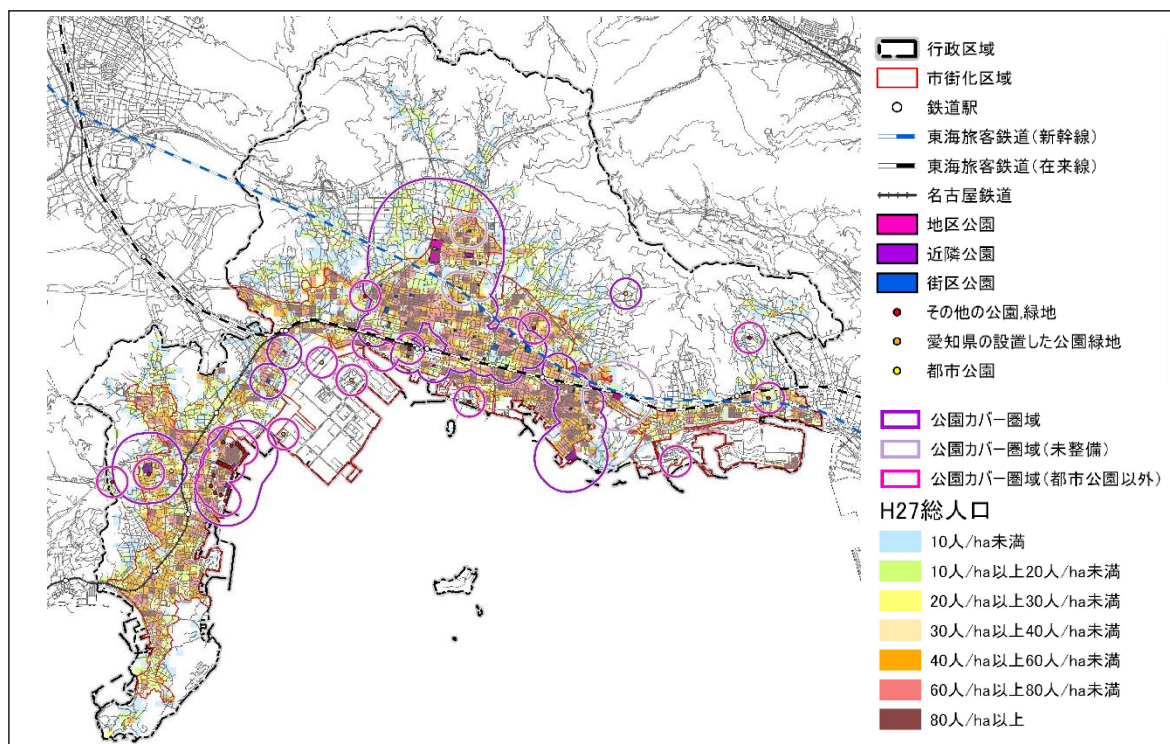
2-8 公園・緑地

令和4年3月31日現在では、都市計画決定した公園が全38箇所 23.29ha、供用開始した公園が33箇所 21.41ha（整備率92%）となっています。未整備の5つの公園のうち、星越公園は一部供用済みであり、その他の4公園は進捗中の蒲郡中部土地区画整理事業により整備される公園です。

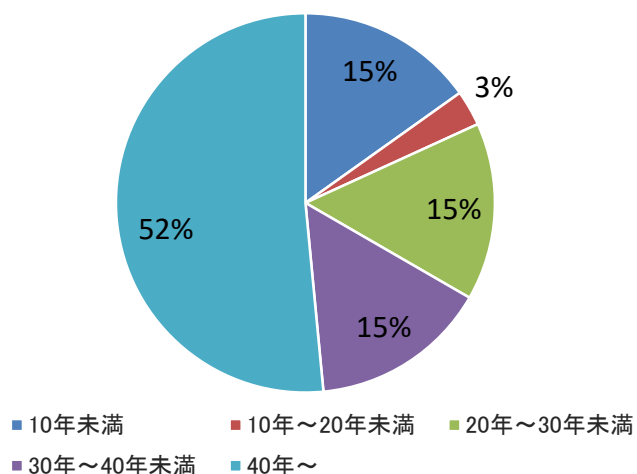
一方で、三河大塚駅や西浦駅周辺、三河三谷駅南側では、身近な場所に公園などがない状況です。

また、整備済み(供用開始済み)公園のうち、半数が供用開始から40年以上経過している状況です。

■都市公園の整備状況



■整備済みの都市計画公園の供用年数



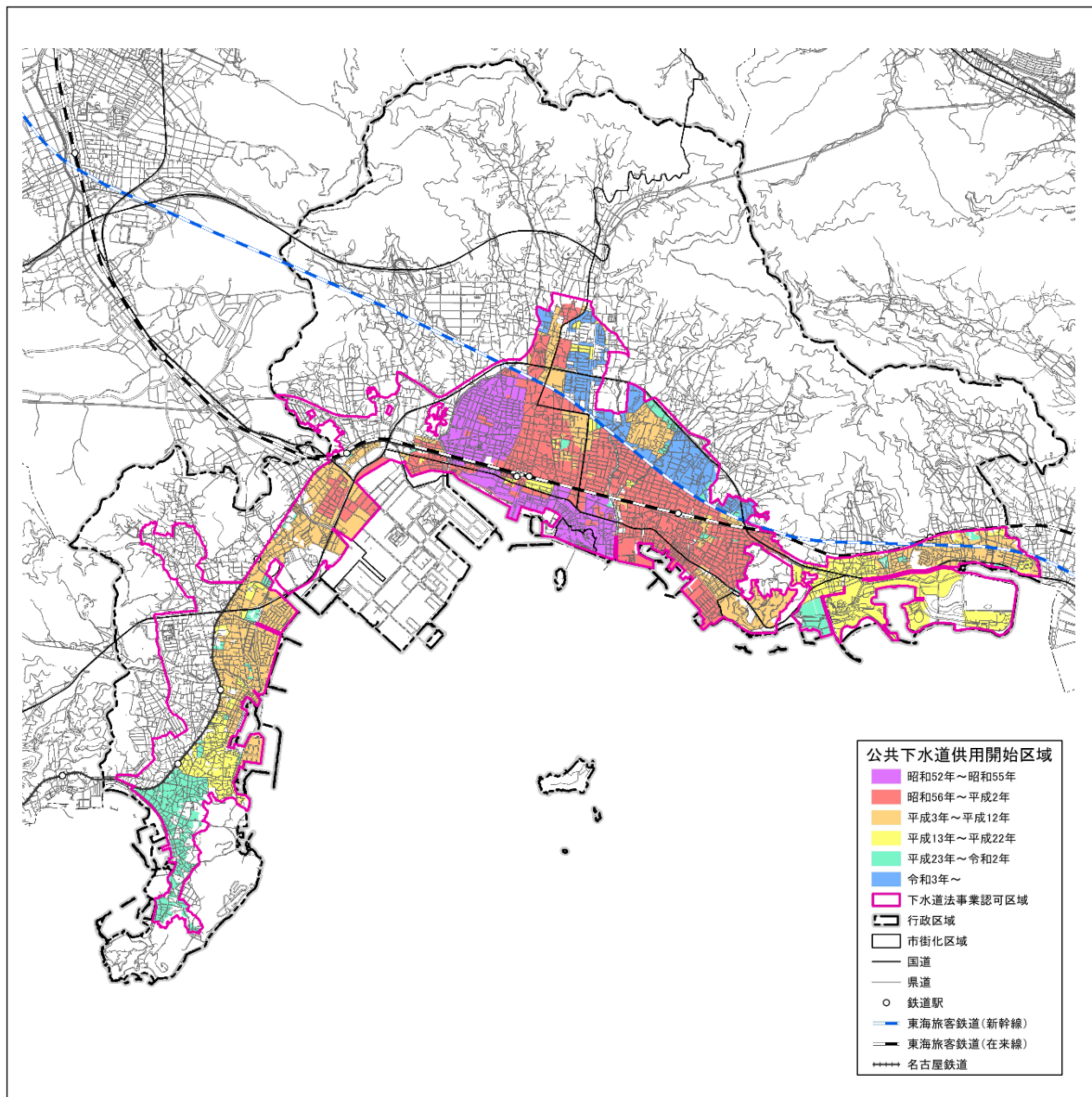
2-9 下水道

事業計画面積は、令和4年3月31日現在で1,808.2haであり、そのうち1,313.4ha(72.6%)が整備済みです。

処理区域内人口は54,986人で、普及率(行政人口に対する下水道利用可能人口の割合)は69.5%となっています。

供用開始から40年以上経過している区域があるなど、管路などの施設の老朽化が進行しています。

■公共下水道供用開始区域

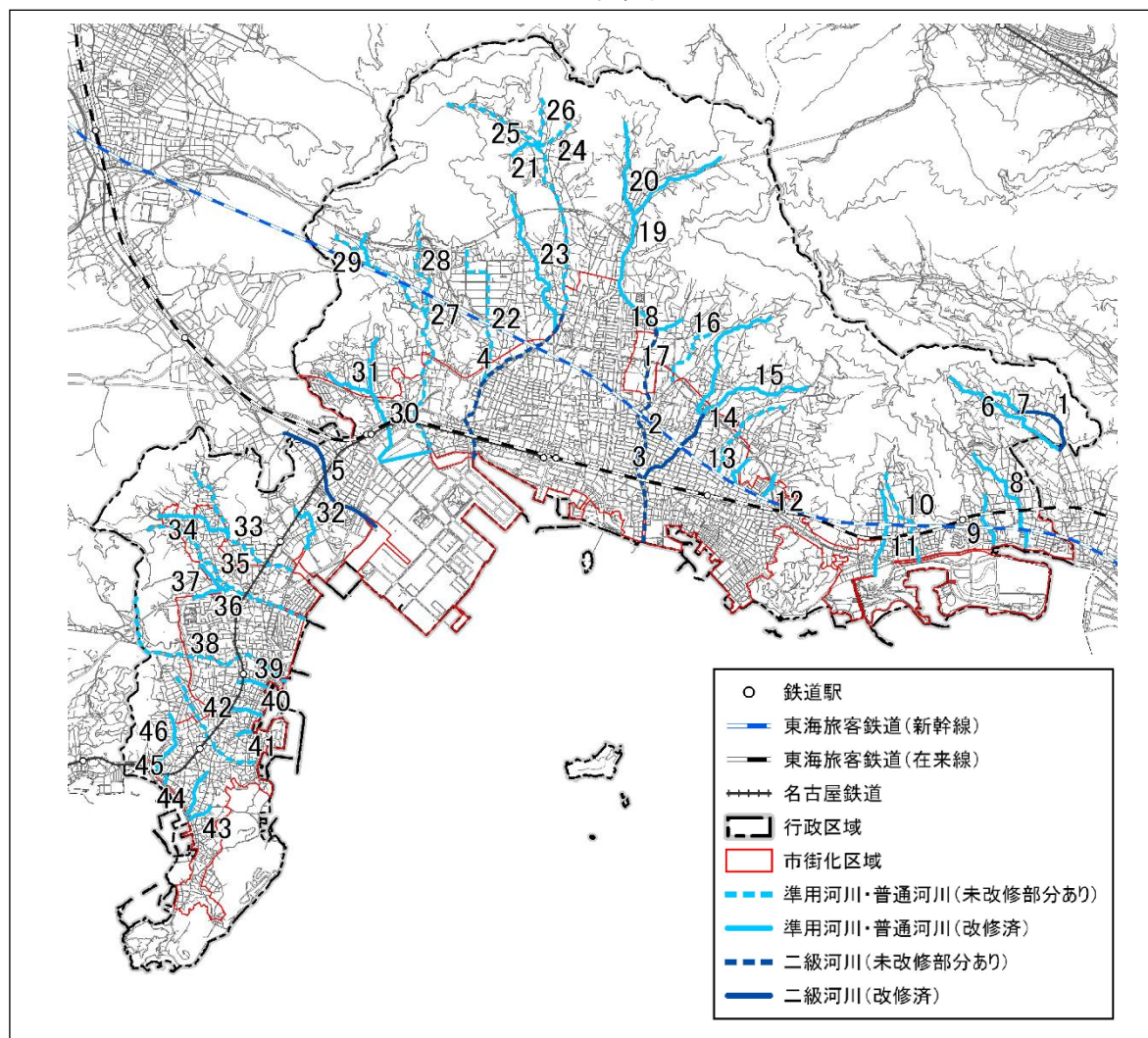


資料：蒲郡市資料

2-10 河川

市内には、5つの二級河川（紫川、西田川、力川、落合川、拾石川）と41の準用河川及び普通河川があります。二級河川の整備率が67%、準用河川及び普通河川の整備率は95%となっています。

■河川位置図



資料：蒲郡市資料

■河川の整備状況

	番号	河川名	番号	河川名	番号	河川名	番号	河川名	番号	河川名
二級河川	1	紫川	2	西田川	3	力川	4	落合川	5	拾石川
準用河川及び普通河川	6	紫川	7	相楽川	8	丹下川	9	丸差川	10	勝川
	11	宮川	12	肥川	13	硯川	14	神田川	15	山林川
	16	力川	17	平田川	18	五井川	19	西田川	20	善棚川
	21	落合川	22	名取川	23	兼京川	24	東坂本川	25	西坂本川
	26	大沢川	27	尺地川	28	石神川	29	大迫川	30	都川
	31	西迫川	32	鹿島川	33	中野川	34	寺中川	35	天神川
	36	小山川	37	秋葉川	38	袋川	39	地藏川	40	狭間川
	41	港川	42	境川	43	勘七川	44	竜田川	45	田次兵衛川
	46	下地川								

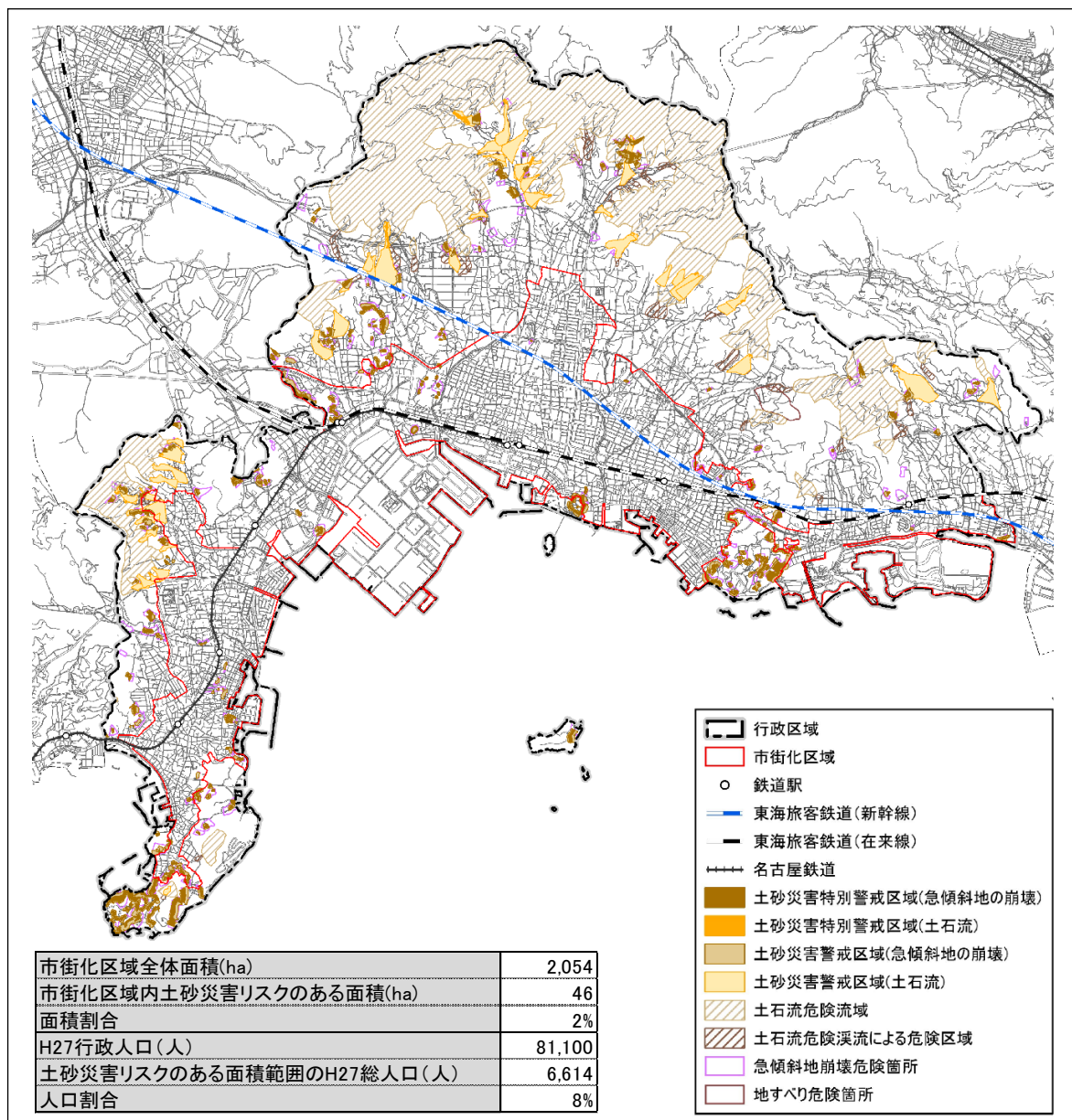
資料：蒲都市資料

2-1 1 災害リスク

(1) 土砂

土砂災害の危険性が高い区域は主に市街化調整区域に分布していますが、三河塩津駅北側や竹島町など市街化区域で、多くの人が来訪するエリアに土砂災害特別警戒区域などが分布しています。

■土砂災害の危険性のある区域など



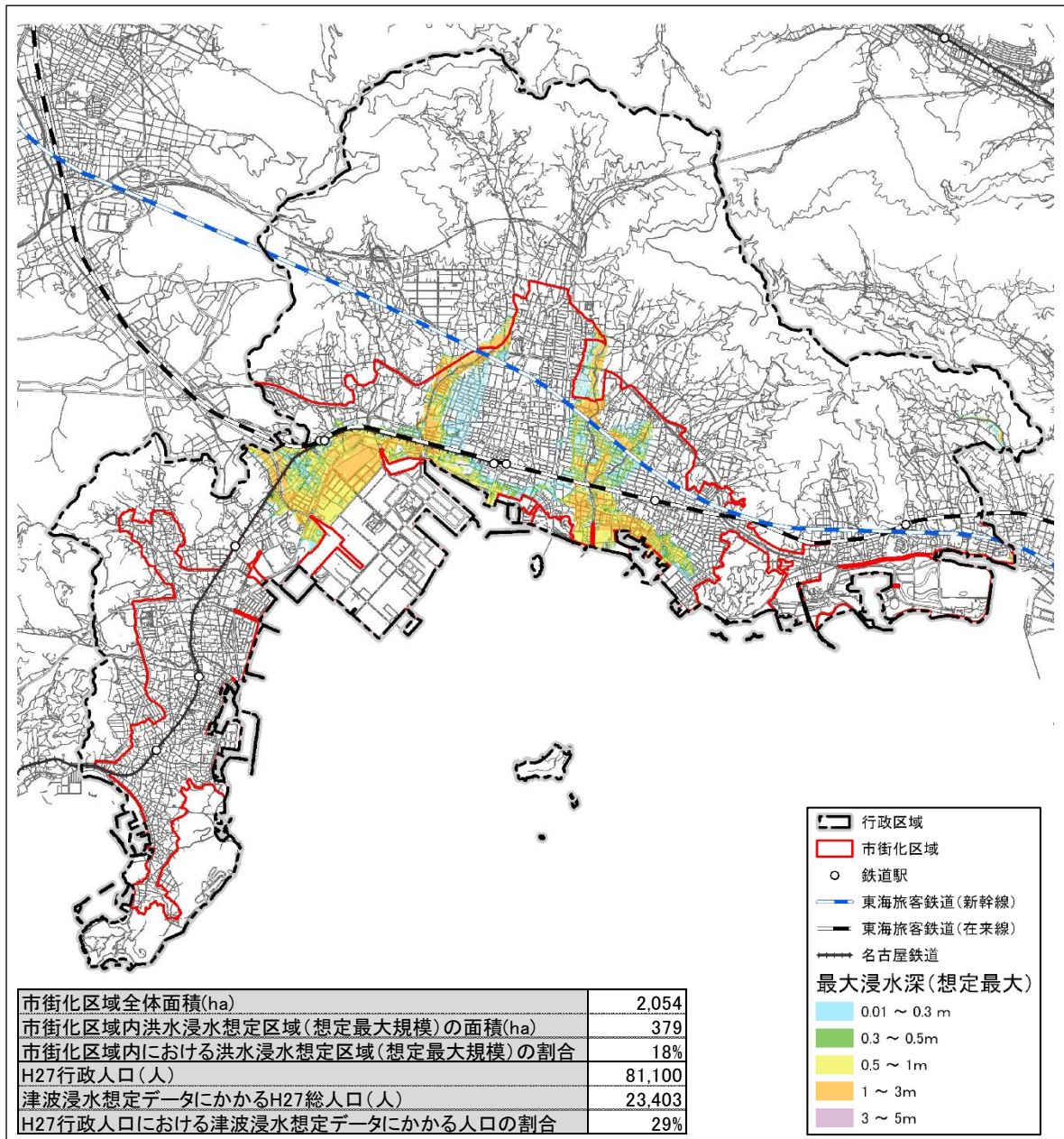
資料：愛知県土砂災害情報マップ、国勢調査

(2) 洪水

愛知県から、令和3年3月に拾石川と紫川、令和4年3月に西田川と落合川の浸水予想が公表されています。

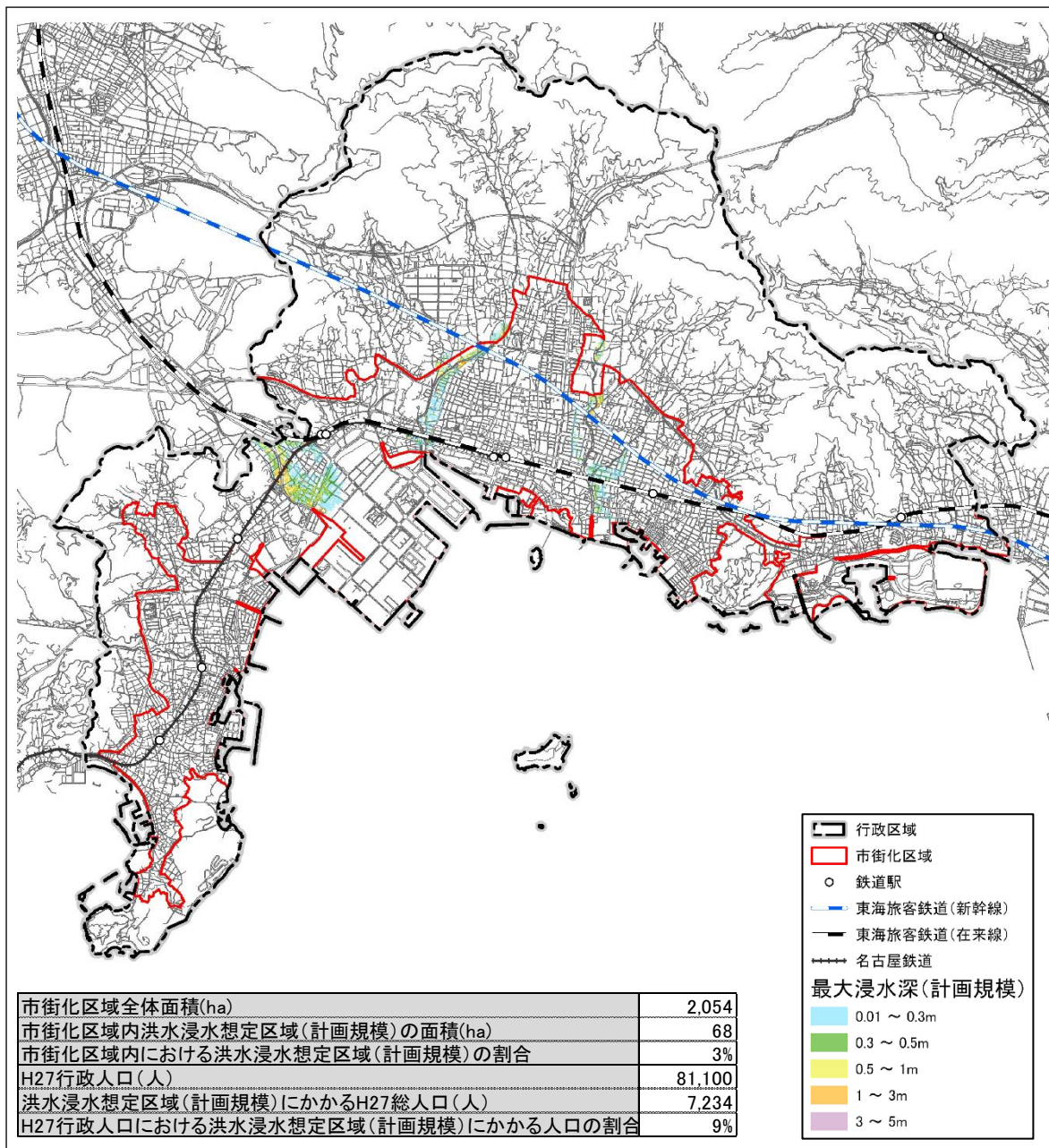
洪水による浸水想定範囲は、想定最大規模では、三河塩津駅、蒲郡競艇場前駅周辺、三河三谷駅周辺などで、計画規模では、河川沿いの市街地などで、3m未満の水深が想定されています。

■洪水の浸水想定区域（想定最大規模）



資料：愛知県データ（令和3年3月、令和4年3月）、国勢調査

■洪水の浸水想定区域（計画規模）



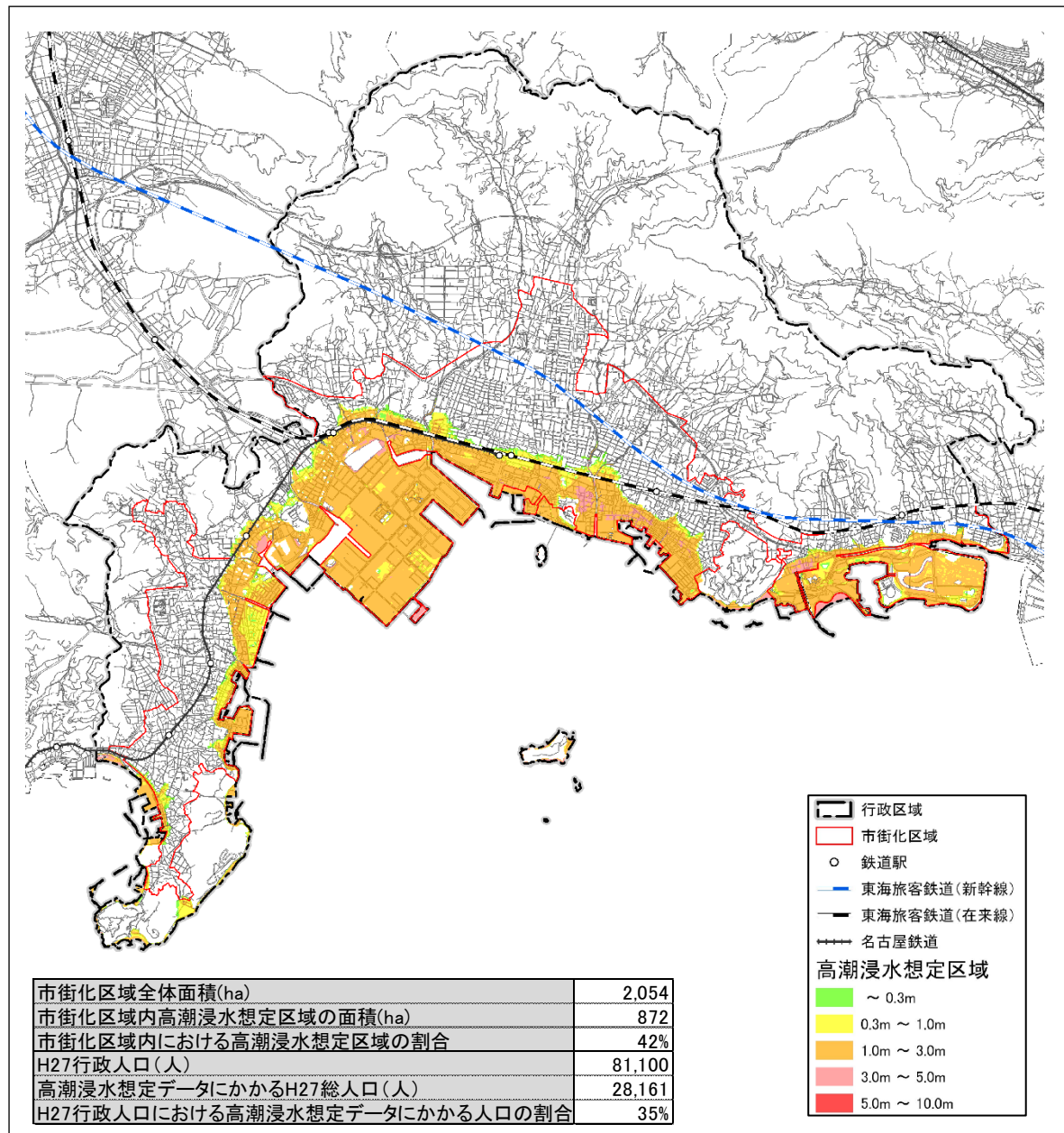
資料：愛知県データ（令和3年3月、令和4年3月）、国勢調査

(3) 高潮

令和3年6月に、愛知県から、水防法に基づく高潮浸水想定が公表されています。

高潮による浸水想定範囲は、本市の中心的な市街地である蒲郡駅周辺など、市街化区域の約4割の面積を占めています。また、市民の35%が居住しています。

■高潮の浸水想定区域



資料：愛知県高潮浸水マップ（令和3年6月）、国勢調査

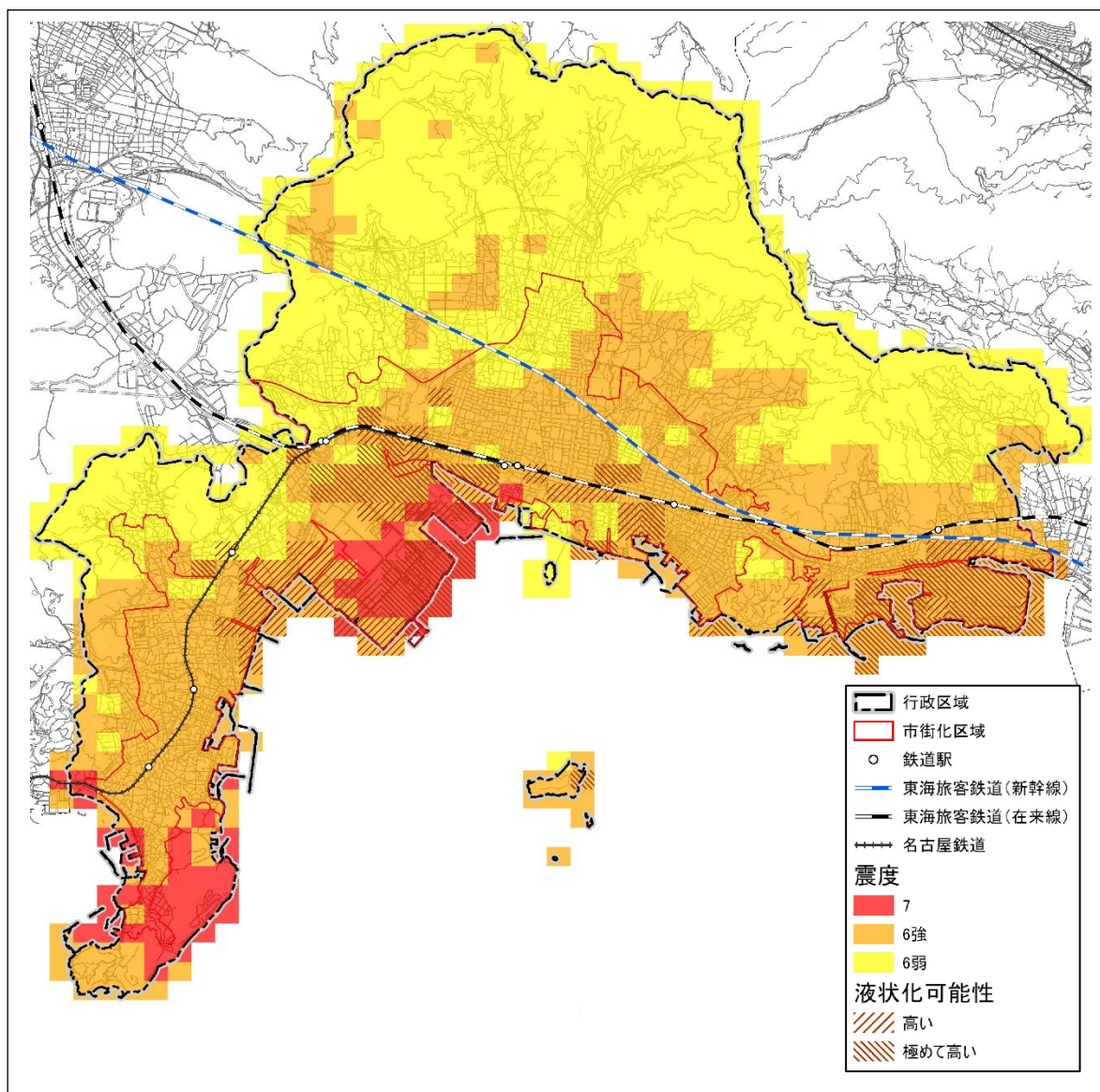
(4) 地震

平成26年5月に、愛知県から震度分布及び液状化の可能性の分布図が公表されています。

市街化区域において、震度が大きく、特に浜町や西浦町周辺では震度7となることが想定されています。

また、液状化については、浜町周辺や海陽町などの埋め立て地周辺で危険度が高い状況です。

■震度分布及び液状化の可能性（理論上最大想定モデルによる想定（陸側ケース））



資料：平成23年度～25年度愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果
愛知県防災会議地震部会（平成26年5月）

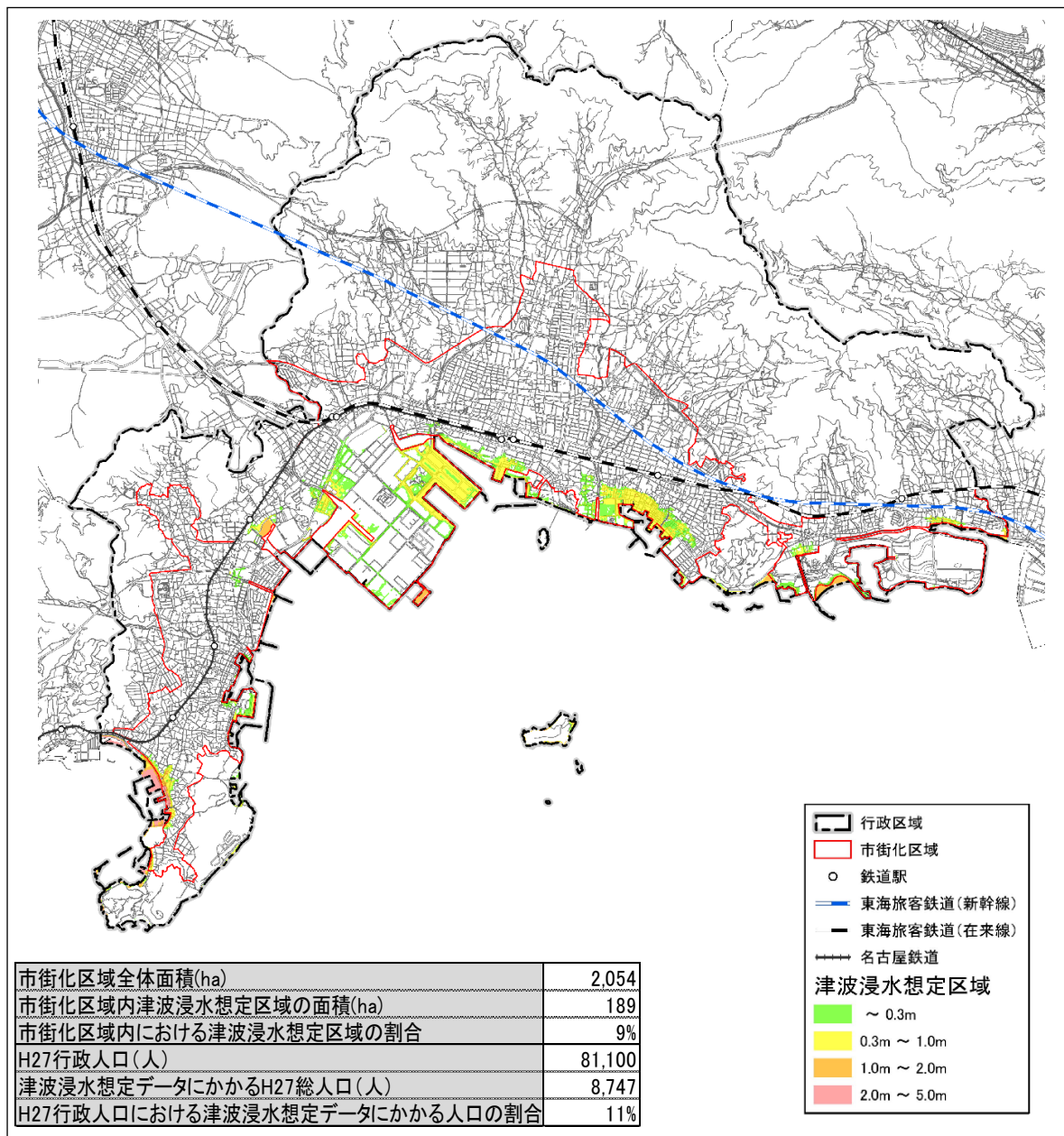
(5) 津波

平成26年11月に、愛知県から、津波防災地域づくりに関する法律に基づく津波浸水想定が公表されています。

津波の浸水想定区域は、市街化区域の約1割の面積を占めており、市民の1割が居住しています。このうち、建物被害が大きくなると考えられる津波浸水深が2m以上のエリアが、知柄漁港周辺に分布しています。

また、浸水想定区域は、愛知県により、令和元年7月30日に、最大クラスの津波が発生した場合に住民などの生命又は身体に危害が生ずる恐れがあり、津波による人的被害を防止することを目的とした「津波災害警戒区域」に指定されています。

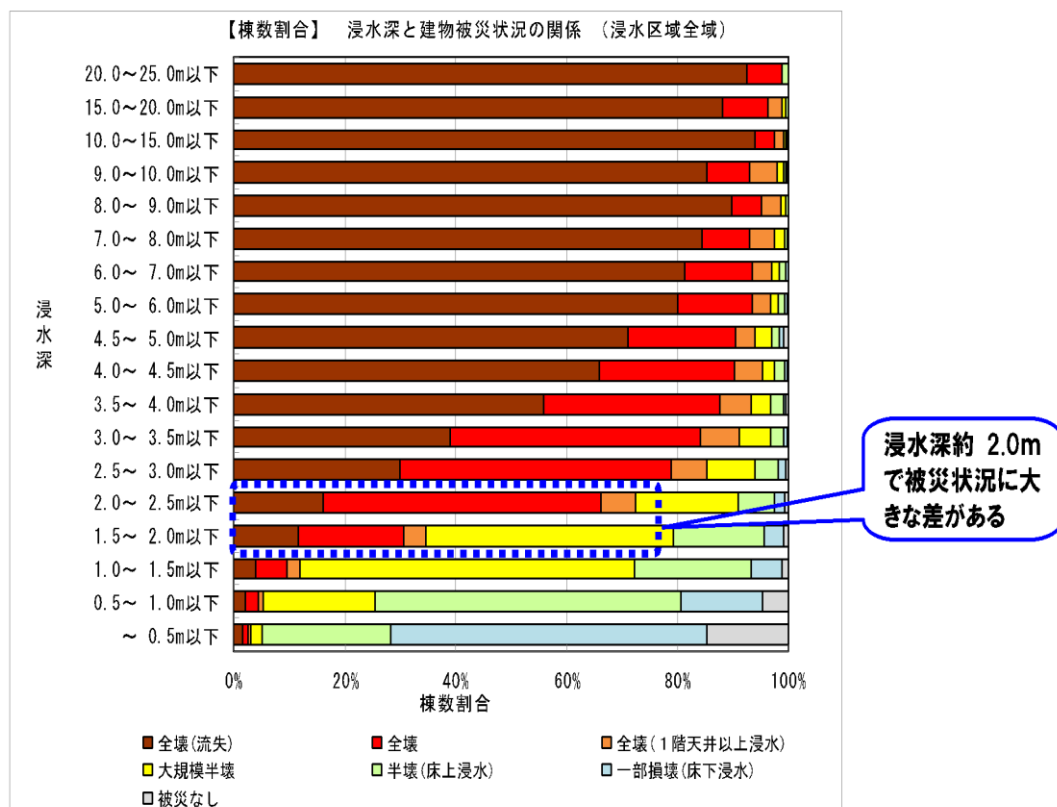
■津波の浸水想定区域



資料：愛知県データ（平成26年11月）、国勢調査

【東日本大震災による被災現況調査結果について】

浸水深ごとの建物被災状況の構成割合を見ると、浸水深 2.0m 前後で建物被災状況に大きな差があり、浸水深 2m 以下の場合には建物が全壊となる割合は大幅に低下することがわかりました。



資料：津波被災市街地復興手法検討調査(とりまとめ)（平成 24 年 4 月国土交通省）

【想定最大規模の水害に係る浸水想定区域と浸水深（洪水、内水、高潮）、

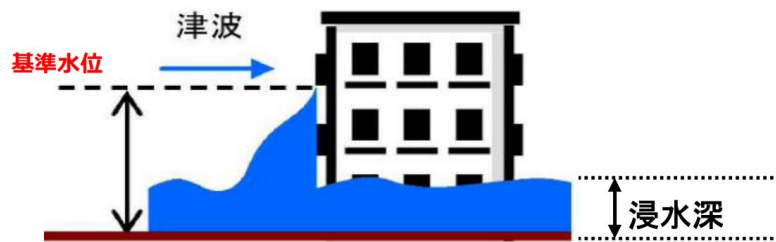
津波災害警戒区域と津波基準水位（津波）】

- ・国・都道府県または市町村から提供される浸水想定に関するデータを用い、20m、10m、5m、3m、0.5m を境界とした 6 段階に区分して浸水深を色分けすることを洪水、内水、高潮、津波で共通とする。
- ・津波では、浸水深に代えて津波基準水位（浸水予測に基づく浸水深に建築物等への衝突によって生じる津波の水位上昇（せき上げ）を加えた水位）を用いるものとする。

資料：水害ハザードマップ作成の手引き（平成 28 年 4 月 国土交通省）

【基準水位】

- ・基準水位は、津波浸水想定で定める浸水深に、建築物等への衝突による津波の水位上昇を考慮して認められる値を加えて定める水位です。基準水位は津波に対して適切な避難高さであるため、避難施設等の効率的な整備の目安となります。なお、基準水位は、津波浸水想定における浸水深と同様に地盤面からの高さ（水深）で表示します。

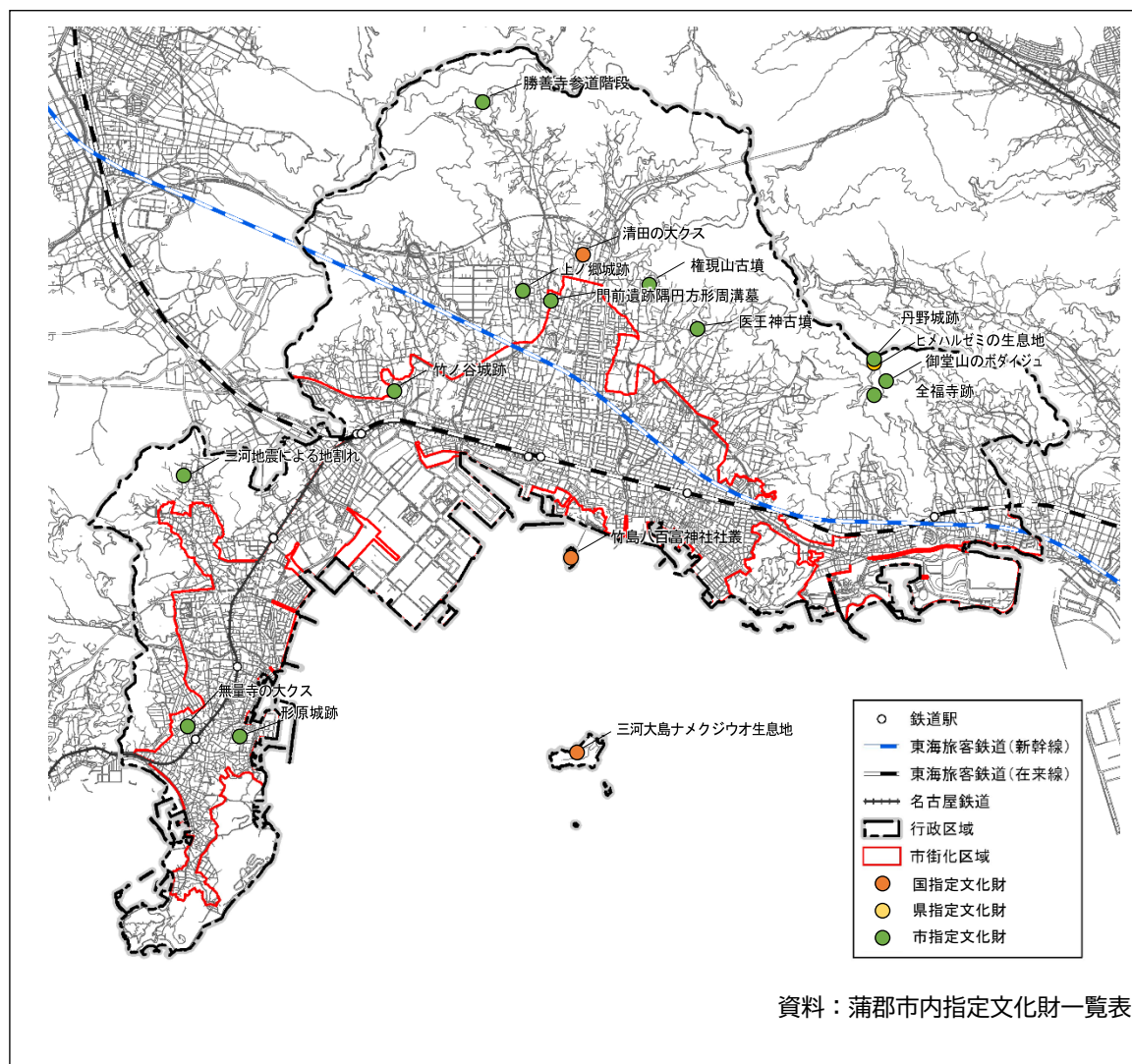


資料：津波災害警戒区域の指定について（令和元年7月 愛知県）

2-1 2 歴史・文化

本市の文化財として、9つの史跡と7つの天然記念物が指定されており、清田の大クス、竹島八百富神社社叢、三河大島ナメクジウオ生息地が国の天然記念物として指定されています。

■史跡及び天然記念物の分布状況



2-13 周辺都市と比較した本市の強み・弱みについて

(1) 人口

西三河地域や東三河地域の東海道本線沿線自治体は増加しているのに対して、本市は人口が減少しています。

■人口の推移

(人)

		H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2
東三河	蒲郡市	84,819	83,730	82,108	82,108	82,249	81,100	79,538
	豊橋市	337,982	352,982	364,856	372,479	376,665	374,765	371,920
	田原市	64,978	65,243	65,534	66,390	64,119	62,364	59,360
	豊川市	168,796	172,509	176,698	181,444	181,928	182,436	184,661
	新城市	54,583	54,602	53,603	52,178	49,864	47,133	44,355
西三河	碧南市	65,899	66,956	67,814	71,408	72,018	71,907	72,458
	刈谷市	120,126	125,305	132,054	142,134	145,781	149,765	153,834
	安城市	142,251	149,464	158,824	170,250	178,691	184,140	187,990
	知立市	54,059	58,578	62,587	66,085	68,398	70,501	72,193
	高浜市	33,478	36,029	38,127	41,351	44,027	46,236	46,106
	岡崎市	316,334	332,136	345,997	363,807	372,357	381,051	384,654
	幸田町	31,004	32,711	33,408	35,596	37,930	39,549	42,449
	西尾市	155,559	158,693	159,788	163,232	165,298	167,990	169,046

資料：国勢調査

■人口の伸び率

		H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2
東三河	蒲郡市	100%	99%	97%	97%	97%	96%	94%
	豊橋市	100%	104%	108%	110%	111%	111%	110%
	田原市	100%	100%	101%	102%	99%	96%	91%
	豊川市	100%	102%	105%	107%	108%	108%	109%
	新城市	100%	100%	98%	96%	91%	86%	81%
西三河	碧南市	100%	102%	103%	108%	109%	109%	110%
	刈谷市	100%	104%	110%	118%	121%	125%	128%
	安城市	100%	105%	112%	120%	126%	129%	132%
	知立市	100%	108%	116%	122%	127%	130%	134%
	高浜市	100%	108%	114%	124%	132%	138%	138%
	岡崎市	100%	105%	109%	115%	118%	120%	122%
	幸田町	100%	106%	108%	115%	122%	128%	137%
	西尾市	100%	102%	103%	105%	106%	108%	109%

資料：国勢調査

(2) 製造業

製造業人口や製造品出荷額等の規模は、他都市と比較して小さい状況です。

製造品出荷額等ベースの製造業の業種別シェアをみると、業務用機械器具製造業、木材・木製品製造業、繊維工業のシェアが高くなっています。

■就業人口及び製造品出荷額等

		製造業 就業人口 (人)	製造品出荷額 等 (万円)
東三河	蒲郡市	8,039	26,194,136
	豊橋市	35,073	139,003,796
	田原市	13,133	176,280,458
	豊川市	25,065	82,197,296
	新城市	7,865	32,736,666
西三河	碧南市	16,805	96,067,744
	刈谷市	49,764	158,499,689
	安城市	49,526	251,957,570
	知立市	5,313	14,793,892
	高浜市	11,833	53,611,663
	岡崎市	47,044	257,640,339
	幸田町	12,056	90,415,842
	西尾市	40,500	174,608,236

資料：2020年工業統計調査

■蒲郡市の業種別のシェア（製造品出荷額等）

	東三河・西三河 に占めるシェア	順位
食料品製造業	2.3%	8
飲料・たばこ・飼料製造業	0.0%	7
繊維工業	14.8%	3
木材・木製品製造業（家具を除く）	19.7%	3
家具・装備品製造業	0.0%	11
パルプ・紙・紙加工品製造業	1.0%	8
印刷・同関連業	1.2%	8
化学工業	0.0%	7
石油製品・石炭製品製造業	0.0%	3
プラスチック製品製造業（別掲を除く）	3.2%	8
ゴム製品製造業	0.0%	7
窯業・土石製品製造業	0.0%	11
鉄鋼業	2.4%	9
非鉄金属製造業	0.0%	10
金属製品製造業	0.7%	12
はん用機械器具製造業	0.2%	11
生産用機械器具製造業	1.0%	11
業務用機械器具製造業	45.2%	1
電子部品・デバイス・電子回路製造業	0.0%	4
電気機械器具製造業	0.4%	10
輸送用機械器具製造業	0.4%	11
その他の製造業	12.4%	3
合計	1.8%	11

※幸田町を除く12市のうちのシェア及び順位

資料：2020年工業統計調査

(3) 都市構造の評価

① 他都市と比較評価を行う指標一覧

データの整備状況などを踏まえ、東三河地域及び西三河地域のうち、安城市、豊川市、西尾市、刈谷市との比較評価を行います。比較項目は、都市構造の評価に関するハンドブック（国土交通省）に基づき、以下の項目について比較評価を実施します。「①生活利便性」と、「②健康・福祉」の評価のうち人口カバー率に関連する指標については、本業務で整理した施設分布や人口メッシュに基づき評価を行います。その他の指標については、国土交通省より入手したデータを利用します。

■他都市と比較評価を行う指標一覧

都市構造評価指標名			データ名	単位	利用データ	
					国提供データ	本業務算定データ
① 生活 利便性	◎居住機能の適切な誘導	日常生活サービスの徒歩圏充足率	日常生活サービス徒歩圏	%		●
		生活サービス施設の徒歩圏人口カバー率	医療施設徒歩圏(800m)	%		●
			福祉施設徒歩圏(800m)	%		●
			商業施設徒歩圏(800m)	%		●
		基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率	駅またはバス停留所徒歩圏(800m、300m)	%		●
	◎都市機能の適正配置	生活サービス施設の利用圏平均人口密度	医療施設徒歩圏(800m)	人/ha		●
			福祉施設徒歩圏(800m)	人/ha		●
			商業施設徒歩圏(800m)	人/ha		●
	◎公共交通の利用促進	公共交通沿線地域の人口密度	駅およびバス停徒歩圏(800m、300m)	人/ha		●
	② 健康・ 福祉	◎都市生活の利便性向上	高齢者徒歩圏に医療機関がある住宅の割合	医療施設の500m圏内の住宅の割合	%	●
高齢者福祉施設の中学校圏域高齢人口カバー率			福祉施設(1km)※65歳以上	%		●
保育所の徒歩圏0～5歳人口カバー率			保育所徒歩圏(800m)※0～5歳	%		●
◎歩きやすい環境の形成		歩道整備率	歩道設置率	%	●	
		高齢者徒歩圏に公園がある住宅の割合	高齢者徒歩圏に公園がある住宅の割合	%	●	
③ 安全・安心	◎歩行者環境の安全性向上	交通事故死者数	市民一人あたりの交通事故死亡者数	人	●	
	◎市街地の安全性の確保		最寄り緊急避難場所までの平均距離	m	●	
	◎市街地荒廃化の抑制		空家率	%	●	
④ 地域経済	◎サービス産業の活性化	従業者一人当たり第三次産業売上高	売上高/従業員数	百万円/人	●	
⑤ 行政運営	◎都市経営の効率化	市民1人当たりの歳出額	人口当たりの公共施設等の維持・管理・更新費	千円	●	
	◎安定的な税収の確保	市民1人当たり税収額(市町村民税+固定資産税)	市民1人当たり平均税収額	千円	●	
⑥ エネルギー／ 低炭素	◎運輸部門の省エネ・低炭素化	市民一人当たりの自動車CO2排出量	市民一人当たりの自動車CO2排出量	t-CO2/年	●	

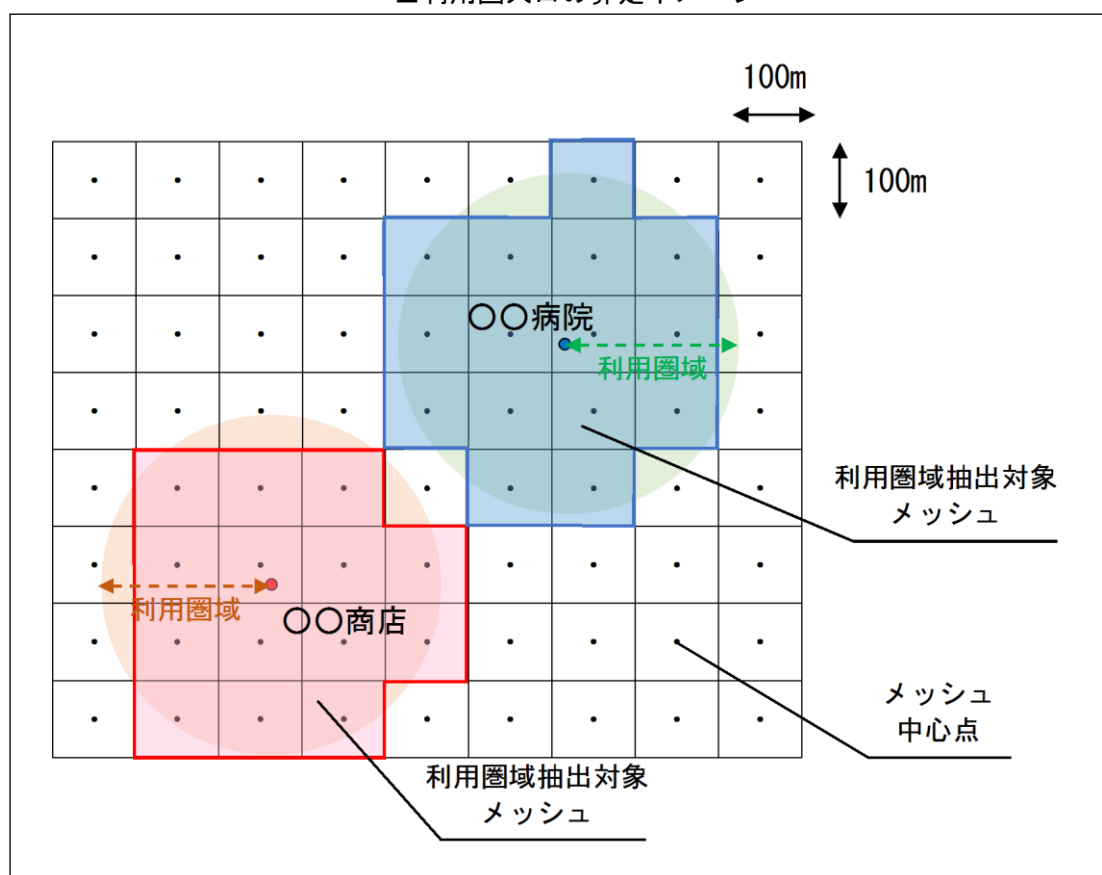
② 施設の利用圏域（徒歩圏など）人口の算定方法

メッシュの中心が施設の利用圏域に含まれるメッシュの人口の合計により、各施設のカバー人口を算定します。なお、実態に即した評価値を算定するため、メッシュの大きさは100m四方のメッシュを採用します。

市の人口に対する、利用圏域に含まれる人口の割合を算定します。

メッシュの中心が施設の利用圏域に含まれるすべてのメッシュ（人口がゼロのメッシュも含む）から面積を算定し、利用圏域を除して算定します。

■利用圏人口の算定イメージ

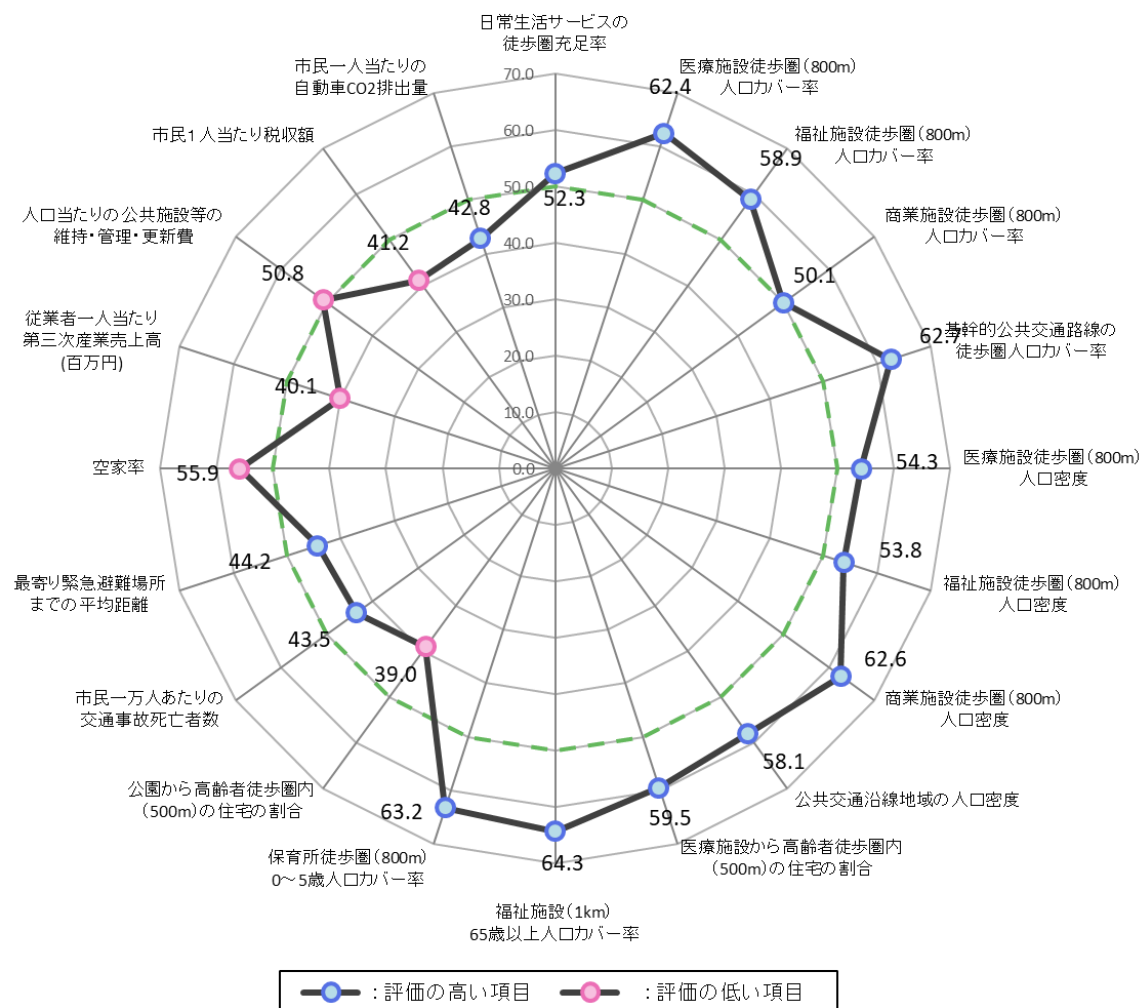


③ 都市構造の評価結果

医療、福祉、商業施設、保育施設といった日常生活に必要な施設のカバー率は東三河地域・西三河地域の人口10万人台の都市と比較して高くなっています。

一方で、公園から高齢者徒歩圏内の住宅の割合や空家率、従業者一人当たり第三次産業売上高、市民1人当たりの税収額は評価が低くなっています。

■東三河地域・西三河地域の人口10万人台の都市と比較した場合の偏差値
[蒲郡市、安城市、豊川市、西尾市、刈谷市]



国土交通省 2020.7.12

(4) 市街地整備の状況

① 土地区画整理事業の施行区域面積

市街化区域に占める土地区画整理事業施行区域の割合は、東三河地域の平均値と同程度となっています。

■土地区画整理事業の施行区域面積

		市街化区域 面積 A (ha)	土地区画整 理事業区域 面積 B (ha)	施行済み	施行中	割合 (%)
東三河	蒲郡市	2,054.0	336.3	210.9	125.4	16%
	豊橋市	6,184.0	1,796.5	1,665.8	130.7	29%
	田原市	1,751.0	120.1	98.7	21.4	7%
	豊川市	3,520.0	698.1	551.4	146.7	20%
	新城市	536.0	35.3	35.3	-	7%
西三河	碧南市	2,117.0	290.6	279.9	10.7	14%
	刈谷市	2,347.0	1,161.6	1,075.5	86.1	49%
	安城市	2,158.0	938.7	828.2	110.5	43%
	知立市	1,081.0	382.3	369.0	13.3	35%
	高浜市	1,027.0	187.6	187.6	-	18%
	岡崎市	5,853.0	1,736.2	1,627.6	108.6	30%
	幸田町	612.0	133.1	112.3	20.8	22%
	西尾市	2,834.0	271.9	257.6	14.2	10%

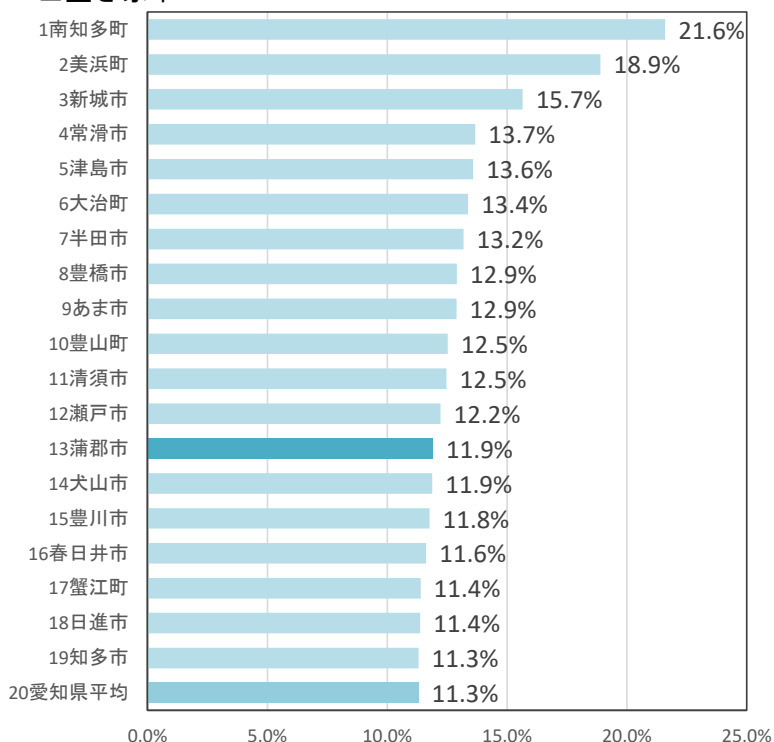
市街化区域:2020.3.31時点(愛知県資料)

土地区画整理事業:2021.3.31時点(愛知県資料)

② 空家率

空家率は、県内 54 市町村のうち 13 番目に高い状況です。

■空き家率



資料：H30 住宅土地統計調査

③ 市街化区域に占める農地の割合

市街化区域に占める農地の割合は、周辺市と比較して高く、都市内に低未利用地がある状況です。

■市街化区域に占める農地の割合（課税地目）

		市街化区域 A(ha)	農地面積 B(ha)	割合 (%)
東三河	蒲郡市	2,054	142	7%
	豊橋市	6,184	219	4%
	田原市	1,751	47	3%
	豊川市	3,520	266	8%
	新城市	536	32	6%
西三河	碧南市	2,117	49	2%
	刈谷市	2,347	49	2%
	安城市	2,158	26	1%
	知立市	1,081	26	2%
	高浜市	1,027	22	2%
	岡崎市	5,853	142	2%
	幸田町	612	24	4%
	西尾市	2,834	145	5%

2020.1.1時点（愛知県資料）

(5) 都市基盤の整備状況

本市の都市計画道路の整備密度は、東三河地域で最も高く、西三河地域の平均と同程度となっています。

一人当たりの都市公園等面積と下水道普及率は低い状況です。

■都市計画道路

		市街化 区域面積 A (ha)	都決延長 (幹線) B (km)	整備済延長 (幹線) C (km)	幹線街路の整備状況	
					整備率 C/B (%)	整備密度 C/A (km/km ²)
東三河	蒲郡市	2,054	62.25	48.81	78.4	2.38
	豊橋市	6,184	134.25	107.67	80.2	1.74
	田原市	1,751	12.72	11.6	91.2	0.66
	豊川市	3,520	90.78	66.49	73.2	1.89
	新城市	536	11.09	7.32	66.0	1.37
西三河	碧南市	2,117	46.89	38.91	83.0	1.84
	刈谷市	2,347	69.81	65.78	94.2	2.80
	安城市	2,158	63.57	59.06	92.9	2.74
	知立市	1,081	35.41	23.95	67.6	2.22
	高浜市	1,028	28.39	21.96	77.4	2.14
	岡崎市	5,853	136.4	118.7	87.0	2.03
	幸田町	613	21.29	18.56	87.2	3.03
	西尾市	2,834	82.42	64.08	77.7	2.26

2021.3.31時点(愛知県資料)

■都市公園等

		一人当たり 都市公園等 面積 (㎡/人)
東三河	蒲郡市	2.69
	豊橋市	10.24
	田原市	7.20
	豊川市	12.80
	新城市	22.81
西三河	碧南市	6.26
	刈谷市	8.60
	安城市	5.30
	知立市	2.50
	高浜市	2.28
	岡崎市	11.50
	幸田町	10.84
	西尾市	5.06

2020.3.31時点(愛知県資料)

■下水道普及率

		行政人口 A(千人)	処理区内 人口 B(千人)	下水道 普及率 (%)
東三河	蒲郡市	79.6	52.9	67%
	豊橋市	373.8	280.7	75%
	田原市	60.6	33.1	55%
	豊川市	186.6	157.8	85%
	新城市	44.9	17.0	38%
西三河	碧南市	72.8	59.7	82%
	刈谷市	152.7	141.9	93%
	安城市	189.9	155.0	82%
	知立市	72.3	49.5	68%
	高浜市	49.3	32.2	65%
	岡崎市	385.8	343.8	89%
	幸田町	42.7	30.8	72%
	西尾市	171.2	129.5	76%

2021.3.31時点(愛知県資料)

第3章 まちづくりに関する市民意向の把握

3-1 調査の概要

ここでは、今後のまちづくりの方向性を検討するため、以下の調査により、本市のまちづくりに関する市民の意向を把握します。

【整理対象の調査】

① 市民意識調査

- ・今後の市政運営に活用することを目的に、市が進めている取り組みに対する評価や今後のまちづくりについての意向を把握するため、企画政策課が実施した調査。

② 蒲郡市のまちづくりに関するアンケート調査

- ・都市計画マスタープラン策定にあたり、生活環境の現状や本市の中心拠点である蒲郡駅周辺の今後のまちづくりについて市民の意向を把握するため、都市計画課が実施した調査。

③ 転出入者アンケート

- ・市民課窓口にて転入または転出の手続をした方に依頼している、転居理由などに関する調査。

3-2 蒲郡市市民意識調査

(1) 調査概要

本市では、今後の市政の運営方針を決定するため、市が進めている取り組みなどについての意向調査を実施しており、まちづくりに関連する内容について、調査結果を整理します。

■調査概要

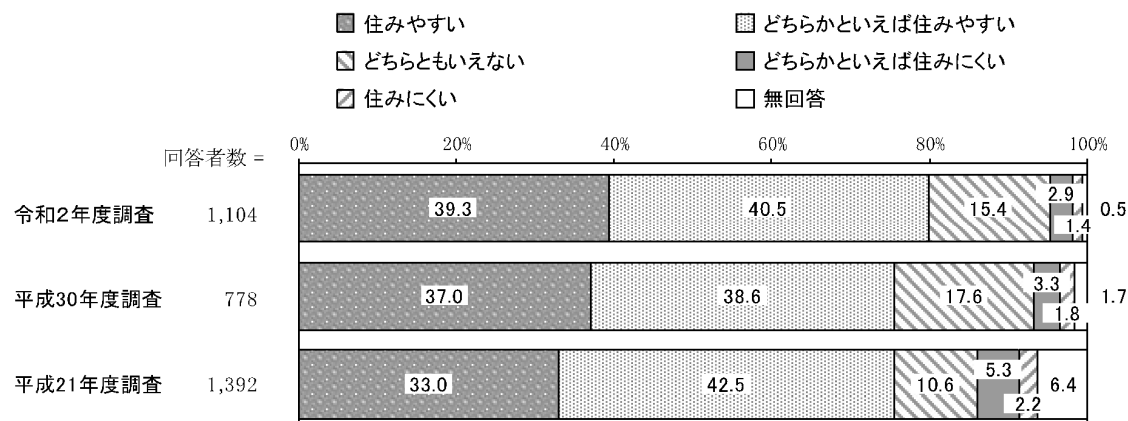
調査対象	18歳以上の蒲郡市民（無作為抽出）
調査期間	令和2年7月1日（水）～令和2年7月20日（月）
調査方法	配布：郵送 回収：郵送
回収状況	配布数：2,000通 回収数：1,104通（回収率：55.2%）

(2) 調査結果

○蒲郡市の住みやすさ・印象について

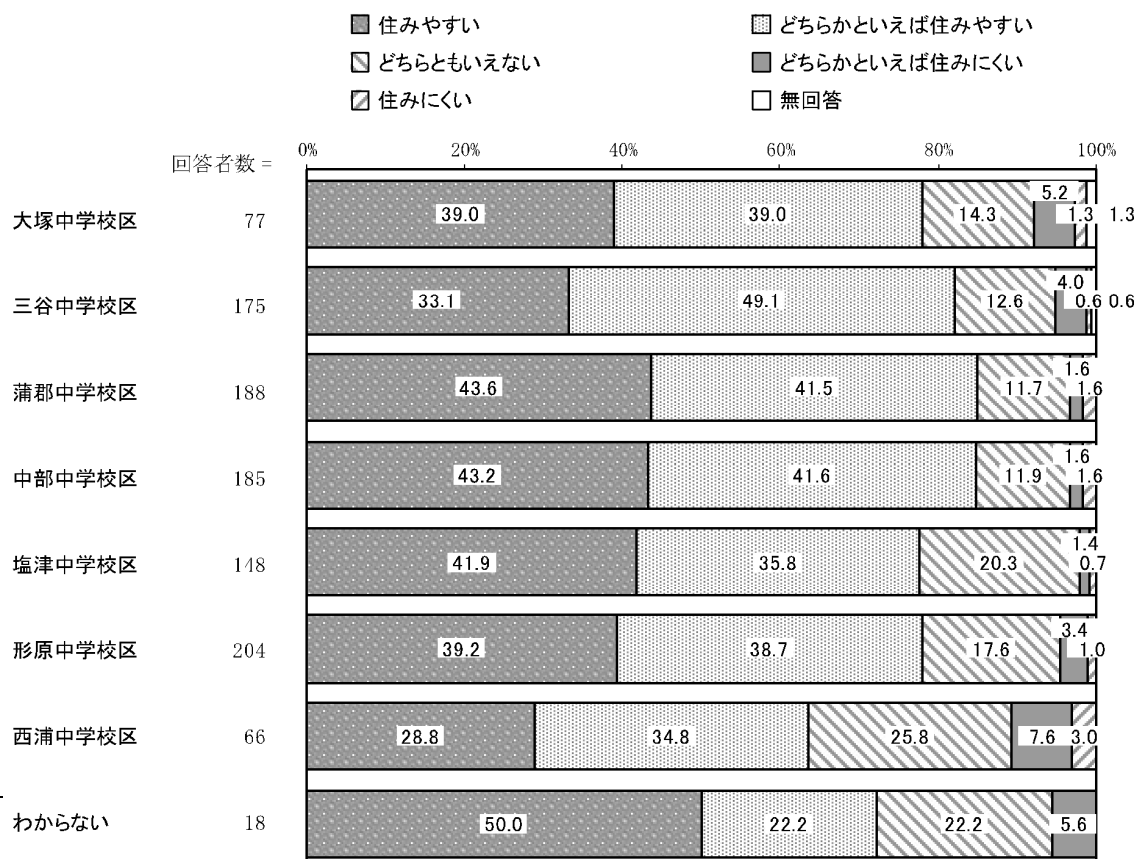
(問1) 蒲郡市は住みやすいまちだと思うか

- ・「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」をあわせた“住みやすい”の割合が79.8%、「どちらかといえば住みにくい」と「住みにくい」をあわせた“住みにくい”の割合が4.3%、「どちらともいえない」の割合が15.4%となっています。

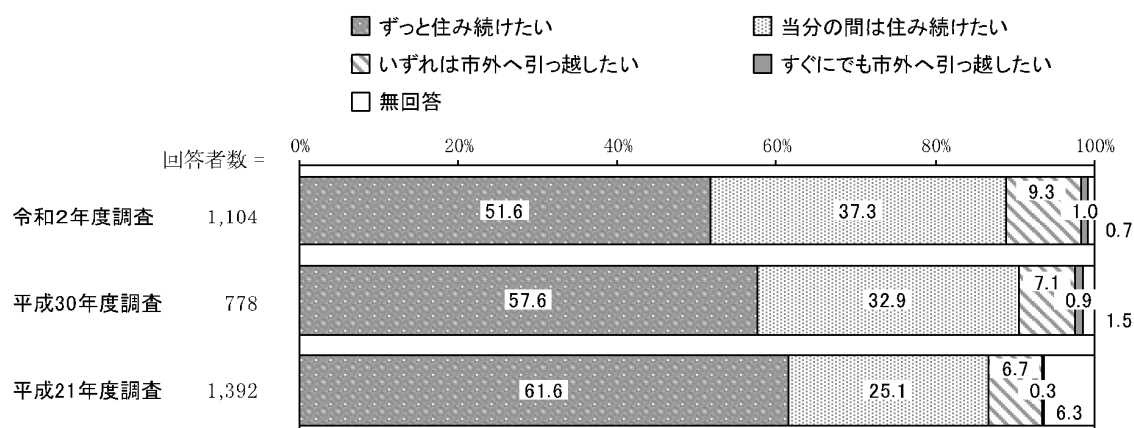


◇居住地別

- ・蒲郡中学校区、中部中学校区で“住みやすい”の割合が高く、80%以上となっています。
- ・西浦中学校区は、“住みにくい”の割合が10.6%と高くなっています。

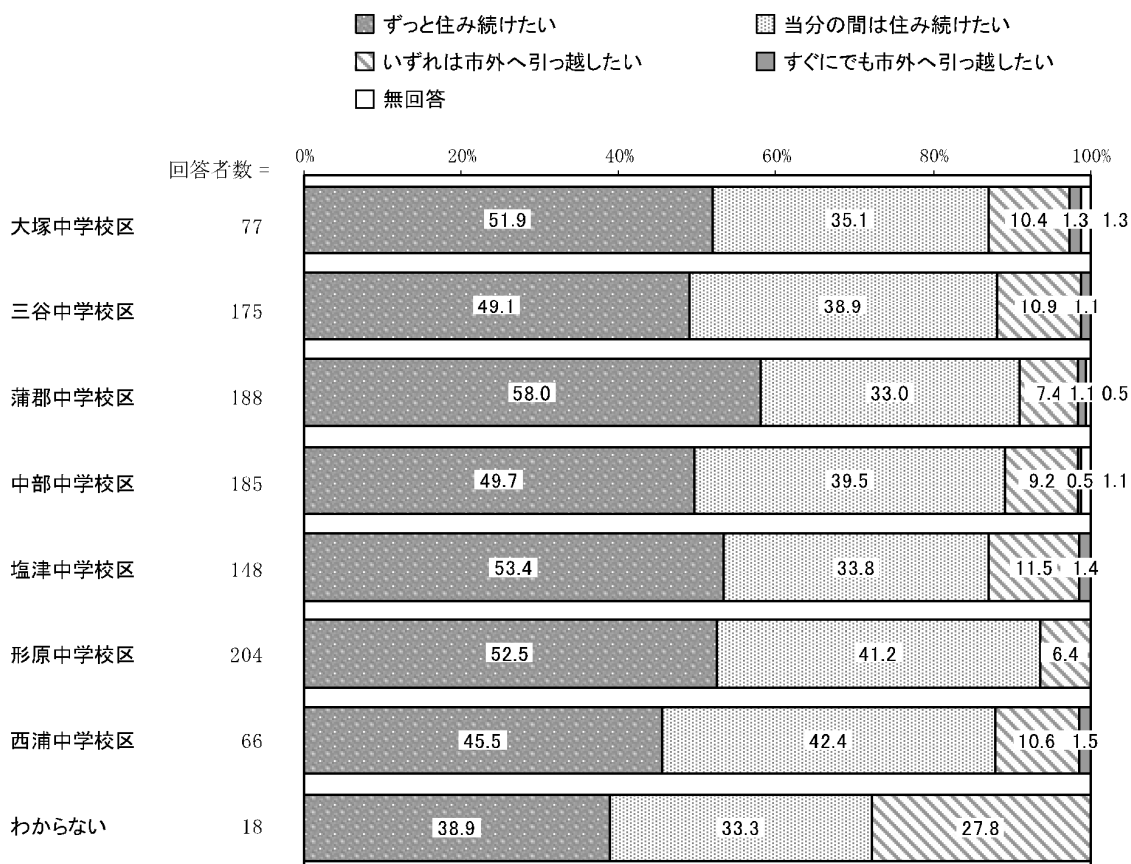


- ・「ずっと住み続けたい」の割合が51.6%と最も高く、次いで「当分の間は住み続けたい」の割合が37.3%となっています。
- ・平成21年度調査と比較すると、「ずっと住み続けたい」の割合が61.6%から51.6%と10.0%減少しています。



◇居住地別

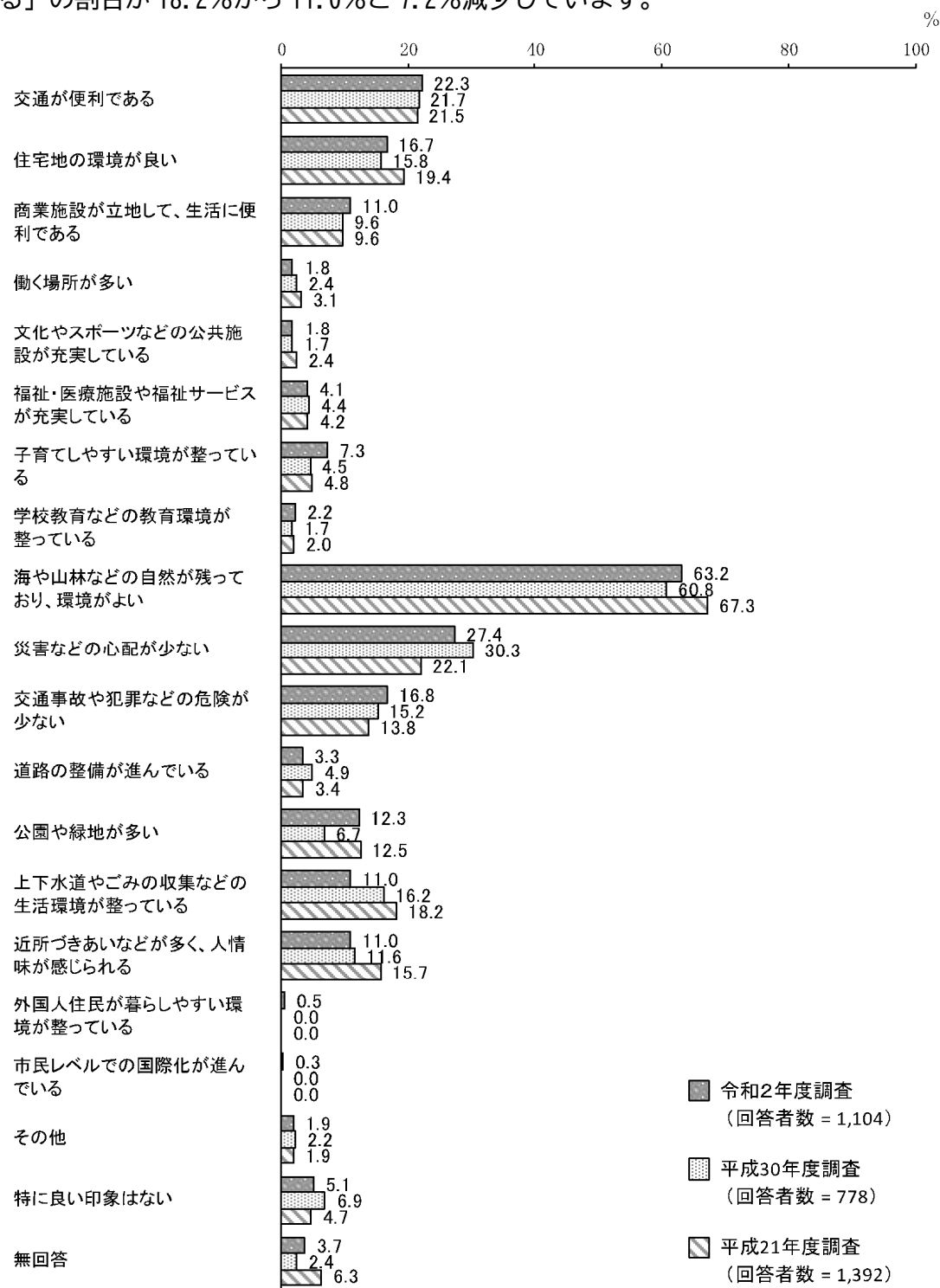
- ・蒲郡中学校区は、「ずっと住み続けたい」の割合が58.0%と高くなっています。



第3章 まちづくりに関する市民意向の把握

(問3) 蒲郡市に対する良い印象

- ・「海や山林などの自然が残っており、環境がよい」の割合が63.2%と最も高く、次いで「災害などの心配が少ない」の割合が27.4%、「交通が便利である」の割合が22.3%となっています。
- ・平成21年度調査と比較すると、「上下水道やごみの収集などの生活環境が整っている」の割合が18.2%から11.0%と7.2%減少しています。



※複数回答のため、各項目の合計値は100%とならない

◇居住地別

- ・どの中学校区についても、「海や山林などの自然が残っており、環境がよい」の割合が最も高く、60%以上となっており、特に西浦中学校区は77.3%と最も高くなっています。
- ・中部中学校区は、他の中学校区と比較して、「災害などの心配が少ない」の割合が35.7%と高く、また蒲郡中学校区は、「交通が便利である」の割合が35.1%と高くなっています。

単位：％

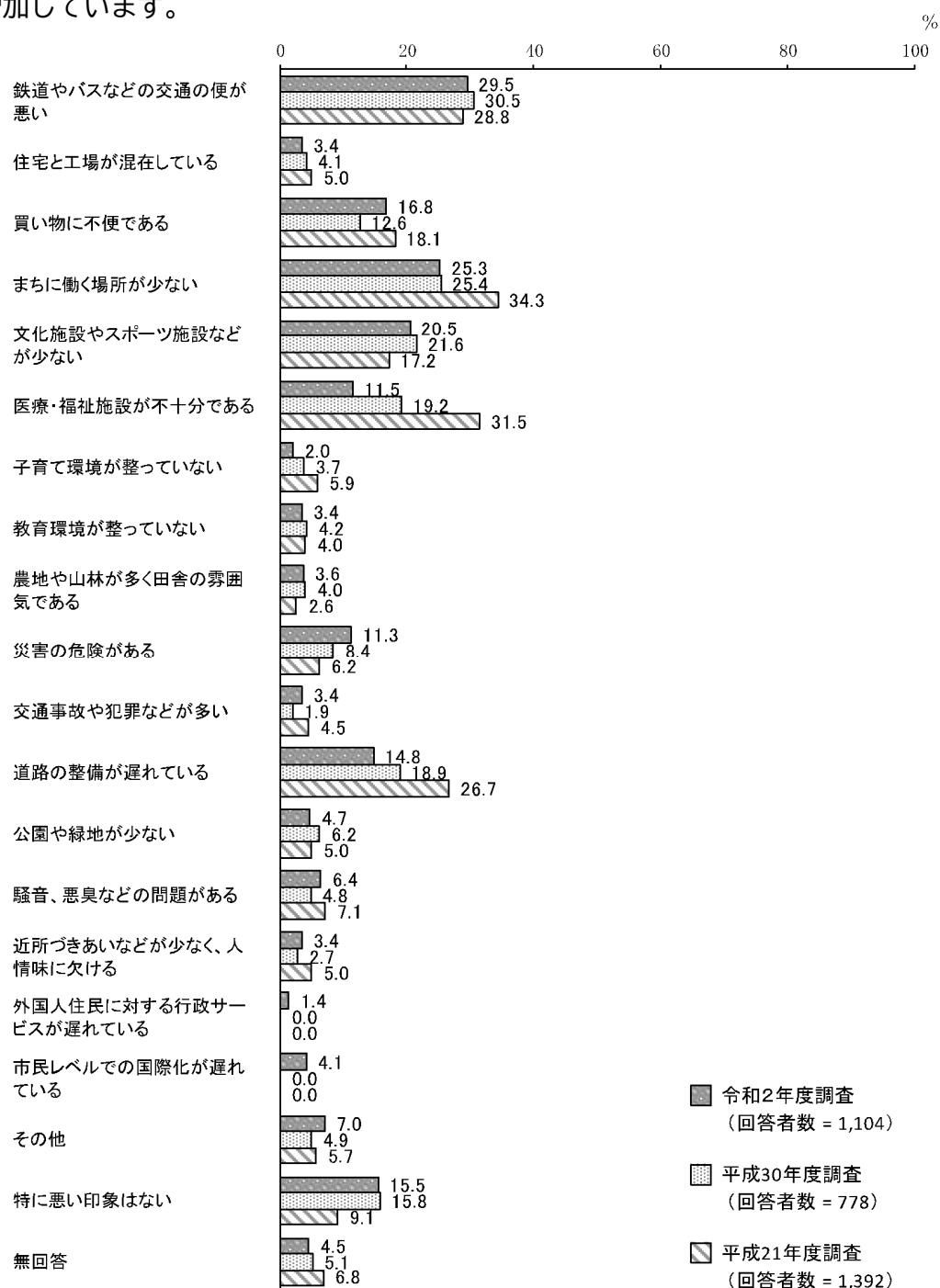
		蒲郡市に対する良い印象									
		交通が便利である	住宅地の環境が良い	商業施設が立地して、生活に便利である	働く場所が多い	文化施設が充実している	福祉・医療施設が充実している	子育てしやすい環境が整っている	学校教育などの教育環境が整っている	海や山林などの自然が残っており、環境がよい	災害などの心配が少ない
居住地	大塚中学校区 (n=77)	14.3%	14.3%	—	2.6%	2.6%	3.9%	3.9%	2.6%	75.3%	20.8%
	三谷中学校区 (n=175)	20.0%	20.0%	13.7%	1.1%	1.7%	5.1%	5.1%	2.3%	61.1%	21.7%
	蒲郡中学校区 (n=188)	35.1%	18.6%	11.7%	1.1%	1.1%	3.2%	6.9%	—	61.7%	31.9%
	中部中学校区 (n=185)	27.6%	16.8%	7.6%	1.1%	1.6%	5.4%	9.2%	2.2%	62.2%	35.7%
	塩津中学校区 (n=148)	25.7%	12.8%	21.6%	4.1%	2.7%	2.7%	8.8%	2.7%	60.8%	27.7%
	形原中学校区 (n=204)	12.7%	18.6%	9.8%	2.0%	2.5%	4.4%	7.4%	3.4%	67.6%	20.6%
	西浦中学校区 (n=66)	9.1%	12.1%	1.5%	1.5%	1.5%	3.0%	12.1%	3.0%	77.3%	28.8%
	わからない (n=18)	—	16.7%	22.2%	5.6%	—	5.6%	16.7%	5.6%	33.3%	22.2%
		蒲郡市に対する良い印象									
		危険が少なく犯罪などの交通事故が少ない	道路の整備が進んでいる	公園や緑地が多い	生活環境が整っている	近所づきあいが多く、人情味を感じられる	外国人が住んでいる	市民レベルでの国際化が進んでいる	その他	特に良い印象はない	無回答
居住地	大塚中学校区 (n=77)	20.8%	5.2%	9.1%	15.6%	15.6%	1.3%	—	3.9%	7.8%	2.6%
	三谷中学校区 (n=175)	16.6%	5.1%	11.4%	13.7%	12.6%	0.6%	1.1%	1.7%	6.3%	4.0%
	蒲郡中学校区 (n=188)	17.6%	3.2%	11.2%	13.8%	8.0%	—	0.5%	2.1%	2.7%	4.3%
	中部中学校区 (n=185)	16.2%	3.2%	15.1%	8.1%	9.2%	0.5%	—	1.6%	3.2%	2.7%
	塩津中学校区 (n=148)	11.5%	2.7%	11.5%	8.1%	12.2%	0.7%	—	2.0%	2.7%	2.7%
	形原中学校区 (n=204)	18.1%	1.5%	15.7%	8.8%	11.3%	0.5%	—	1.5%	7.4%	2.5%
	西浦中学校区 (n=66)	24.2%	—	4.5%	9.1%	16.7%	—	—	1.5%	4.5%	1.5%
	わからない (n=18)	11.1%	—	22.2%	—	5.6%	—	—	5.6%	16.7%	11.1%

太字：居住地ごとで、割合が最も高いもの

※複数回答のため、各項目の合計値は100%とならない

(問4) 蒲郡市に対する悪い印象

- ・「鉄道やバスなどの交通の便が悪い」の割合が29.5%と最も高く、次いで「まちに働く場所が少ない」の割合が25.3%、「文化施設やスポーツ施設などが少ない」の割合が20.5%となっています。
- ・平成21年度調査と比較すると、「医療・福祉施設が不十分である」の割合が31.5%から11.5%と20.0%減少しており、「道路の整備が遅れている」の割合が26.7%から14.8%と11.9%減少し、「まちに働く場所が少ない」の割合が34.3%から25.3%と9.0%減少しています。一方、「災害の危険がある」の割合が6.2%から11.3%と5.1%増加しています。



※複数回答のため、各項目の合計値は100%とにならない

第3章 まちづくりに関する市民意向の把握

◇居住地別

- ・形原中学校区は、他の中学校区と比較して、「鉄道やバスなどの交通の便が悪い」の割合が40.7%と高くなっています。
- ・大塚中学校区は、「買い物に不便である」の割合が37.7%と高くなっています。

単位：％

		蒲郡市に対する悪い印象									
		便鉄 道や バス など の交 通の	住 宅 と 工 場 が 混 在 し て い る	買 い 物 に 不 便 で あ る	ま ち に 働 く 場 所 が 少 な い	文 化 施 設 や ス ポ ー ツ 施 設 な ど が 少 な い	医 療 ・ 福 祉 施 設 が 不 十 分 で あ る	子 育 て 環 境 が 整 っ て い な い	教 育 環 境 が 整 っ て い な い	農 地 や 山 林 が 多 く 田 舎 の 霧 困 気 で あ る	災 害 の 危 険 が あ る
居 住 地	大塚中学校区 (n=77)	36.4%	—	37.7%	20.8%	23.4%	11.7%	6.5%	6.5%	3.9%	11.7%
	三谷中学校区 (n=175)	27.4%	2.9%	17.1%	20.6%	20.0%	13.7%	1.7%	5.1%	1.1%	14.9%
	蒲郡中学校区 (n=188)	19.1%	3.7%	14.4%	25.5%	23.9%	13.3%	1.6%	4.8%	5.3%	10.6%
	中部中学校区 (n=185)	27.6%	1.6%	15.1%	27.0%	19.5%	11.4%	1.6%	2.7%	5.4%	6.5%
	塩津中学校区 (n=148)	24.3%	3.4%	12.2%	26.4%	21.6%	8.8%	2.0%	3.4%	4.7%	14.2%
	形原中学校区 (n=204)	40.7%	6.4%	13.7%	26.5%	20.6%	8.8%	1.0%	0.5%	2.5%	10.3%
	西浦中学校区 (n=66)	37.9%	4.5%	31.8%	34.8%	19.7%	9.1%	4.5%	—	3.0%	13.6%
	わからない(n=18)	38.9%	5.6%	—	27.8%	11.1%	5.6%	—	—	—	11.1%

		蒲郡市に対する悪い印象									
		交 通 事 故 や 犯 罪 な ど が 多 い	道 路 の 整 備 が 遅 れ て い る	公 園 や 緑 地 が 少 な い	騒 音 、 悪 臭 な ど の 問 題 が あ る	人 情 味 に 欠 け る な ど が 少 な く 、 近 所 づ き あ い る な ど が あ る	外 国 人 住 民 に 対 し て の 行 政 サ ー ビ ス が 遅 れ て い る	市 民 レ ベ ル で の 国 際 化 が 遅 れ て い る	そ の 他	特 に 悪 い 印 象 は な い	無 回 答
居 住 地	大塚中学校区 (n=77)	2.6%	19.5%	6.5%	9.1%	1.3%	1.3%	3.9%	9.1%	6.5%	5.2%
	三谷中学校区 (n=175)	2.3%	12.6%	2.3%	5.7%	4.6%	0.6%	4.0%	5.1%	17.7%	4.6%
	蒲郡中学校区 (n=188)	4.3%	12.2%	9.0%	6.4%	1.6%	1.6%	6.9%	10.1%	14.9%	3.2%
	中部中学校区 (n=185)	1.6%	19.5%	2.7%	7.6%	4.3%	1.6%	2.7%	6.5%	16.8%	4.3%
	塩津中学校区 (n=148)	7.4%	17.6%	7.4%	10.1%	2.7%	3.4%	4.1%	6.8%	14.9%	2.0%
	形原中学校区 (n=204)	2.5%	15.2%	2.5%	4.4%	3.4%	0.5%	3.4%	5.9%	17.6%	5.9%
	西浦中学校区 (n=66)	1.5%	10.6%	6.1%	1.5%	1.5%	—	3.0%	4.5%	10.6%	4.5%
	わからない(n=18)	5.6%	5.6%	5.6%	11.1%	5.6%	—	—	11.1%	16.7%	11.1%

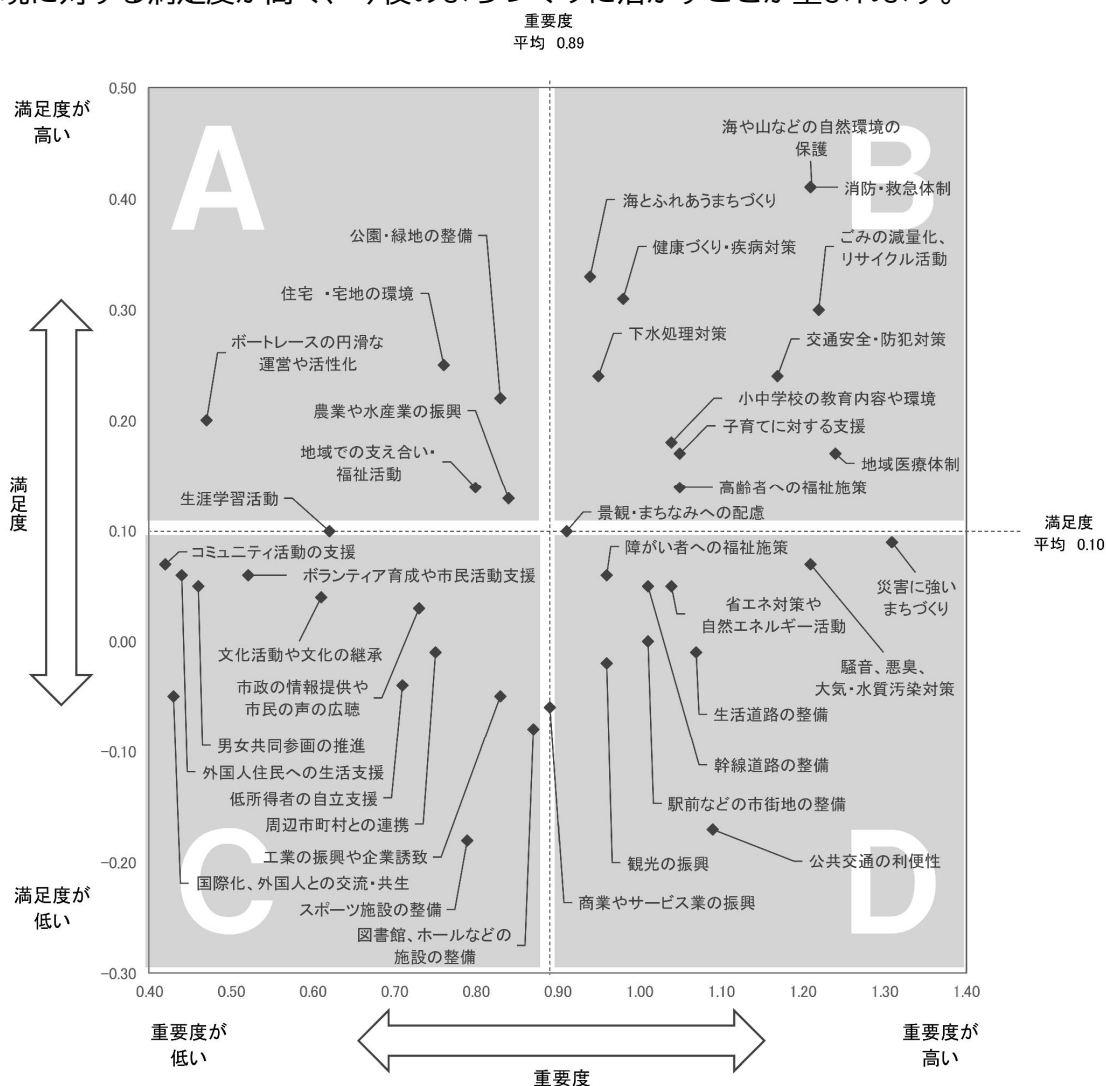
太字：居住地ごとで、割合が最も高いもの

※複数回答のため、各項目の合計値は100%とならない

○蒲郡市の暮らしの満足度と今後のまちづくりの重要度について

(問5) 施策に対する重要度と満足度

- ・「公共交通の利便性」「生活道路の整備」「幹線道路の整備」などの交通環境にかかわる項目、「災害に強いまちづくり」などの安心・安全な暮らしにかかわる項目、「駅前などの市街地整備」といった都市構造上の拠点形成にかかわる項目、「高齢者への福祉施策」「障がい者への福祉施策」などの福祉にかかわる項目などが、重要度が高くなっています。
- ・「海や山などの自然環境の保護」「海とふれあうまちづくり」といった、豊かな自然環境に対する満足度が高く、今後のまちづくりに活かすことが望まれます。



A：維持施策項目 満足度が高く、重要度は低い

このままの状態を保つことが求められている。

B：重点維持施策項目 満足度が高く、重要度も高い

おおむね満足が得られているが、引き続き維持していくことが求められている。

C：ウォッチング施策項目 満足度が低く、重要度も低い

推移を注目していくことが求められている。喫緊性は高くないものの、生活の質を高めるなどのために、満足度を上げていくことが求められている。

D：重点改善施策項目 満足度が低く重要度が高い

最優先で改善が求められている。

◇過年度との比較（都市計画に関わりの強い項目に対する重要度と満足度について）

- ・「海や山などの自然環境の保護」や「海とふれあうまちづくり」の重要度、満足度がともに高く、本市の自然を活かしたまちづくりが望まれています。
- ・「災害に強いまちづくり」や「交通安全・防犯対策」、「生活道路の整備」の重要度が高く、安全・安心に暮らせるまちが望まれています。
- ・バス・鉄道の「公共交通の利便性」の重要度が高い一方で、満足度が低い状況です。
- ・「駅前などの市街地の整備」の重要度が高まる一方、満足度は低下しています。

■都市計画に関わりの強い項目に対する重要度と満足度

分野	評価項目	重要度			満足度		
		H21	R2	R2-H21	H21	R2	R2-H21
土地利用	住宅・宅地の環境	51.7%	56.7%	+5.0%	27.4%	31.5%	+4.1%
	工業の振興や企業誘致	54.5%	56.1%	+1.6%	13.7%	12.3%	▲1.4%
	商業やサービス業の振興	54.7%	60.5%	+5.8%	7.3%	14.6%	+7.3%
	駅前などの市街地の整備	60.5%	71.0%	+10.5%	43.5%	31.2%	▲12.3%
	農業や水産業の振興	54.8%	57.1%	+2.3%	55.7%	57.1%	+1.4%
施設整備	幹線道路の整備	66.2%	69.4%	+3.2%	21.9%	32.0%	+10.1%
	生活道路の整備	67.8%	73.1%	+5.3%	23.5%	29.9%	+6.4%
	交通安全・防犯対策	71.4%	74.3%	+2.9%	71.4%	74.1%	+2.7%
	公共交通の利便性	66.5%	73.2%	+6.7%	20.2%	24.5%	+4.3%
	公園・緑地の整備	57.3%	63.7%	+6.4%	33.3%	36.3%	+3.0%
	下水処理対策	61.3%	63.0%	+1.7%	31.9%	34.9%	+3.0%
自然環境	海や山などの自然環境の保護	75.0%	79.2%	+4.2%	39.1%	45.1%	+6.0%
	海とふれあうまちづくり	70.1%	69.1%	▲1.0%	35.1%	39.1%	+4.0%
都市景観	景観・まちなみへの配慮	57.0%	66.1%	+9.1%	27.8%	30.0%	+2.2%
防災施設	災害に強いまちづくり	69.7%	77.8%	+8.1%	13.7%	21.3%	+7.6%
産業基盤	観光の振興	57.9%	63.1%	+5.2%	16.3%	18.2%	+1.9%

※評価項目は分野横断的な指標があるが、代表的な分野で表示しています。

※重要度は、各評価項目について「重要」または「やや重要」と回答した人の割合

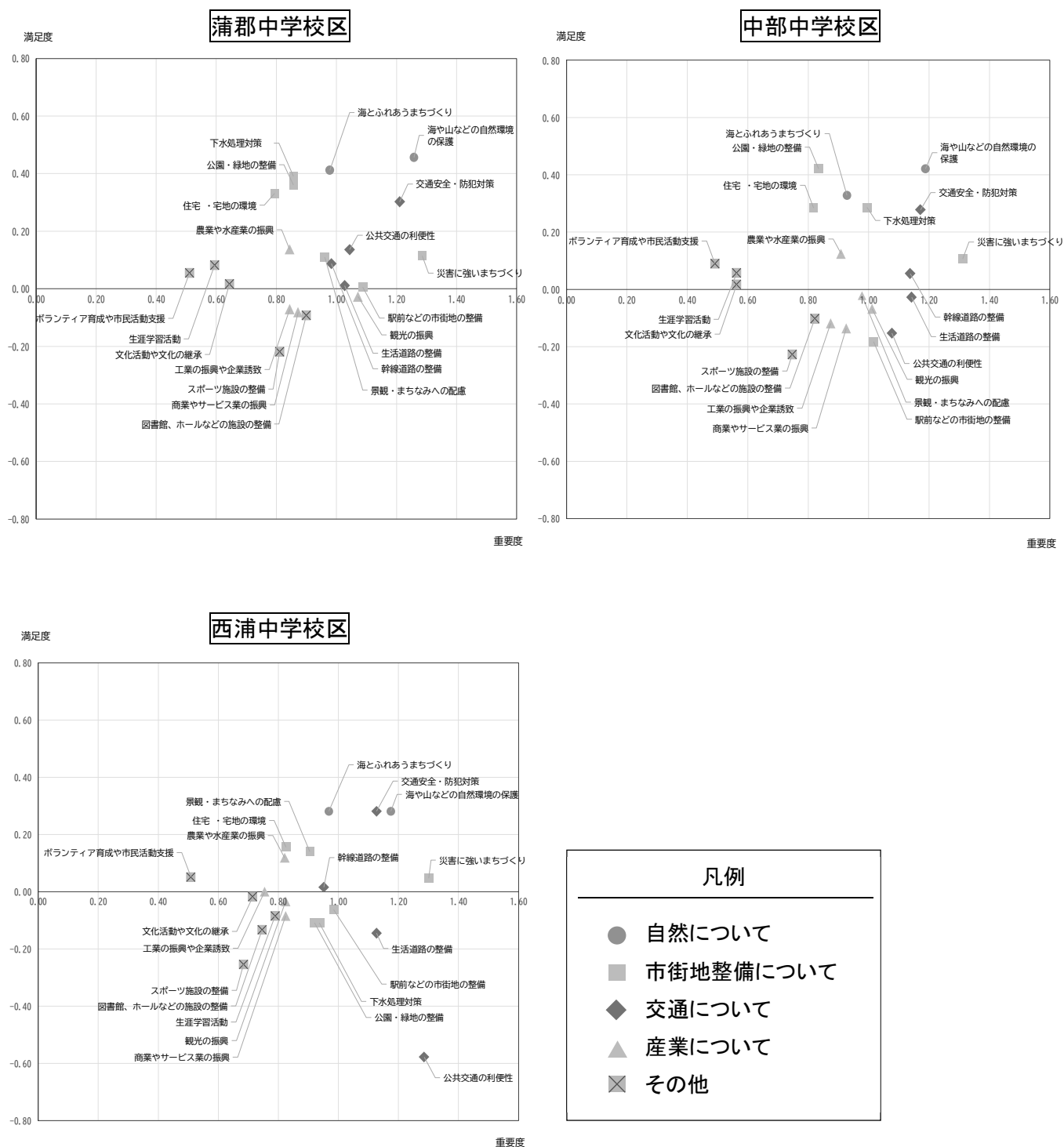
※満足度は、各評価項目について「満足」または「やや満足」と回答した人の割合

◇居住地別

- ・どの中学校区についても、「海や山などの自然環境の保護」「海とふれあうまちづくり」など、本市の自然を活かしたまちづくりに関する項目は、重要度、満足度ともに高くなっています。
- ・「災害に強いまちづくり」「交通安全・防犯対策」などの安全・安心なまちづくりに関する項目の重要度が高くなっています。
- ・「公共交通の利便性」も重要度が高くなっていますが、蒲郡中学校区を除く全ての中学校区で、満足度が低くなっています。特に、西浦中学校区は、満足度が低くなっています。
- ・平成21年度調査と比較すると、どの中学校区においても「駅前などの市街地の整備」の重要度が高まる一方で、満足度は低下しており、特に、三谷中学校区、中部中学校区、西浦中学校区は、満足度が低下しています。

第3章 まちづくりに関する市民意向の把握

◇居住地別（2）



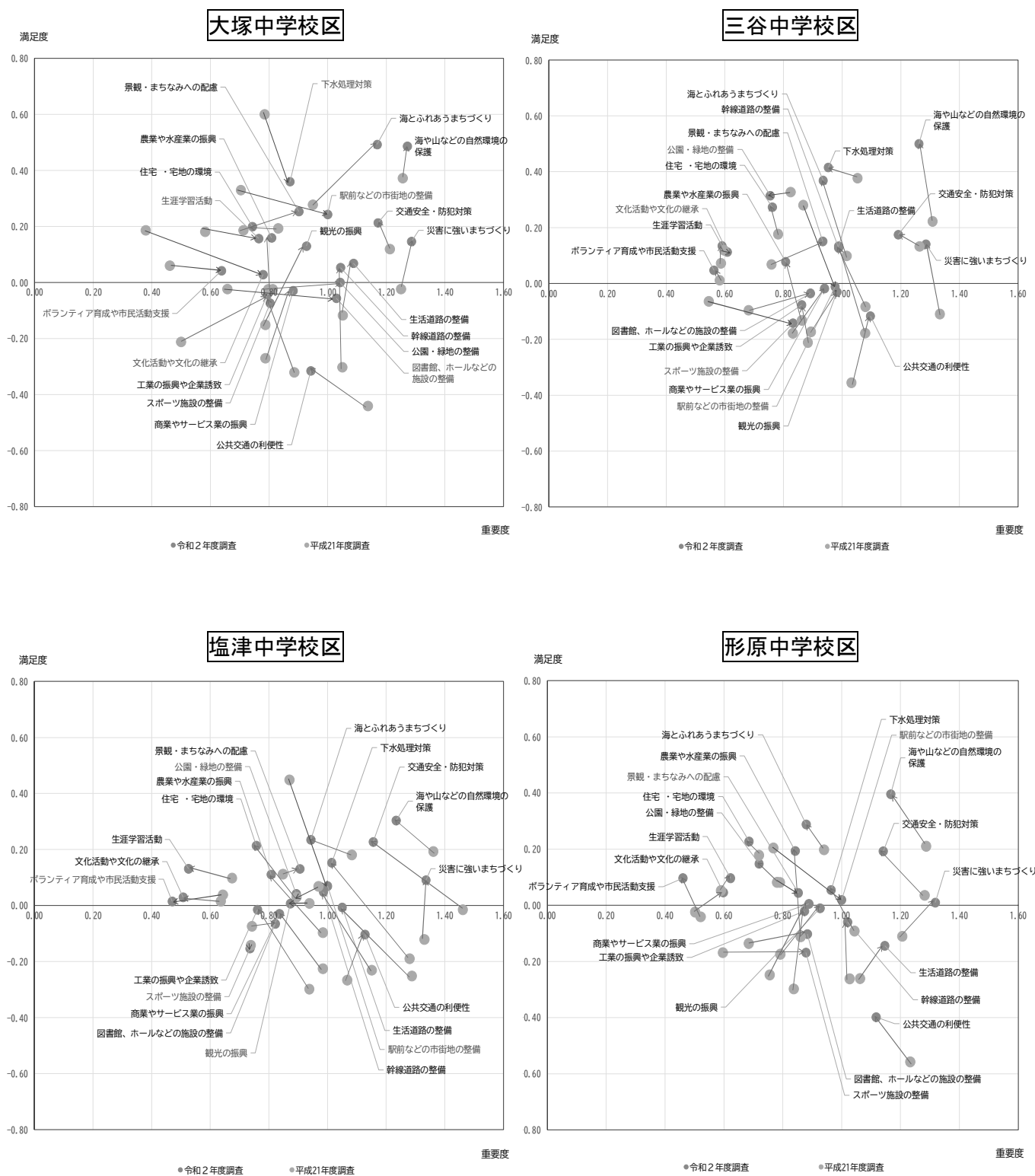
※満足度・重要度は、項目ごとの5段階評価を以下のように点数化して平均値を算出している。

【満足度】満足：2点、やや満足：1点、どちらとも言えない：0点、やや不満：-1点、不満：-2点

【重要度】重要：2点、やや重要：1点、どちらとも言えない：0点、あまり重要でない：-1点、重要でない：-2点

第3章 まちづくりに関する市民意向の把握

◇居住地別（平成21年度調査と令和2年度調査の比較）（1）



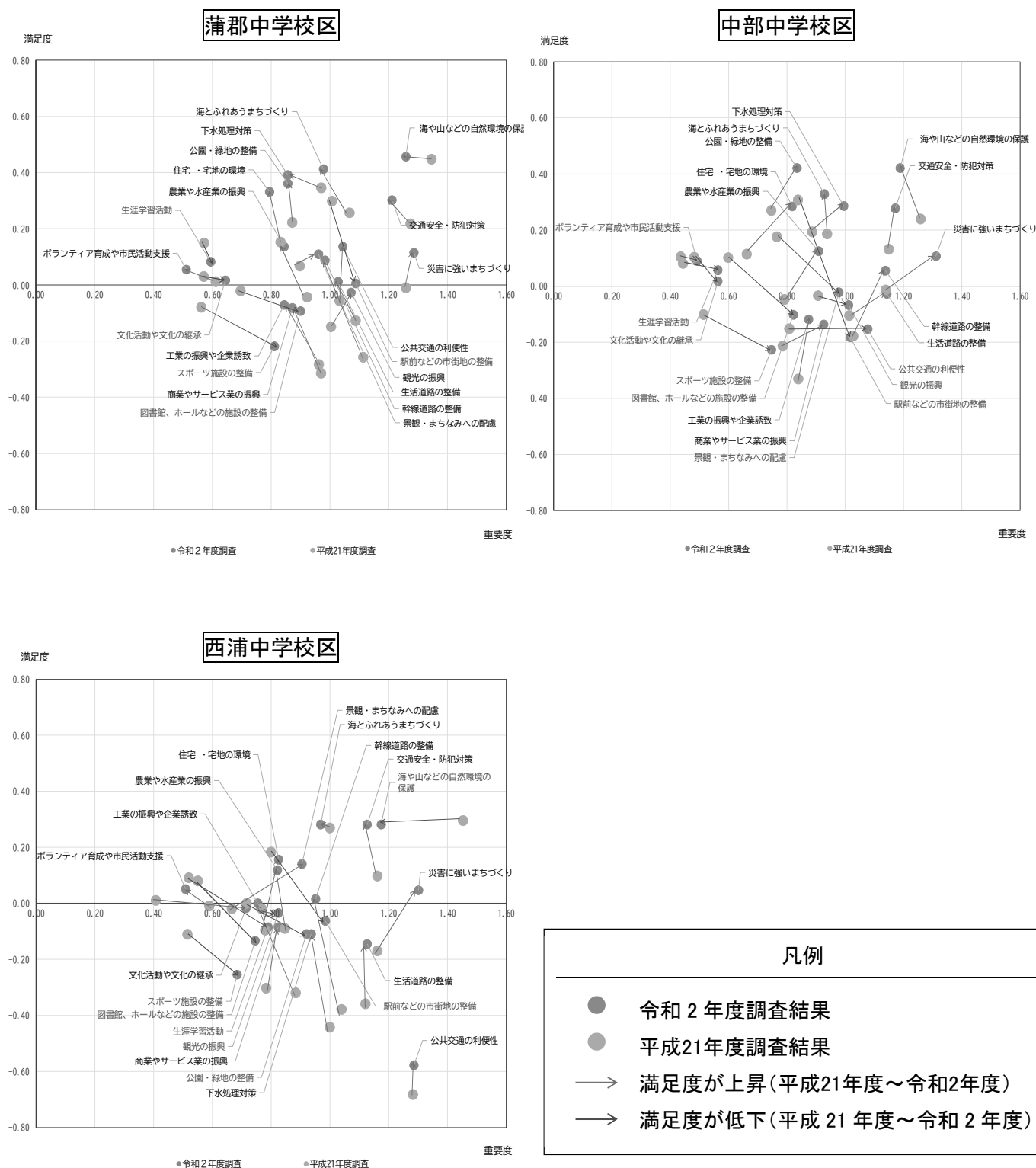
※満足度・重要度は、項目ごとの5段階評価を以下のように点数化して平均値を算出している。

【満足度】 満足：2点、やや満足：1点、どちらとも言えない：0点、やや不満：-1点、不満：-2点

【重要度】 重要：2点、やや重要：1点、どちらとも言えない：0点、あまり重要でない：-1点、重要でない：-2点

第3章 まちづくりに関する市民意向の把握

◇居住地別（平成21年度調査と令和2年度調査の比較）（2）



※満足度・重要度は、項目ごとの5段階評価を以下のように点数化して平均値を算出している。

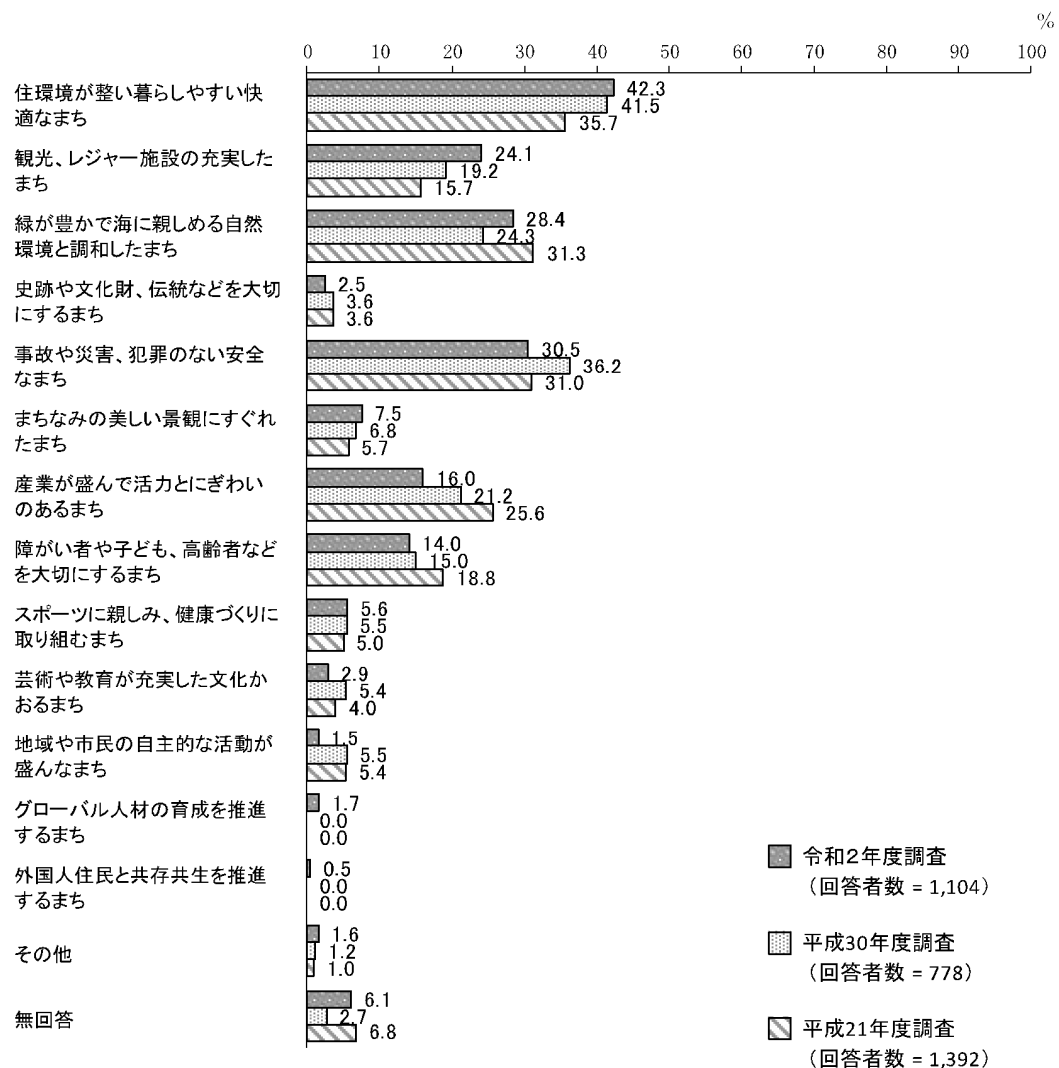
【満足度】満足：2点、やや満足：1点、どちらとも言えない：0点、やや不満：-1点、不満：-2点

【重要度】重要：2点、やや重要：1点、どちらとも言えない：0点、あまり重要でない：-1点、重要でない：-2点

○これからのまちづくりについて

（問6）蒲郡市の魅力を高めるために目指すべき将来像

- ・「住環境が整い暮らしやすい快適なまち」の割合が42.3%と最も高く、次いで「事故や災害、犯罪のない安全なまち」の割合が30.5%、「緑が豊かで海に親しめる自然環境と調和したまち」の割合が28.4%となっています。
- ・平成21年度調査と比較すると、「観光、レジャー施設の充実したまち」の割合が15.7%から24.1%と8.4%増加しており、「住環境が整い暮らしやすい快適なまち」の割合が35.7%から42.3%と6.6%増加しています。一方、「産業が盛んで活力と賑わいのあるまち」の割合が25.6%から16.0%と9.6%減少しています。



※複数回答のため、各項目の合計値は100%とならない

第3章 まちづくりに関する市民意向の把握

◇居住地別

- ・「住環境が整い暮らしやすい快適なまち」の割合がどの中学校区でも最も高く、特に中部中学校区は46.5%、蒲郡中学校区が46.3%と高くなっています。
- ・西浦中学校区は、他の中学校区と比較して、「緑が豊かで海に親しめる自然環境と調和したまち」の割合が37.9%と高く、塩津中学校区と中部中学校区は、「観光、レジャー施設の充実したまち」の割合がそれぞれ30.4%、27.0%と高くなっています。一方、大塚中学校区は、「産業が盛んで活力と賑わいのあるまち」の割合が5.2%と低くなっています。

単位：％

		目指すべき将来像									
		快適なまちが整い暮らしやすい	観光、レジャー施設の充実したまち	緑が豊かで海に親しめる自然環境と調和したまち	史跡や文化財、伝統などを大切にす	事故や災害、犯罪のない安全なまち	まちなみの美しい景観にすぐれたまち	産業が盛んで活力とにぎわいのあるまち	障がい者や子ども、高齢者などを大切にす	健康づくりに親しみ、組みまち	芸術や教育が充実したまち
居住地	大塚中学校区 (n=77)	41.6%	23.4%	32.5%	2.6%	20.8%	10.4%	5.2%	19.5%	9.1%	3.9%
	三谷中学校区 (n=175)	41.7%	26.3%	26.3%	6.9%	30.3%	8.0%	14.3%	16.0%	5.1%	3.4%
	蒲郡中学校区 (n=188)	46.3%	20.7%	28.7%	2.1%	31.9%	8.5%	16.0%	11.7%	5.3%	2.7%
	中部中学校区 (n=185)	46.5%	27.0%	25.9%	3.2%	29.7%	5.4%	20.0%	13.5%	2.7%	2.7%
	塩津中学校区 (n=148)	39.9%	30.4%	31.8%	1.4%	33.1%	6.8%	9.5%	9.5%	7.4%	2.0%
	形原中学校区 (n=204)	41.7%	21.6%	26.5%	1.0%	34.3%	8.8%	19.1%	15.2%	7.4%	2.5%
	西浦中学校区 (n=66)	39.4%	21.2%	37.9%	—	30.3%	4.5%	18.2%	10.6%	6.1%	1.5%
	わからない (n=18)	38.9%	22.2%	22.2%	—	27.8%	11.1%	16.7%	22.2%	—	11.1%

		目指すべき将来像				
		盛んなまちの自主的な活動が	推進する人材の育成を	外国人住民と共生を	その他	無回答
居住地	大塚中学校区 (n=77)	1.3%	5.2%	1.3%	2.6%	6.5%
	三谷中学校区 (n=175)	2.3%	0.6%	0.6%	2.3%	3.4%
	蒲郡中学校区 (n=188)	1.6%	3.2%	1.1%	1.6%	4.8%
	中部中学校区 (n=185)	1.6%	0.5%	0.5%	0.5%	5.9%
	塩津中学校区 (n=148)	0.7%	1.4%	0.7%	0.7%	7.4%
	形原中学校区 (n=204)	1.0%	1.0%	—	2.9%	5.4%
	西浦中学校区 (n=66)	3.0%	3.0%	—	—	9.1%
	わからない (n=18)	5.6%	—	—	—	5.6%

太字：居住地ごとで、割合が最も高いもの
※複数回答のため、各項目の合計値は100%とまらない

3-3 蒲郡市のまちづくりに関するアンケート

(1) 調査概要

本市では、地域ごとのまちづくり方針を決定するため、生活環境の現状や、本市の中心拠点である蒲郡駅周辺の今後のまちづくりなどについての意向調査を実施しました。

なお、本調査は、郵送とWEBを併用して調査しましたが、若い世代ほどWEBでの回答率が高い状況でした。

■調査概要

調査対象	18歳以上の市民（居住地(中学校区)毎の人口割合に応じた調査票送付数を設定したうえで、無作為抽出）
調査期間	令和3年8月13日（金）～令和3年8月30日（月）
調査方法	配布：郵送 回収：郵送、WEB（回答者が選択）
回収状況	配布数：2,200通 回収数：858通（うち郵送：670通、WEB：188通） （回収率：39.0%）

【蒲郡市のまちづくりに関するアンケートの回収票の信頼性について】

アンケートの回収票と回答の精度（誤差）との関係は、票数が多いと精度高く（誤差が小さく）なります。

統計学的には、この精度（誤差）は3～5%であればよいとされています。

今回のアンケートでは、858票の有効回答票数がありましたので、必要な回答票数を計算する以下の式にあてはめると3.3%となりました。

これは、例えば、違う市民の方々を対象にして同じ調査を100回行った場合、95回（信頼度95%）は、その結果の%の値が±3.3%以内になるということを示しています。

$$\text{標本誤差} = k \sqrt{\{(N-n)/(N-1) \times p(1-p)/n\}} = 3.3\%$$

N：アンケート対象者（18歳以上の市民 65,330人（R3.4.1））

n：有効回答数（858票）

p：回答比率（最も誤差が生じる比率に設定：0.5）

k：信頼度係数（信頼度95%の場合：1.96）

【蒲郡市のまちづくりに関するアンケート 年齢別回収方法別の回収状況について】

今回のアンケート調査では、調査票の郵送回収と Web での回答の 2 つの回収方法を併用しており、回答方法の傾向を整理しました。

全体的には郵送回収が 78%と多い状況でした。

年齢別に傾向をみると、各世代で郵送回収が多いですが、若い世代ほど、Web での回答が多くなる傾向があります。

■ 年齢別回収方法別の回収数

年齢	回収数			回収方法別割合	
	郵送 (A)	Web (B)	合計 (C)	郵送 (A/C)	Web (B/C)
20歳代以下	87	51	138	63%	37%
30歳代	88	49	137	64%	36%
40歳代	89	39	128	70%	30%
50歳代	124	35	159	78%	22%
60歳代	139	14	153	91%	9%
70歳代以上	137	0	137	100%	0%
不明	6	0	6	100%	0%
合計	670	188	858	78%	22%

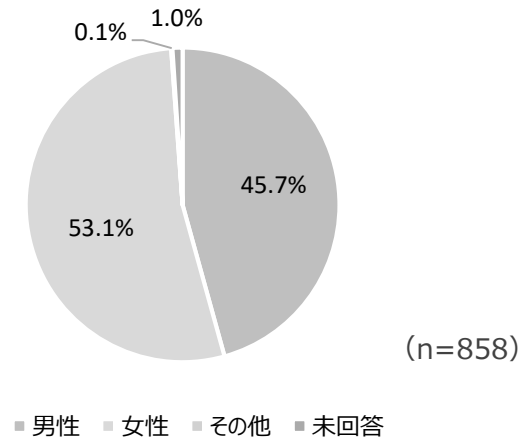
(2) 調査結果

○回答者について

(問1) 性別や年齢などについて

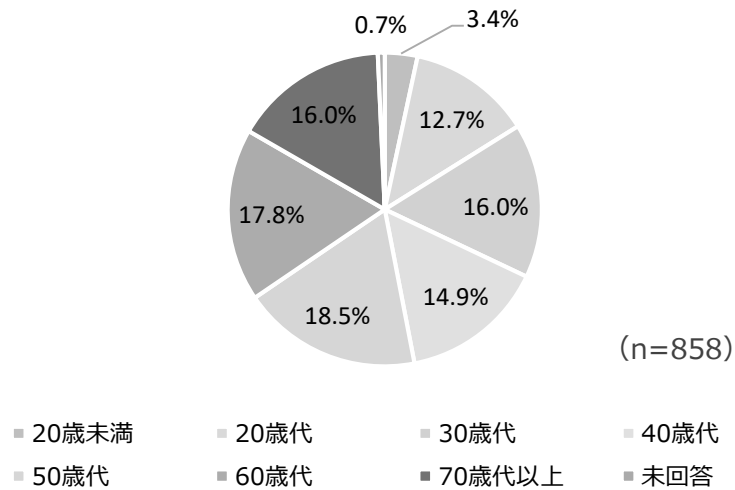
①性別

・「男性」の割合が45.7%、「女性」の割合が53.1%となっています。



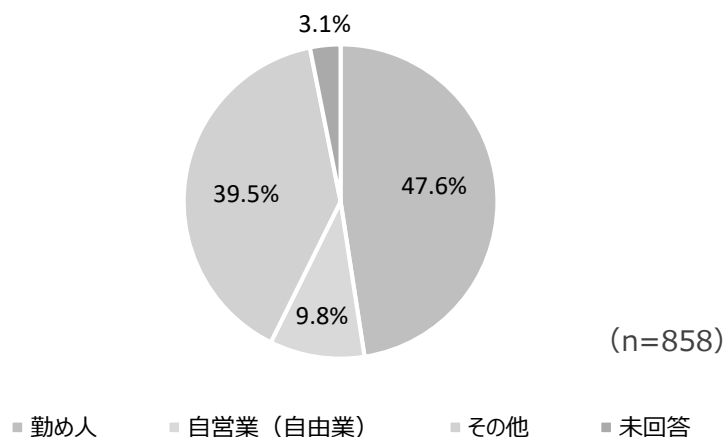
②年齢(令和3年4月1日時点)

・各年齢層から概ね同数の回答がありました。



③職業

- ・「勤め人」の割合が 47.6%と最も高くなっています。
- ・職業の内訳をみると、「無職」の割合が 12.6%と最も高く、次いで「事務職」の割合が 11.4%、「家事専業」の割合が 10.3%となっています。

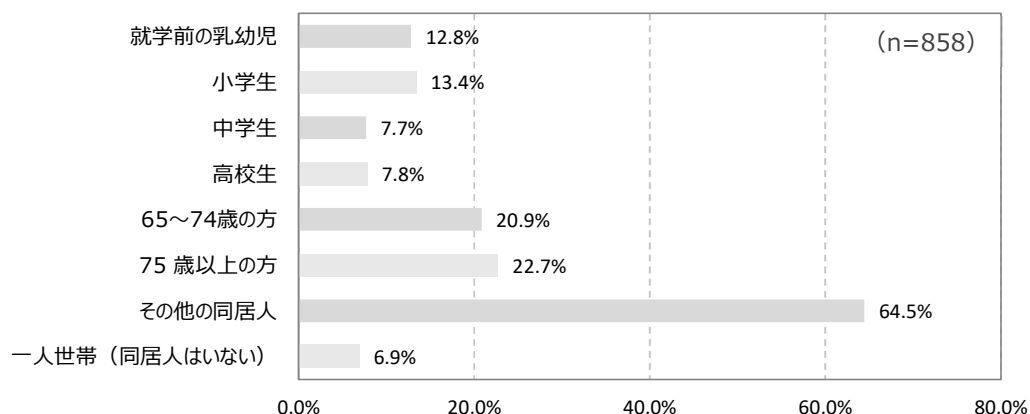


■職業（内訳）

職業（内訳）		回答者数（人）	割合	職業（内訳）		回答者数（人）	割合
勤め人	事務職	98	11.4%	(自営業)	卸・小売業	9	1.0%
	研究・技術職	65	7.6%		飲食業	3	0.3%
	工場・運搬作業	86	10.0%		サービス業	18	2.1%
	企画・営業	30	3.5%		その他	13	1.5%
	接客・販売業	41	4.8%	その他	家事専業	88	10.3%
	広報・デザイン	3	0.3%		パート、アルバイト	86	10.0%
	会社役員	17	2.0%		学生	40	4.7%
	その他	68	7.9%		無職	108	12.6%
					その他	17	2.0%
(自営業)	農林水産業	17	2.0%	未回答		27	3.1%
	製造業	11	1.3%	合計		858	100.0%
	建設業	13	1.5%				

④同居人

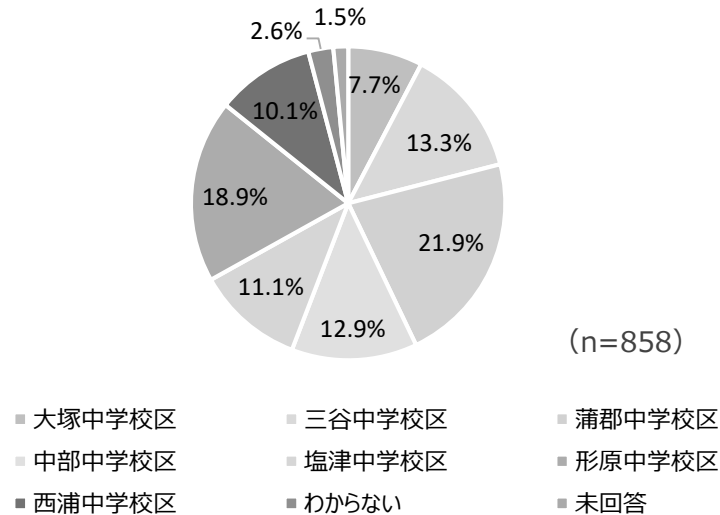
- ・「その他の同居人」の割合が 64.5%と最も高く、次いで「75 歳以上の方」の割合が 22.7%、「65～74 歳の方」の割合が 20.9%となっています。



※複数回答のため、各項目の合計値は 100%とならない

⑤居住地区

- ・「蒲郡中学校区」の割合が21.9%と最も多く、次いで「形原中学校区」の割合が18.9%、「三谷中学校区」の割合が13.3%となっています。
- ・全ての町からの回答がありました。（浜町は令和3年9月時点で居住者がいません。）

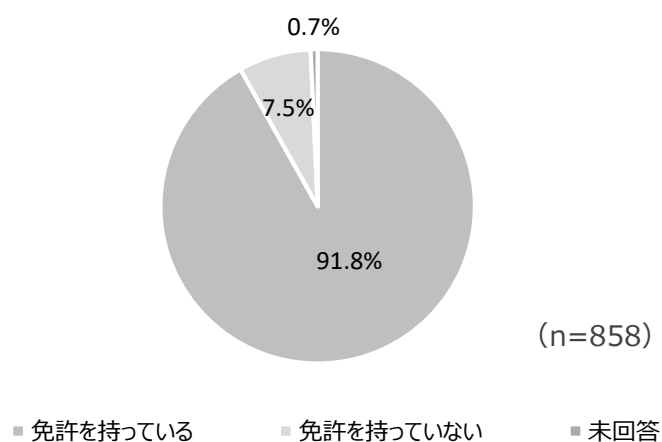


■町名（内訳）

町名（内訳）	回答者数(人)	割合	町名（内訳）	回答者数(人)	割合
相楽町	5	0.6%	宮成町	13	1.5%
大塚町	58	6.8%	緑町	19	2.2%
海陽町	7	0.8%	旭町	5	0.6%
三谷町	99	11.5%	丸山町	8	0.9%
三谷北通	28	3.3%	竹島町	4	0.5%
平田町	8	0.9%	松原町	8	0.9%
豊岡町	42	4.9%	港町	11	1.3%
五井町	8	0.9%	栄町	8	0.9%
水竹町	27	3.1%	柏原町	8	0.9%
清田町	15	1.7%	竹谷町	48	5.6%
坂本町	5	0.6%	西迫町	3	0.3%
神ノ郷町	15	1.7%	拾石町	25	2.9%
府相町	14	1.6%	鹿島町	16	1.9%
新井形町	6	0.7%	浜町	0	0.0%
蒲郡町	6	0.7%	一色町	6	0.7%
堀込町	3	0.3%	金平町	32	3.7%
新井町	7	0.8%	形原町	121	14.1%
八百富町	7	0.8%	西浦町	86	10.0%
神明町	8	0.9%	わからない	2	0.2%
本町	12	1.4%	未回答	16	1.9%
上本町	6	0.7%			
中央本町	11	1.3%			
元町	5	0.6%			
宝町	5	0.6%			
御幸町	12	1.4%			
			合計	858	100.0%

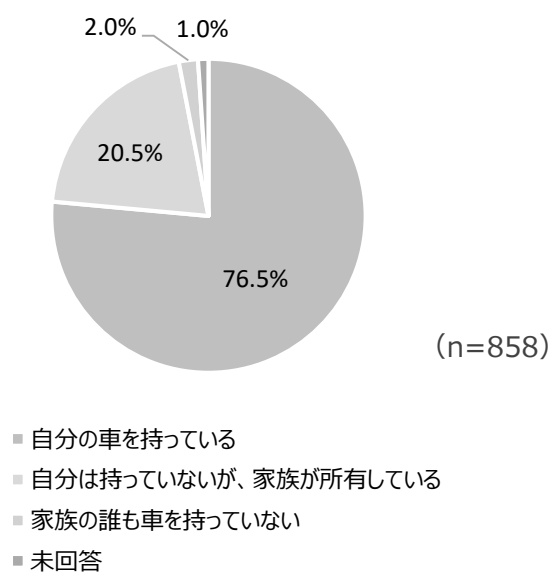
⑥自動車の運転免許の保有状況

・「免許を持っている」の割合が91.8%と最も高くなっています。



⑦自動車の保有状況

・「自分の車を持っている」の割合が76.5%と最も高く、次いで「自分は持っていないが、家族が所有している」の割合が20.5%、「家族の誰も車を持っていない」の割合が2.0%となっています。

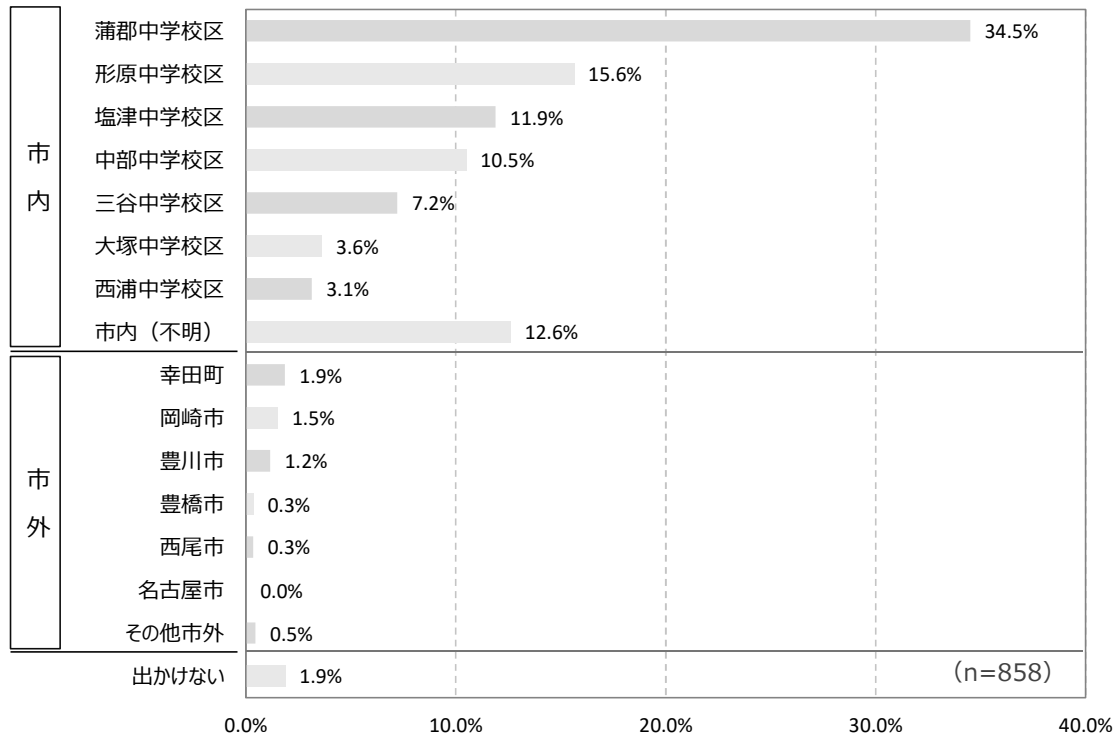


(問2) 買い物や通院の際の主な行先や交通手段について

① 毎日の食料品や日用品

【主な行先】

- ・ 毎日の食料品や日用品の買い物は、市外よりも市内が多くなっています。
- ・ 「蒲郡中学校区」の割合が 34.5%と最も高く、次いで「形原中学校区」の割合が 15.6%、「塩津中学校区」の割合が 11.9%となっています。



※複数回答のため、各項目の合計値は 100%とならない

第3章 まちづくりに関する市民意向の把握

◇居住地別

- ・概ね居住地と同じ中学校区内の割合が高くなっていますが、大塚中学校区と三谷中学校区は「蒲郡中学校区」、西浦中学校区は「形原中学校区」の割合が高くなっています。

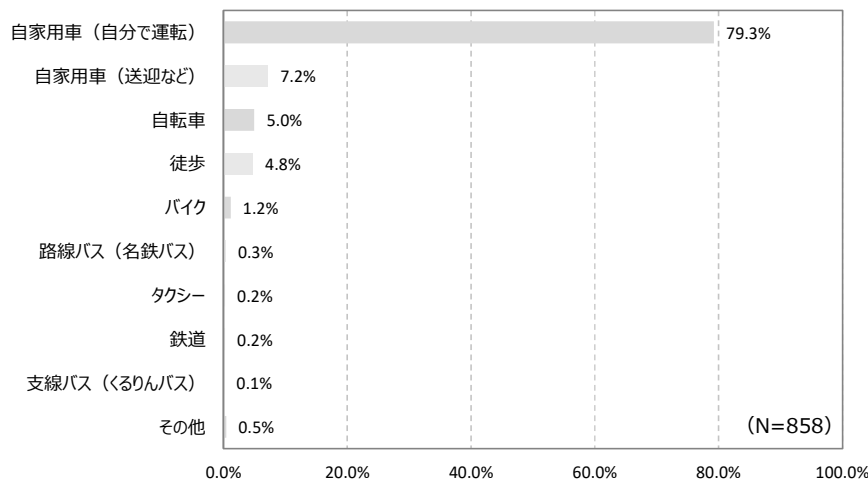
		目的地(市内)							
		大塚中学校区	三谷中学校区	蒲郡中学校区	中部中学校区	塩津中学校区	形原中学校区	西浦中学校区	市内(不明)
居住地	大塚中学校区(n=66)	25.8%	10.6%	34.8%	1.5%	1.5%	0.0%	0.0%	15.2%
	三谷中学校区(n=114)	0.9%	33.3%	42.1%	6.1%	4.4%	0.9%	0.0%	10.5%
	蒲郡中学校区(n=188)	0.5%	4.8%	76.1%	6.4%	2.1%	0.0%	0.0%	6.9%
	中部中学校区(n=111)	0.9%	0.0%	27.9%	56.8%	3.6%	0.0%	0.0%	11.7%
	塩津中学校区(n=95)	3.2%	4.2%	17.9%	5.3%	62.1%	4.2%	0.0%	13.7%
	形原中学校区(n=162)	3.7%	0.6%	13.0%	1.2%	13.0%	59.3%	0.0%	13.0%
	西浦中学校区(n=87)	2.3%	1.1%	10.3%	0.0%	6.9%	36.8%	31.0%	10.3%
	わからない(n=22)	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%	4.5%	0.0%	0.0%	68.2%
		目的地(市外)							
		豊橋市	豊川市	岡崎市	幸田町	西尾市	名古屋市	その他市外	出かけない
居住地	大塚中学校区(n=66)	1.5%	7.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%
	三谷中学校区(n=114)	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%
	蒲郡中学校区(n=188)	0.0%	0.5%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%
	中部中学校区(n=111)	1.8%	0.0%	0.9%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
	塩津中学校区(n=95)	0.0%	1.1%	2.1%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%
	形原中学校区(n=162)	0.0%	1.2%	2.5%	3.1%	0.0%	0.0%	1.9%	2.5%
	西浦中学校区(n=87)	0.0%	0.0%	3.4%	4.6%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	わからない(n=22)	0.0%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%

太字：居住地ごとで、割合が最も高いもの

※複数回答のため、各項目の合計値は100%とにならない

【主な交通手段】

- ・「自家用車（自分で運転）」の割合が79.3%と最も高く、次いで「自家用車（送迎など）」の割合が7.2%、「自転車」の割合が5.0%となっており、自動車の利用が多くなっています。

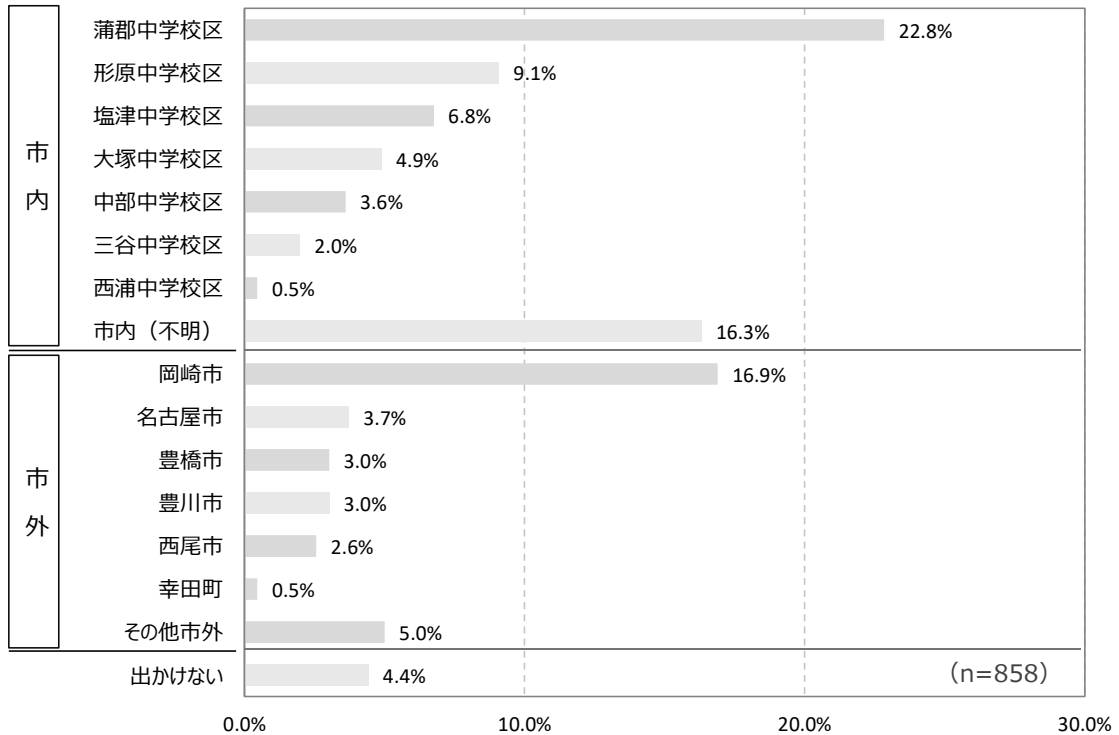


※複数回答のため、各項目の合計値は100%とにならない

②衣料品・家電・家具などの日用品以外

【主な行先】

- ・衣料品・家電・家具などの日用品以外の買い物は、市外（岡崎市）も多くなっています。
- ・「蒲郡中学校区」の割合が22.8%と最も高く、次いで「岡崎市」の割合が16.9%、「形原中学校区」の割合が9.1%となっています。



※複数回答のため、各項目の合計値は100%とならない

第3章 まちづくりに関する市民意向の把握

◇居住地別

- ・大塚中学校区、三谷中学校区、蒲郡中学校区、中部中学校区では「蒲郡中学校区」、形原中学校区では「中学校区内」の割合が最も高くなっていますが、市西部の塩津中学校区、西浦中学校区は、「岡崎市」の割合が最も高くなっています。

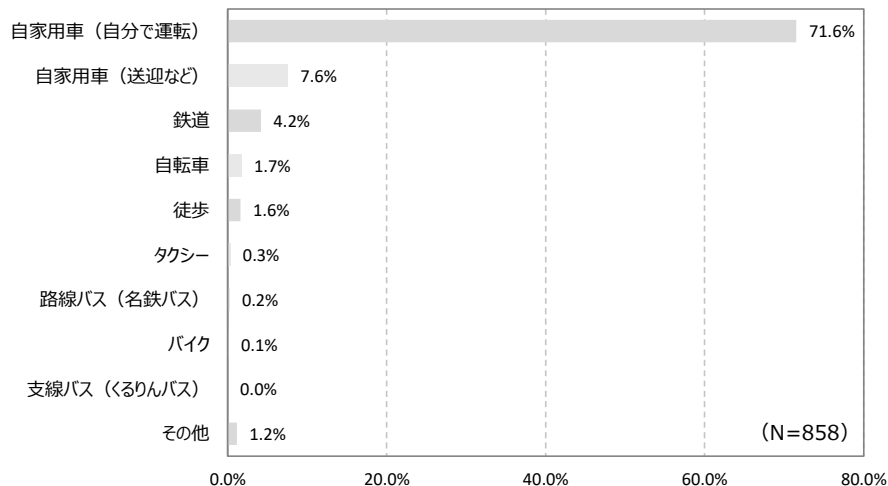
		目的地(市内)							
		大塚中学校区	三谷中学校区	蒲郡中学校区	中部中学校区	塩津中学校区	形原中学校区	西浦中学校区	市内(不明)
居住地	大塚中学校区(n=66)	4.5%	4.5%	19.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	19.7%
	三谷中学校区(n=114)	6.1%	7.0%	28.9%	1.8%	2.6%	7.9%	0.9%	14.0%
	蒲郡中学校区(n=188)	4.3%	0.5%	35.6%	3.7%	4.8%	4.3%	0.0%	12.8%
	中部中学校区(n=111)	5.4%	0.0%	34.2%	13.5%	6.3%	3.6%	0.0%	14.4%
	塩津中学校区(n=95)	6.3%	2.1%	12.6%	4.2%	17.9%	6.3%	0.0%	15.8%
	形原中学校区(n=162)	4.9%	1.2%	12.3%	0.6%	11.7%	21.0%	0.0%	18.5%
	西浦中学校区(n=87)	4.6%	0.0%	12.6%	2.3%	2.3%	18.4%	3.4%	16.1%
	わからない(n=22)	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%	4.5%	0.0%	0.0%	50.0%
		目的地(市外)							
		豊橋市	豊川市	岡崎市	幸田町	西尾市	名古屋市	その他市外	出かけない
居住地	大塚中学校区(n=66)	12.1%	13.6%	9.1%	0.0%	0.0%	1.5%	6.1%	1.5%
	三谷中学校区(n=114)	2.6%	7.9%	13.2%	0.9%	0.9%	2.6%	6.1%	5.3%
	蒲郡中学校区(n=188)	4.8%	1.6%	16.0%	0.0%	0.5%	6.9%	5.9%	4.3%
	中部中学校区(n=111)	1.8%	0.9%	14.4%	0.0%	3.6%	0.9%	3.6%	5.4%
	塩津中学校区(n=95)	0.0%	2.1%	24.2%	1.1%	2.1%	4.2%	4.2%	8.4%
	形原中学校区(n=162)	1.9%	1.2%	18.5%	0.6%	2.5%	3.1%	6.8%	3.7%
	西浦中学校区(n=87)	1.1%	0.0%	25.3%	1.1%	11.5%	3.4%	1.1%	3.4%
	わからない(n=22)	0.0%	0.0%	13.6%	0.0%	0.0%	4.5%	4.5%	0.0%

太字：居住地ごとで、割合が最も高いもの

※複数回答のため、各項目の合計値は100%とならない

【主な交通手段】

- ・「自家用車（自分で運転）」の割合が71.6%と最も高く、次いで「自家用車（送迎など）」の割合が7.6%、「鉄道」の割合が4.2%となっており、自動車の利用が多くなっています。

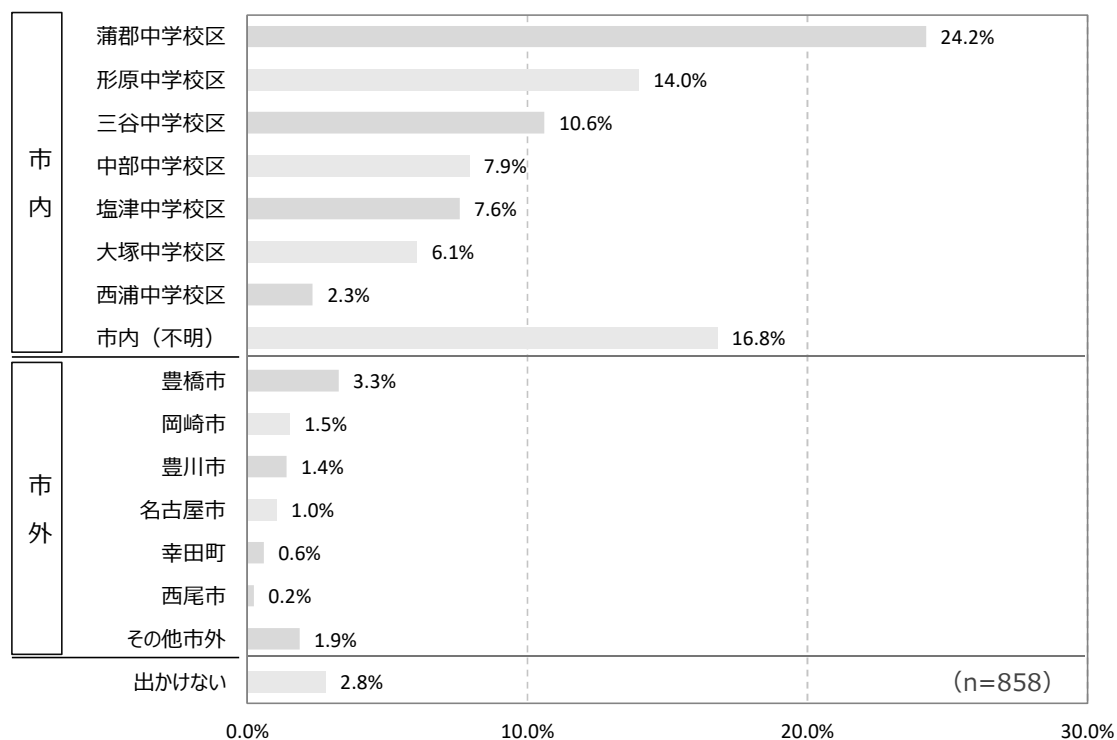


※複数回答のため、各項目の合計値は100%とならない

③病院・診療所

【主な行先】

- ・病院・診療所の通院は、市外よりも市内が多くなっています。
- ・「蒲郡中学校区」の割合が24.2%と最も高く、次いで「形原中学校区」の割合が14.0%、「三谷中学校区」の割合が10.6%となっています。



※複数回答のため、各項目の合計値は100%とならない

第3章 まちづくりに関する市民意向の把握

◇居住地別

- ・概ね居住地と同じ中学校区内の割合が高くなっていますが、大塚中学校区と三谷中学校区は「蒲郡中学校区」、西浦中学校区は「形原中学校区」の割合が高くなっています。

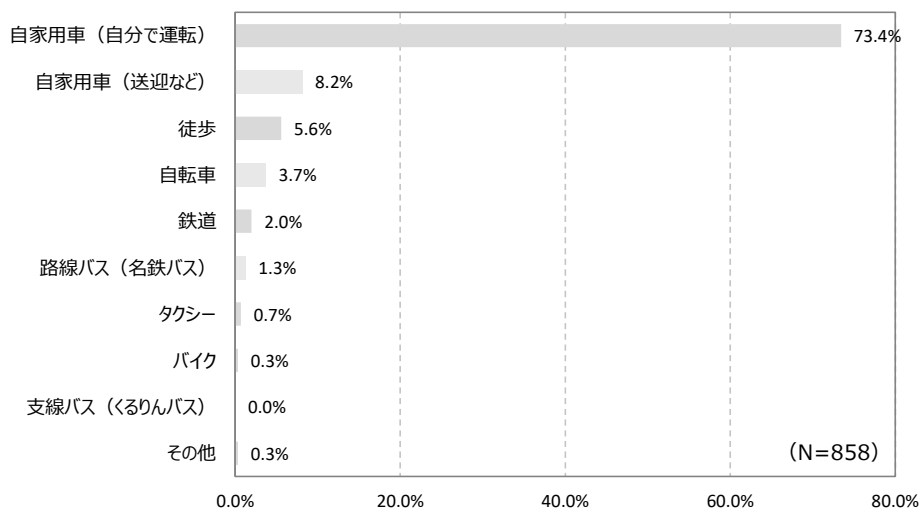
		目的地(市内)							
		大塚中学校区	三谷中学校区	蒲郡中学校区	中部中学校区	塩津中学校区	形原中学校区	西浦中学校区	市内(不明)
居住地	大塚中学校区(n=66)	39.4%	13.6%	15.2%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%
	三谷中学校区(n=114)	7.9%	43.9%	14.9%	3.5%	2.6%	3.5%	0.0%	14.9%
	蒲郡中学校区(n=188)	1.6%	9.6%	55.3%	7.4%	1.6%	0.5%	0.0%	13.3%
	中部中学校区(n=111)	4.5%	3.6%	27.9%	34.2%	9.9%	0.9%	0.0%	11.7%
	塩津中学校区(n=95)	4.2%	2.1%	25.3%	6.3%	29.5%	4.2%	0.0%	20.0%
	形原中学校区(n=162)	2.5%	4.3%	6.2%	2.5%	8.6%	47.5%	0.0%	19.8%
	西浦中学校区(n=87)	0.0%	1.1%	12.6%	1.1%	4.6%	35.6%	23.0%	12.6%
	わからない(n=22)	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%	0.0%	59.1%
		目的地(市外)							
		豊橋市	豊川市	岡崎市	幸田町	西尾市	名古屋市	その他市外	出かけない
居住地	大塚中学校区(n=66)	6.1%	4.5%	1.5%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%
	三谷中学校区(n=114)	4.4%	0.9%	0.9%	0.9%	0.0%	0.9%	0.9%	3.5%
	蒲郡中学校区(n=188)	4.3%	1.1%	2.1%	0.0%	0.0%	1.1%	1.1%	2.7%
	中部中学校区(n=111)	3.6%	2.7%	0.9%	0.0%	0.0%	0.9%	2.7%	2.7%
	塩津中学校区(n=95)	2.1%	1.1%	2.1%	2.1%	0.0%	2.1%	2.1%	2.1%
	形原中学校区(n=162)	2.5%	0.6%	1.2%	1.2%	1.2%	0.0%	3.1%	3.7%
	西浦中学校区(n=87)	1.1%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	1.1%	1.1%	3.4%
	わからない(n=22)	0.0%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	4.5%	4.5%

太字：居住地ごとで、割合が最も高いもの

※複数回答のため、各項目の合計値は100%とならない

【主な交通手段】

- ・「自家用車（自分で運転）」の割合が73.4%と最も高く、次いで「自家用車（送迎など）」の割合が8.2%、「徒歩」の割合が5.6%となっており、自動車の利用が多くなっています。

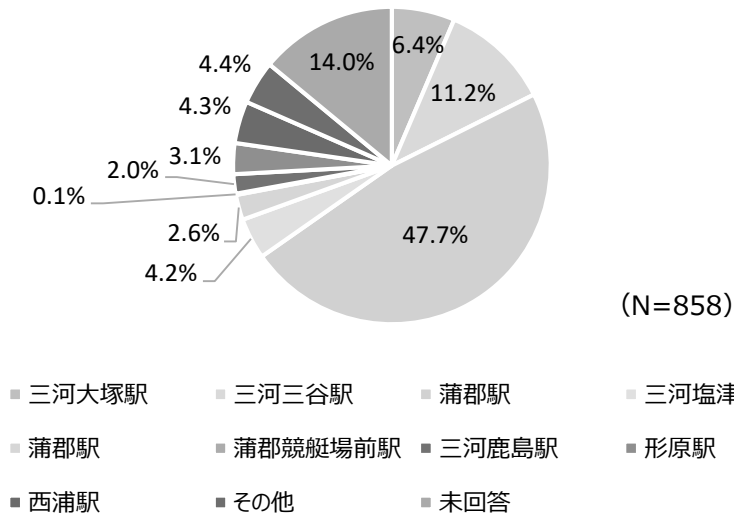


※複数回答のため、各項目の合計値は100%とならない

(問3) 鉄道駅を利用する際の目的や移動手段などについて

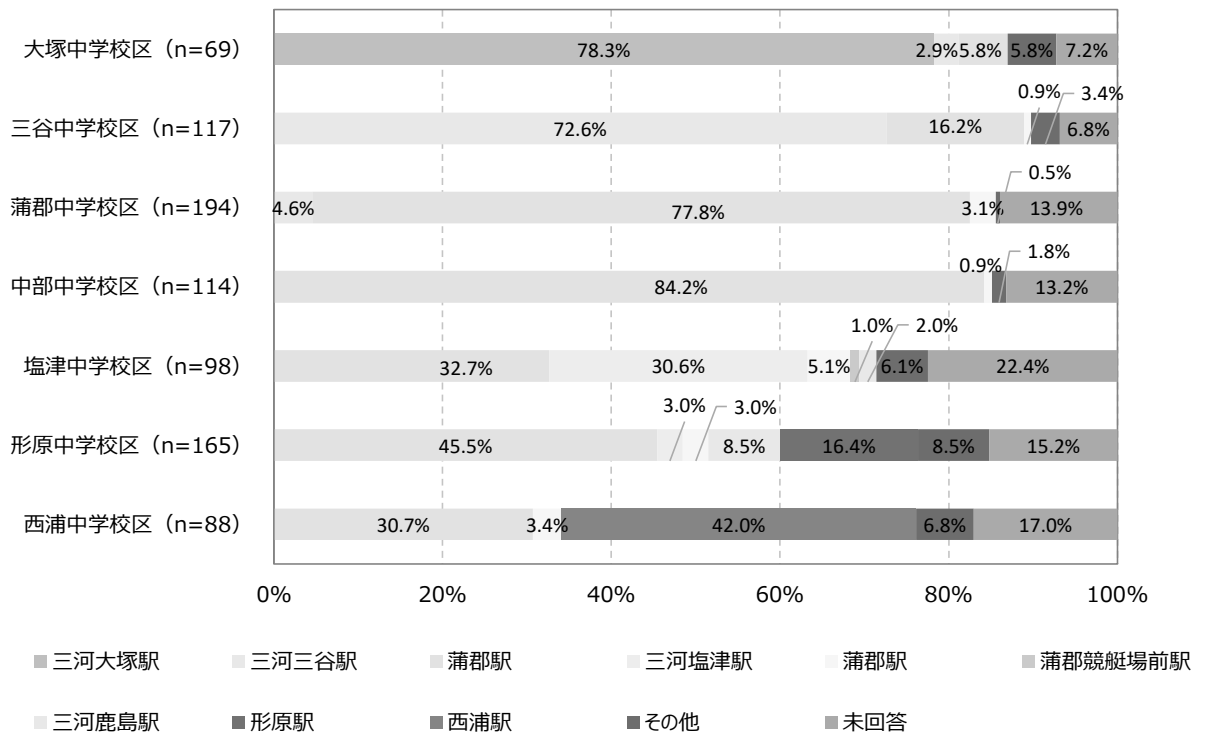
①最も利用する駅

・「蒲郡駅」の割合が47.7%と最も高く、次いで「三河三谷駅」の割合が11.2%、「三河大塚駅」の割合が6.4%となっています。



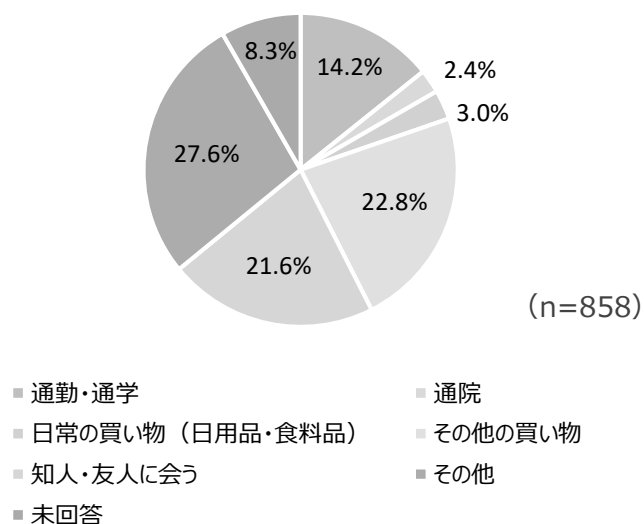
◇居住地別

・概ね中学校区内または隣接校区内の駅の割合が最も高くなっていますが、塩津中学校区と形原中学校区は「蒲郡駅」の割合が最も高くなっています。



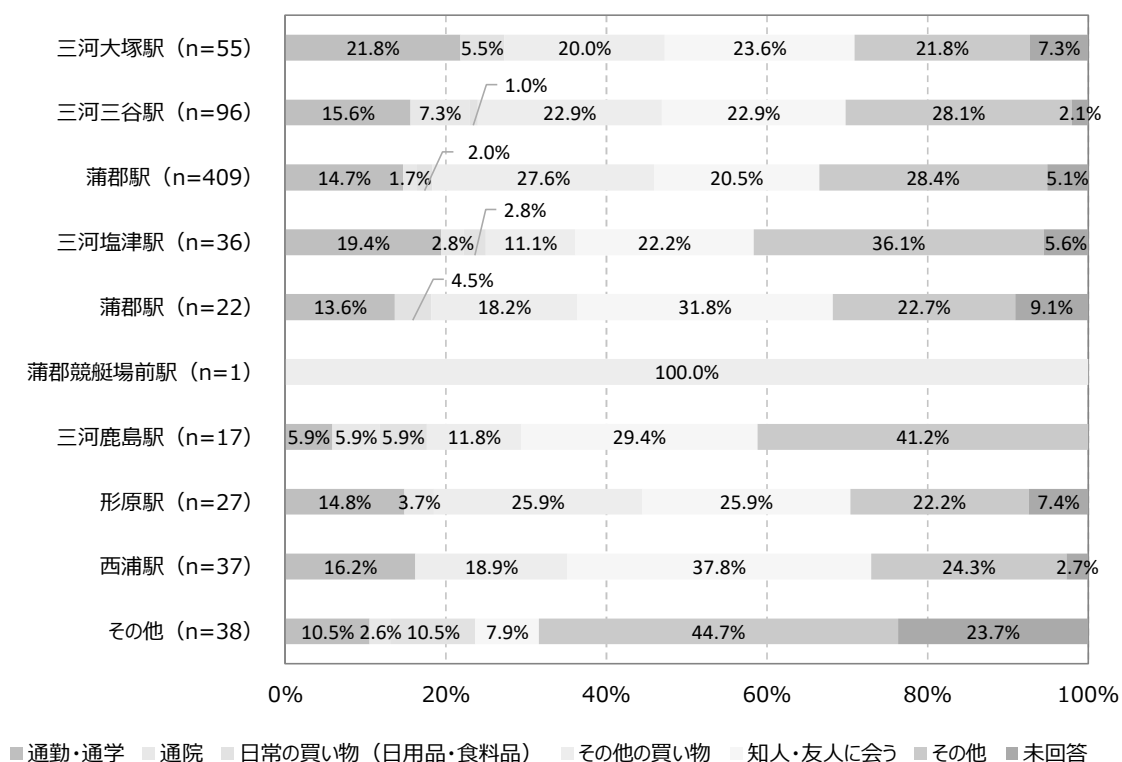
②主な利用目的

- ・「その他」の割合が27.6%と最も高く、次いで「その他の買い物」の割合が22.8%、「知人・友人に会う」の割合が21.6%となっています。



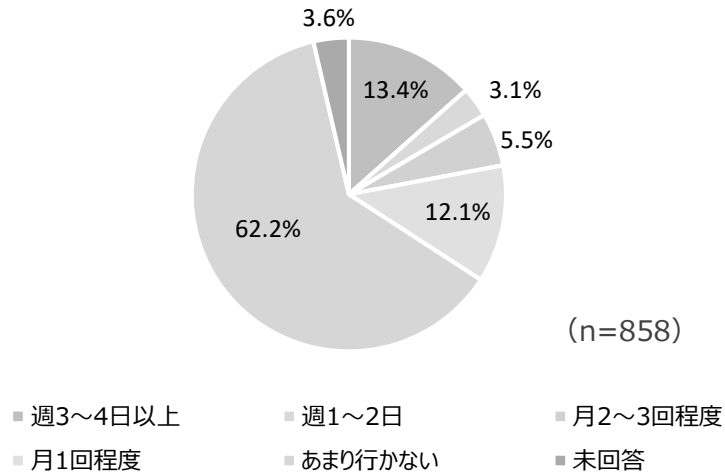
◇利用駅別

- ・西浦駅は、他の駅と比較して「知人・友人に会う」の割合が37.8%と高くなっています。
- ・三河鹿島駅は、「通勤・通学」の割合が5.9%と低くなっています。



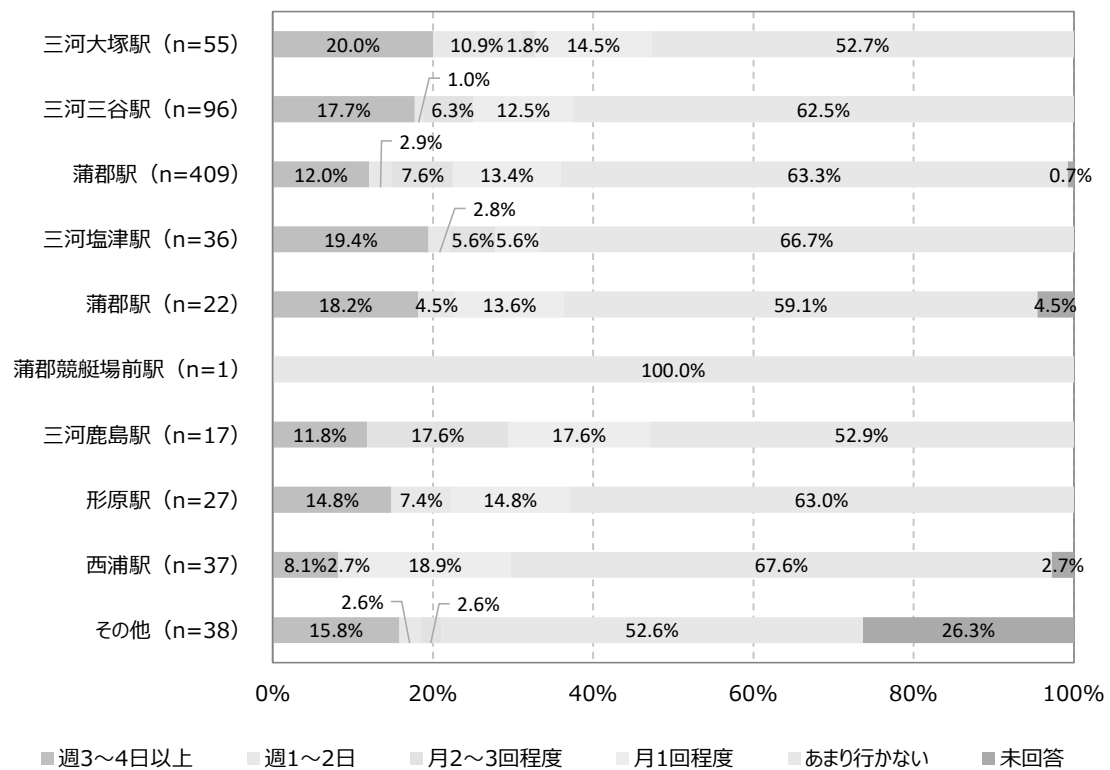
③利用頻度

- ・「あまり行かない」の割合が 62.2%と最も高く、次いで「週 3～4 日以上」の割合が 13.4%、「月 1 回程度」の割合が 12.1%となっています。



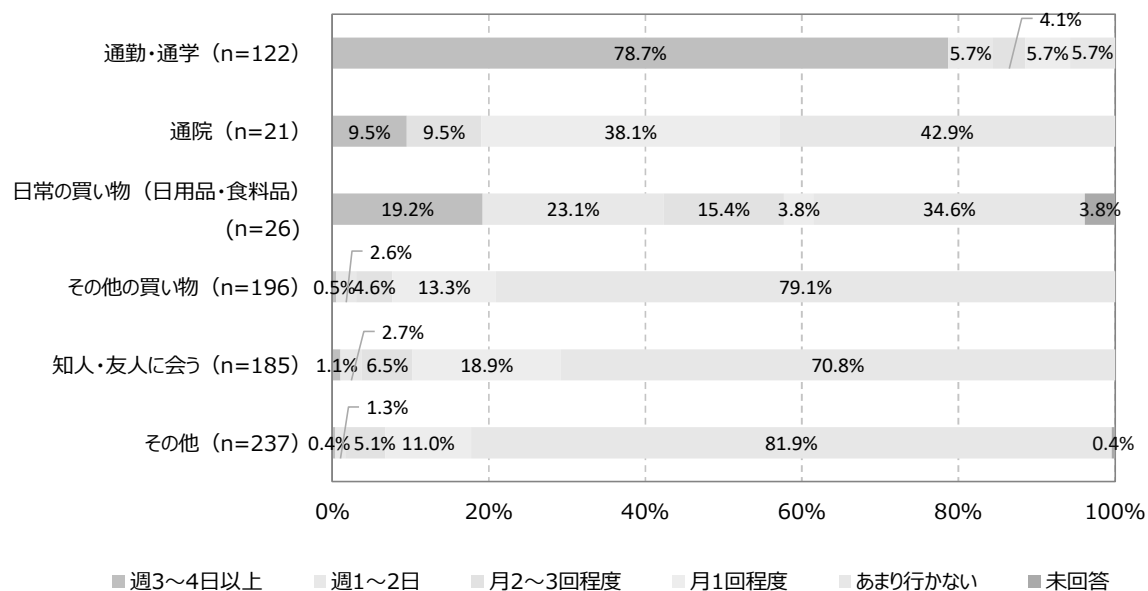
◇利用駅別

- ・全ての駅で「あまり行かない」の割合が最も高くなっています。
- ・三河大塚駅は、他の駅と比較して「週 1～2 日以上」の割合が 30.9%と高くなっています。



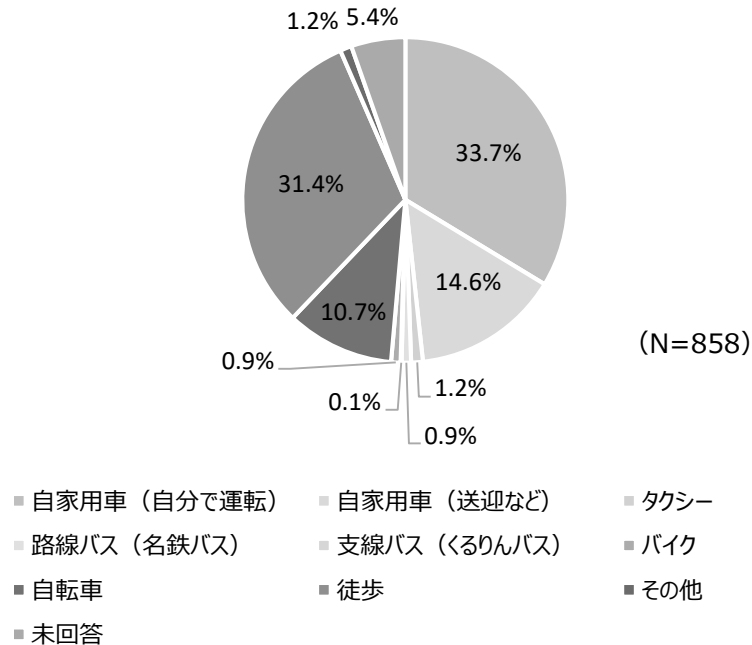
◇利用目的別

- ・通勤・通学は「週3～4日以上」の割合が78.7%と最も高くなっています。
- ・日常の買い物（日用品・食料品）は、「月2～3回以上」、通院は「月1回以上」が半数を超えています。



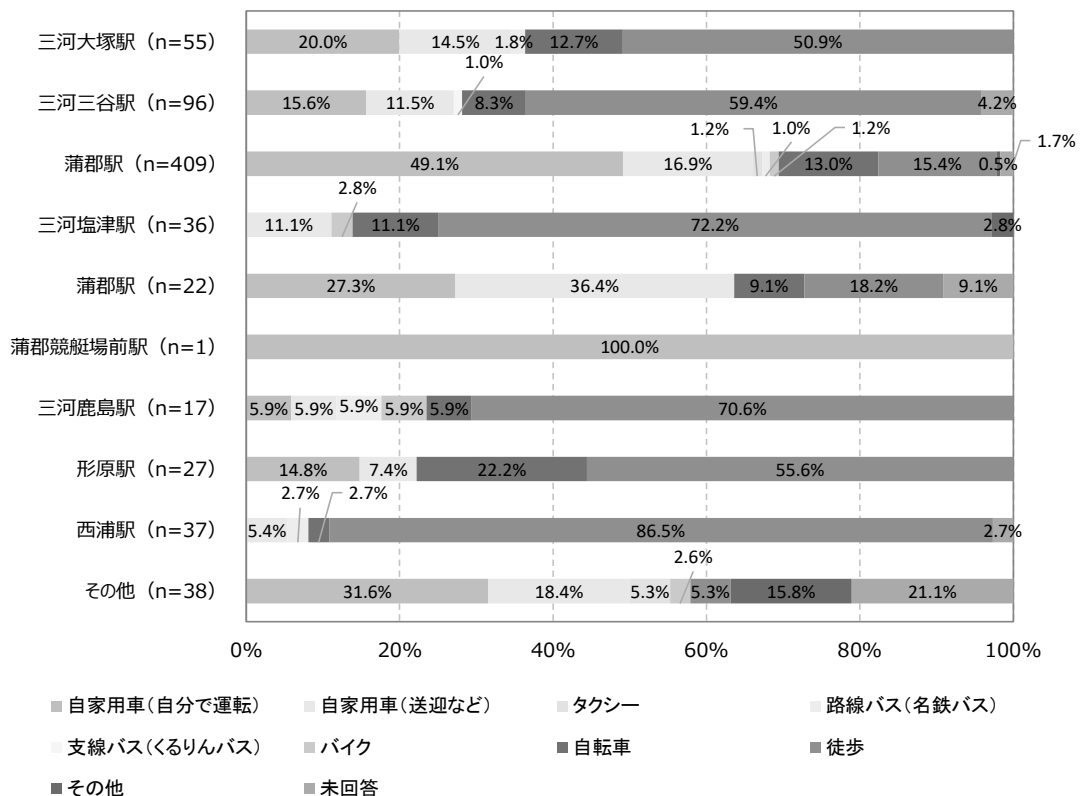
④駅までの移動手段

- ・「自家用車(自分で運転)」の割合が33.7%と最も高く、次いで「徒歩」の割合が31.4%、「自家用車(送迎など)」の割合が14.6%となっています。
- ・「自家用車(自分で運転)」と「自家用車(送迎など)」をあわせた“自家用車”の割合が、約半数を占めています。



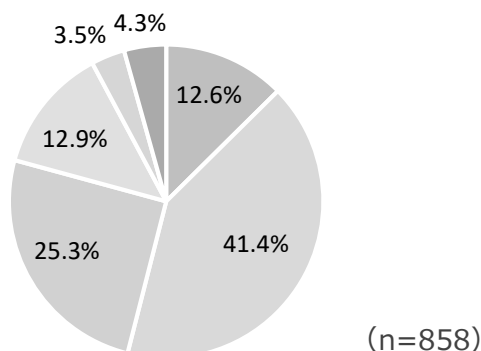
◇利用駅別

- ・蒲郡駅は「自家用車(自分で運転)」、蒲郡駅は「自家用車(送迎など)」の割合が最も高くなっていますが、その他の駅では、「徒歩」の割合が最も高くなっています。



⑤駅までの移動時間

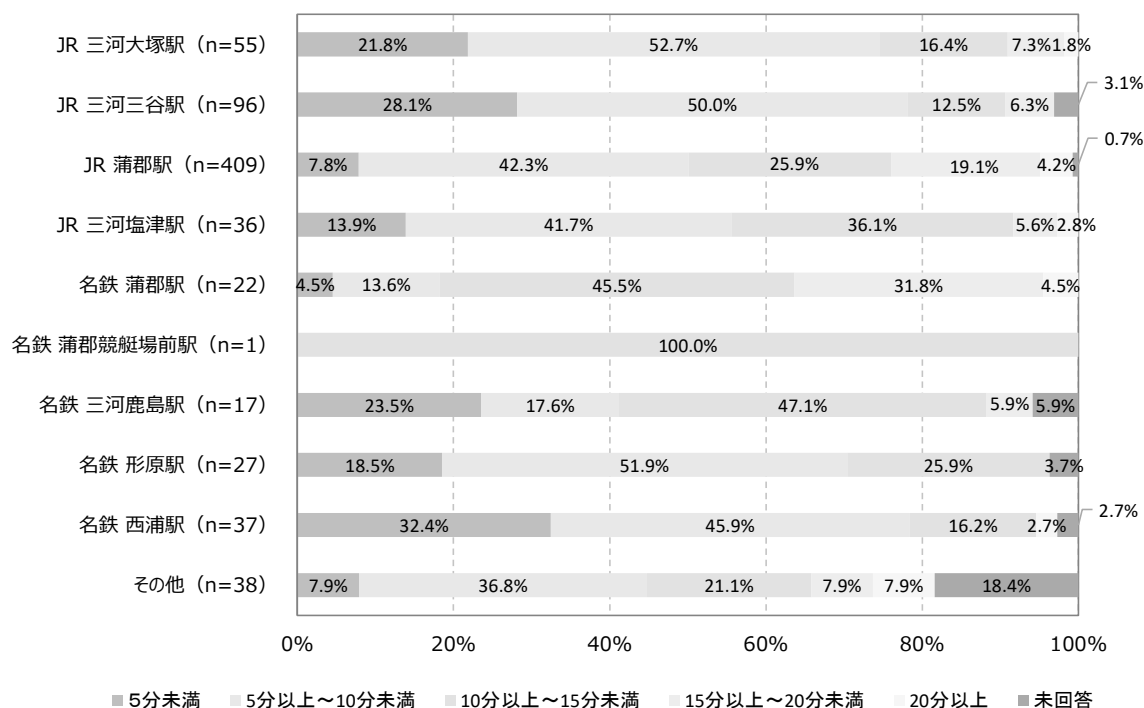
- ・「5分以上～10分未満」の割合が41.4%と最も高く、次いで「10分以上～15分未満」の割合が25.3%、「15分以上～20分未満」の割合が12.9%となっています。



- 5分未満
- 5分以上～10分未満
- 10分以上～15分未満
- 15分以上～20分未満
- 20分以上
- 未回答

◇利用駅別

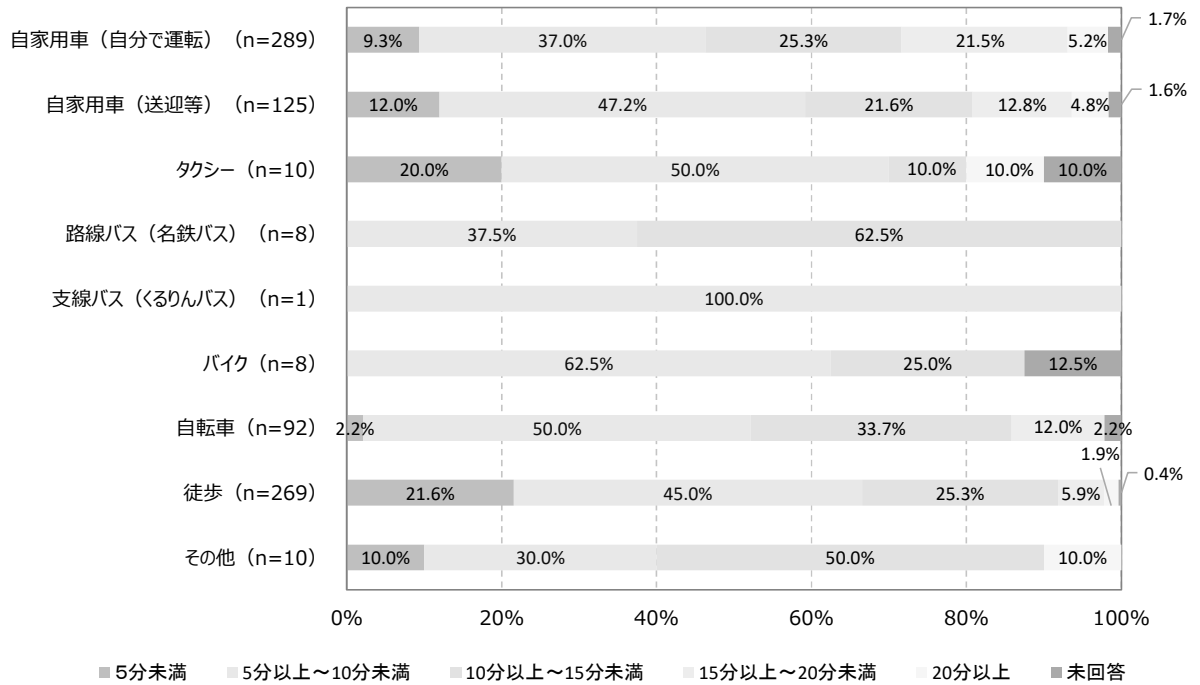
- ・概ねどの駅においても「10分未満」の割合が半数を超えていますが、「蒲郡駅」と「三河鹿島駅」では、半数以下となっています。



- 5分未満
- 5分以上～10分未満
- 10分以上～15分未満
- 15分以上～20分未満
- 20分以上
- 未回答

◇移動手段別

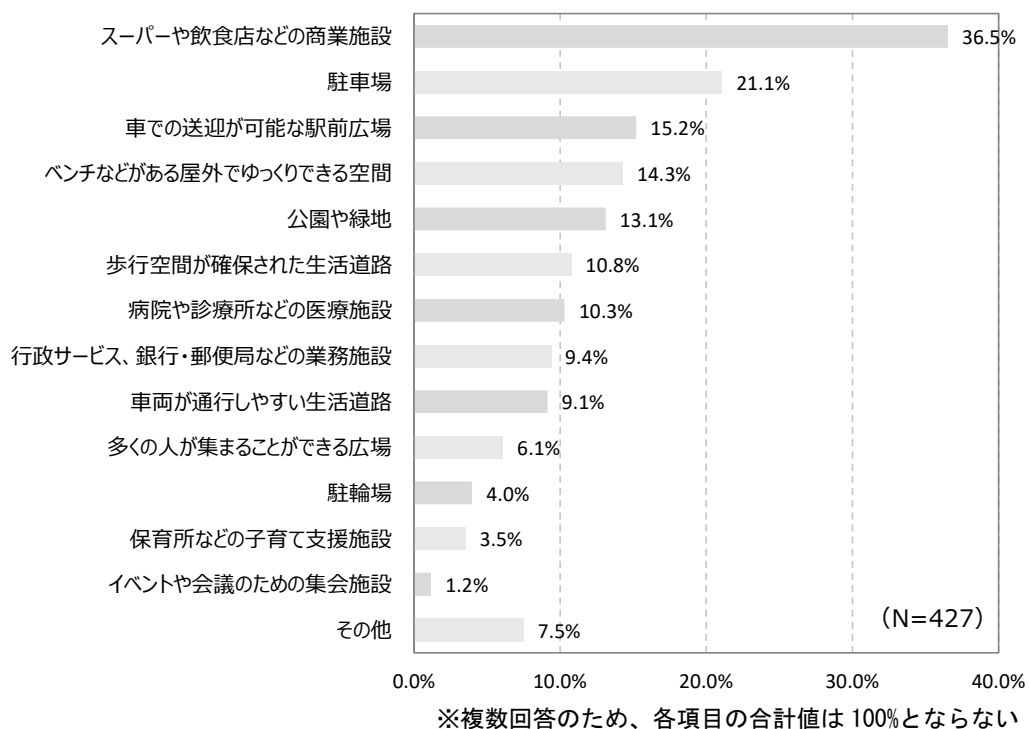
- ・概ねどの移動手段においても「10分未満」の割合が半数を超えていますが、路線バス（名鉄バス）はその割合が37.5%と最も低くなっています。



⑥「①で最も利用する」と回答した駅に必要だと思う施設（蒲郡駅以外）

※蒲郡駅については、P153～156 を参照

- ・「スーパーや飲食店などの商業施設」の割合が 36.5%と最も高く、次いで「駐車場」の割合が 21.1%、「車での送迎が可能な駅前広場」の割合が 15.2%となっています。



◇利用駅別

- ・三河大塚駅、三河三谷駅、三河塩津駅、西浦駅は「スーパーや飲食店などの商業施設」の割合が最も高く、特に三河大塚駅は 65.5%となっています。
- ・三河鹿島駅と形原駅は「車での送迎が可能な駅前広場」の割合が最も高く、また三河鹿島駅は、「ベンチなどがある屋外でゆっくりできる空間」の割合も高くなっています。

		駅に必要だと思う施設						
		施設 スーパーや飲食店などの商業	医療施設 病院や診療所などの	郵便局などの業務施設・	支援施設 保育所などの子育て	集会施設 イベントや会議のための	公園や緑地	ベンチなどがある屋外で
利用駅	三河大塚駅(n=55)	65.5%	16.4%	7.3%	7.3%	0.0%	14.5%	14.5%
	三河三谷駅(n=96)	50.0%	11.5%	17.7%	3.1%	0.0%	13.5%	19.8%
	三河塩津駅(n=36)	38.9%	11.1%	11.1%	2.8%	0.0%	11.1%	11.1%
	蒲郡競艇場前駅(n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	三河鹿島駅(n=17)	23.5%	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	17.6%	29.4%
	形原駅(n=27)	18.5%	7.4%	7.4%	0.0%	3.7%	14.8%	22.2%
	西浦駅(n=37)	32.4%	16.2%	8.1%	8.1%	2.7%	27.0%	21.6%
	その他(n=38)	23.7%	2.6%	7.9%	2.6%	0.0%	2.6%	7.9%

		駅に必要だと思う施設						
		できる広場 人が集まること	駅前広場 送迎が可能	生活道路 両側通行しやすい	歩行空間 が確保された	駐輪場	駐車場	その他
利用駅	三河大塚駅(n=55)	5.5%	12.7%	9.1%	18.2%	5.5%	25.5%	7.3%
	三河三谷駅(n=96)	5.2%	13.5%	8.3%	10.4%	4.2%	19.8%	10.4%
	三河塩津駅(n=36)	8.3%	16.7%	11.1%	22.2%	0.0%	13.9%	13.9%
	蒲郡競艇場前駅(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	三河鹿島駅(n=17)	0.0%	29.4%	11.8%	17.6%	0.0%	17.6%	17.6%
	形原駅(n=27)	7.4%	33.3%	14.8%	22.2%	14.8%	18.5%	3.7%
	西浦駅(n=37)	13.5%	5.4%	13.5%	10.8%	0.0%	27.0%	13.5%
	その他(n=38)	5.3%	18.4%	7.9%	7.9%	5.3%	36.8%	5.3%

太字：利用駅ごとで、割合が最も高いもの

※複数回答のため、各項目の合計値は100%とならない

第3章 まちづくりに関する市民意向の把握

◇年齢別

- ・全ての年代で、「スーパーや飲食店などの商業施設」の割合が最も高くなっており、特に30歳代以下は40%以上と高くなっています。
- ・20歳未満は、他の年代と比較して、「ベンチなどがある屋外でゆっくりできる空間」の割合が33.3%と高くなっています。

		駅に必要だと思う施設						
		施設 スーパーや飲食店などの商業	医療施設 病院や診療所などの	郵便局などの業務施設・	支援施設 保育所などの子育て	集会施設 イベントや会議のための	公園や緑地	ベンチなどがある屋外で ゆっくりできる空間
年齢	20歳未満(n=18)	55.6%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	5.6%	33.3%
	20歳代(n=55)	54.5%	12.7%	10.9%	9.1%	0.0%	9.1%	14.5%
	30歳代(n=62)	43.5%	8.1%	6.5%	9.7%	0.0%	24.2%	14.5%
	40歳代(n=55)	25.5%	9.1%	10.9%	0.0%	1.8%	14.5%	12.7%
	50歳代(n=69)	39.1%	5.8%	8.7%	2.9%	2.9%	14.5%	13.0%
	60歳代(n=78)	30.8%	10.3%	10.3%	2.6%	1.3%	9.0%	14.1%
	70歳代以上(n=86)	26.7%	16.3%	10.5%	0.0%	1.2%	11.6%	11.6%

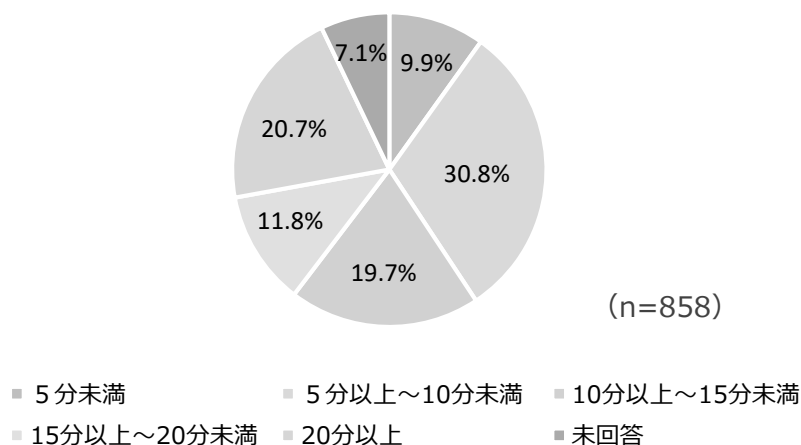
		駅に必要だと思う施設						
		多くの人が集まることが できる広場	駅前での送迎が可能な 車場の広場	生活道路が通行しやすい 車両が道路	歩行空間が確保された 生活道路	駐輪場	駐車場	その他
年齢	20歳未満(n=18)	16.7%	22.2%	5.6%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%
	20歳代(n=55)	1.8%	10.9%	1.8%	7.3%	3.6%	16.4%	12.7%
	30歳代(n=62)	8.1%	14.5%	12.9%	17.7%	3.2%	22.6%	4.8%
	40歳代(n=55)	7.3%	18.2%	7.3%	14.5%	9.1%	23.6%	14.5%
	50歳代(n=69)	7.2%	20.3%	13.0%	8.7%	4.3%	30.4%	7.2%
	60歳代(n=78)	3.8%	15.4%	10.3%	10.3%	3.8%	21.8%	10.3%
	70歳代以上(n=86)	5.8%	11.6%	9.3%	10.5%	2.3%	16.3%	1.2%

太字：年齢ごとで、割合が最も高いもの

※複数回答のため、各項目の合計値は100%とならない

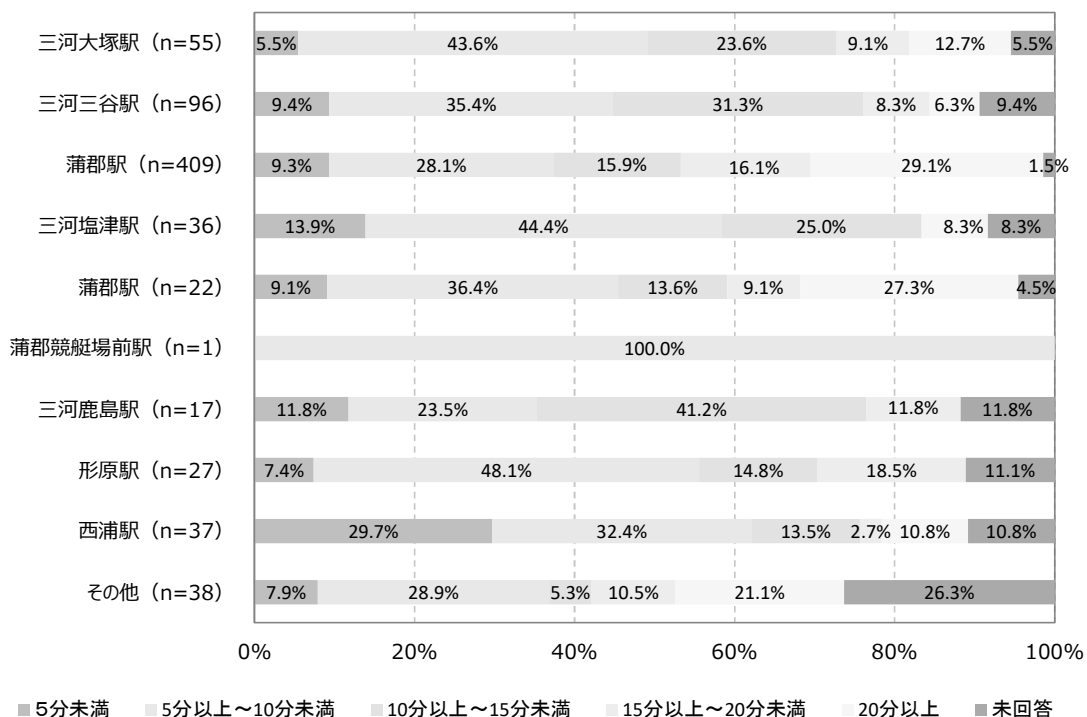
(問4) 駅を利用する場合に、徒歩で向かおうと思う所要時間

- ・「5分以上～10分未満」の割合が30.8%と最も高く、次いで「20分以上」の割合が20.7%、「10分以上～15分未満」の割合が19.7%となっています。



◇利用駅別

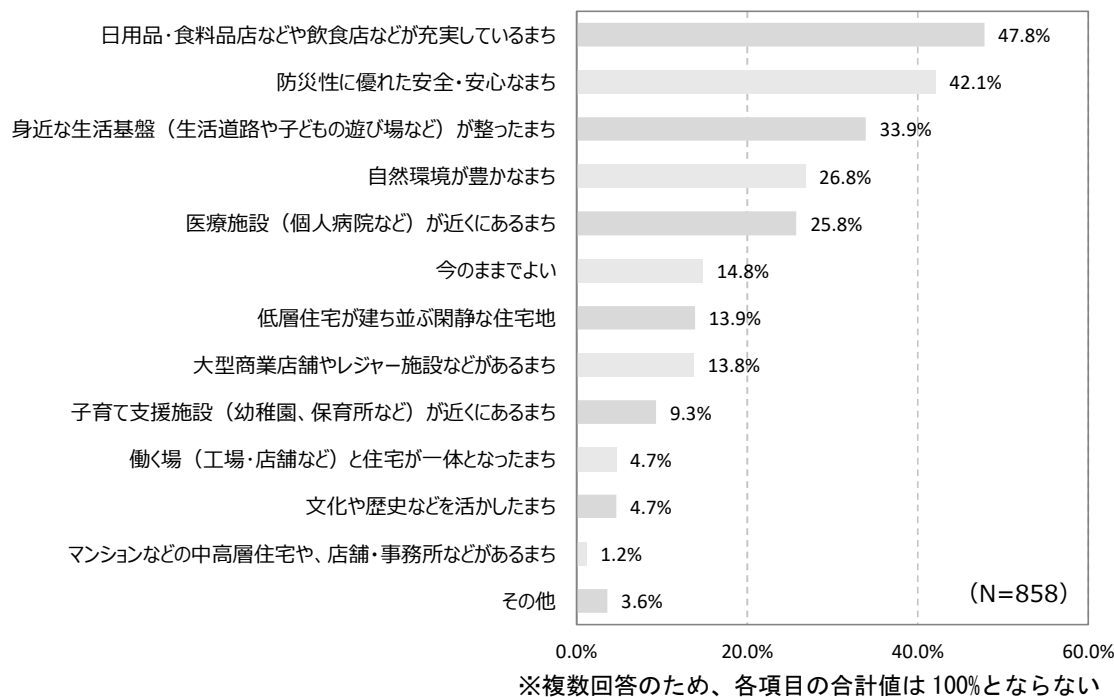
- ・全ての駅で「15分未満」の割合が半数を超えていますが、特に「三河塩津駅」「形原駅」「西浦駅」は、「10分未満」が半数を超えています。



○お住まいの地区について

（問5）お住まいの地区がどのようなになったら良いと思うか

- ・「日用品・食料品店などや飲食店などが充実しているまち」の割合が 47.8%と最も高く、次いで「防災性に優れた安全・安心なまち」の割合が 42.1%、「身近な生活基盤（生活道路や子どもの遊び場など）が整ったまち」の割合が 33.9%となっています。



◇居住地別

- ・どの中学校区についても「日用品・食料品店などや飲食店などが充実しているまち」の割合が高く、特に、大塚中学校区、西浦中学校区は半数を超えています。
- ・中部中学校区、塩津中学校区、形原中学校区は、「防災性に優れた安全・安心なまち」の割合が最も高くなっています。
- ・西浦中学校区は、他の中学校区と比較して、「医療施設（個人病院など）が近くにあるまち」の割合が32.2%と高くなっています。

		お住まいの地区がどのようなになったら良いと思うか						
		閑静な住宅地が建ち並ぶ	住宅やマンションなどの中高層など	日用品・食料品店などが充実している	大型商業店舗やレジャー施設	働く場（工場・店舗など）と	子どもたちの遊び場（生活道路や	医療施設（個人病院など）が近くにあるまち
居住地	大塚中学校区 (n=69)	5.8%	2.9%	62.3%	29.0%	5.8%	33.3%	17.4%
	三谷中学校区 (n=117)	12.0%	0.9%	48.7%	11.1%	4.3%	24.8%	28.2%
	蒲郡中学校区 (n=194)	16.0%	1.5%	47.9%	16.0%	4.1%	33.0%	27.3%
	中部中学校区 (n=114)	20.2%	1.8%	36.8%	10.5%	4.4%	37.7%	22.8%
	塩津中学校区 (n=98)	13.3%	1.0%	40.8%	10.2%	1.0%	35.7%	19.4%
	形原中学校区 (n=165)	11.5%	0.0%	47.9%	12.7%	4.8%	38.2%	27.9%
	西浦中学校区 (n=88)	14.8%	0.0%	60.2%	10.2%	8.0%	36.4%	31.8%
	わからない(n=9)	11.1%	11.1%	33.3%	22.2%	11.1%	22.2%	33.3%

		お住まいの地区がどのようなになったら良いと思うか				
		子育て支援施設（幼稚園、保育園）が近くにあるまち	自然環境が豊かなまち	文化や歴史などを活かしたまち	防災性に優れた安全・安心なまち	今のままでよい
居住地	大塚中学校区 (n=69)	10.1%	14.5%	5.8%	47.8%	4.3%
	三谷中学校区 (n=117)	10.3%	29.9%	7.7%	41.9%	14.5%
	蒲郡中学校区 (n=194)	7.7%	28.4%	5.2%	35.6%	19.1%
	中部中学校区 (n=114)	6.1%	28.9%	5.3%	45.6%	22.8%
	塩津中学校区 (n=98)	13.3%	26.5%	1.0%	48.0%	16.3%
	形原中学校区 (n=165)	9.1%	26.1%	6.1%	49.7%	12.7%
	西浦中学校区 (n=88)	12.5%	29.5%	0.0%	29.5%	5.7%
	わからない(n=9)	0.0%	22.2%	0.0%	22.2%	22.2%

太字：居住地ごとで、割合が最も高いもの
※複数回答のため、各項目の合計値は100%とならない

第3章 まちづくりに関する市民意向の把握

◇年齢別

- ・どの年代についても「日用品・食料品店などや飲食店などが充実しているまち」の割合が40%以上と高く、特に、20歳代は55.0%と高くなっています。
- ・20歳未満と60歳代は「防災性に優れた安全・安心なまち」も割合が50%以上と最も高くなっています。
- ・30歳代は、他の年代と比較して、「身近な生活基盤（生活道路や子どもの遊び場など）が整ったまち」の割合が47.4%、70歳代以上は、「医療施設（個人病院など）が近くにあるまち」の割合が41.6%と高くなっています。

		お住まいの地区がどのようなになったら良いと思うか						
		閑静な住宅地が建ち並ぶ	住宅がまちなまち	日用品・食料品店などが充実している	大型商業店舗やレジャー施設などがあるまち	働く場（工場・店舗など）と住居が一体となったまち	子どもの遊び場など生活基盤が整ったまち	医療施設（個人病院など）が近くにあるまち
年齢	20歳未満(n=29)	6.9%	0.0%	48.3%	24.1%	10.3%	27.6%	24.1%
	20歳代(n=109)	12.8%	0.0%	55.0%	26.6%	2.8%	28.4%	18.3%
	30歳代(n=137)	13.9%	0.7%	48.2%	21.2%	6.6%	47.4%	16.1%
	40歳代(n=128)	17.2%	0.8%	46.1%	14.1%	5.5%	36.7%	18.8%
	50歳代(n=159)	15.1%	0.6%	50.3%	10.7%	3.1%	30.2%	28.3%
	60歳代(n=153)	11.1%	3.3%	46.4%	7.2%	3.9%	35.9%	28.8%
	70歳代以上(n=137)	15.3%	1.5%	42.3%	5.1%	3.6%	26.3%	41.6%

		お住まいの地区がどのようなになったら良いと思うか					
		子育てなど支援施設が近く（幼稚園、保育園）	自然環境が豊かなまち	文化・歴史など活かしたまち	防災性に優れた安全・安心なまち	今のままでよい	その他
年齢	20歳未満(n=29)	10.3%	6.9%	0.0%	51.7%	20.7%	0.0%
	20歳代(n=109)	18.3%	21.1%	9.2%	42.2%	10.1%	0.9%
	30歳代(n=137)	17.5%	28.5%	2.9%	38.7%	9.5%	2.9%
	40歳代(n=128)	9.4%	28.9%	5.5%	34.4%	15.6%	3.9%
	50歳代(n=159)	3.8%	34.6%	5.7%	42.1%	14.5%	6.3%
	60歳代(n=153)	5.9%	22.9%	2.6%	54.9%	15.0%	2.0%
	70歳代以上(n=137)	4.4%	27.7%	4.4%	37.2%	21.9%	5.8%

太字：年齢ごとで、割合が最も高いもの
 ※複数回答のため、各項目の合計値は100%とならない

(問6) お住まいの地域で、誇りに思う「モノ」や「コト」

- ・「自然・環境」や「歴史」に関する意見が多くなっています。「自然」の中でも、「山・川・海」があることに対する意見が多くなっています。また、「歴史」では、「三谷祭」が多くなっています。

■ 誇りに思う「モノ」や「コト」(1/2)

誇りに思う「モノ」や「コト」		回答者数(人)	合計(人)
住環境	地域の人との繋がり・人柄	25	78
	静か・のんびりとした環境	22	
	子育て環境の良さ	7	
	飲食店	2	
	ゴミが落ちていない	2	
	災害が少ない	5	
	公園	4	
	中央公園	2	
	図書館	2	
	その他	7	
交通	生活利便施設へのアクセス性	10	22
	市外へのアクセス性	3	
	交通の便の良さ	6	
	道路が整備されている	2	
	その他	1	
自然環境	自然環境(山・川・海など)	119	184
	山からの眺め	2	
	五井山からの眺め	2	
	景色・景観	20	
	自然環境(野生生物)	3	
	気候(温暖、雨が少ない)	8	
	空気が綺麗	2	
	清田の大樟(国指定天然記念物)	3	
	あじさいの里(あじさい祭り)	6	
	春日浦海岸	2	
	清掃活動がある	4	
	その他	13	
歴史	祭り	24	161
	三谷祭	47	
	蒲郡まつり(花火大会)	27	
	八百富神社例大祭	9	
	形原神社の桜まつり	4	
	御嶽神社例祭	2	
	盆踊り	3	
	手筒花火	4	
	伝統芸能	2	
	伝統芸能(チャラボコ)	10	
	神社・寺	2	
	形原城跡(古城稲荷社)	2	
	八百富神社の竹島弁財天	2	
	大宮神社	2	
	形原神社	2	
	子安弘法大師像(金剛寺)	4	
	委空寺(鼠小僧次郎吉の墓)	2	
	その他	13	

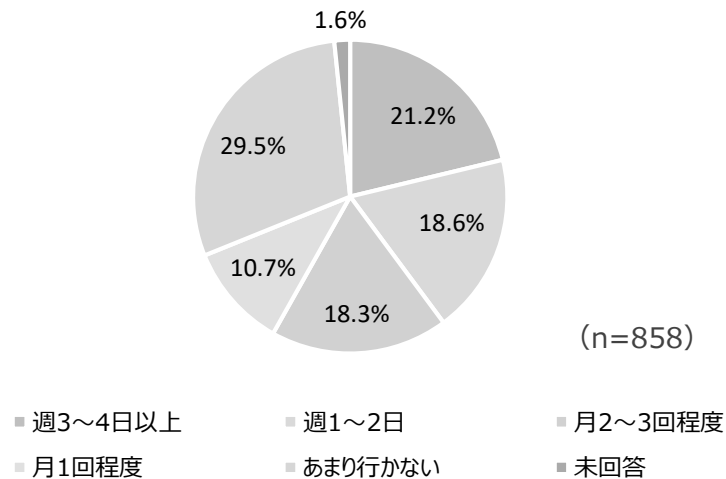
■誇りに思う「モノ」や「コト」(2/2)

誇りに思う「モノ」や「コト」		回答者数(人)	合計(人)
観光 娯楽	竹島	24	62
	竹島水族館	10	
	温泉・温泉旅館・温泉街	6	
	三河大島	5	
	大塚海浜緑地(ラグーナビーチ)	2	
	釣り・潮干狩がり	5	
	海水浴	3	
	海洋レジャー	3	
	ラグーナテンボス	3	
	その他	1	
特産品 名物	海鮮・海産物	10	22
	蒲郡みかん	9	
	農産物	3	
防犯	治安・防犯面の良さ	2	3
	その他	1	
地域活動 行事 イベント	地域活動	12	24
	市民会館でのイベント	2	
	森の文化祭	2	
	その他	8	
その他	市長・市政	3	7
	その他	4	

○蒲郡市の中心部（蒲郡駅周辺）について

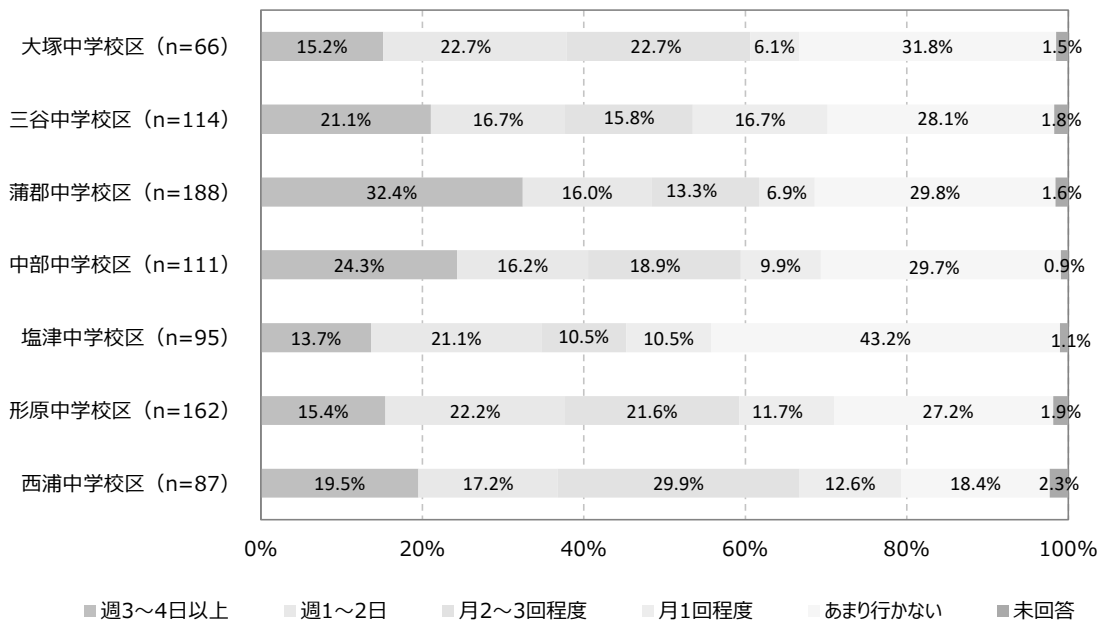
（問7）蒲郡市の中心部へ出かける頻度

- ・「あまり行かない」の割合が29.5%と最も高く、次いで「週3～4日以上」の割合が21.2%、「週1～2日」の割合が18.6%となっています。回答者のうち、半数以上が月2～3回以上中心部へ出かけています。



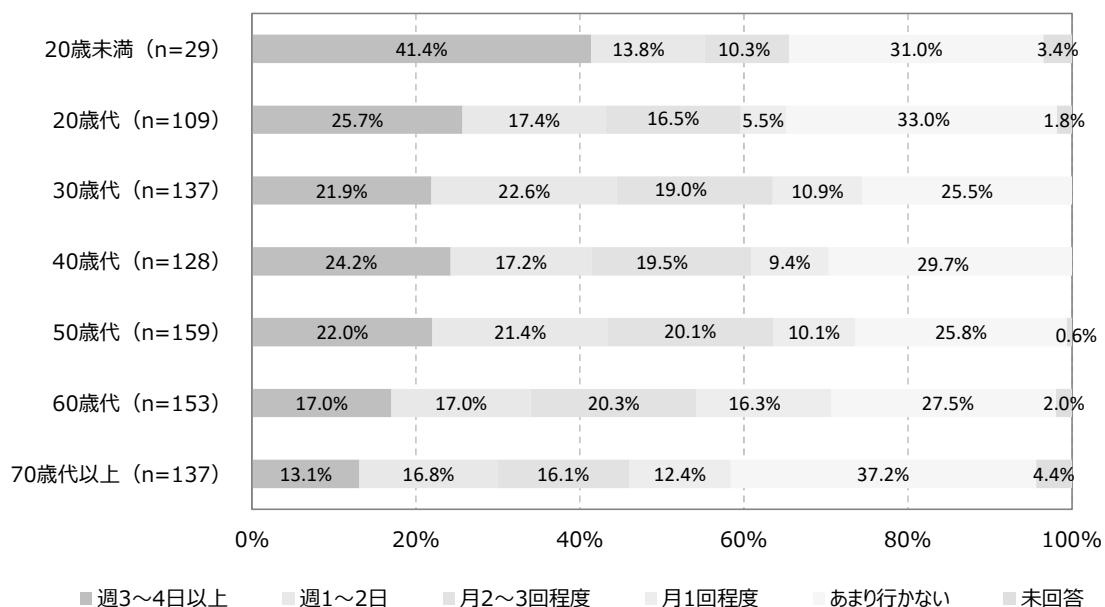
◇居住地別

- ・「週3～4日以上」の割合は蒲郡中学校区が32.4%と最も高くなっています。
- ・一方、「あまり行かない」の割合は、塩津中学校区が43.2%と最も高くなっています。



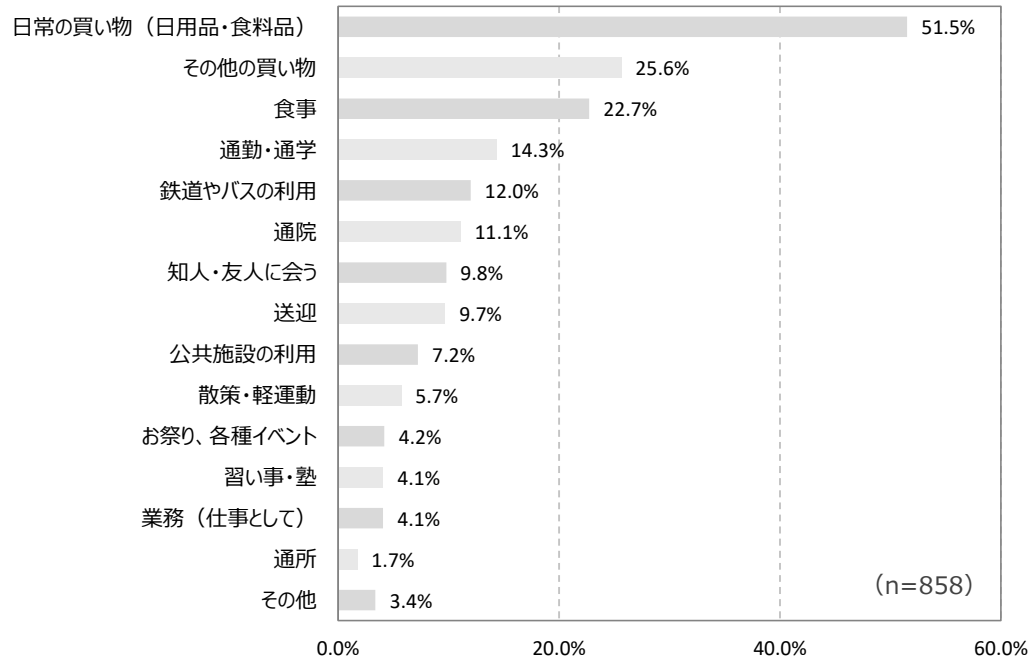
◇年齢別

- ・「週3～4日以上」の割合は20歳未満が41.4%と最も高く、「週1～2日以上」の割合は半数を超えています。
- ・一方、50歳代以降は、年代が上がるにつれ、「あまり行かない」の割合が高くなっており、70歳代以上では、37.2%となっています。



(問8) お出かけの主な目的

- ・「日常の買い物（日用品・食料品）」の割合が51.5%と最も高く、次いで「その他の買い物」の割合が25.6%、「食事」の割合が22.7%となっています。



※複数回答のため、各項目の合計値は100%とならない

第3章 まちづくりに関する市民意向の把握

◇居住地別

- ・どの中学校区についても、「日常の買い物（日用品・食料品）」の割合が最も高く 40% 以上となっており、特に、大塚中学校区は 65.2%と高くなっています。
- ・蒲郡中学校区は、他の中学校区と比較して、「食事」の割合が 13.3%と低くなっています。

		お出かけの主な目的							
		通勤・通学	通院	通所	（日常の買い物・日用品・食料品）	その他の買い物	知人・友人に会う	食事	散策・軽運動
居住地	大塚中学校区 (n=66)	13.6%	13.6%	0.0%	65.2%	24.2%	12.1%	24.2%	3.0%
	三谷中学校区 (n=114)	13.2%	7.9%	2.6%	50.9%	23.7%	12.3%	26.3%	3.5%
	蒲郡中学校区 (n=188)	22.9%	9.0%	1.6%	51.6%	20.2%	9.0%	13.3%	7.4%
	中部中学校区 (n=111)	14.4%	9.9%	2.7%	53.2%	26.1%	7.2%	21.6%	13.5%
	塩津中学校区 (n=95)	8.4%	9.5%	2.1%	43.2%	28.4%	5.3%	21.1%	2.1%
	形原中学校区 (n=162)	10.5%	13.6%	1.9%	50.6%	30.9%	9.9%	30.9%	3.7%
	西浦中学校区 (n=87)	11.5%	16.1%	1.1%	48.3%	29.9%	13.8%	27.6%	4.6%
	わからない(n=22)	22.7%	9.1%	0.0%	63.6%	13.6%	9.1%	27.3%	9.1%
		お出かけの主な目的							
		習い事・塾	業務（仕事として）	公共施設の利用	鉄道やバスの利用	送迎	お祭り、各種イベント	その他	
居住地	大塚中学校区 (n=66)	4.5%	1.5%	10.6%	9.1%	3.0%	1.5%	3.0%	
	三谷中学校区 (n=114)	1.8%	7.0%	8.8%	4.4%	12.3%	1.8%	4.4%	
	蒲郡中学校区 (n=188)	3.7%	3.2%	4.8%	15.4%	12.8%	5.3%	3.7%	
	中部中学校区 (n=111)	5.4%	3.6%	9.0%	15.3%	12.6%	4.5%	3.6%	
	塩津中学校区 (n=95)	5.3%	4.2%	4.2%	14.7%	10.5%	2.1%	3.2%	
	形原中学校区 (n=162)	5.6%	3.1%	6.8%	11.7%	8.0%	7.4%	1.9%	
	西浦中学校区 (n=87)	2.3%	6.9%	8.0%	11.5%	5.7%	3.4%	2.3%	
	わからない(n=22)	0.0%	0.0%	9.1%	13.6%	4.5%	4.5%	9.1%	

太字：居住地ごとで、割合が最も高いもの
※複数回答のため、各項目の合計値は 100%とならない

◇年齢別

- ・20歳代以上は、「日常の買い物（日用品・食料品）」の割合が半数を超えており、特に、30歳代は56.9%と最も高くなっています。
- ・20歳未満は、他の年代と比較して、「通勤・通学」の割合が48.3%と最も高く、また、「知人・友人に会う」の割合も34.5%と高くなっています。

		お出かけの主な目的							
		通勤・通学	通院	通所	（日用品の買い・食料品）	その他の買い物	知人・友人に会う	食事	散策・軽運動
年齢	20歳未満(n=29)	48.3%	0.0%	0.0%	24.1%	20.7%	34.5%	20.7%	6.9%
	20歳代(n=109)	23.9%	5.5%	1.8%	51.4%	18.3%	12.8%	28.4%	4.6%
	30歳代(n=137)	17.5%	10.2%	4.4%	56.9%	22.6%	9.5%	23.4%	4.4%
	40歳代(n=128)	14.1%	6.3%	1.6%	50.8%	30.5%	5.5%	25.8%	5.5%
	50歳代(n=159)	15.1%	8.8%	1.9%	53.5%	26.4%	3.1%	17.6%	7.5%
	60歳代(n=153)	9.2%	10.5%	0.7%	51.6%	25.5%	10.5%	21.6%	4.6%
	70歳代以上(n=137)	2.2%	26.3%	0.7%	51.1%	30.7%	13.1%	23.4%	7.3%

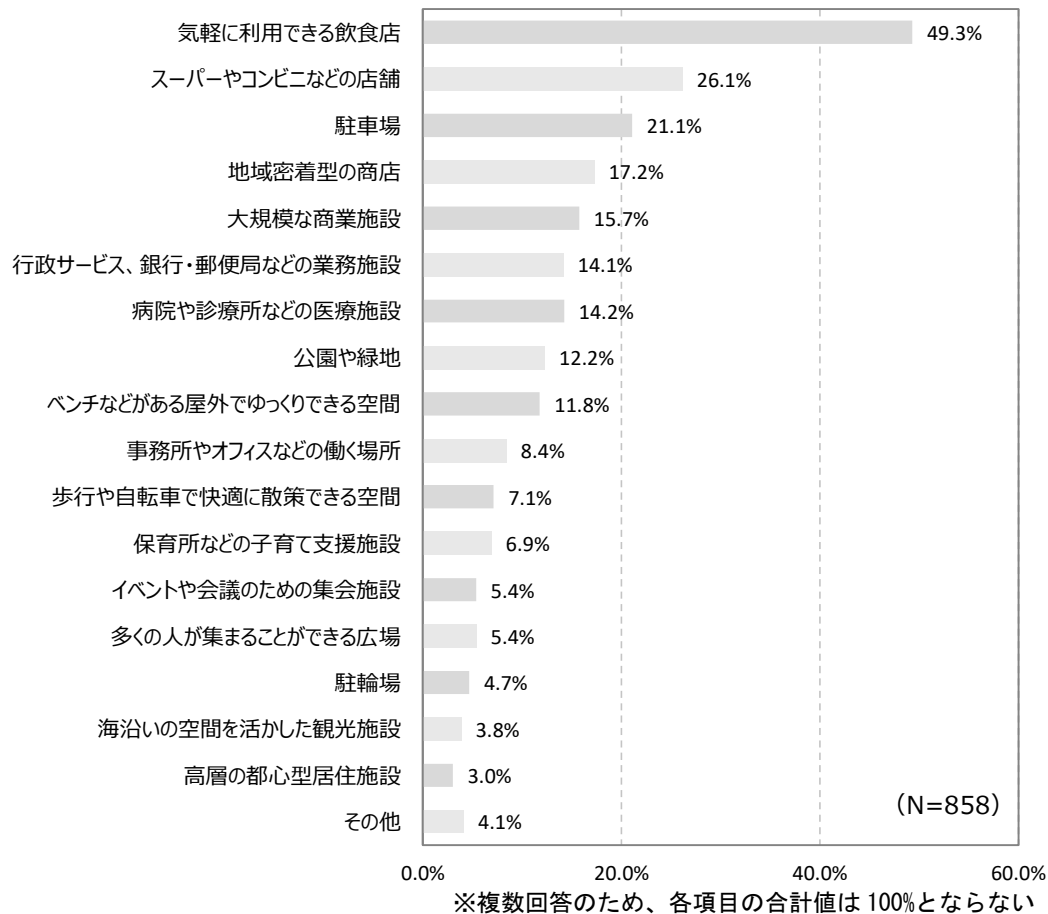
		お出かけの主な目的						
		習い事・塾	業務（仕事として）	公共施設の利用	鉄道やバスの利用	送迎	お祭り、各種イベント	その他
年齢	20歳未満(n=29)	3.4%	0.0%	3.4%	17.2%	6.9%	3.4%	3.4%
	20歳代(n=109)	2.8%	1.8%	4.6%	11.9%	5.5%	1.8%	2.8%
	30歳代(n=137)	6.6%	3.6%	6.6%	7.3%	2.9%	2.9%	5.1%
	40歳代(n=128)	8.6%	5.5%	5.5%	8.6%	18.0%	8.6%	1.6%
	50歳代(n=159)	0.6%	5.7%	8.8%	15.1%	13.2%	4.4%	1.3%
	60歳代(n=153)	1.3%	6.5%	7.2%	18.3%	13.1%	3.9%	4.6%
	70歳代以上(n=137)	5.8%	0.7%	10.2%	8.8%	5.1%	3.6%	4.4%

太字：年齢ごとで、割合が最も高いもの
※複数回答のため、各項目の合計値は100%とならない

(問9) 蒲郡市の中心部に重要だと思う施設

①北側

- ・「気軽に利用できる飲食店」の割合が49.3%と最も高く、次いで「スーパーやコンビニなどの店舗」の割合が26.1%、「駐車場」の割合が21.1%となっています。



◇年齢別

- ・どの年代においても、「気軽に利用できる飲食店」の割合が最も高く、特に、20歳代は58.7%と高くなっています。
- ・20歳代は、他の年代と比較して、「スーパーやコンビニなどの店舗」の割合が39.4%と高くなっています。

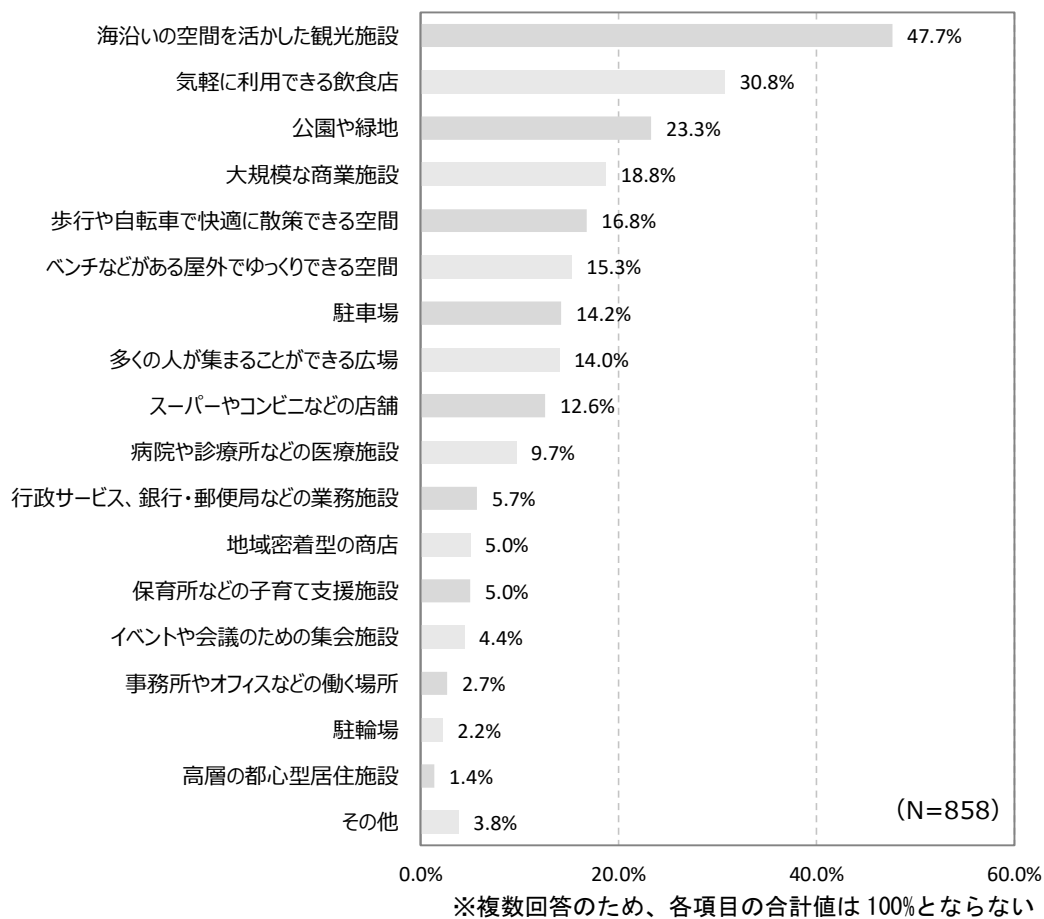
		中心部(北側)に重要だと思う施設								
		気軽に利用できる飲食店	店舗スーパーやコンビニなどの	地域密着型の商店	大規模な商業施設	病院や診療所などの医療施設	郵便局、行政サービス、銀行・業務施設	施設保育所などの子育て支援	高層の都心型居住施設	働く場所やオフィスなどの
年齢	20歳未満(n=29)	44.8%	24.1%	10.3%	20.7%	3.4%	10.3%	3.4%	3.4%	6.9%
	20歳代(n=109)	58.7%	39.4%	13.8%	26.6%	8.3%	11.0%	8.3%	0.0%	9.2%
	30歳代(n=137)	46.7%	29.9%	13.1%	17.5%	14.6%	11.7%	12.4%	2.9%	7.3%
	40歳代(n=128)	53.1%	30.5%	14.1%	19.5%	13.3%	14.1%	6.3%	3.1%	10.2%
	50歳代(n=159)	57.2%	30.8%	24.5%	11.3%	16.4%	17.6%	6.3%	4.4%	9.4%
	60歳代(n=153)	45.1%	18.3%	17.0%	14.4%	16.3%	15.7%	7.2%	3.9%	8.5%
	70歳代以上(n=137)	38.0%	11.7%	21.2%	8.0%	17.5%	13.1%	2.2%	2.9%	6.6%

		中心部(北側)に重要だと思う施設								
		集会施設 イベントや会議のための	観光施設 海沿いの空間を活かした	公園や緑地	多くの人が集まる場所	ベンチなどがある屋外空間	散歩や自転車など、快適に利用できる空間	駐輪場	駐車場	その他
年齢	20歳未満(n=29)	10.3%	10.3%	27.6%	10.3%	10.3%	13.8%	3.4%	24.1%	6.9%
	20歳代(n=109)	4.6%	6.4%	11.9%	3.7%	11.0%	2.8%	3.7%	13.8%	4.6%
	30歳代(n=137)	2.9%	5.1%	17.5%	4.4%	11.7%	9.5%	2.9%	15.3%	6.6%
	40歳代(n=128)	7.0%	5.5%	13.3%	5.5%	10.9%	6.3%	6.3%	16.4%	4.7%
	50歳代(n=159)	3.1%	2.5%	10.7%	3.1%	8.2%	6.9%	5.7%	29.6%	5.0%
	60歳代(n=153)	10.5%	1.3%	13.1%	5.9%	13.7%	7.2%	4.6%	23.5%	2.6%
	70歳代以上(n=137)	2.9%	2.2%	4.4%	8.8%	15.3%	8.0%	5.1%	24.1%	0.7%

太字：年齢ごとで、割合が最も高いもの
※複数回答のため、各項目の合計値は100%とにならない

②南側

- ・「海沿いの空間を活かした観光施設」の割合が 47.7%と最も高く、次いで「気軽に利用できる飲食店」の割合が 30.8%、「公園や緑地」の割合が 23.3%となっています。



◇年齢別

- ・どの年代についても、「海沿いの空間を活かした観光施設」の割合が高く、特に60歳代は59.5%と最も高くなっています。
- ・20歳未満、40歳代は、「気軽に利用できる飲食店」が最も高くなっています。
- ・20歳代と30歳代は、他の年代と比較して、「大規模な商業施設」の割合が、それぞれ30.3%、29.2%と高くなっています。

		中心部(南側)に重要だと思う施設								
		気軽に利用できる飲食店	店舗スパーやコンビニなどの	地域密着型の商店	大規模な商業施設	病院や診療所などの医療施設	郵便局などの業務施設・行政サービス	施設保育所などの子育て支援	高層の都心型居住施設	働く場所やオフィスなどの
年齢	20歳未満(n=29)	48.3%	17.2%	3.4%	17.2%	3.4%	0.0%	3.4%	3.4%	6.9%
	20歳代(n=109)	28.4%	22.0%	5.5%	30.3%	11.9%	3.7%	11.9%	0.9%	2.8%
	30歳代(n=137)	34.3%	10.2%	8.8%	29.2%	6.6%	8.8%	6.6%	0.7%	3.6%
	40歳代(n=128)	45.3%	18.0%	3.1%	22.7%	10.2%	7.0%	3.9%	3.1%	3.1%
	50歳代(n=159)	32.1%	11.9%	3.1%	16.4%	9.4%	6.9%	3.1%	0.0%	1.9%
	60歳代(n=153)	24.2%	7.8%	3.9%	13.1%	11.8%	4.6%	3.9%	3.3%	1.3%
	70歳代以上(n=137)	17.5%	7.3%	6.6%	5.8%	10.2%	2.9%	2.9%	0.0%	2.9%

		中心部(南側)に重要だと思う施設								
		集会施設 イベントや会議のための	観光施設の空間を活かした	公園や緑地	多くの人が集まることのできる広場	ベンチなどがある屋外で	歩行や自転車での移動が快適に	駐輪場	駐車場	その他
年齢	20歳未満(n=29)	3.4%	37.9%	13.8%	13.8%	13.8%	13.8%	6.9%	24.1%	3.4%
	20歳代(n=109)	2.8%	36.7%	20.2%	14.7%	11.9%	7.3%	2.8%	14.7%	7.3%
	30歳代(n=137)	4.4%	40.9%	26.3%	10.9%	16.8%	16.1%	2.2%	10.2%	3.6%
	40歳代(n=128)	2.3%	43.8%	23.4%	18.8%	10.9%	13.3%	1.6%	14.1%	1.6%
	50歳代(n=159)	7.5%	58.5%	27.7%	13.8%	15.7%	22.6%	2.5%	15.7%	5.0%
	60歳代(n=153)	3.9%	59.5%	25.5%	13.7%	19.0%	19.6%	2.0%	13.7%	2.6%
	70歳代以上(n=137)	5.1%	45.3%	18.2%	13.1%	16.1%	19.7%	1.5%	14.6%	3.6%

太字：年齢ごとで、割合が最も高いもの
※複数回答のため、各項目の合計値は100%とならない

第3章 まちづくりに関する市民意向の把握

(問10) 蒲郡市の中心部のまちづくりに関するご意見やアイデアなど

- ・「欲しい施設やサービス」についての意見が多くなっています。中でも、「商業施設」「駐車場」「飲食店(カフェ・レストラン)」の意見が多くなっています。その他、「既存施設」「ターゲット」に関する意見も多くなっています。

■まちづくりに関するご意見やアイデア (1/2)

まちづくりに関するご意見やアイデア		回答者数(人)	合計(人)
ターゲット	子供	16	80
	学生・若い世代	25	
	子育て(大人)世代	11	
	高齢者	9	
	老若男女(家族・子供から大人まで)	10	
	観光客	9	
まち全体	まちなか開発・活気のあるまちづくり	15	57
	住みやすいまちづくり	5	
	働きやすいまちづくり	4	
	観光に特化したまちづくり	11	
	自然(海など)や景色を活かした施設・まちづくり	15	
	お金を使いたくなる環境	2	
	景色・景観の整備	5	
生活環境	治安・防犯面	15	61
	環境・衛生面	21	
	海岸整備	4	
	花・緑	13	
	防災・耐災面	5	
	その他	3	
道路・交通・歩道など	道路・交通整備	40	70
	公共交通機関(鉄道・バス)	17	
	観光地(施設)へのアクセス	6	
	散策できる道	4	
	散策マップ	2	
	その他	1	
駅周辺	駅前・地下・駅周辺の整備	20	26
	ステーションビル	2	
	その他	4	
既存施設	商店街の整備・活性化	17	86
	既存施設の活用	3	
	既存施設の維持	3	
	既存施設の整備(改築・リニューアル・改善)	27	
	既存施設の撤去	2	
	空地・空き家・空き店舗の活用	20	
	公共施設(学校・図書館など)の整備	14	
蒲郡市の名物など	まちのシンボル・象徴	2	12
	蒲郡名物	4	
	海鮮や特産物を売りにした施設	4	
	その他	2	

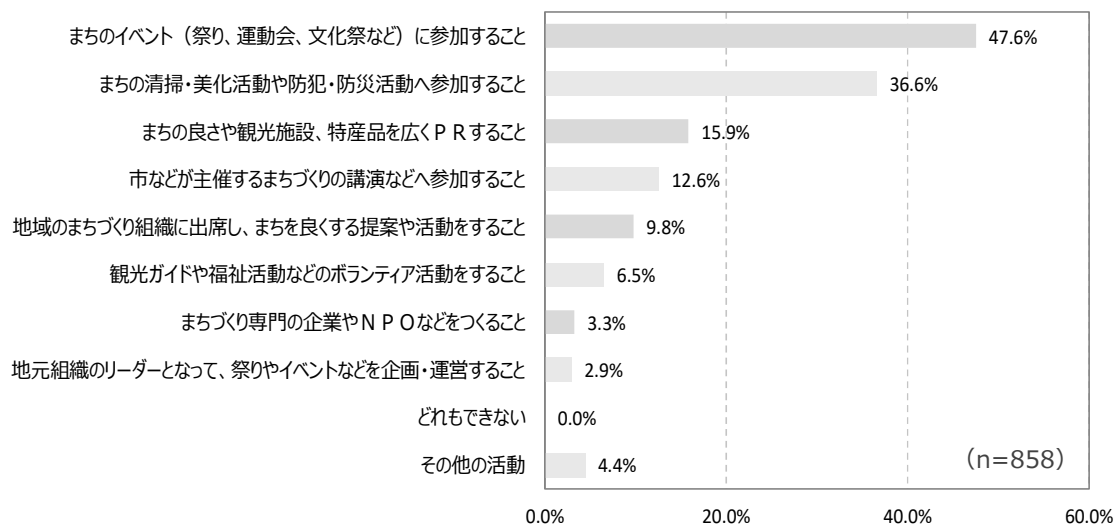
■まちづくりに関するご意見やアイデア（2/2）

まちづくりに関するご意見やアイデア		回答者数(人)	合計(人)
欲しい施設やサービス	行政サービス、銀行・郵便局などの業務施設	4	328
	居住施設	6	
	観光・レジャー施設	21	
	娯楽施設(銭湯・映画館・ゲームセンターなど)	15	
	商業施設	30	
	食料品・日用品などの店舗	14	
	飲食店	26	
	飲食店(テイクアウト)	4	
	飲食店(カフェ・レストラン)	29	
	飲食店(居酒屋)	2	
	食べ歩きできる場所	2	
	服飾・生活雑貨などの店舗	11	
	魅力のあるお店の誘致	10	
	運動施設	7	
	福祉施設(高齢者・障がい者・児童)	3	
	文化施設	2	
	イベント施設	8	
	多目的広場	16	
	子育て支援施設・サービス	6	
	学習・体験施設	2	
	人が集まれる施設	5	
	道の駅・サービスエリア	7	
	駐車場	30	
	駐輪場	2	
	公園	20	
	医療施設・医療サービス・医療費	10	
	休憩スペース・くつろぎの場	10	
	事務所やオフィスなどの働く場所	8	
	レンタサイクル	2	
	全天候型施設	7	
	その他	9	
市政	市役所	4	11
	補助金・給付金	4	
	その他	3	
その他	中心部以外のまちづくり	14	73
	イベント・行事の開催	11	
	バリアフリー・ノーマライゼーション	4	
	周知・PR	9	
	SNSの活用	6	
	他施設・他市町事例	20	
	現状維持でよい	5	
	その他	4	

○まちづくりへの参加意向について

(問 11) 蒲郡のまちづくりのために取り組めること

・「まちのイベント（祭り、運動会、文化祭など）に参加すること」の割合が 47.6%と最も高く、次いで「まちの清掃・美化活動や防犯・防災活動へ参加すること」の割合が 36.6%、「まちの良さや観光施設、特産品を広く PR すること」の割合が 15.9%となっています。



※複数回答のため、各項目の合計値は 100% とならない

3-4 転出入者アンケート

(1) 調査概要

ここでは、令和2年度において、市民課窓口にて転入または転出の手続をした方の回答を整理します。

■調査概要

調査対象	市民課窓口にて転入または転出の手続をした方 (任意)
調査期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日
回答数	501件

(2) 調査結果

アンケート調査内容のうち、まちづくりに相関の高い項目について整理します。

問 転入または転出のきっかけ

- ・職業や結婚、住宅事情による転居が多くなっています。
- ・生活環境、自然環境、交通の便といったまちづくりに関連する項目は、きっかけにはなっていない状況です。

	転入	転出
職業	59%	64%
学業	4%	4%
結婚	12%	14%
生活環境	2%	4%
自然環境	2%	0%
交通の便	1%	1%
住宅事情	11%	10%
介護	1%	2%
その他	9%	2%
合計	100%	100%

問 引っ越し先として選んだ理由

- ・「通勤先との距離が近い」や「家族・配偶者がいるから」、「良い物件があったから」が、転入・転出ともに引っ越し先として選んだ理由として多くなっています。
- ・都市別の傾向では、各都市の転出入とも既述の理由が多くなっていますが、豊橋市や岡崎市といった中核都市から本市への転入理由として「自然環境が良い」と回答した人が多くなっています。
- ・岡崎市や幸田町への転出者は、「買い物が便利」と回答した人が多くなっています。

	転入	転出
通勤先との距離が近い	35%	44%
家族・配偶者がいるから	31%	23%
自然環境が良い	6%	3%
子育て環境が良い	2%	2%
買い物が便利	2%	6%
家賃や地価が安い	5%	1%
良い物件があったから	10%	10%
災害面で安全	0%	0%
治安が良い	2%	1%
街のイメージが良い	3%	4%
会社・学校の都合	0%	0%
理由はない	4%	5%

※複数回答のため、各項目の合計値は100%とならない

■都市別の傾向

周辺都市間の移動	豊橋市		岡崎市		豊川市		西尾市		幸田町	
	転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出
通勤先との距離が近い	40%	35%	35%	56%	33%	29%	18%	47%	22%	29%
家族・配偶者がいるから	25%	20%	25%	22%	24%	14%	36%	33%	44%	29%
自然環境が良い	20%	0%	15%	0%	5%	0%	0%	7%	0%	0%
子育て環境が良い	0%	0%	0%	11%	5%	0%	9%	7%	0%	0%
買い物が便利	0%	15%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	14%
家賃や地価が安い	0%	0%	5%	0%	14%	14%	18%	0%	11%	0%
良い物件があったから	5%	15%	15%	0%	19%	43%	9%	7%	11%	21%
災害面で安全	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
治安が良い	5%	5%	0%	0%	0%	0%	9%	0%	0%	0%
街のイメージが良い	5%	5%	5%	11%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
会社・学校の都合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
理由はない	0%	5%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	11%	7%

※複数回答のため、各項目の合計値は100%とならない

3-5 調査の結果のまとめ

A：市民意識調査
B：蒲郡市のまちづくりに関するアンケート
C：転出入者アンケート

個人属性（B 問 1）

- ・性別、年齢、居住地区いずれも均衡した回答が得られた。
- ・65 歳以上の高齢者と同居している人が多い。
- ・免許保有率、自動車保有率が高い。

生活実態（B 問 2）

- ・日用品の買い物は中学校区内が多いが、大塚中学校区、三谷中学校区、西浦中学校区では隣接校区に行く人が多い。
- ・日用品以外の買い物は、蒲郡中学校区や岡崎市に行く人が多い。
- ・病院・診療所は中学校区内が多いが、中部中学校区、塩津中学校区、西浦中学校区では隣接校区に行く人も多い。
- ・移動手段は、自家用車が多い。

駅の利用実態（B 問 3～4）

- ・利用駅は、大塚中学校区、三谷中学校区では中学校区内の駅が多いが、蒲郡中学校区以西の中学校区では、蒲郡駅が多い。
- ・駅までの移動手段は、蒲郡駅（蒲郡駅）では自家用車が多いが、それ以外の駅では徒歩が多い。
- ・移動時間は 10 分未満が多い。

蒲郡市の印象（A 問 1～問 4、B 問 6）、まちづくりの方向性（A 問 5～6、B 問 5、C）

- ・住みやすく、今後も住み続けたいと思っている人が多いが、西浦中学校区は全体と比較するとその割合が低い。
- ・海や山などの自然環境の保護や海とふれあうまちづくりの重要度、満足度がともに高く、また、周辺の中核市からの転入理由として評価が高いことから、本市の自然を活かしたまちづくりが望まれている。
- ・災害に強いまちづくりや交通安全・防犯対策の重要度が高く、安全・安心に暮らせるまちが望まれている。
- ・バス・鉄道の公共交通の利便性の重要度が高い一方で、満足度が低い。また、駅前などの市街地整備への重要度も高まる一方、満足度は低下している。日用品や食料品、飲食店の充実への要望も高く、住環境が整った快適なまちが望まれている。
- ・子育て世代には、生活道路や子どもの遊び場などの整備、高齢者には、身近な医療施設の整備が望まれている。

蒲郡市の中心部（蒲郡駅周辺）（B 問 7～10）

- ・ 蒲郡中学校区からの来訪者が最も多いが、市内全体から同程度の頻度で来訪がある。
- ・ 来訪の目的は、日常の買い物やその他の買い物、食事が多い。
- ・ 中心部に来訪する頻度は、通勤・通学が目的の 20 歳未満が高い。
- ・ 蒲郡駅の北側と南側のそれぞれで特色あるまちづくりが望まれている。

（北側で重要な施設）

- ・ 気軽に利用できる飲食店やスーパー、コンビニなどの店舗、地域密着型の商店など、日常的に利用する店舗
- ・ 駐車場

（南側で重要な施設）

- ・ 海沿いの空間を活かした観光施設
- ・ 気軽に利用できる飲食店や大規模な商業施設
- ・ 公園や緑地、歩行や自転車で快適に散策できる空間などの快適な屋外空間

蒲郡市の各拠点（A 問 4、5、B 問 2、3、5）

- ・ 名鉄の利用が少なく、蒲郡駅を利用する人が多い。
- ・ 駅周辺は、スーパーや飲食店などの商業店舗や、駐車場、車での送迎が可能な駅前広場などの自動車でのアクセス利便性の向上が望まれている。
- ・ 三河鹿島駅、形原駅、西浦駅周辺は、公園や緑地、ベンチなどがある屋外でゆっくりできる空間、歩行空間が確保された生活道路などの、歩行者などの快適な空間整備が望まれている。

まちづくりへの参加意向（B 問 11）

- ・ 祭りや運動会、文化祭などのまちのイベントや、清掃・美化活動、防犯・防災活動などの暮らしの身近な取り組みへの参画意向が高い。

滿郡市民意識調查

蒲郡市長 鈴木 寿明

E-mail:kikaku@city.gamagori.lg.jp

I

2 蒲郡市の住みやすさ・印象についておたずねします

問9 あなたは、蒲郡市は住みやすいと思いますか。(○は1つだけ)

1. 住みやすい 2. どちらかといえば住みやすい 3. どちらともいえない
4. どちらかといえば住みにくい 5. 住みにくい

問10 あなたは、蒲郡市に愛着がありますか。(○は1つだけ)

1. とても愛着がある 2. やや愛着がある 3. どちらでもない
4. あまり愛着がない 5. 愛着がない

問11 あなたは、知人に住む場所として蒲郡市を薦めますか。(○は1つだけ)

1. 薦めたい 2. どちらかといえば薦めたい
3. どちらともいえない 4. どちらかといえば薦めたくない
5. 薦めたくない

問12 あなたは、これから蒲郡市に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

1. ずっと住み続けたい 2. 当分の間は住み続けたい
3. いずれは市外へ引っ越したい 4. すぐにも市外へ引っ越したい

問12で[3,4]と答えた方にお聞きします

問12-1 どちらへ引っ越したいと思いますか。(○は1つだけ)

1. 豊橋市 2. 豊川市 3. 岡崎市
4. 幸田町 5. 西尾市 6. 名古屋
7. 愛知県内(1～6以外の愛知県内) 8. 愛知県外
9. その他() 10. わからない

問13 あなたは、蒲郡市に対してどのような良い印象をお持ちですか。(○は3つまで)

1. 交通が便利である 2. 住宅地の環境が良い
3. 商業施設が立地して、生活に便利である 4. 働く場所が多い
5. 文化やスポーツなどの公共施設が充実している
6. 福祉・医療施設や福祉サービスが充実している
7. 子育てしやすい環境が整っている
8. 学校教育などの教育環境が整っている
9. 海や山林などの自然が残り、環境がよい
10. 災害などの心配が少ない 11. 交通事故や犯罪などの危険が少ない
12. 道路の整備が進んでいる 13. 公園や緑地が多い
14. 上下水道やごみの収集などの生活環境が整っている
15. 近所づきあいが多く、人情味が感じられる
16. 外国人住民が暮らしやすい環境が整っている
17. 市民レベルでの国際化が進んでいる
18. その他()
19. 特に良い印象はない

問14 あなたは、蒲郡市に対してどのような悪い印象をお持ちですか。(○は3つまで)

1. 鉄道やバスなどの交通の便が悪い 2. 住宅と工場が混在している
3. 買い物に不便である 4. まちに働く場所が少ない
5. 文化施設やスポーツ施設などが少ない 6. 医療・福祉施設が不十分である
7. 子育て環境が整っていない 8. 教育環境が整っていない
9. 農地や山林が多く田舎の雰囲気である 10. 災害の危険がある
11. 交通事故や犯罪が多い 12. 道路の整備が遅れている
13. 公園や緑地が少ない 14. 騒音、悪臭などの問題がある
15. 近所づきあいが少なく、人情味に欠ける
16. 外国人住民に対する行政サービスが遅れている
17. 市民レベルでの国際化が遅れている
18. その他()
19. 特に悪い印象はない

3 日常生活や地域活動等の実態についておたずねします

問15 あなたの日常生活や地域活動等への参加状況についてお答えください。

(1)～(15)それぞれの項目について、あなたのお考えや行動に最も近いものを1つずつ選び、番号に○印をつけてください。

項目	頻りに取り組んでいる	定期的に取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	全く取り組んでいない
記入例) ○○○○○○○○について	4	3	2	1	0
(1) 日ごろから健康増進に取り組んでいる	4	3	2	1	0
(2) 身近な高齢者や障がい者を支援している	4	3	2	1	0
(3) 子育て世帯を支援している	4	3	2	1	0
(4) 再生品やエコマーク商品を購入している	4	3	2	1	0
(5) ゴミの減量化・リサイクルに取り組んでいる	4	3	2	1	0
(6) ゴミ拾い等の身近な環境美化に取り組んでいる	4	3	2	1	0
(7) 学校や地域で子ども連の活動を見守っている	4	3	2	1	0
(8) 生涯学習活動や文化活動に取り組んでいる	4	3	2	1	0
(9) 災害に対する家庭内の備えができていない	4	3	2	1	0
(10) 地域の防災・防犯活動に参加していない	4	3	2	1	0
(11) 町内会や緑地等地域の自治活動に参加していない	4	3	2	1	0
(12) ボランティア活動に参加していない(お住まいの地域以外)	4	3	2	1	0
(13) 外国人住民との交流に参加したことがある	4	3	2	1	0
(14) 男女が平等に生活や仕事に取り組んでいる	4	3	2	1	0
(15) 地元の商店でできるだけ買い物をしている	4	3	2	1	0

4 蒲郡市の暮らしの満足度と今後のまちづくりの重要度についておたずねします

問 16 あなたは、これまでの蒲郡市における(1)～(40)の現状について、どの程度満足していますか。
また、今後の蒲郡市のまちづくりにおいて、どれくらい重要であると思いますか。各項目の「満足度」と「重要度」それぞれ欄に、あなたのお考えに最も近いものを「1」つずつ選び、番号に○印をつけてください。

	現状の満足度				今後の重要度			
	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	重要	やや重要	どちらでもない
記入例) ○○○○○○について	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
1. 自然・環境について								
(1) 海や山などの自然環境の保護	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(2) 海とふれあうまちづくり	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(3) ごみの減量化、リサイクル活動	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(4) 騒音、悪臭、大気・水質汚染対策	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(5) 省エネ対策や自然エネルギー活動	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
2. 基盤整備・交通について								
(6) 駅前などの市街地の整備	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(7) 景観・まちなみへの配慮	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(8) 幹線道路の整備	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(9) 生活道路の整備	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(10) 公園・緑地の整備	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(11) 公共交通の利便性	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(12) 住宅・宅地の環境	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(13) 下水処理対策	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
3. 安全・安心について								
(14) 健康づくり・疾病対策	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(15) 地域医療体制	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(16) 地域での支え合い・福祉活動	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(17) 子育てに対する支援	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(18) 高齢者への福祉施策	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(19) 障がい者への福祉施策	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(20) 低所得者の自立支援	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(21) 災害に強いまちづくり	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(22) 消防・救急体制	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(23) 交通安全・防犯対策	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(24) 外国人住民への生活支援	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1

	現状の満足度				今後の重要度			
	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	重要	やや重要	どちらでもない
4. 教育・文化について								
(25) 小中学校の教育内容や環境	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(26) 生涯学習活動	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(27) 図書館、ホールなどの施設の整備	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(28) 文化活動や文化の継承	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(29) スポーツ施設の整備	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(30) 国際化、外国人との交流・共生	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
5. 産業について								
(31) 農業や水産業の振興	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(32) 工業の振興や企業誘致	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(33) 商業やサービス業の振興	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(34) 観光の振興	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(35) ポートレースの円滑な運営や活性化	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
6. その他								
(36) 男女共同参画の推進	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(37) コミュニティ活動の支援	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(38) ボランティア育成や市民活動支援	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(39) 市政の情報提供や市民の声の広聴	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1
(40) 周辺市町村との連携	5	4	3	2	1	5	4	3 2 1

5 これからのまちづくりについておたずねします

問 17 あなたは、蒲郡市の魅力を高めるために、どのような将来像を目指すべきだと思いますか。
(○は2つまで)

1. 住環境が整い暮らしやすい快適なまち	2. 観光、レジャー施設の充実したまち
3. 緑が豊かで海に親しめる自然環境と調和したまち	5. 事故や災害、犯罪のない安全なまち
4. 長寿や文化財、伝統などを大切にすまち	7. 産業が盛んで活力ににぎわいのあるまち
6. まちなみの美しい景観にすぐれたまち	
8. 障がい者や子ども、高齢者などを大切にすまち	
9. スポーツに親しみ、健康づくりに取り組むまち	
10. 芸術や教育が充実した文化がらまち	11. 地域や市民の自主的な活動が盛んなまち
12. グローバル人材の育成を推進するまち	13. 外国人生民と共生を推進するまち
14. その他()	

問 18 あなたは、「協働」という言葉を知っていますか。(○は1つだけ)

1. 知っており、興味がある
2. 知っているが、あまり興味がでない
3. 聞いたことはあるが、意味はよくわからない
4. 知らない

※「協働」とは、住民や行政などの複数の主体が目標を共有し、それぞれに果たすべき責任と役割をもって、ともに力を合わせて活動すること

問 19 あなたは、地域をより良くするために、住民と行政がどのような役割を果たしたらよいと思いますか。(○は1つだけ)

1. 住民が主体となって取り組み、行政は側面から支援する
2. 行政が主体となって取り組み、住民は参加・協力する
3. 住民と行政が話し合い、お互いに役割分担をしながら協力して取り組む
4. わからない
5. その他 ()

問 20 あなたは、地域をより良くするために、今後、どのような活動であれば参加したいと思いますか。(○は2つまで)

1. 自治会や老人クラブ、女性会、子ども会などの地区の活動
2. 福祉（介護、医療、子育て）に関わる活動
3. 教育・文化に関わる活動
4. 環境（自然保全、ごみ対策など）に関わる活動
5. 防災・防犯・交通安全に関わる活動
6. 地域のまちづくりに関わる活動全般
7. 国際化を推進する活動
8. 多文化共生に関わる活動
9. その他 ()
10. 特に参加したいとは思わない

問 21 あなたは、最近、市の職員の対応についてどのように感じましたか。(○は1つだけ)

1. 非常に親切に早く対応してくれた
2. まあまあ親切に対応してくれた
3. 以前と比べて対応が良くなった
4. いろいろな手続きや面倒な書類の記入などの説明が不十分だった
5. 対応が事務的で冷たい感じがした
6. 課をたらい回しにされ、うんざりした
7. 最近、市役所に行っていない
8. その他 ()

問 22 行政情報は、ホームページや広報誌を始め、メール配信等複数のツールを使って発信されていますが、最も情報を得やすい手段は何ですか。(○は1つだけ)

1. ホームページ
2. 広報誌
3. メール配信（安ぷろろめー）
4. ライン（LINE）
5. フェイスブック（Facebook）
6. ツイッター（Twitter）
7. 防災行政無線

問 23 次のうち、興味のある（参加してみたいまたは現在活動している）市民活動の分野は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 保健・医療・福祉
2. 教育・研究
3. まちづくり・まちおこし
4. 芸術・文化・スポーツ
5. 自然・環境保全
6. 災害救助支援
7. 地域安全
8. 人権・平和
9. 国際協力・交流・多文化共生
10. 子ども・青少年育成
11. 雇用促進・雇用支援
12. その他 ()

問 24 市民活動に興味のある（参加してみたいまたは参加している）理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自己啓発や自らの成長につながると考えるため
2. 困っている人を支援したいと思う気持ち
3. 自分のスキルを市民活動に貢献したい
4. 自分や家族が関係する活動への支援
5. 社会課題の解決に貢献したい
6. 社会的に評価されたい
7. その他 ()

問 25 市民活動について、行政にどのようなことを期待しますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 市民活動を行う場所の充実
2. 情報提供や情報発信の充実
3. 学習機会の提供
4. 市民活動に参加できるよう、休暇・休職制度の普及を奨励
5. 経済的支援
6. その他 ()

問 26 「多文化共生」という言葉を聞いたことがありますか。(○は1つだけ)

1. 聞いたことがあり、意味も理解している
2. 聞いたことはあるが、意味はあまり理解していない
3. 聞いたことはない

問 27 外国人の相談につたり、助けたりしたことがありますか。(○は1つだけ)

1. ある
2. ない
3. 相談にのろうとしたが、言葉が通じなかった
4. 困っていることはわかったが、声がかかれなかった

問 28 外国人市民の人口は増え続けています。ともに暮らしやすい地域をつくっていくために、私たちが日本人は何をすべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 外国人に対する差別意識をもたないようにする
2. 外国人にあいさつを積極的に言う
3. 地域の活動等に外国人の参加を呼びかける
4. 日本での生活ルールを守るように呼びかける
5. 日本語や日本文化を外国人に教える
6. 外国の言葉や文化を学び、外国人の背景を理解する
7. 日本人がすべきことは待たない

問 29 外国人市民と今後どのような交流をしたいですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 外国人市民から出身国、地域の文化や習慣を学びたい
2. 一緒に地域のイベントに参加したい
3. 一緒にボランティア活動をしたい
4. 家庭のことや子育てについて相談や情報交換をしたい
5. 友達づきあいをしたい
6. 外国人市民に日本の文化や習慣を紹介したい
7. 交流したいとは思わない

6 子育て支援についておたずねします

問 30 蒲郡市は子育てしやすいまちだと思いますか。(○は1つだけ)

1. 子育てしやすいまちだと思います
2. どちらかといえば子育てしやすいまちだと思います
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば子育てしにくいまちだと思います
5. 子育てしにくいまちだと思います

問 30～「5」に答えた方にお聞きします

問 30-1 子育てにいくほどはどんなところですか。(○は2つまで)

1. 子どもが安全に遊べる場所が少ない
2. 子育てに関する情報が少ない
3. 地域や近所の子育て支援が少ない
4. 保育園・放課後児童クラブなどの環境が十分でない
5. 医療費の助成や経済的な支援が少ない
6. 子育ての相談窓口が少ない
7. 車がないため病院や児童館等を利用しにくい
8. その他 ()

問 31～問34については子育てしている方もしくは、子育てしていた方のみご回答ください。

問 31 あなたが子育てや子どものことに関して悩みや不安を抱えたとき、相談できる人は誰ですか。またそれはどんな場所ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 配偶者
2. 親など、配偶者以外の親戚
3. 友人や知人、職場の人
4. 民生委員・児童委員
5. 保育園・幼稚園・学校の先生
6. 保健センターの保健師
7. かかりつけの医師や医療機関
8. 子育てコンシェルジュ
9. 市役所・家庭児童相談室
10. 子育て世代包括支援センター (うみのこ)
11. インターネットやメールでの相談
12. その他 ()
13. 相談しない

問 32 子育てに関する情報に満足していますか。(○は1つだけ)

1. 満足している
2. どちらかという満足している
3. どちらともいえない
4. どちらかという満足していない
5. 満足していない
6. わからない

問 33 子育てに関する情報として、信頼して活用しているものを、どこから入手していますか。(○は3つまで)

1. 友人や知人、職場の人
2. 配偶者や親などの親戚
3. 子育てに関するホームページ
4. 保健師等育児の専門家
5. 育児書、育児雑誌
6. 保育士や幼稚園、学校の先生
7. テレビやラジオの育児番組
8. 広報
9. 子育て応援アプリ (うーみんナビ)
10. その他 ()
11. 活用していない

問 34 市の子育て情報の掲載や予防接種・健診・育児日記等が記録及び管理できる子育て応援アプリ(うーみんナビ)を知っていますか。(○は1つだけ)

1. 知っている
2. 知らないが聞いたことがある
3. 知らないし聞いたこともない

問 34で「1」知っているに答えた方にお聞きします。

問 34-1 子育て応援アプリ(うーみんナビ)に登録していますか。(○は1つだけ)

1. 登録している
2. 登録していない

問 34-1で「2」に答えた方にお聞きします

問 34-2 登録していない理由は何か。(あてはまるものすべてに○)

1. 必要と感ぜなかった
2. 登録がわかりにくい
3. 役立つ情報がない
4. その他 ()

7 健康づくり・スポーツ習慣についておたずねします

問 35 あなたは、かかりつけ医をもっていますか。(○は1つだけ)

1. 持っている
2. 持っていない

問 36 あなたは、かかりつけ薬局をもっていますか。(○は1つだけ)

1. 持っている
2. 持っていない

問 37 あなたは普段、健康だと感じますか。(○は1つだけ)

1. 健康である
2. まあまあ健康である
3. あまり健康ではない
4. 健康ではない

問 38 あなたが健康感を判断する際に、重視する事項は何ですか。(○は3つまで)

1. 病気がないこと
2. 美味しく飲食できること
3. ぐっすりと眠れること
4. 不安や悩みがないこと
5. 幸せを感じる事
6. 生きがいを感じること
7. 家族・人間関係がうまくいくこと
8. 経済的に安定していること
9. 他人から認められること
10. その他 ()

問 39 あなたの健康にとって、最もリスクとなることはどれだとお考えですか。(○は3つまで)

1. 食生活
2. 運動不足
3. お酒
4. たばこ・受動喫煙
5. インフルエンザ等の感染症
6. ストレス
7. 大気汚染、水質汚濁等の環境汚染
8. 食中毒等の食品汚染
9. 花粉症、アトピーなどのアレルギー
10. 災害や交通事故といった不慮の事故
11. 加齢や遺伝
12. 医療事故
13. その他 ()

問 40 健康に関してどのような情報が必要だとお考えですか。(○は3つまで)

1. からのだの働きや病気についての情報
2. 医療・医療施設についての情報
3. 運動についての情報
4. 休養・ストレスについての情報
5. お酒と健康についての情報
6. タバコと健康についての情報
7. 食事・栄養についての情報
8. 健康診断についての情報
9. 健康づくりのための国・自治体等の目標値
10. 特になし

問 41 健康診査(特定健診・後期高齢者検診・その他の健康診断等)がん検診を受けていますか。(○は1つだけ)

①【健康診査】(特定健診・後期高齢者検診・その他の健康診断等)

1. 毎年受けている
2. 時々受けている
3. 受けていない

②【がん検診】

1. 毎年受けている
2. 時々受けている
3. 受けていない

問 41-1 ①【健康診査】で「1」、「2」に答えた方にお聞きします

問 41-1 どこで受診していますか。(あてはまるものすべてに○)

①【健康診査】(特定健診・後期高齢者検診・その他の健康診断等)

1. 医療機関
2. 職場の健診
3. 人間ドック
4. その他 ()

問 41-2 ②【がん検診】で「1」、「2」に答えた方にお聞きします

問 41-2 どこで受診していますか。(あてはまるものすべてに○)

②【がん検診】

1. 市のがん検診
2. 職場のがん検診
3. 人間ドック
4. その他 ()

問 42 あなたはCKD(慢性腎臓病)という病気を知っていますか。(○は1つだけ)

1. 知っている
2. 知らないが聞いたことがある
3. 知らないし聞いたこともない

問 43 生活習慣病はCKD(慢性腎臓病)となるリスクを高める要因であることを知っていますか。(○は1つだけ)

1. 知っている
2. 知らないが聞いたことがある
3. 知らないし聞いたこともない

問 44 あなたは、フレイル(虚弱)という言葉の意味を知っていますか。(○は1つだけ)

1. 知っている
2. 知らないが聞いたことがある
3. 知らないし聞いたこともない

問 45 あなたは、この1年間にスポーツ(楽しみを求めたり勝敗を競ったりする目的で行われる身体運動で、陸上、水泳、球技、格闘技などの競技スポーツのほか体力づくり、レクリエーションとして行われるものを含む)を行いましたか。(○は1つだけ)

1. はい
2. いいえ

→ 問 45-2へ

問 45-1-1 スポーツを行った日数を全部合わせると、1年間に何日くらいになりますか。(○は1つだけ)

問 45-1-1-1 スポーツを行った日数を全部合わせると、1年間に何日くらいになりますか。(○は1つだけ)

1. 週に3回以上(年151日以上)
2. 週に1~2回(年51日~150日)
3. 月に1~3回(年12日~50日)
4. 3か月に1~2回(年4日~11日)
5. 年に1~3回
6. わからない

問 45-1-2 あなたがスポーツをしたのはどのような理由からですか。(○は3つまで)

1. 健康のため
2. 体力増進・維持のため
3. 運動不足を感じるから
4. 楽しみ、気晴らしとして
5. 筋力増進・維持のため
6. 肥満解消、ダイエットのため
7. 友人・仲間との交流として
8. 家族のふれあいとして
9. 自己の記録や能力を向上させるため
10. 美容のため
11. 精神の修養や訓練のため
12. わからない
13. その他 ()

問 49 蒲郡市では令和10年度までに「1人1日当たりの家庭系ごみ排出量を500gに削減すること」を新たに目標に定め、ごみの減量を推進しています。あなたは、ごみの減量やリサイクルのため、ご家庭ではどのような取り組みを行っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1. 資源物を正しく分別している
- 2. 集団（資源）回収に協力している
- 3. ごみ出し便り帳や資源物収集カレンダーにより正しいごみ出しを行っている
- 4. 資源・ごみ分別アプリ（さんあへる）を活用している
- 5. 生ごみ処理機等を活用し堆肥化を行っている
- 6. 生ごみを捨てる際は水切りを徹底している
- 7. 食品を粗末にしないよう適量を購入し、使い切り、残さないようにしている
- 8. マイバッグを使用し、レジ袋を使用しない
- 9. 過剰包装を断り、ごみの発生を抑制している
- 10. 使い捨て商品の使用を控え、再生品を購入している
- 11. 空き箱や封筒など細かな雑がみを資源物に分別している
- 12. マイボトルを使用し、ペットボトルを控えている
- 13. プラスチック製品（食品容器、ストロー）の使用を控えている
- 14. 資源物の店頭回収を利用している
- 15. 広報がまごおり等ごみに関する情報に関心をもってしている
- 16. 市が開催するごみ出しマナー教室（出前講座）に参加している
- 17. その他（ ）

問 50 ごみの減量やリサイクルのためには、どのような取り組みが必要であるとお考えですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. ごみ出し便利帳やアプリでの啓発 | 2. 資源回収団体の活動支援 |
| 3. 生ごみ処理機等の購入補助 | 4. 食品ロス削減の取り組み |
| 5. マイバッグ運動の推進 | 6. 3R、5R行動の推進 |
| 7. 雑がみの資源化の推進 | 8. プラスチックごみの発生抑制 |
| 9. 店頭回収の拡充 | 10. ごみ処理の有料化 |
| 11. 住民説明会等の開催 | 12. わかりやすい分別やゴミ出し方法の講座 |
| 13. その他（ ） | |

問 45 で「2」と答えた方にお聞きします
問 45-2 この1年間に、スポーツをしながらのどのような理由からですか。(○は3つまで)

- 1. 仕事（家事・育児）が忙しくて時間がいないから
- 2. 生活や仕事で体を動かしているから
- 3. 運動・スポーツが嫌いだから
- 4. 運動・スポーツ以上に大切なことがあるから
- 5. 面倒くさいから
- 6. 年をとったから
- 7. 体が弱い（病氣・ケガを含む）から
- 8. お金がかからないから
- 9. 場所や施設がないから
- 10. 仲間がいないから
- 11. 指導者がいないから
- 12. 機会がなかった
- 13. 特に理由はない
- 14. その他（ ）

8 環境保全についておたずねします

問 46 家庭から出るごみの量は多いと感じますか。(○は1つだけ)

- 1. 多いと感じる
- 2. どちらかというときと多いと感じる
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかというときと少ないと感じる
- 5. 少ないと感じる

問 47 どのようなごみが多いと感じますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|---------------------|
| 1. プラスチック製容器包装 | 2. プラスチック製品（容器包装以外） |
| 3. ペットボトル | 4. 空き缶 |
| 5. びん | 6. 生ごみ |
| 7. 小型家電 | 8. 陶磁器、ガラス、蛍光灯など |
| 9. 新聞、ちらし、雑誌 | 10. ダンボール |
| 11. 細かな雑がみ | 12. 古着 |
| 13. 草木 | 14. その他（ ） |

問 48 国民一人当たりお茶碗約1杯分(約140g)の食品ロス(まだ食べられるのに廃棄される食品)が家庭から毎日捨てられていると言われます。ご家庭の食品ロスの状況をどのように感じますか。(○は1つだけ)

- 1. 多いと感じる
- 2. どちらかというときと多いと感じる
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかというときと少ないと感じる
- 5. 少ないと感じる

問 51 地球温暖化対策の取り組みとして家庭で実践している取り組みは次のうちどれですか。
実践している取り組みに○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

1. エコバックを活用しビニール袋をなるべく使わないようにしている
2. マイボトルを活用しなるべくペットボトルを購入しないようにしている
3. 新しい家電を購入するときは、省エネ家電を選ぶようにしている
4. 太陽光発電や蓄電池といった環境に配慮した設備を家に設置している
5. エコカー（EV、HEV、PHV、FCV等）に乗っている
6. 不要な電気を消したり、使っていない家電のコンセントを抜くなど、常に省エネ行動を心がけている
7. 冷房28℃、暖房20℃を目安に設定している（クールズ、ワームズの実践）
8. 夏の暑いときは図書館やデパートなど涼しい所に出かけるようにしている（クワイアボックの実践）
9. なるべく車ではなく自転車や徒歩、公共交通機関を利用して移動している（エコモビ実践）
10. 環境を考慮して作られたものを購入するようにしている（グリーン購入実践）
11. エコドライブを心がけている
12. ごみの減量に努めている
13. プラスチックや雑がみなどは分別を行い、資源物として出している
14. 家庭での食品ロスを減らすように心がけている
15. その他（ ）
16. 特に何もしていない

9 新型コロナウイルス感染症についておたずねします

問 52 新型コロナウイルス感染症について相談しましたか。(○は1つだけ)

1. した
2. していない → 問 52-2へ

問 52-1 相談をした場所はどこですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 保健所
2. 保健センター
3. 市役所
4. 医療機関
5. その他（ ）

問 52-2 相談をした理由であてはまるものは次のうちどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 相談先がわからなかった
2. メディアなどで情報があるから
3. 家族など身近な人に相談できた
4. 自分で解決できた
5. 相談することがなかった
6. 相談しても仕方ないと思ったから
7. その他（ ）

問 53 新型コロナウイルス感染症でどんなことが困りましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 健康のこと
2. 外出制限のこと
3. 学校などの休校
4. ストレス
5. 経済的なこと
6. 病気のことで
7. 医療体制について
8. 受診のタイミング
9. その他（ ）
10. 困りごとはない

問 54 新型コロナウイルス感染症で緊急事態宣言中の生活の制限がある中で、気をつけたことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 外出の制限をした
2. 「3つの密」を避けた
3. 外出時にマスクを着用した
4. 咳エチケットを心がけた
5. 換気を十分にした
6. 手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒をした
7. 2mの距離を保つようにした
8. 仕切りやカーテンなどを設置した
9. その他（ ）
10. 特に何もしていない

問 55 新型コロナウイルス感染症対策で、どんなことがあったらよいと思いますか。ご自由にお書きください。

問 56 最後に、浜都市のこれらのまちづくりに関するご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

以上でアンケートは終わります。ご協力ありがとうございました。

回答されたアンケート用紙は、7月20日(月)までに同封の返信用封筒

〈切手不要〉に入れて、ポストに投函してください。

蒲郡市のまちづくりに関する アンケートにご協力ください。



市民の皆さまには、日頃から市政に対して理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
蒲郡市では、平成19年3月に、本市の目指すべき都市の将来像やそれを実現するための方針
を定めた都市計画マスタープランが策定され、概ね15年が経過しようとしています。
この間、人口減少・少子高齢化の進行や社会経済情勢の変化など、蒲郡市を取り巻く環境が大
きく変化していることから、皆さまが健やかに安心して暮らすことができるような都市づくりを実現するために、
新たな計画を策定してまいります。

今回のアンケートは、皆さまの生活環境の現状や、令和元年7月に策定した立地適正化計画にお
いて本市の中心拠点として位置付けた蒲郡駅周辺の今後のまちづくりについてのご意見やご提案をお
聞かせ、これを計画づくりに役立てるために行うものです。

また、対象者は、令和3年7月1日現在で市内にお住まいの18歳以上の方の中から、無作為に
2,200人を選ばせていただきます、お願いするものです。ご回答いただいた内容は、市民の皆さまに満
足していただける市政の実現に向けて活用いたします。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の目的、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろ
しくお願いいたします。

令和3年8月 蒲郡市長 鈴木寿明

ご記入にあたってのお願い

- 封筒の宛名のご本人がお答えいただくようお願いいたします。
なお、ご本人が回答できない場合は、ご本人と相談の上、ご家族の方がお答えください。
- 設問ごとの回答方法に沿って、あなたの考えに近い選択肢の番号に○印をつけていただくこ
とを基本としています。なお、選択肢の設問で「その他」を選択された方は（ ）に具体的な内
容をご記入ください。
- アンケート結果は統計的に処理し、ご回答いただいた方にご迷惑をおかけすることはありません。
- ご記入いただいた調査票は、**8月31日（火）まで**に 同封の「返信用封筒」に
入れて返送してください。（切手は不要です）
- **WEB**によるアンケートへの回答も可能です。
右のQRコード、または <https://arcg.is/90yvf> からご回答ください。
（1端末につき1回までの回答が可能です。なお、WEB回答により
個人が特定されることはありません。）



アンケート調査についての問合せ先

蒲郡市役所 都市開発部 都市計画課 足立、大塩
電話：0533-66-1142

10～15分程度で終わりますので、是非ご協力ください。

- 1 -

第3章 まちづくりに関する市民意向の把握

■参考：アンケート調査票（蒲郡市のまちづくりに関するアンケート調査）

あなたご自身についておたずねします

問1 以下の各項目について、あてはまる番号に○をつけてください。

① あなたの性別

1. 男性	2. 女性	3. その他
-------	-------	--------

② あなたの年齢（令和3年4月1日現在の満年齢）		
1. 20歳未満	2. 20歳代	3. 30歳代
4. 40歳代	5. 50歳代	6. 60歳代
7. 70歳代以上		

③ あなたの職業

（職業と仕事内容のそれぞれから、あてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。）

職業	仕事内容
1. 勤め人	1. 事務職 2. 研究・技術職 3. 工場・運搬作業者 4. 企画・営業 5. 接客・販売業 6. 広報・デザイン 7. 会社役員 8. その他（ ）
2. 自営業 （自由業）	9. 農林水産業 10. 製造業 11. 建設業 12. 卸・小売業 13. 飲食業 14. サービス業 15. その他（ ）
3. その他	16. 家事専業 17. パート・アルバイト 18. 学生 19. 無職 20. その他（ ）

④ あなたのお宅に同居されている人（あてはまるものを全て選び、番号に○をつけてください。）

1. 就学前の乳幼児	2. 小学生
3. 中学生	4. 高校生
5. 65～74歳の方	6. 75歳以上の方
7. 1～6以外の同居人	8. 一人世帯（同居人はいない）

⑤ あなたの居住地区

（中学校区と町名のそれぞれから、あてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。）

中学校区		町名	
1. 大塚中学校区	2. 大塚町	3. 海陽町	
2. 三谷中学校区	5. 三谷北通	6. 平田町	
3. 蒲郡中学校区	8. 五井町	9. 水竹町	
4. 中部中学校区	11. 坂本町	12. 神ノ郷町	
5. 塩津中学校区	13. 府相町	15. 蒲郡町	
6. 形原中学校区	17. 新井形町	18. 八百霊町	
7. 西浦中学校区	19. 神明町	21. 上本町	
8. わからない	22. 中央本町	24. 宝町	
	25. 御幸町	27. 緑町	
	28. 旭町	30. 竹島町	
	31. 松原町	32. 丸山町	
	34. 柏原町	33. 宋町	
	37. 拾石町	36. 西迫町	
	40. 一色町	39. 浜町	
	43. 西浦町	42. 形原町	
		41. 金平町	
		44. わからない	

- 2 -

⑥ 自動車の運転免許の保有状況

1. 免許を持っている 2. 免許を持っていない

⑦ 自動車の保有状況

1. 自分の車を持っている 2. 自分を持っていないが、家族が所有している
3. 家族の誰か車を持っていない

問2 買い物や通院の際の主な行先や交通手段について、①～③の項目ごとに回答してください。（わかる範囲で結構です。）

項目	主な行先		主な交通手段 (番号)
	地区 (番号)	具体的な施設名	
①毎日の食料品や日用品			
②衣料品・家電・家具などの日用品以外			
③病院・診療所			

番号を回答欄に記入

地区	
1. 大塚中学校区	2. 三谷中学校区
3. 蒲郡中学校区	4. 中部中学校区
5. 塩津中学校区	6. 形原中学校区
7. 西浦中学校区	8. 市内（不明）
9. 豊橋市	10. 豊川市
11. 岡崎市	12. 幸田町
13. 西尾市	14. 名古屋
15. その他市外	16. 出がない

番号を回答欄に記入

主な交通手段	
1. 自家用車（自分で運転）	2. 自家用車（送迎等）
3. タクシー	4. 路線バス（名鉄バス）
5. 支線バス（くろりんバス）	6. 鉄道
7. バイク	8. 自転車
9. 徒歩	10. その他（ ）

問3 鉄道駅を利用する際の目的や移動手段等について、以下の各項目に回答してください。

① 最も利用する駅（あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。）

J R	1. 三河大塚駅	2. 三河三谷駅	3. 蒲郡駅
名鉄	4. 三河塩津駅	5. 蒲郡駅	6. 蒲郡競艇場前駅
	7. 形原駅	8. 西浦駅	9. 三河鹿島駅
	10. その他（ ）		

② 主な利用目的（あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。）

1. 通勤・通学 2. 通院 3. 日常の買い物（日用品・食料品）
4. その他の買い物 5. 知人・友人に会う 6. その他（ ）

③ 利用頻度（あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。）

1. 週3～4日以上 2. 週1～2日 3. 月2～3回程度
4. 月1回程度 5. あまり行かない

④ 駅までの移動手段（あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。）

1. 自家用車（自分で運転） 2. 自家用車（送迎等） 3. タクシー
4. 路線バス（名鉄バス） 5. 支線バス（くろりんバス） 6. バイク
7. 自転車 8. 徒歩 9. その他（ ）

⑤ 駅までの移動時間（あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。）

1. 5分未満 2. 5分以上～10分未満 3. 10分以上～15分未満
4. 15分以上～20分未満 5. 20分以上

⑥ ①で回答した駅の周辺について、必要だと思う施設は何ですか。

（あてはまるものを3つまで選び、番号に○をつけてください。）

※①で「蒲郡駅」と回答した方は、この問いに回答せずに、次の問4へ進んでください。

1. スーパーや飲食店などの商業施設 2. 病院や診療所などの医療施設
3. 行政サービス、銀行・郵便局などの業務施設 4. 保育所等の子育て支援施設
5. イベントや会議のための集会施設 6. 公園や緑地
7. パンチ等がある屋外でゆつくりできる空間 8. 多くの人が集まることのできる広場
9. 車での送迎が可能な駅前広場 10. 車両が通行しやすい生活道路
11. 歩行空間が確保された生活道路 12. 駐輪場
13. 駐車場 14. その他（ ）

問4 駅を利用する場合に、徒歩で向かおうと思う所要時間は何分程度ですか。

（あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。）

1. 5分未満 2. 5分以上～10分未満 3. 10分以上～15分未満
4. 15分以上～20分未満 5. 20分以上

あなたのお住まいの地区についておたずねします

問5 お住まいの地区がどのようなふうになったら良いと思いますか。

（あてはまるものを3つまで選び、番号に○をつけてください。）

1. 低層住宅が建ち並び閑静な住宅地
2. マンション等の中高層住宅や、店舗・事務所等があるまち
3. 日用品・食料品・店等や飲食店等が充実しているまち
4. 大型商業店舗やレジャー施設等があるまち
5. 働く場（工場・店舗等）と住宅が一体となったまち
6. 身近な生活基盤（生活道路や子どもの遊び場等）が整ったまち
7. 医療施設（個人病院など）が近くにあるまち
8. 子育て支援施設（幼稚園、保育所など）が近くにあるまち
9. 自然環境が豊かなまち
10. 文化や歴史等を活かしたまち
11. 防災性に優れた安全・安心なまち
12. 今のままでよい
13. その他（ ）

問6 お住まいの地域で、誇りに思う「モノ」や「コト」（文化、歴史、自然、お祭り、地域活動など）について、自由にご記入ください。

【記入欄】

蒲郡市の中心部（蒲郡駅周辺）についておたずねします

問7 蒲郡市の中心部へ、どの程度出かけますか。
(あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。)

1. 週3～4日以上	2. 週1～2日	3. 月2～3回程度
4. 月1回程度	5. あまり行かない	

問8 お出かけの主な目的は何ですか。
(あてはまるものを全て選び、番号に○をつけてください。)

1. 通勤・通学	2. 通院
3. 通所	4. 日常の買い物(日用品・食料品)
5. その他の買い物	6. 知人・友人に会う
7. 食事	8. 散歩・軽運動
9. 習い事・塾	10. 業務(仕事として)
11. 公共施設の利用	12. 鉄道やバスの利用
13. 送迎	14. お祭り、各種イベント
15. その他 ()	

問9 蒲郡市の中心部に重要だと思ふ施設は何ですか。
(蒲郡駅の北側、南側それぞれについて、あてはまるものを3つまで選び、回答してください。)

重要だと思ふ施設	「18. その他」を選択した方は、その内容をご記入ください
北側 (, ,)	()
南側 (, ,)	()

番号を回答欄に記入

重要だと思ふ施設	
1. 気軽に利用できる飲食店	2. スーパーやコンビニ等の店舗
3. 地域密着型の商店	4. 大規模な商業施設
5. 病院や診療所などの医療施設	6. 行政サービス、銀行・郵便局などの業務施設
7. 保育所等の子育て支援施設	8. 高層の都心型居住施設
9. 事務所やオフィス等の働く場所	10. イベントや会議のための集会施設
11. 海沿いの空間を活かした観光施設	12. 公園や緑地
13. 多くの人が集まることができる広場	14. ベンチ等がある屋外でゆっくりできる空間
15. 歩行や自転車で快適に散策できる空間	16. 駐輪場
17. 駐車場	18. その他

問10 蒲郡市の中心部のまちづくりについて、ご意見やアイデア等がありましたらご記入ください。
【記入欄】

まちづくりへの参加意向についておたずねします

問11 蒲郡のまちづくりのために、あなたが取り組めることは何ですか。
(あてはまるものを全て選び、番号に○をつけてください。)

1. まちのイベント(祭り、運動場、文化祭など)に参加すること
2. まちの清掃・美化活動や防犯・防災活動へ参加すること
3. まちの良さを観光施設、特産品を広くPRすること
4. 市などが主催するまちづくりの講演などへ参加すること
5. 地域のまちづくり組織に出席し、まちを良くする提案や活動すること
6. 地元組織のリーダーとなって、祭りやイベントなどを企画・運営すること
7. 観光ガイドや福祉活動などのボランティア活動すること
8. まちづくり専門の企業やNPO※などをつくること
9. その他の活動 ()
10. どれもできない

※) NPOとは：株式会社などの営利企業とは異なり、市民・民間の支援のもとで社会的な公益活動を行う組織・団体のことです。

アンケート調査は以上で終了です。
ご協力ありがとうございました。

調査票は、同封の「返信用封筒」に入れて8月31日(火)までにポストへ投函してください。



■参考：アンケート調査票（転出入者アンケート）

《No》

転入・転出アンケート

※支えなければ、アンケートにご協力をお願いいたします。
いただいた情報は、まちづくりのための調査・統計に活用させていただきます。他の用途には利用しません。

回答方法 チェック式：□に☑のようにし点をを入れてください。
記述式：枠の中に回答を記入してください。

問1 本日の手続きの内容
☐ 転入 ☐ 転出

問2 異動の内訳
☐ 世帯全員 ☐ 世帯のうち一部

問3 異動する人数
 〇人

問4 代表者の性別
☐ 男性 ☐ 女性

問5 代表者の国籍
☐ 日本国籍 ☐ 外国籍

問6 代表者の年齢
☐ 0-14歳 ☐ 40-44歳
☐ 15-20歳 ☐ 45-49歳
☐ 20-24歳 ☐ 50-54歳
☐ 25-29歳 ☐ 55-59歳
☐ 30-34歳 ☐ 60-64歳
☐ 35-39歳 ☐ 65歳以上

問7 転入または転出のきっかけ(最も当てはまるもの1つ)
☐ 職業上(仕事の都合) ☐ 交通の便が良い
☐ 学業上(学校の都合) ☐ 住宅事情
☐ 結婚等 ☐ 親などの介護
☐ 生活環境(買物・病院など) ☐ その他
☐ 自然環境(景色が良いなど)

《No》

転入・転出アンケート

問8 【転入する方】転入する前の居住地を記入してください。(転入市からの転入の場合は「豊橋市」)
 【転出する方】転出する先の居住地を記入してください。(転出市への転出の場合は「豊橋市」)

☐ 愛知県内
 (市町村名を記入してください)
例：豊橋市、豊川市、岡崎市、幸田町など

☐ 愛知県外
 (都道府県名を記入してください)
例：東京都、大阪府、静岡県など

☐ 海外

問9 【転入する方】引越先として蒲郡市を選んだ理由
 【転出する方】引越先として「問8」で答えた市町村を選んだ理由
 (当てはまる選択肢の番号を記入してください ※最大3つまで)

1 通勤(通学)先と距離が近いから		
2 電車や車での移動が便利そうだから		
3 出身地だから		
4 家族や配偶者が住んでいる土地だから		
5 自然環境が良さそうだから		
6 子育て環境が良さそうだから		
7 買い物に便利そうだから		
8 家賃や地価が安いから		
9 たまたま良い物件(土地・家)があったから		
10 災害面で安全そうだから		
11 治安が良さそうだから		
12 街のイメージが良かったから		
13 特に理由はない		

番号で記入(最大3つ)

問10 転入する方のお答えください。以前、蒲郡市に住んでいたことがありますか？
☐ はい ☐ いいえ

問11 転出する方のお答えください。蒲郡市は住みやすいまちでしたか？
☐ とても住みやすかった
☐ どちらかと言えば住みやすかった
☐ どちらかと言えば住みづらかった
☐ 住みづらかった

ご協力ありがとうございました。
 ご記入いただいたアンケートは、職員にお渡ししたくか、
 市民課フロアーに備え付けのアンケート用紙投函箱にお入れください。

第4章 本市を取り巻く社会環境の変化

4-1 今後の見通し

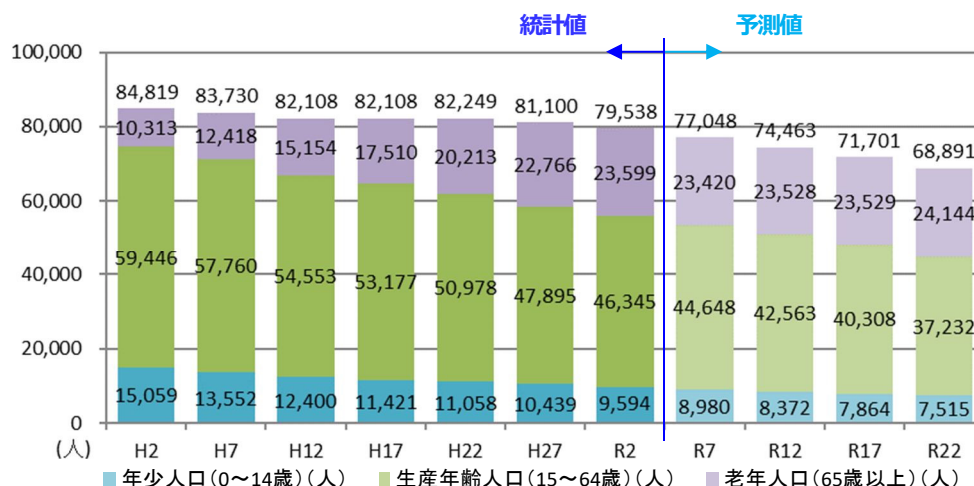
(1) 人口減少・少子高齢化の進行

本市の人口は、令和2年の79,538人から、令和22年では10,647人減少し、68,891人となることが予測されています。

年齢区分別の人口を見ると、年少人口や生産年齢人口はこれまで減少しており、今後も減少することが予測されている一方で、老年人口は横ばいで推移することが予測されています。

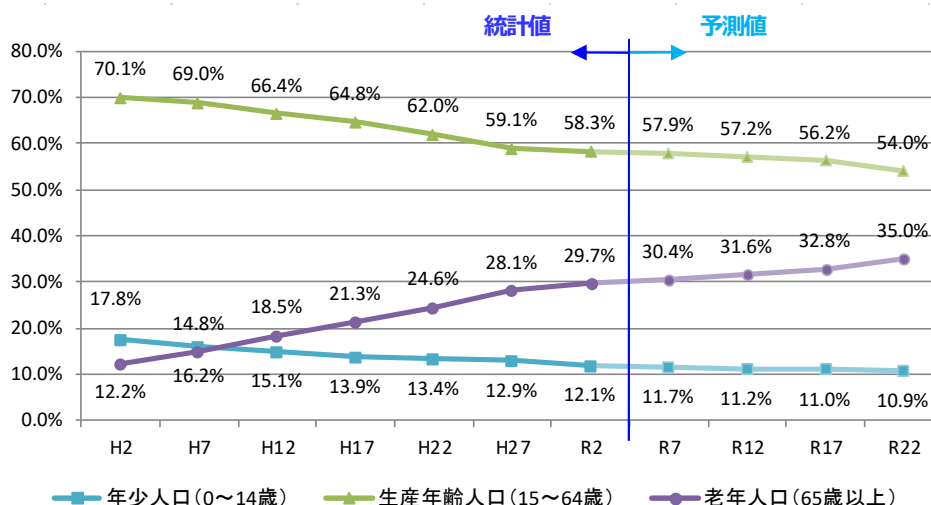
年齢区分別人口の構成比を見ると、高齢化率は増加傾向にあり、令和2年の29.7%から、令和22年では35.0%まで増加し、全人口の3分の1以上が高齢者となることが予測されています。

■人口の推移



資料：(R2 まで) 国勢調査, (R7 以降) 国立社会保障・人口問題研究所 (H30 推計)

■年齢3区分別の構成比の推移

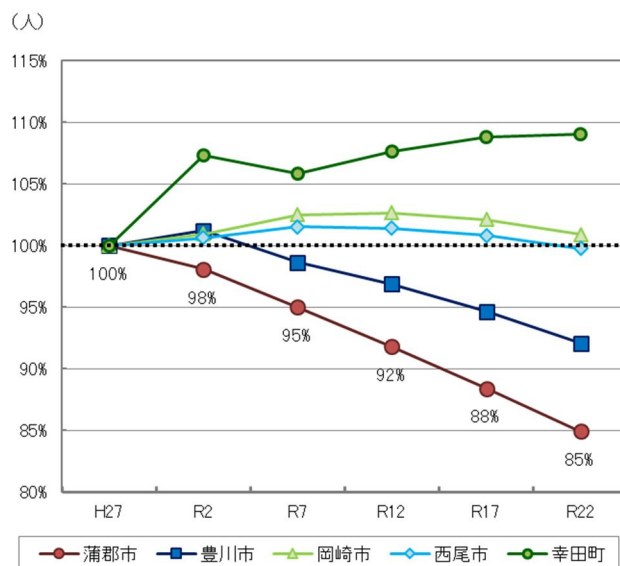


資料：(R2 まで) 国勢調査, (R7 以降) 国立社会保障・人口問題研究所 (H30 推計)

第4章 本市を取り巻く社会環境の変化

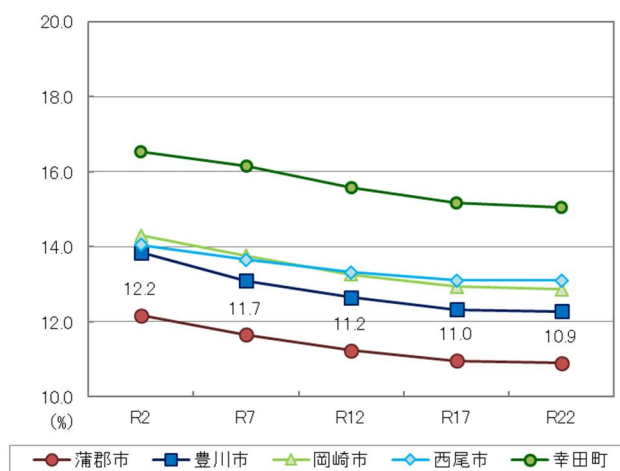
周辺都市と比較すると、本市では、総人口が大きく減少することが、また、少子高齢化が進行していくことが予測されています。

■人口の将来予測（平成27年度からの伸び率）



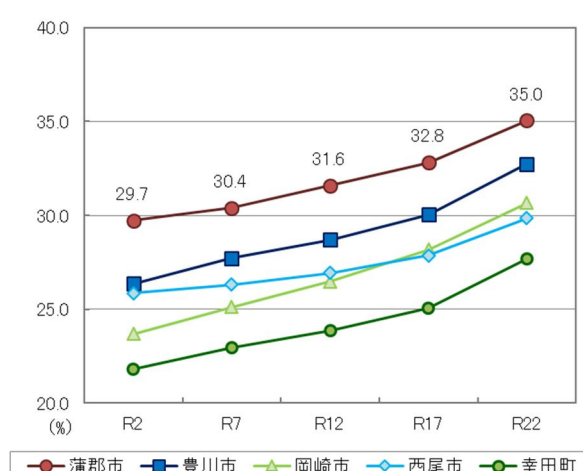
資料：国立社会保障・人口問題研究所

■将来の総人口に占める年少人口の割合



資料：国立社会保障・人口問題研究所

■将来の総人口に占める高齢者人口の割合



資料：国立社会保障・人口問題研究所

(2) 国道23号バイパスの全線開通

国道 23 号蒲郡バイパスのうち、豊川為当インターチェンジから蒲郡インターチェンジの区間の工事が平成 25 年度より着手され、令和 6 年度に開通予定です。本区間が開通すれば、豊橋市と豊明市を結ぶ国道 23 号バイパス「名豊道路」の 72.7 km が全線開通することとなり、これまで本市内に流入していた自動車交通の経路が大きく変わることが想定されます。

■蒲郡バイパスの概要

国道 23 号蒲郡バイパスは名豊道路の一部として計画されており、東は豊橋バイパス、西は岡崎バイパスと接続する延長 15km のバイパスです。このバイパスは、豊橋東バイパス、豊橋バイパス、岡崎バイパス、知立バイパスと一体となり、国道 1 号及び 23 号の交通混雑の緩和を図るとともに、名古屋、衣浦、東三河の臨海工業地帯とその後背地、農業地帯と工業地帯、都市とを機能的に結びつけ、物流の円滑化、土地利用の効率化などに資する目的で計画されました。

なお、本区間が開通すれば、豊橋市と豊明市を結ぶ国道 23 号バイパス「名豊道路」の 72.7 km が全線開通することとなります。



第4章 本市を取り巻く社会環境の変化

(3) 周辺自治体での工業用地開発構想

周辺都市において、公的機関により分譲されている工業用地や、開発構想のある工業用地があります。

■愛知県産業インフラマップ・用地一覧



愛知県内の産業用地一覧

No	地区名	所在地	分譲面積	価格帯	事業者	分譲時期
1	空港島(※1)	常滑市	14.2ha	105,100円/㎡~130,400円/㎡(※2)	愛知県企業庁	分譲中
2	空港沿岸部(※1)	常滑市	17.6ha	63,900円/㎡~119,300円/㎡(※2)	愛知県企業庁	分譲中
3	衣浦14号地	西尾市	2.4ha	25,500円/㎡	愛知県企業庁	分譲中
4	御津1区(2期)	豊川市	14.6ha	28,600円/㎡	愛知県企業庁	分譲中
5	御津2区	豊川市	2.6ha	28,500円/㎡	愛知県企業庁	分譲中
6	田原1区	田原市	29.8ha	21,900円/㎡	愛知県企業庁	分譲中
7	田原1区(5頭)	田原市	2.2ha	23,900円/㎡	愛知県企業庁	分譲中
8	岩倉川井野寄地区	岩倉市	約7.0ha	未定	愛知県企業庁	未定 立地エントリ-受付中 (11/8受付終了予定)
9	田原浦片	田原市	約2.5ha	19,500円/㎡~22,900円/㎡	田原浦片土地画整組合	分譲中
10	なごやサイエンスパーク なごやライフパルク	名古屋市	約0.57ha	名古屋市へ確認	名古屋市	分譲中
11	新城インター企業団地	新城市	約2.7ha	28,500円/㎡	新城市土地開発公社	分譲中
12	豊田花本産業団地	豊田市	約4.6ha	未定	豊田市	令和2年度分譲予定

(※1) 商業用途を含む。

(※2) 一部の区画については、別途鑑定評価を行い、これに基づき決定します。

番号	地区名	開発面積	分譲時期	備考
1	岡崎市阿知和地区	約57ha	未定	国道248号至近
2	大山市洛野地区	約21ha	未定	国道41号至近
3	知多市南部地区	約13.6ha	未定	西知多産業道路・知多半島道路近接
4	知多市新南地区	約20ha	未定	国道155号長浜IC至近
5	幸田町西部地区	約12ha	未定	国道23号B・P・248号至近
6	豊田市東部地区	約17ha	未定	国道1号・23号、伊勢湾岸自動車道至近
7	みよし市福田地下地区	約8.37ha	未定	東名高速道路東三好IC・豊田IC至近

令和元年10月16日現在

「愛知」で一層の飛躍を AICHI

愛知県産業立地サポートステーション
052-954-6372 (愛知県経済産業局産業部産業立地通商課)
03-5212-9972 (愛知県東京事務所産業通商課)

資料：愛知県産業立地通商課 産業用地情報

(4) サーキュラーシティの推進

海と山に囲まれた本市は、経済・環境・社会を統合的に成長させ、循環経済（サーキュラーエコノミー）を実現する「サーキュラーシティ」を目指すことを、令和3年11月30日に表明しました。

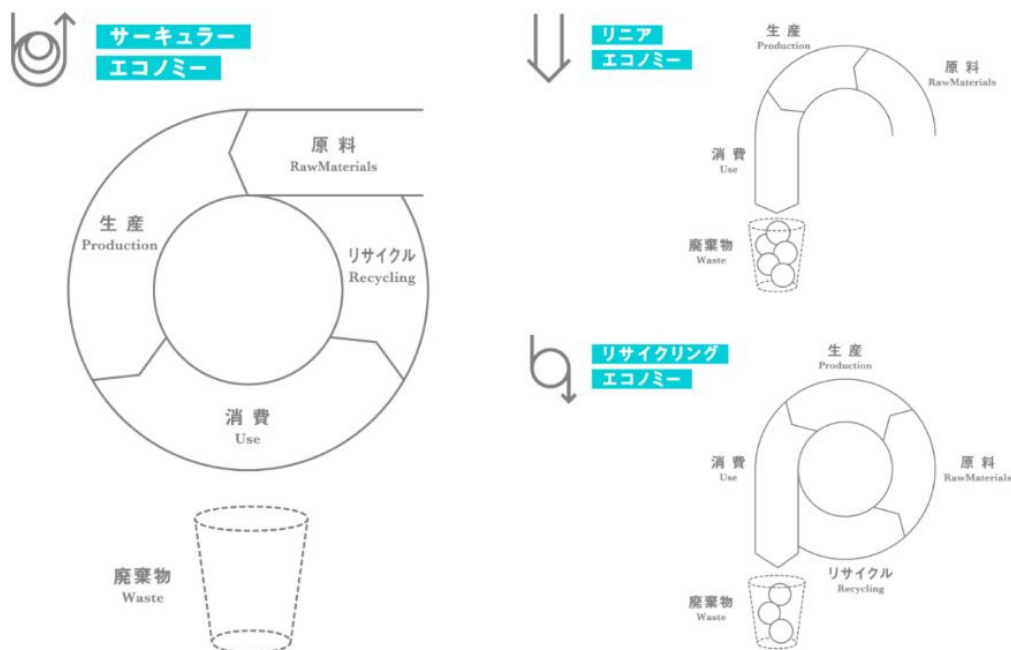
サーキュラーエコノミーは、温室効果ガスの排出を実質ゼロにするための手段として寄与するものですが、温室効果ガス排出抑制に留まらず、人の健康や自然環境に対して負荷をかけ、害するものを生み出さない社会経済の仕組みをつくり、持続可能な地球と持続可能な経済・環境・社会を実現していくものです。

サーキュラーシティの推進により、豊かな自然や美しい三河湾の恵みを未来へとつなぎ、誰もが身体的、社会的な健康と幸福（ウェルビーイング）を実感するとともに、このまちに住むすべての人達の誇りとなり、訪れる人達の喜びとなるまちを目指します。

【「サーキュラーエコノミー」とは】

循環経済とは、従来の「資源を採掘して」、「作って」、「捨てる」という直線型経済システムの中で活用されることなく「廃棄」されていた製品や原材料などを新たな資源と捉え、廃棄物を出すことなく資源を循環させる経済の仕組みのことです。

持続可能な成長を実現するための新たな経済モデルとして期待されており、「循環経済ビジョン 2020（2020年5月 経済産業省）」においても循環経済の重要性が謳われています。



4-2 本市を取り巻く社会環境の変化

(1) SDGsの実現

SDGs (Sustainable Development Goals) は、「誰一人取り残さない」社会の実現をめざし、平成27年(2015年)の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」のことで、令和12(2030)年を期限とする、先進国を含む国際社会全体の17の目標と169のターゲットで構成され、「誰一人取り残さない」ことを理念とした国際社会共通の目標です。

国では、「SDGs実施指針改定版」(令和元年12月20日)において、「現在、日本国内の地域においては、人口減少、地域経済の縮小などの課題を抱えており、地方自治体におけるSDGs達成へ向けた取り組みは、まさにこうした地域課題の解決に資するものであり、SDGsを原動力とした地方創生を推進することが期待されている」とされています。

SDGsは、本市のまちづくりにも密接に関係するものであり、協力し達成していくことが求められています。また、SDGsの達成に取り組むことは、本市の市民生活や地域経済が持続可能なまちづくりにつながるものであり、積極的に取り組むことが求められます。

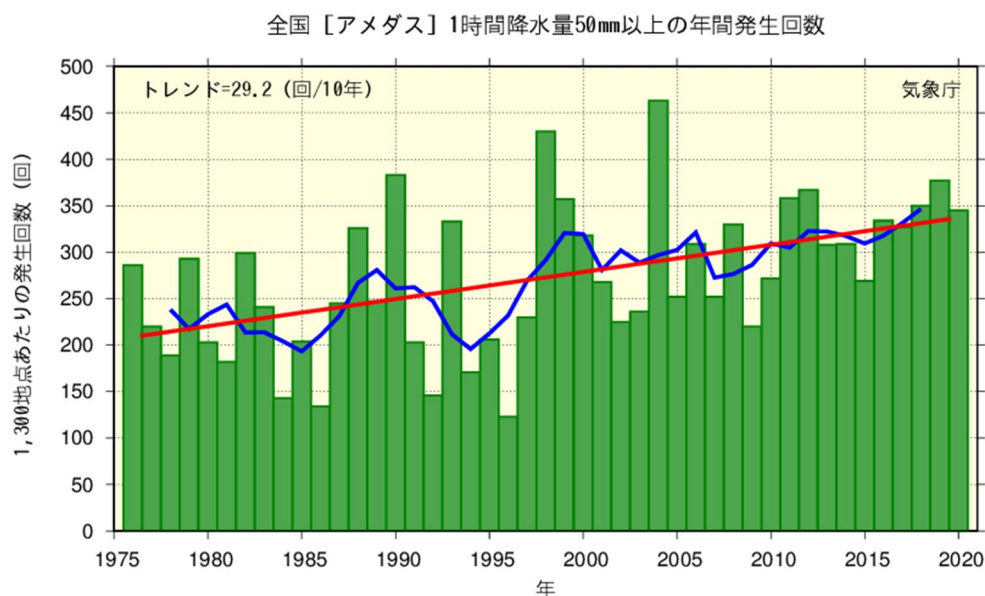


資料：外務省ホームページ

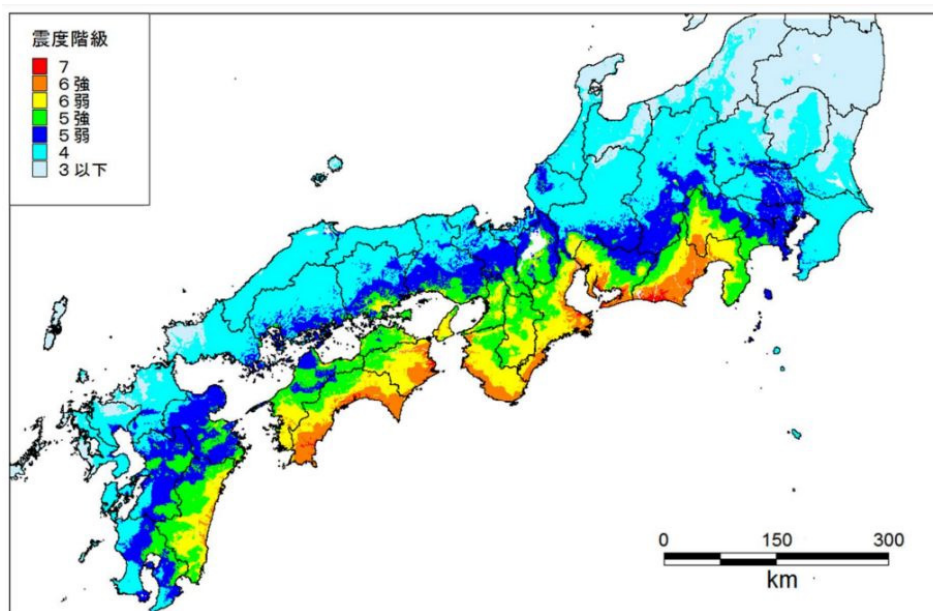
(2) 災害リスクへの対応

気候変動による風水害・土砂災害などの激甚化や南海トラフ巨大地震の切迫などの、災害のリスクが高まっています。

災害に対しては、まずは人の命を守ることを最優先としながら、災害に対する安全の確保は、人々の暮らしを支えるだけでなく、地域経済とその信用力の基盤となるものです。このため、災害リスクに対して、ソフト・ハードの組み合わせにより、粘り強くしなやかな対応が求められています。



資料：気象庁ホームページ



基本ケースの震度分布

資料：内閣府ホームページ

(3) グリーン社会の実現

気候変動に伴う自然災害の激甚化・頻発化など、気候危機とも言える状況に鑑み、地球温暖化対策は待ったなしの課題であり、2050年カーボンニュートラルの実現、気候危機への対応など、グリーン社会の実現は、我が国の重要な政策課題となっています。

■グリーン社会の実現に向けた国土交通省の重点プロジェクト

- (1) 省エネ・再エネ拡大等につながるスマートで強靱な暮らしとまちづくり
 - ・住宅・建築物の更なる省エネ対策の強化
 - ・インフラ等を活用した地域再エネの導入・利用の拡大
 - ・脱炭素と気候変動適応策に配慮したまちづくりへの転換
- (2) グリーンインフラを活用した自然共生地域づくり
 - ・流域治水におけるグリーンインフラの活用推進等
 - ・生態系ネットワークの保全・再生・活用、健全な水循環の確保、CO₂吸収源の拡大
ヒートアイランド対策
 - ・グリーンファイナンスを通じた地域価値の向上
 - ・グリーンインフラ官民連携プラットフォームの活動拡大等を通じた社会実装の推進
- (3) 自動車の電動化に対応した交通・物流・インフラシステムの構築
 - ・次世代自動車の普及促進、自動車の燃費性能の向上
 - ・電動車等を活用した交通・物流サービスの推進
 - ・自動車の電動化に対応した都市・道路インフラの社会実装の推進
 - ・電動車を活用した災害時等の電力供給機能の強化
- (4) デジタルとグリーンによる持続可能な交通・物流サービスの展開
 - ・ソフト・ハード両面からの道路交通流対策
 - ・公共交通、自転車の利用促進
 - ・グリーン物流の推進
 - ・船舶・鉄道・航空の次世代グリーン輸送機関の普及
 - ・鉄道の脱炭素化
 - ・気候変動リスクに対応した交通・物流システムの強靱化
- (5) 港湾・海事分野におけるカーボンニュートラルの実現、グリーン化の推進
 - ・カーボンニュートラルポート（CNP）形成の推進
 - ・船舶の脱炭素化の推進
 - ・洋上風力発電の導入促進
 - ・気候リスクへの対応、生態系保全・活用、循環型社会の形成
- (6) インフラのライフサイクル全体でのカーボンニュートラル、循環型社会の実現
 - ・持続性を考慮した計画策定、インフラ長寿命化による省CO₂の推進
 - ・省CO₂に資する材料等の活用促進及び技術開発等
 - ・建設施工分野における省エネ化・技術革新
 - ・インフラサービスにおける省エネ化の推進
 - ・質を重視する建設リサイクルの推進

資料：国土交通省ホームページ

(4) 居心地が良く歩きたくなるまちなかの推進

世界的に人・モノ・情報が集積する都市の重要性が増すなかで、競争力を更に強化していくために、都市のポテンシャルを余すことなく引き出しながら、人材の集積・交流を図ることが重要な課題となっています。こうした中、国において、人中心の道路空間への再構築による「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりの推進に賛同する「ウォーカブル推進都市」の募集が令和元年に行われ、令和2年には、これを推進するため「まちなかウォーカブル推進事業」などの新たな制度が創設されました。

本市は、ウォークブル推進都市に登録しており、ウォークブル推進都市として国と地方とのプラットフォームに参加しながら、まちなかの賑わいを創出するため、地域の関係者と連携しながら地域の活性化に向けた取り組みを進めることが必要です。

また、近年では、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、「三つの密」を回避する観点や、身近な憩いの空間で過ごす時間が増えたことから、良質なオープンスペースやゆとりある歩行者空間がこれまで以上に求められています。

今後も、官民一体となって快適な交流・滞在空間を創出するウォークブルなまちづくりを推進する重要性が増すと考えられます。



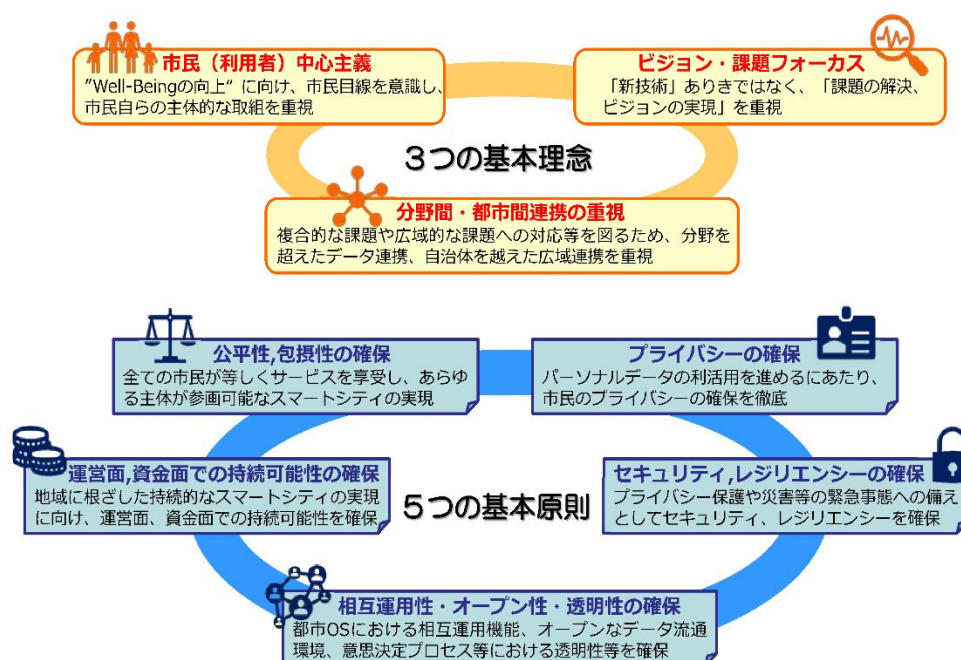
資料：国土交通省ホームページ

(5) スマートシティの推進

多くの都市、地域において、人口減少、高齢化、災害の多発、感染症リスク対策などの様々な社会課題に直面している中、政府では、統合イノベーション戦略2020などにに基づき、Society5.0の総合的ショーケースとしてスマートシティの取り組みを推進しています。新型コロナウイルス感染症を契機としたデジタル化や、AI、IoTをはじめとする各種技術開発が急速に進展する中、これらの技術をまちづくりに取り入れ、市民生活の質、都市活動の効率性などの向上を図ることは、今後のまちづくりの基本となるべきテーマであり、多くの都市・地域においてスマートシティの取り組みが進められることが望めます。

(スマートシティ)

- ・新技術や官民各種のデータを活用した市民一人一人に寄り添ったサービスの提供や、各種分野におけるマネジメントの高度化等により都市や地域が抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける持続可能な都市や地域です。



資料：内閣府ホームページ

第5章 土地利用フレームの検討

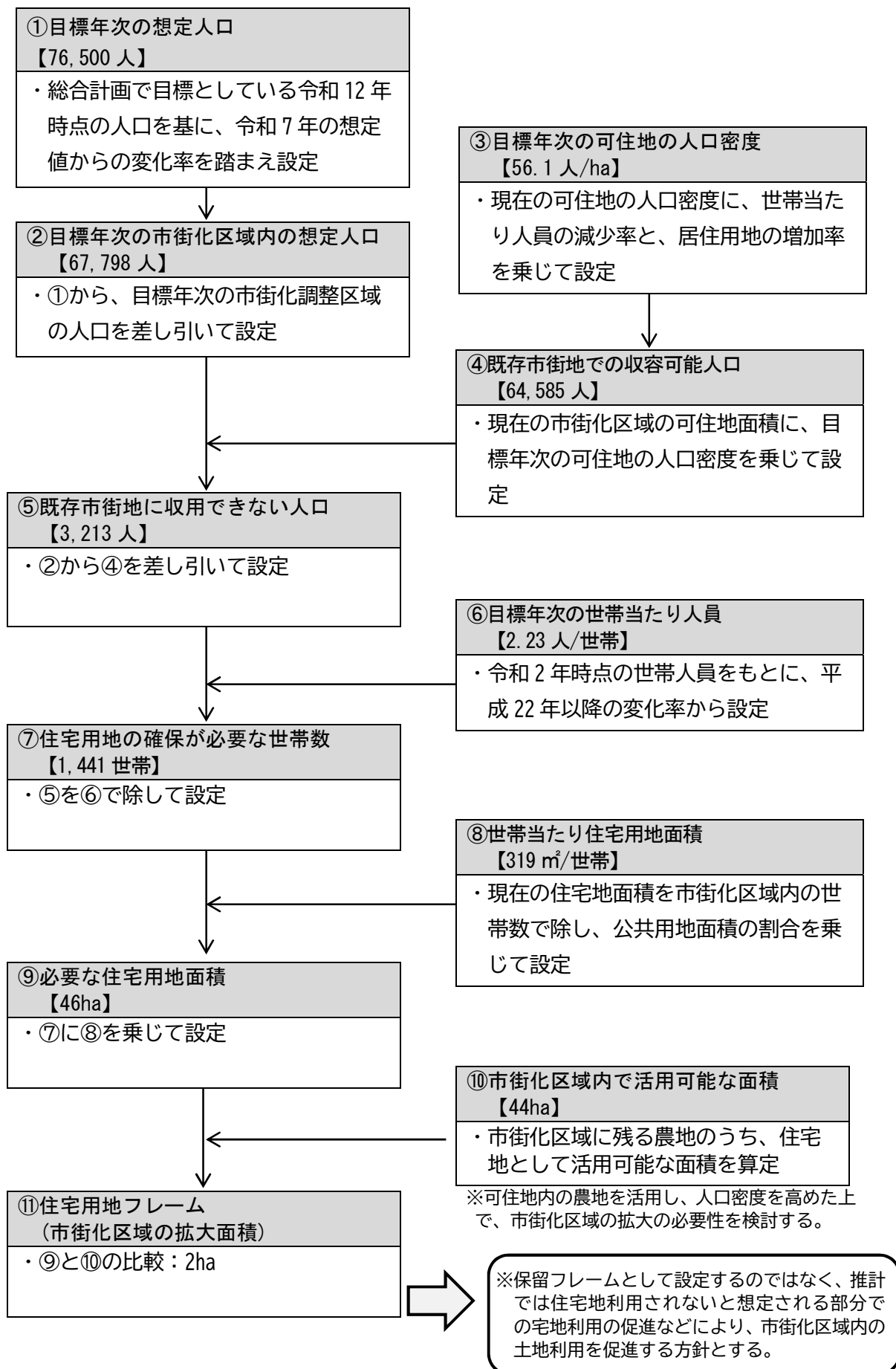
愛知県作成の「第6回市街化区域及び市街化調整区域に関する都市計画の見直しの手引き」の考え方を踏まえ、目標年次（令和14年度）における住宅用地フレーム及び産業用地フレームを検討します。

5-1 住宅用地フレーム

目標年次の想定人口に対し、世帯構成の変化や市街化区域内の低未利用地の現状を踏まえ、以下のフローに基づき、目標年次（令和14年）において、住宅用地を確保するために必要となる市街地の規模について検討しました。

検討の結果、世帯数の増加に伴う住宅用地面積の必要面積分は、市街化区域内の農地などを活用することで、概ね現在の市街化区域内で収容可能な状況となりました。

■住宅用地フレームの算定フロー



■住宅用地フレームの算定過程

○将来の市街化区域内人口、世帯当たり人員などの想定（フロー：①、②）

指標		H22	H27	R2	R7	R12	R14	R17	備考
都計区域人口(A)	実績	82,249	81,100	79,538					R2まで国調値
	推計				78,400	77,000	76,500		総合計画
市街化調整区域人口(B)	実績	10,862	10,357						
	推計			9,839	9,347	8,880	8,702	8,436	H22～H27の伸び率より
市街化区域人口(C=A-B)	実績	71,387	70,743						
	推計			69,699	69,053	68,120	67,798		
世帯当たり人員(D)	実績	2.85	2.71	2.57					
	推計				2.43	2.29	2.23		H22～R2の伸び率より
世帯人員変化率(E)	推計						87%		

○目標年次の可住地人口密度（フロー：③）

指標	数値	備考
H30可住地人口密度(F)	61.4 人/ha	都市計画基礎調査
住宅用地の増加率(R14-H30)(G)	105%	都市計画基礎調査より推定
世帯人員変化率(E)	87%	
R14可住地人口密度(H=F*G*E)	56.1 人/ha	

○住宅地を確保する必要のある世帯数（フロー：④～⑥）

指標	数値	備考
H30市街化区域 収容可能人口 (I=F*可住地面積:1151.24ha))	64,585 人	都市計画基礎調査
R14市街化区域人口(C)	67,798 人	推計より
住宅用地の確保が必要な人口(J=C-I)	3,213 人	
住宅用地の確保が必要な世帯数(K=J/D)	1,441 世帯	

○拡大が必要な市街地(住宅用地)面積（フロー：⑧～⑪）

指標	数値	備考
1世帯あたり住宅用地面積 (道路・公園等の公共用地の確保)(L)	319 m ² /世帯	都市計画基礎調査
追加で必要な住宅地面積(M=K*L/10000)	46 ha	推計より
活用可能面積(N)	44 ha	市街化区域内の田畑 (用途地域・動向に配慮)
拡大面積(O=M-N)	2 ha	

○可住地のうち活用可能な面積の検証（フロー：⑩）

指標	数値	備考
市街化区域内の田畑 (工業・工業専・海陽町を除く)[a]	126 ha	H30都市計画基礎調査
これまでの動向から 農地として残る面積[b]	53 ha	
転換可能用地[c=a-b]	73 ha	
住宅用地率 (工業・工業専を除く)[d]	60 %	H30都市計画基礎調査 住・商・工・公のうち住の割合
活用可能用地(O=c*d)	44 ha	

※住:住宅用地、商:商業用地、工:工業用地、公:公的公益用地

※公的公益用地は、官公庁施設などの用地で道路・公園などは含まない

第5章 土地利用フレームの検討

市街化区域内低未利用地の住宅用地の転換量

指標	計算値等	備考
H25農地・山林面積	200.59 ha	都市計画基礎調査
H30農地・山林面積	176.79 ha	都市計画基礎調査
年平均減少率	-2.49%	
R14農地・山林面積	124.21 ha	年平均減少率より算定
都市的土地利用への転換面積(H30⇒R14)	52.58 ha	
都市的土地利用のうち住宅用地率	57%	H30都市計画基礎調査
住宅用地への転換(H30⇒R14)	29.86 ha	

令和14年の可住地人口密度

指標	計算値等	備考
平成30年住宅用地面積	592.14 ha	都市計画基礎調査
R14住宅用地面積	622.00 ha	
住宅用地の増加率	105.0%	
H27市街化区域人口	70,743 人	都市計画基礎調査
H30可住地面積	1151.24 ha	都市計画基礎調査
H30可住地人口密度	61.4 人/ha	
世帯人員変化率	87%	H22～H27の伸び率より
R14可住地人口密度	56.1 人/ha	

②1世帯あたり住宅用地面積(市街化区域内)

住宅用地面積 (E)	592 ha	H30都市計画基礎調査
H27世帯数 (F)	26,519 世帯	H28都市計画基礎調査
1世帯あたり住宅用地面積 (G=E*10,000/F)	223 m ² /世帯	
1世帯あたり住宅用地面積 (道路・公園等の公共用地の確保) (H=G/0.7)	319 m ² /世帯	公共用地率:30%

④市街化区域内における住宅用地への転換可能用地面積

市街化区域内の田畑 (工業・工専・海陽町を除く) (K)	126 ha	H30都市計画基礎調査
これまでの動向から農地として残る面積 (L)	53	
転換可能用地 (M=K-L)	73	
住宅用地率 (工業・工専を除く) (N)	60 %	H30都市計画基礎調査 住・商・工・公のうち住の割合
転換可能用地 (O=M*N)	44 ha	

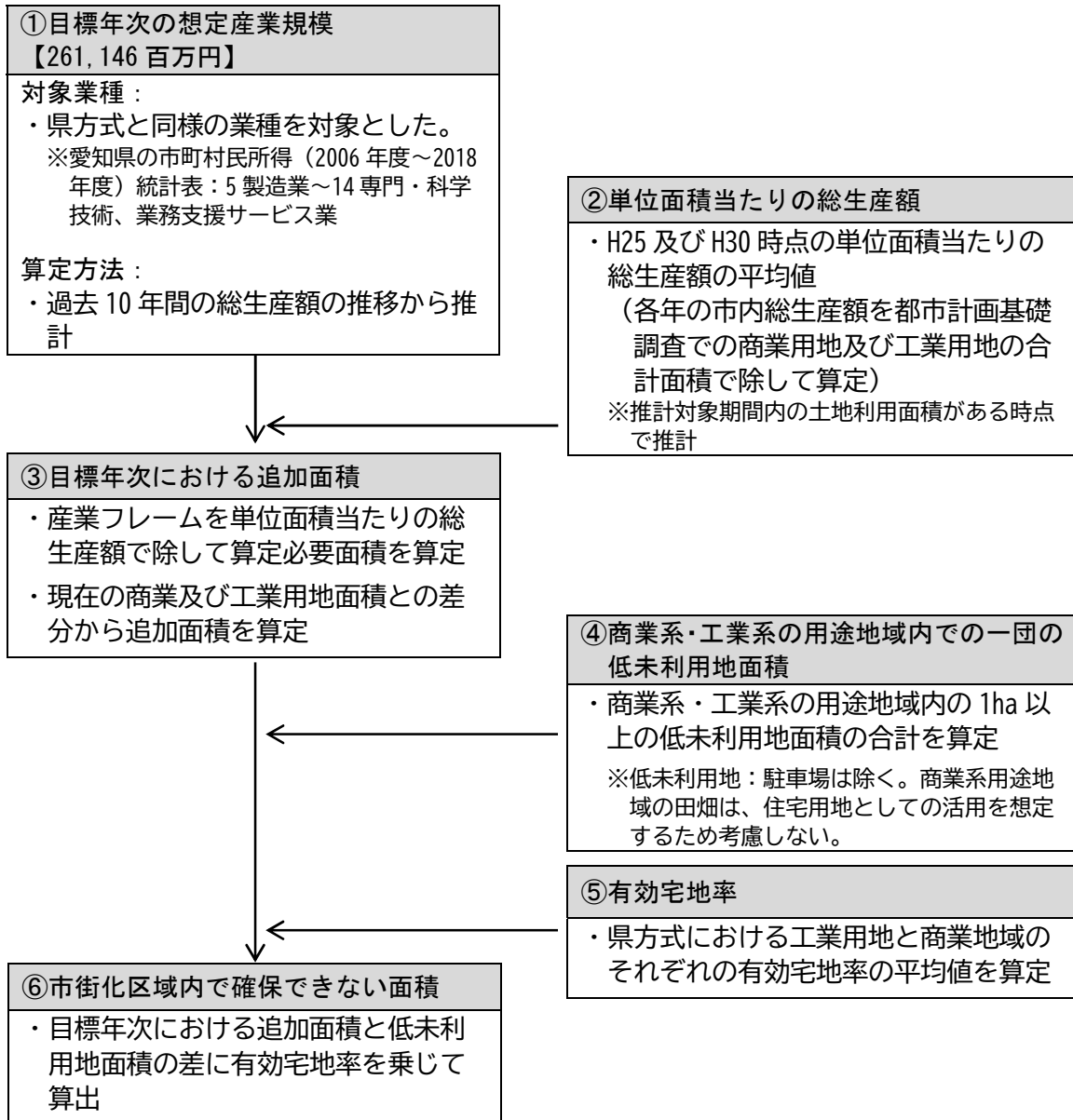
⑥市街化区域内における農地の転換面積

市街化区域内の田畑(H25時点) (工業・工専・海陽町を除く) (Q)	152.0 ha	H25都市計画基礎調査
市街化区域内の田畑(H30時点) (工業・工専・海陽町を除く) (R)	126.0 ha	H30都市計画基礎調査
H25からH30(5年間)での田畑増減面積 (S=R-Q)	-26.0 ha	
H30からR14(14年間)での田畑増減想定面積 (T=14*S/5)	-72.9 ha	
R14時点での農地想定面積 (U=R+T)	53.1 ha	

5-2 産業用地フレーム

市内総生産額の近年の推移から、目標年次（令和14年）における将来の市内総生産額を想定し、その分の産業用地を確保するために必要となる市街地面積について検討しました。

検討の結果、約66haの市街地の拡大が必要な結果となりました。



第5章 土地利用フレームの検討

■産業用地フレームの算定過程

○市町村内総生産(フロー:①)

(単位:百万円)

実績値	H21	H22	H23	H24	H25
	207,511	192,629	194,819	241,574	215,364
	H26	H27	H28	H29	H30
	204,269	216,736	215,577	223,557	222,887
近似曲線推計値	R14				
	261,146				

○単位面積当たり総生産額(フロー:②)

	商業用地(ha)	工業用地(ha)	合計(ha)	総生産額(百万円)	単位面積当たり総生産額(百万円/ha)
H25	160.76	275.54	436.30	215,364	494
H30	177.00	273.54	450.54	222,887	495
				平均	495

○目標年次における追加面積(フロー:④)

指標		数値
H30	商業用地及び工業用地面積(A)	450.54 ha
H30,H25平均	単位面積当たり総生産額(B)	495 百万円/ha
R14	市内総生産額(推計値)(C)	261,146 百万円
	必要面積(D=C/B)	527.57 ha
	追加面積(E=D-A)	77.03 ha

○市街化区域内で活用可能な面積(フロー:④)

(田畑、その他自然地、低未利用地面積(駐車場除く))

用途地域	面積	備考
近隣商業地域・商業地域	7.15 ha	田畑は住宅利用(1.8ha)
工業地域・工業専用地域	21.08 ha	
合計(F)	28.23 ha	

○市街化区域内で確保できない面積(フロー:⑤、⑥)

用途地域	数値	備考
不足宅地面積(G=E-F)	48.80 ha	
宅地率(H)	74.45 %	県方式有効宅地率 (工業:71.5%、商業:77.4%)
不足面積(I=G/H)	65.54 ha	

蒲郡市都市計画マスタープラン（資料編）

令和5年3月

発行 蒲郡市

編集 都市開発部 都市計画課

〒443-8601 愛知県蒲郡市旭町 17 番 1 号

TEL 0533-66-1142(直通)
